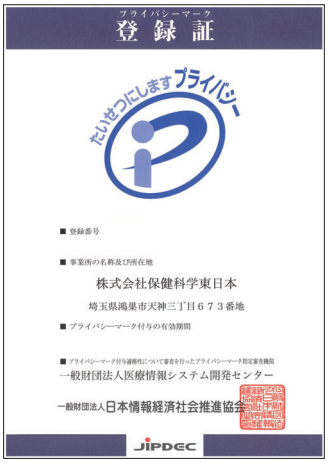
2026–2027

総合検査案内



認　定　資　格



保健科学グループ個人情報保護方針

〈理念〉

保健科学グループでは、検体検査業を通じて国民の健康の保持増進に寄与することを目的として事業活動を行っております。この検体検査の受託にあたっては、検査結果の高い信頼性と迅速な提供を確保するために、検査を受ける方の個人情報を取得いたしますが、これらの情報は、個人の人格尊重の理念のもと、慎重に取り扱われるべきものと深く認識いたしております。

保健科学グループでは、個人情報における重要性の認識に立ち、その適切な取り扱いを確保するため、以下の個人情報保護方針を制定いたします。

a) 臨床検査の受託および検査分析のためなど、特定された目的以外での個人情報の取得、利用及び提供は行いません。なお、それを確実にするための措置を講じます。
b) 個人情報の取扱いに関する法令、国が定める指針、並びに日本衛生検査所協会をはじめとする規範を遵守いたします。
c) 個人情報の漏えい、紛失または毀損の防止に努め改善・是正を行います。
d) 個人情報保護に関する苦情及び相談に対応いたします。
e) 個人情報保護マネジメントシステムの継続的改善を実施いたします。

2007年4月1日　制　　定
2021年4月1日　最終改訂
保健科学グループ
株式会社保健科学研究所
代表取締役社長　久川　聡

CONTENTS

■ ご利用の手引き … Ⅰ～Ⅹ
■ 索　引 …… ⅩⅠ～ⅩⅩⅡ

生化学
蛋白関連検査 …… 1
糖関連検査／脂質関連検査 …… 3
蛋白・含窒素成分関連検査 …… 6
色　素 …… 7
酵　素 …… 8
アイソザイム …… 11
有機酸 …… 12
電解質・金属 …… 13
産業医学関連 …… 17
ビタミン関連検査 …… 18
特殊分析検査 …… 19
クリアランステスト …… 22
生化学的検査 1～23

内分泌学
下垂体関連検査 …… 24
甲状腺関連検査 …… 26
副甲状腺関連検査 …… 26
膵・消化管関連検査 …… 27
副腎髄質関連検査 …… 27
副腎皮質関連検査 …… 30
性腺関連検査 …… 32
胎盤機能検査 …… 34
その他 …… 35
心臓関連検査 …… 37
内分泌学的検査 24～37

内分泌負荷・糖負荷
内分泌負荷試験 …… 38
糖負荷試験 …… 39
内分泌負荷試験・糖負荷試験 38～39

腫瘍マーカー
胎児性蛋白 …… 40
糖鎖抗原 …… 40
腫瘍関連抗原 …… 42
腫瘍マーカー 40～47

免疫学
免疫血液学的検査 …… 48
感染症血清反応 …… 50
抗原検査 …… 56
尿素呼気試験 …… 62
リウマトイド因子・RA 関連検査 …… 63
甲状腺関連自己抗体検査 …… 64
自己抗体検査 …… 65
肝・胃関連自己抗体検査 …… 69
糖尿病関連自己抗体検査 …… 69
免疫グロブリン …… 70
補体関連物質 …… 70
血漿蛋白免疫学的検査 …… 71
免疫学的検査 48～71

アレルギー
アレルギー関連検査 …… 72
IgE 特異的アレルゲン（疾患別セット） … 73
IgE アレルゲン一覧表 …… 74
アレルギー 72～75

ウイルス
B 型肝炎ウイルス関連検査 …… 76
A 型肝炎ウイルス関連検査 …… 77
C 型肝炎ウイルス関連検査 …… 78
レトロウイルス検査 …… 79
ウイルス抗体検査（CF） …… 81
ウイルス抗体検査（HI） …… 82
ウイルス中和抗体検査（NT） …… 83
ウイルス抗体検査（FA） …… 86
ウイルス抗体検査（EIA） …… 86
ウイルス分離・同定 …… 88
抗原検査 …… 89
ウイルス 76～90

血液学
血液形態・機能検査 …… 91
凝固系一般検査 …… 94
凝固因子関連検査 …… 94
凝固・線溶系検査 …… 96
血小板機能検査 …… 98
血液学的検査 91～98

薬物
抗てんかん剤 …… 99
精神神経用剤 …… 100
抗炎症、リウマチ剤 …… 101
強心剤 …… 101
不整脈用剤 …… 101
解熱鎮痛剤消炎剤 …… 103
抗悪性腫瘍剤 …… 103
抗生物質 …… 103
免疫抑制剤 …… 104
その他 …… 104
薬物検査 99～106

一般
尿中一般物質定性、半定量検査 …… 107
尿中特殊物質定性定量検査 …… 107
尿沈渣顕微鏡検査 …… 109
糞便検査 …… 109
精液一般検査 …… 111
髄液一般検査 …… 111
その他の穿刺液・採取液検査 …… 113
一般検査 107～116

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査
先天性疾患　染色体検査 …… 117
血液疾患　染色体検査 …… 118
細胞表面マーカー …… 120
細胞表面マーカーセット検査 …… 123
HLA・移植関連検査 …… 123
細胞機能検査 …… 124
癌関連遺伝子検査 …… 125
薬剤関連遺伝子検査 …… 127
染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査 117～127

微生物学
塗抹鏡検／培養検査／特殊培養 …… 128
真菌培養 …… 129
原虫・アメーバ／免疫学的細菌検査 …… 130
薬剤感受性検査 …… 131
保健科学研究所薬剤セット内容 … 132
感受性薬剤一覧 …… 133
抗酸菌検査 …… 134
衛生（検便検査） …… 136
衛生（保菌検査） …… 136
微生物・輸送培地・輸送容器一覧 … 137
微生物学的検査 128～147

病理学
病理組織顕微鏡検査 …… 148
腫瘍関連免疫組織検査 …… 149
病理組織顕微鏡検査検体提出方法 … 151
細胞診検査 …… 153
細胞診検査検体提出方法 …… 154
病理学的検査 148～155

その他・研究検査
肝炎検診 …… 156
その他特殊検査 …… 157
自己抗体 …… 158
感染症遺伝子検査 …… 158
その他・研究検査 156～159

■ 容器一覧 …… 160
■ 検体の安定性 …… 170
■ 検査方法の概略 …… 171
■ 検査方法参考文献一覧 …… 174

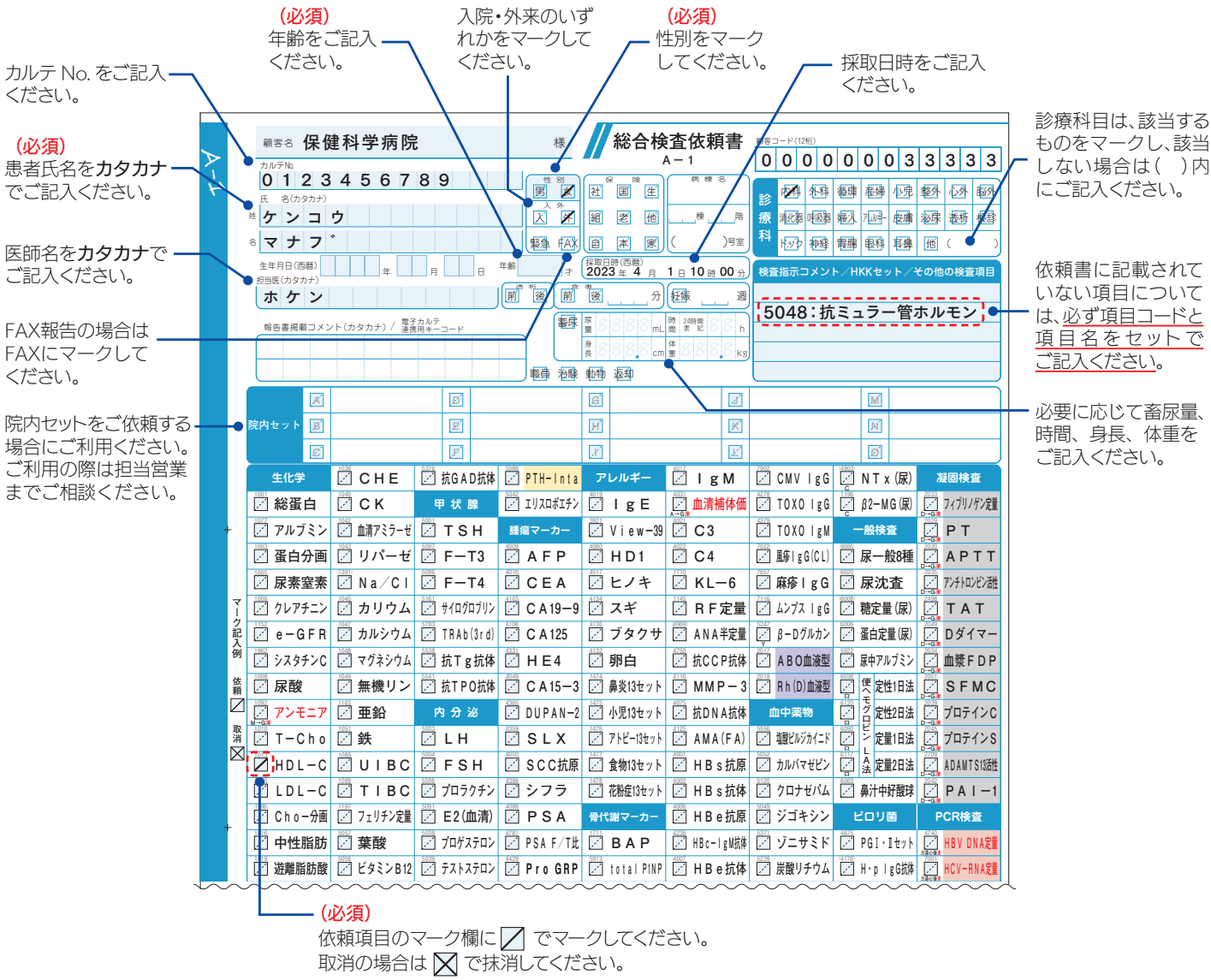
HOKEN KAGAKU GROUP 1976-97

ご利用の手引き

検査の依頼方法

●当社専用の依頼書、検体容器及び検体ラベルをご使用ください。

総合依頼書A-1の記入例



【依頼書記入に関する注意事項】

※複写となっておりますので、下敷きを敷いて、ボールペンで強くお書きください。

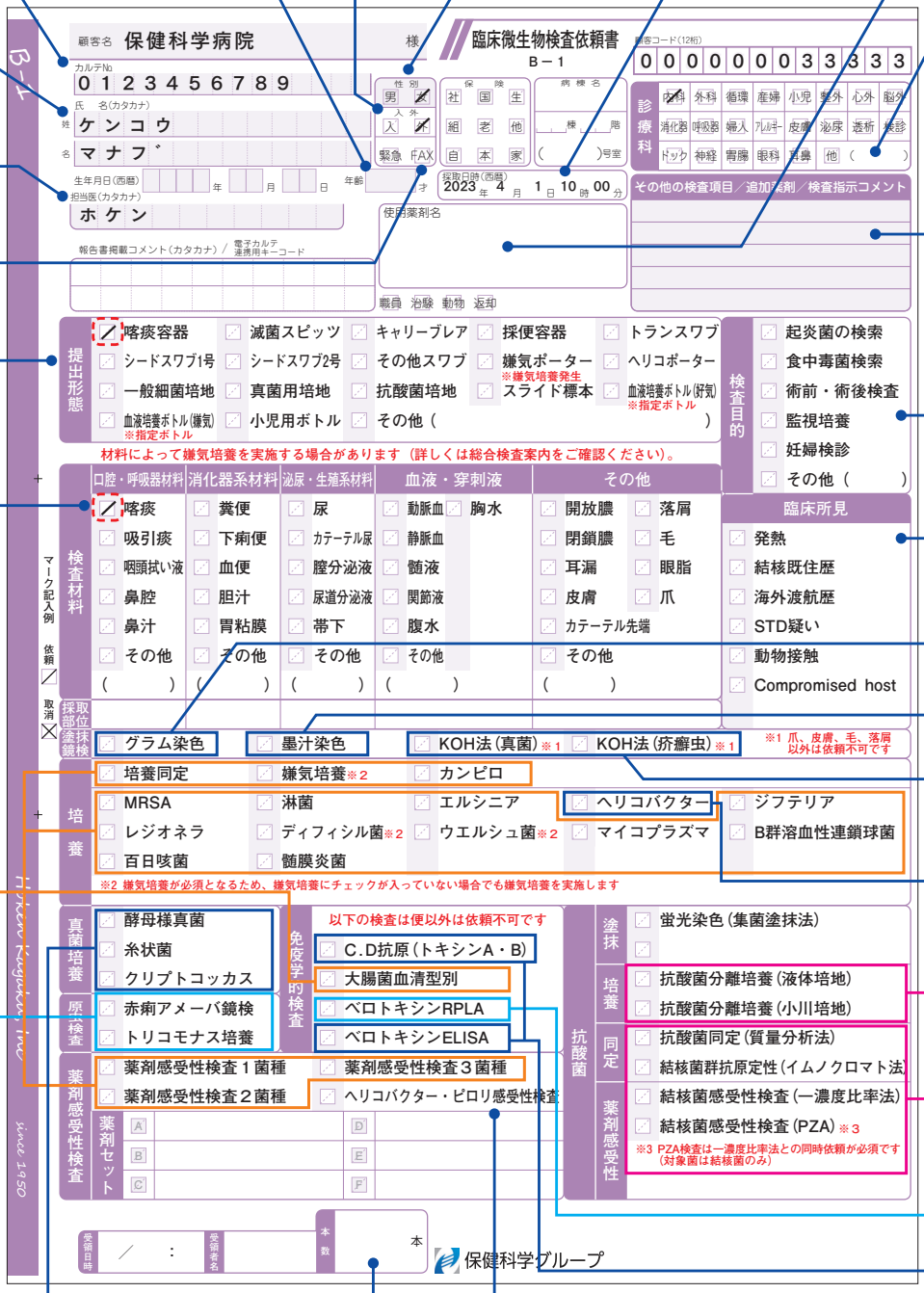
※カナ氏名欄は誤読しやすい文字がありますので、明確に分かる様ご記入ください。
『ア、マ、ヤ、セ』、『カ、サ』、『ク、ワ』、『コ、ユ』、『シ、ツ、フ』、『シ、ミ』、『ス、ヌ』、『チ、テ』

※依頼時の注意点につきましては、各検査項目該当ページの備考欄に赤色の文字で記していますのでご確認ください。
例）eGFR creat（項目コード：1152）についての特記事項
血清クレアチニン（項目コード：1006）との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が 18 才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※依頼書 1 枚をご依頼元控えとし、検体受領書とさせていただきます。

※当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針（一般社団法人日本衛生検査所協会）」その他関連する倫理指針に基づき、受託を行っております。

臨床微生物検査依頼書B-1の記入例



カルテNo.をご記入ください。

（必須）
患者氏名を**カタカナ**でご記入ください。

医師名を**カタカナ**でご記入ください。

FAX報告の場合はFAXにマークしてください。

（必須）
提出形態をマークしてください。

（必須）
検査材料は該当する検査材料を一つだけマークしてください。
※一つの材料につき依頼書１枚が必要です。

培養同定の同時依頼が必須です。

培養同定の同時依頼は不要です。その他の原虫検査は「コメント」欄にご記入ください。

単独での依頼も可能です。

（必須）
年齢をご記入ください。

入院・外来のいずれかをマークしてください。

（必須）
性別をマークしてください。

採取日時をご記入ください。

抗菌薬を使用している場合は、薬剤名をご記入ください。

診療科目は、該当するものをマークし、該当しない場合は（ ）内にご記入ください。

依頼書に記載されていない項目や追加薬剤は、項目名と項目コードもしくは薬剤名と薬剤コードを追加項目・コメント欄にご記入ください。

検査目的をマークしてください。

臨床所見がある場合はマークしてください。

血液と便の場合は実施しておりません。

対象となる検査材料は髄液のみです。

対象となる検査材料は皮膚・爪・毛などの固形物のみです。

単独での依頼も可能です。

小川培地と液体培地のどちらか一方のみ依頼してください。同時依頼は出来ません。

上記「培養」が必須です。

培養同定と大腸菌血清型別の同時依頼が必要です。

単独での依頼も可能です。

（必須）
「本数」に合計本数を記してください。

ヘリコバクター・ピロリ培養の同時依頼が必須です。

（必須）
依頼項目のマーク欄に ／ でマークしてください。
取消の場合は ☒ で抹消してください。

ご利用の手引き

取引の申込方法

●最寄りのサービスセンター、又は本社営業部へご連絡ください。
●担当者がお伺いし、ご依頼の詳細についてご説明、ご相談申し上げます。
（裏表紙のサービスセンター一覧をご参照ください）

お問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては最寄りのサービスセンター又はラボへお問い合わせください。

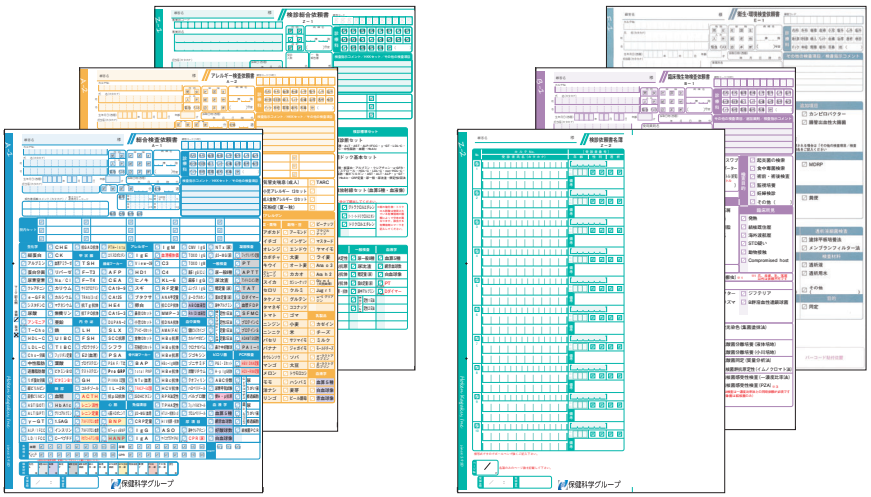
料金請求とお支払い方法

●原則として検査料金は一ヶ月分をまとめてご請求申し上げます。
●請求書の検査項目名は当社請求略号によって記載されますのでご了承ください。
●お支払いの方法は契約にしたがってお支払いいただきます。
●銀行振込の場合は振込金受取書をもちまして領収書に代えさせていただきますのでご了承ください。

依頼書

依頼書種類

1. 臨床検査総合依頼書 A-1
2. アレルギー関連検査依頼書 A-2
3. 検診総合依頼書 Z-1
4. 健診依頼書名簿 Z-2
5. 臨床微生物検査依頼書 B-1
6. 衛生・環境検査依頼書 E-1



検体ラベル

●検体貼付ラベルには患者名、性別、年齢、採取日時、材料、依頼項目、依頼施設名、透析前・後、保存方法等をご記入ください。
●特に同一患者で複数材料の場合や、時系列検査の場合は必ず明確にご記入ください。



検査項目名称

●既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のものはアメリカ英語読みに従いました。ただし、CA19-9 等略号が通例化しているものは、略号をもって検査項目名称といたしました。
●検査依頼票及び検査報告書においての検査項目名称は文字スペースに限りがある関係で略語等を使用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

検体必要量

●検体必要量は、原則として再検査に応じられるように設定してあります。検体量不足にならないようご注意ください。
●血清又は血漿を検査材料とする項目の単独でのご依頼では、基礎必要量として本文各項目欄記載量に 0.2mL 程度を加算してください。

容　器

●ご依頼項目によって所定の容器をご使用ください。
●本文各項目欄・ページ下説明欄及び巻末の容器一覧をご参照ください。

採取・保存方法

●保存方法により測定値が変動する項目がありますので本文各項目欄、ページ下説明欄をご参照ください。
●原則として 24 時間以内の保存方法を記入してありますので、採取当日にご提出くださいますようお願い致します。なお、長期間保存される場合の保存方法につきましては営業担当にお問い合わせください。

検査方法・参考文献

●検査方法につきましては本文各項目欄及び巻末の検査方法概略を、参考文献につきましては巻末の測定法参考文献一覧をご参照ください。

所要日数

●原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、報告書をお手元にお届けするまでの日数です（日曜・祭日は含まず）。
●依頼項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずることがありますのでご了承ください。
●再検査の場合、及び一部地域では、更に若干の日数を要することがありますのでご了承ください。

平均搬送時間

貴院から＿＿＿＿＿＿＿＿までの平均搬送時間は約＿＿＿＿＿時間です。
貴院から保健科学 横浜総合ラボラトリーまでの平均搬送時間は約＿＿＿＿＿時間です。
保健科学 横浜総合ラボラトリーから最終委託先までの平均搬送時間は次の通りです。

＊C	：1時間以内	＊Q	：1日以内
＊1,4,5,6,P	：3時間以内	＊8,9,O,R,S,	：2～3日以内
＊7,E,K,L,M,T	：6時間以内	F,U,V,W,X,Y,Z	

結果のご報告

原則として当社集配員が報告書を直接お届けいたします。
至急のご指示のある場合は検査終了しだい電話又はファクシミリでご報告いたします。
コンピューター端末へのオンライン送信をご要望の場合は当社営業担当にご相談ください。

報告書

報告書は検査の種類により当社指定の報告書にてご報告いたします。

再検査

当社再検査基準に基づき再検査をいたします。
検体量が必要量に満たずに再検査ができない場合はその旨ご報告いたします。

検体の保管

●お預かりいたしました検体の保管期間は、血清検体につきましては、原則 5 日間とし、再検査や追加検査のご要望にお応えします。保管期間の終了後は、当社にて適正に廃棄いたします。
なお、腐敗・変性の著しい材料につきましては、検査実施後すみやかに処分させていただきますので、予めご了承ください。
●検査済み検体の返却を希望される場合は、すみやかに返却いたします。又、医療機関以外又は医師個人から学術研究等の目的で検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供は行いません。
●プール化及び匿名化が可能なものについては、個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従い検査精度維持、向上等のために使用することがあります。

検体受領方法

貴院への集配は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 曜日、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿時頃に
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ へお伺いします。

検査実施施設及び最終委託先

検査実施施設及び最終委託先につきましては本文各項目備考欄及び報告書に下記の記号で表示してあります。
無印　保健科学 横浜総合ラボラトリー

各項目備考欄に略号を表示していない項目を中心として、一部は当社グループラボにて検査を実施させていただきます。なお、その場合は報告書上に実施ラボ名を表記いたします。

略号	委託先名称
＊K	保健科学 西日本
＊1	LSIメディエンス
＊4	エスアールエル
＊5	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所
＊6	組織科学研究所
＊7	常盤特殊分析センター
＊8	Quest Diagnostics Incorporated(QD)
＊9	Mayo Medical Laboratories
＊C	カイシン株式会社
＊E	ビー・エム・エル
＊F	SMCLセンター(積水メディカル株式会社)
＊L	遠州予防医学研究所

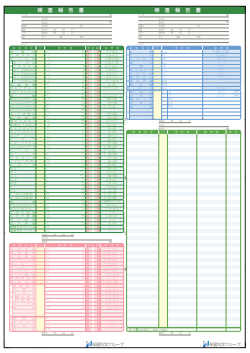
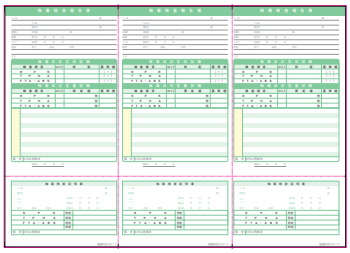
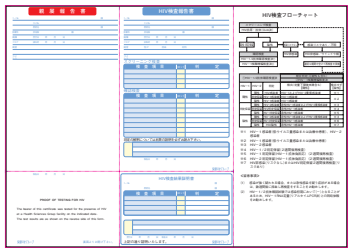
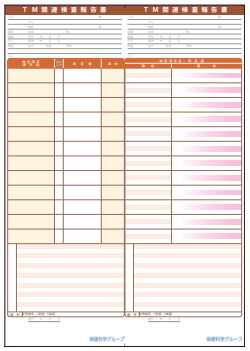
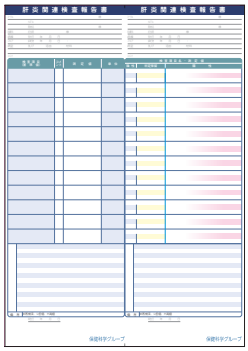
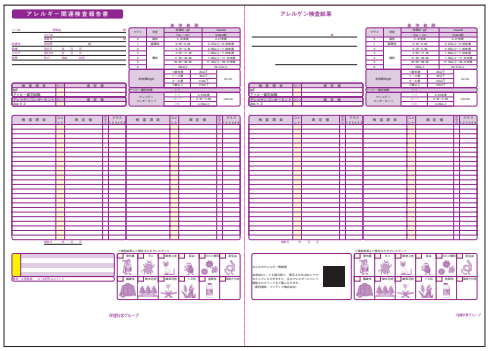
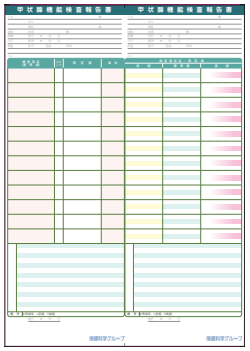
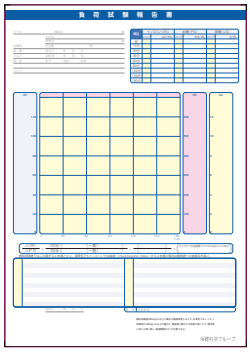
略号	委託先名称
＊M	日本微生物研究所
＊O	ラボコープ・ジャパン合同会社
＊Q	ファルコバイオシステムズ
＊R	昭和電工マテリアルズ
＊S	シノテスト　サイエンス・ラボ
＊T	アミンファーマ研究所
＊U	Oncomics
＊V	京都工場保健会
＊W	Athena Diagnostics
＊X	伏見製薬所衛生検査センター
＊Y	第一岸本臨床検査センター
＊Z	MILS インターナショナル

ご利用の手引き

検査報告書

報告書種類

1. 総合報告書
2. 梅毒報告書
3. HIV検査報告書
4. TM関連検査報告書
5. 肝炎関連検査報告書
6. アレルギー関連検査報告書
7. 甲状腺機能検査報告書
8. 負荷試験検査報告書
9. 特殊健康診断検査報告書
10. 血液型検査報告書
11. 細菌学検査報告書
12. 抗酸菌検査報告書
13. 衛生環境検査報告書



保険点数について

［検体検査料］

●検体検査料は「検体検査判断料」と「検体検査実施料」に分かれております。実施料につきましては、各項目欄をご参照ください。

●包括算定の検査につきましては実施料を青色で表示しました。判断料につきましては、各項目欄に略号で表示いたしました（下表参照）。又、特定薬剤治療管理料は※印で表示いたしました。本文105 ページをご参照ください。

検体検査判断料		
尿・便	尿・糞便等検査判断料	34点
遺伝子	遺伝子関連・染色体検査判断料	100点
血　液	血液学的検査判断料	125点
生化Ⅰ	生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点
生化Ⅱ	生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点
免　疫	免疫学的検査判断料	144点
微　生	微生物学的検査判断料	150点

病理診断・判断料		
病　理	組織診断料	450点
	細胞診断料	200点
	病理判断料	150点

（注意事項）

注 1. 検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数に係らず各々月 1 回に限り算定できるものとする。

注 2. 上記 1. の規定に係らず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料は算定しない。

負荷試験等

負荷試験等の点数につきましては本文 22 ページ及び 38・39 ページをご参照ください。
なお負荷試験等の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

輸血に関する検査

輸血に関する検査につきましては本文 48 ページをご参照ください。
なお輸血に関する検査の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

■生化学的検査Ⅰ（血液化学検査）

●総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ（ALP）、コリンエステラーゼ（ChE）、γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）、クレアチンキナーゼ（CK）、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄（Fe）、血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）、不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）、総鉄結合能（TIBC）（比色法）
●リン脂質
●HDL-コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
●LDL-コレステロール、蛋白分画
●銅（Cu）
●リパーゼ
●イオン化カルシウム
●マンガン（Mn）

項目数	実施料
5項目以上 7項目以下	93
8項目又は 9項目	99
10項目以上	103

■内分泌学的検査

●成長ホルモン（GH）、卵胞刺激ホルモン（FSH）、C-ペプチド（CPR）、黄体形成ホルモン（LH）
●アルドステロン、テストステロン
●遊離サイロキシン（FT_4）、遊離トリヨードサイロニン（FT_3）、コルチゾール、サイロキシン結合グロブリン（TBG）
●抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗 GAD 抗体）
●脳性Na利尿ペプチド（BNP）
●サイログロブリン
●サイロキシン結合能（TBC）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）
●カルシトニン
●ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量
●グルカゴン
●プロゲステロン
●Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド（NTx）、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）
●骨型アルカリホスファターゼ（BAP）
●低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）
●オステオカルシン（OC）
●遊離テストステロン
●インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact P Ⅰ NP）
●Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド - β異性体（β -CTX）（尿）
●セクレチン、低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量、Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド -β異性体（β-CTX）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（P Ⅰ NP）
●サイクリック AMP（cAMP）、副甲状腺ホルモン（PTH）、カテコールアミン分画
●デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）
●エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）
●エストラジオール（E_2）
●デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
●副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
●副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、カテコールアミン
●エリスロポエチン
●17-ケトステロイド分画（17-KS分画）、抗Ⅰ A-2抗体、プレグナンジオール
●メタネフリン
●ソマトメジンC
●心房性Na利尿ペプチド（ANP）、メタネフリン・ノルメタネフリン分画
●抗利尿ホルモン（ADH）
●プレグナントリオール
●ノルメタネフリン
●インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）

項目数	実施料
3項目以上 5項目以下	410
6項目又は 7項目	623
8項目以上	900

■腫瘍マーカー

●癌胎児性抗原（CEA）
●α-フェトプロテイン（AFP）、扁平上皮癌関連抗原（SCC 抗原）
●DUPAN-2、NCC-ST-439、CA15-3
●エラスターゼ 1
●前立腺特異抗原（PSA）、CA19-9
●PIVKA-Ⅱ半定量、PIVKA-Ⅱ定量
●CA72-4、SPan-1、シアリルTn抗原（STN）、神経特異エノラーゼ（NSE）
●CA125
●塩基性フェトプロテイン（BFP）、CA50
●シアリル Le^x-i 抗原（SLX）
●遊離型PSA比（PSA F/T比）
●サイトケラチン 8・18（尿）
●抗p53抗体
●BCA225
●サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
●シアリルLe^x抗原（CSLEX）
●Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（Ⅰ CTP）
●ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
●CA54/61、癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）
●CA602、α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）
●γ -セミノプロテイン（γ -Sm）
●癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）、癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）
●HER2蛋白
●可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	385

■肝炎ウイルス関連検査

●HBs抗原、HBs抗体
●HBe抗原、HBe抗体
●HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白
●HBc抗体半定量・定量
●HCVコア抗体
●HA-IgM 抗体、HA 抗体、HBc-IgM 抗体
●HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
●HE-IgA抗体定性
●HCV血清群別判定
●HBVコア関連抗原（HBcrAg）
●デルタ肝炎ウイルス抗体
●HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	425

ご利用の手引き

■自己抗体検査

●抗サイログロブリン抗体、抗 RNP 抗体定性、抗 RNP 抗体半定量、抗 RNP 抗体定量、抗Jo-1抗体定性、抗Jo-1抗体半定量、抗Jo-1抗体定量
●抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
●抗Sm抗体定性、抗Sm抗体半定量、抗Sm抗体定量
●抗SS-B/La抗体定性、抗SS-B/La抗体半定量、抗SS-B/La抗体定量、C1q結合免疫複合体
●抗Scl-70抗体定性、抗Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量
●抗SS-A/Ro抗体定性、抗SS-A/Ro抗体半定量、抗SS-A/Ro抗体定量
●抗RNAポリメラーゼⅢ抗体
●抗ARS抗体
●抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体、抗Mi-2抗体

項目数	実施料
2 項目	320
3 項目以上	490

■出血・凝固検査

●Dダイマー定性
●プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)、Dダイマー半定量
●von Willebrand因子(VWF)活性
●Dダイマー
●α_2-マクログロブリン
●PIVKA-Ⅱ
●凝固因子インヒビター
●von Willebrand 因子(VWF)抗原
●プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)、プロテインS抗原
●プロテインS活性
●β-トロンボグロブリン(β-TG)
●血小板第4因子(PF4)
●トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)
●プロトロンビンフラグメント F1+2
●トロンボモジュリン
●凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第ⅩⅠ因子、第ⅩⅡ因子、第ⅩⅢ因子)
●フィブリンモノマー複合体
●プロテインC抗原
●tPA・PAI-1複合体
●プロテインC活性

項目数	実施料
3 項目又は 4 項目	530
5 項目以上	722

緊急異常値報告対象項目と基準について

下記の検査項目につきましては当社緊急異常値報告基準に基づき、測定後ファクシミリにてご報告いたします。

対象項目		基準
生化学的検査		
ナトリウム(血清)		110 以下、170 以上(mEq/L)
カリウム(血清)＊1＊4＊5		2.5 以下、7.0 以上(mEq/L)
カルシウム(血清)＊2		6.0 以下、13.0 以上(mg/dL)
クレアチニン(血清)＊2		8.00 以上(mg/dL)
浸透圧(血清)		255 以下、330 以上($mOsm/kgH_2O$)
尿素窒素(血清)＊2		80 以上(mg/dL)
AST＊5		500 以上(U/L)
ALT＊5		500 以上(U/L)
LD/IFCC＊5		1000 以上(U/L)
アミラーゼ(血清)		500 以上(U/L)
血糖(グルコース)		50 以下、500 以上(mg/dL)
アンモニア		320 以上(μg/dL)
一　般		
糖定性(尿)＊3		(4+)
ケトン体定性(尿)＊3		(3+)
血液学		
白血球数		1,500 以下、20,000 以上(/μL)
赤血球数		200以下、600 以上($\times10^4$/μL)
ヘモグロビン(血色素量)		5.0 以下、20.0 以上(g/dL)
血小板数		3.0以下、100.0 以上($\times10^4$/μL)
白血球像		Blastoid cell(+)
PT	INR	4.00 以上
	活性	12.0 以下(%)
	時間	40.0 以上(秒)
APTT		60.0 以上(秒)
フィブリノゲン定量		100 以下(mg/dL)
血漿FDP		60.0 以上(μg/mL)
Dダイマー		40.0 以上(μg/mL)
免疫血液学的検査		
直接クームス試験＊3		(+)
結核菌DNA〔PCR〕(TB-PCR)		(+)

対象項目	基準
微生物学的検査	
塗抹鏡検、培養、免疫学的検査	・血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 ・1～3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時
抗酸菌検査	抗酸菌塗抹鏡検及び、抗酸菌分離培養で陽性
	結核菌群同定時
薬物検査	
フェノバルビタール	60 以上(μg/mL)
フェニトイン	30 以上(μg/mL)
カルバマゼピン	15 以上(μg/mL)
プリミドン	15 以上(μg/mL)
バルプロ酸	150 以上(μg/mL)
エトスクシミド	120 以上(μg/mL)
炭酸リチウム	2.00 以上(mEq/L)
サリチル酸	300 以上(μg/mL)
ジゴキシン	2.5 以上(ng/mL)
プロカインアミド	16 以上(μg/mL)
リドカイン	6.0 以上(μg/mL)
メトトレキサート	1.0 以上(μmol/L)
バンコマイシン	60.0 以上(μg/mL)
テイコプラニン	60 以上(μg/mL)
テオフィリン	25 以上(μg/mL)

＊1 血清で提出の検体に限る
＊2 透析検体は除外
＊3 新生児のみ
＊4 透析前検体の高値は除外
＊5 溶血検体の高値は除外

主要参考文献　川崎医科大学検査診断学　臨床病理vol.31 臨時号

検査方法の略号

BCP改良法	ブロムクレゾールパープル改良法 Bromcresol Purple
CF法	補体結合反応 Complement Fixation Test
CLEIA法	化学発光酵素免疫測定法 Chemiluminescent Enzyme Immunoassay
CLIA法	化学発光免疫測定法 Chemiluminescent Immunoassay
ECLIA法	電気化学発光免疫測定法 Electro Chemi Luminescence Immunoassay
EIA法	酵素免疫測定法 Enzyme Immunoassay
ELISPOT法	Enzyme - Linked ImmunoSpot
EMIT法	多元酵素免疫測定法 Enzyme Multiplied Immunoassay Technique
FA法	蛍光抗体法 Fluorecent Antibody Method
FEIA法	蛍光酵素免疫測定法 Fluorecence Enzymes Immunoassay
FISH法	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法 Fluorecent In Situ Hybridization
FPIA法	蛍光偏光免疫測定法 Fluorescence Polarization Immunoassay
GC法	ガスクロマトグラフィー法 Gas Chromatography
GC/MS法	ガスクロマト質量分析計法 Gas Chromatography / Mass Spectrometer
HA法	赤血球凝集反応 Hemagglutination Test
HEIA法	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ Homogeneous Enzyme Immunoassay
HI法	赤血球凝集抑制反応 Hemagglutination Inhibition Test
HPLC法	高速液体クロマトグラフィー法 High Performance Liquid Chromatography
イオン電極法	Ion Electrode Method
ｲﾑﾉｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌｨｰ法	Immunochromatography
金コロイド法	Gold Colloid Method
酵素法	Enzymatic Method
電気泳動法	Electrophoresis
ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞｷｬﾌﾟﾁｬｰ法	Hybrid Capture Method
比色法	Colorimetry
IFA法	間接蛍光抗体法 Indirect Fluorescent Antibody Technique
LAMP法	ループ介在等温増幅法 Loop-Mediated Isothermal Amplification
LA法	ラテックス凝集比濁法 Latex Agglutination Immunoassay
LC-MS/MS法	液体クロマトグラフィータンデム質量分析法 Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry
LIA法	ラインブロット法 Line Immunoassay
LPIA法	ラテックス近赤外免疫比濁法 Latex Photometric Immunoassay
MO法	二重免疫拡散法 Micro Ouchterlony
NT法	中和反応 Neutrazation Test
PA法	粒子凝集法 Particle Agglutination Test
※PCR法	ポリメラーゼ連鎖反応 Polymerase Chain Reaction
PHA法	受身赤血球凝集反応 Passive Hemagglutination Test
RIA法	放射免疫測定法 Radioimmunoassay
RPLA法	逆受身ラテックス凝集反応法 Reversed Passive Latex Agglutination Test
RT-PCR法	逆転写ポリメラーゼ連鎖反応 Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction
SDA法	Strand Displacement Amplification
TIA法	免疫比濁法 Turbidimetric Immunoassay
UV法	紫外吸光光度分析法 Ultraviolet Absorption Spectrophotometry
WB法	ウエスタンブロット法 Western Blot Method
比濁法	Turbidimetry
比朧法：ﾈﾌｪﾛﾒﾄﾘｰ法	Nephelometry
ﾌﾛｰｻｲﾄﾒﾄﾘｰ法	Flow Cytometry
ﾗﾃｯｸｽ凝集免疫比濁法	Latex Agglutination Turbidimetric Immunoassay
ﾘｱﾙﾀｲﾑPCR法	Real Time Polymerase Chain Reaction
蛍光光度法	Fluorometry
原子吸光法	Atomic Absorption Method
MALDI-TOF-MS	マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法 Matrix-Assisted Laser Desorption / Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry
IFE法	免疫固定法 Immunofixation Electrophoresis
MBP-QP法	Mutation-Biased PCR and Quenching Probe
PCR-rSSO法	PCR-Reverse Sequence Specific Oligonucleotide
KIMS法	Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

※ PCR 法はエフ・ホフマン・ラ・ロシュ社のライセンスに基づいて実施しております。

基準値

正常参考値及び判定基準値は、当社では基準値で表示しております。基準値欄の略号及び単位は次の通りです。

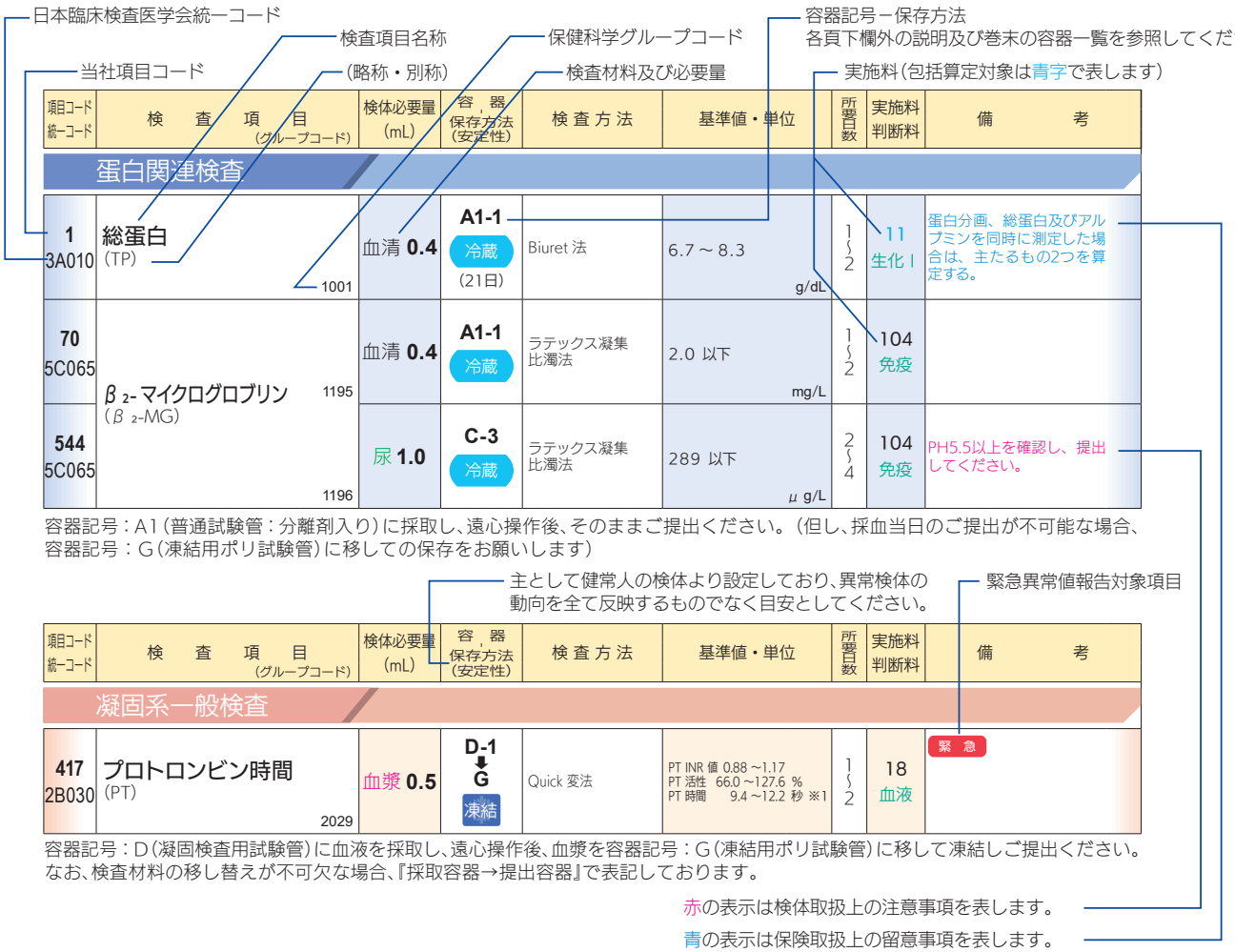
略号		桁記号			単位記号						
M	Male：男性	k	kilo：	10^{3}	AU	Arbitrary Unit	Eq	Equivalent	Osm	osmol
F	Female：女性	d	deci：	10^{-1}	B.U	Bethesda Unit	g	gram	ppm	parts per million
RBC	Red blood cell：赤血球	m	milli：	10^{-3}	BCE	Bone Collagen Equivalent	HPF	High-Power Field	S.I.	Stimulation Index
d	day：日	μ	micro：	10^{-6}	CAI	Corrected Absorbance Index	IU	International Unit	U	unit
h	hour：時間	n	nano：	10^{-9}	CFU	Colony Forming Unit	L	Liter	%	percent
min	minute：分	p	pico：	10^{-12}	cpm	count per minute	M	mol/L	‰	permill
		f	femto：	10^{-15}	EIU	Enzyme Immunounits	mol	mole		

ご利用の手引き

本文の検査項目欄の記載例

本文では、検体必要量、容器・保存方法、検査方法、基準値・単位、所要日数、検体検査実施料・判断料等検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記しています。

下記の例をご参照の上、正確な検体の管理にご協力ください。



【マーク一覧】

受付・報告関連	緊急異常値報告対象	緊 急	緊急異常値の報告範囲(ご利用の手引きⅦ頁参照)が設定されております。この範囲を超えた場合には、測定後すみやかに電話またはファクシミリでご報告いたします。	検体の取扱い	常　温	常温	15～25℃で保存してご提出してください。
	予約検査	予 約 検 査	検体採取前に、最寄のサービスセンターへご連絡ください。		冷　蔵	冷蔵	2～8℃で保存してご提出してください。なお、数日以上に渡って保存される場合は、凍結して保存していただくようお願いします。凍結不可の材料につきましては、その旨、記載いたします。
	曜日指定	曜 日 指 定	受託可能日をご確認の上、ご依頼ください。		凍　結	凍結	凍結(－18℃以下)で保存してご提出してください。なお、凍結保存指定の検査項目につきましては、原則として単独検体での出検をお願いいたします。
	倫理指針対象検査項目	倫理指針対象	ヒト遺伝子倫理指針対象項目です。ご依頼に当たっては、先天性疾患染色体分析依頼書によってご依頼ください。		遮　光	遮光	直射日光又は蛍光灯等を避け、遮光保存してください。
					保　温	保温	孵卵器等で保温(35～39℃)してください。

検体採取に当たっての注意事項

RIA・RA・RRA 等・アイソトープを用いる測定項目

●シンチグラフィー等で invivo に投与したアイソトープが残存すると異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

血　液

【採血時間について】

●採血は安静空腹時肘静脈採血を原則とします。

●食事や運動が異常値発生の原因となることがありますのでご注意ください。

【採血量等について】

●採血量は必要血清量の３～４倍、必要血漿量の２～３倍を目安にしてください。

●採血量が厳密に決められている採血容器は、検査結果に影響を及ぼすために、必ず規定量を守ってください。

●翼状針を用いる場合、必要に応じてダミーの採血管に少量の血液を採取し正確な採血量を確保してください。

【溶血を避けるための注意事項】
●採血時に溶血を避けるために、無理な圧力や泡立ちを避けてください。特に、シリンジ採血の場合、内筒を強く引きすぎるなど無理な圧力を避け、又、針とシリンジがしっかりと接続されていることを確認し気泡の混入などを避けるなど、注意願います。
●転倒混和の際、血液を泡立てないようにしてください。
●真空採血管の場合、採血量が規定量よりも少ない場合は、容器内部が陰圧状態のままとなり、溶血の原因となります。陰圧を解除してください。
●シリンジ採血の場合、各採血管の間でのコンタミネーションや血液の注入量などに注意の上、注射針を外し採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
【採血後の注意】
●抗凝固剤・凝固促進剤入り採血容器に採血された場合は、採血後すみやかに、泡立てないように緩やかに転倒混和させてください。
【血清・血漿分離の際の注意事項】
●血清は、採血後常温で凝固させ、凝固完了後遠心分離してください。
●特に指定がない場合は 1,200 ～ 1,700G で 5 ～ 10 分遠心分離してください。

遠心力換算一覧表

半径(cm)	1,200G 回転数	1,500G 回転数	1,700G 回転数
6	4,200	4,700	5,000
8	3,700	4,100	4,400
10	3,300	3,700	3,900
11	3,100	3,500	3,700
12	3,000	3,300	3,600
13	2,900	3,200	3,400
14	2,800	3,100	3,300
15	2,700	3,000	3,200
16	2,600	2,900	3,100
19	2,400	2,700	2,800
20	2,300	2,600	2,800

【遠心力の計算式】
回転数とローター半径より遠心力を求める場合
RCF（Xg）＝ 11.18 ×（N/1000）² × R
遠心力とローター半径より回転数を求める場合
N（rpm）＝ 299 × $\sqrt{RCF/R}$
RCF：遠心力（× g）
R：ローター半径（cm）
N：毎分回転数（rpm）
【その他】
●凍結する場合は破損のおそれがありますので、ガラス容器は避けてください。
●採血の手技等に関しては、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の標準採血法ガイドライン（GP4-A3）を参考してください。

尿

●尿による検査は部分尿・早朝尿・時間指定蓄尿・24 時間蓄尿等がありますので本文各項目欄をご参照ください。
● 24 時間蓄尿の注意事項
1. 冷暗所にて蓄尿終了後、尿量を確認し必要量を検体容器に移し提出してください。
2. 防腐・安定化などの目的で添加薬剤を必要とすることがありますので本文各項目欄をご参照ください。
3. 必ず依頼票に尿量を記入してください。
●酸性蓄尿の注意事項
1. 検査項目により、防腐・安定化などの目的で蓄尿時に尿の酸性化を必要とすることがあります。
2. 酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、本文各項目欄をご参照ください。
3. 規定量の 6N 塩酸を予め蓄尿容器に入れて蓄尿してください。
（添加する詳細な規定量や注意事項は本文各項目欄をご参照ください。）

採血と保存に関する参考資料

○採血管の順序

複数の採血管に採血する場合、各採血管の間でおこる内容物によるコンタミネーションによる検査結果への影響を防ぐ為に以下の手順が推奨されております。

但し、確実なエビデンスが得られているものは少ないため、個々の状況に応じて検査項目の優先度などを考慮して順序を変更することは許容されております。

1）真空管採血の場合

①凝固検査用採血管
②赤沈用採血管
③血清用採血管
④ヘパリン入り採血管
⑤EDTA 入り採血管
⑥解糖阻害剤入り採血管
⑦その他

又は

①血清用採血管
②凝固検査用採血管
③赤沈用採血管
④ヘパリン入り採血管
⑤EDTA 入り採血管
⑥解糖阻害剤入り採血管
⑦その他

2）シリンジ採血の場合（分注の順序）

①凝固検査用採血管
②赤沈用採血管
③ヘパリン入り採血管
④EDTA 入り採血管
⑤解糖阻害剤入り採血管
⑥血清用採血管
⑦その他

参考文献：標準採血法ガイドライン　2019年

○溶血の検査成績に及ぼす影響

健常人の血清ヘモグロビン（Hb）濃度は 1mg/dL 以下とされ、肉眼的に血清中に溶血を検出できるのは、Hb30 ～ 50mg/dL 以上です。
血液の 35 ～ 50％は赤血球からなり、各種の生化学成分は、その血球と血漿とにおける含有比から次の 3 種類に分けられます。
（カッコ内は血球：血漿含有比）

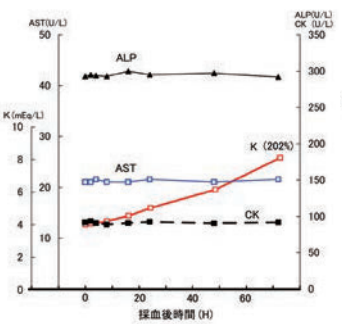
1）血球中と血漿中にほぼ同濃度に存在するもの
グルコース（血糖）、尿素、重炭酸塩、無機リン、総コレステロール
2）血球中濃度が血漿中濃度より高いもの
カリウム（23 倍）、LD（200 倍）、AST（80 倍）、ALT（15 倍）
3）血球中濃度が血漿中より低いもの
ナトリウム（0.1 倍）、クロール（0.5 倍）、カルシウム（0.1 倍）、LAP（0.2 倍）、ALP（0.2 倍）、コレステロールエステル（0）、CK（0）

参考文献：臨床検査法提要　改訂第 31版

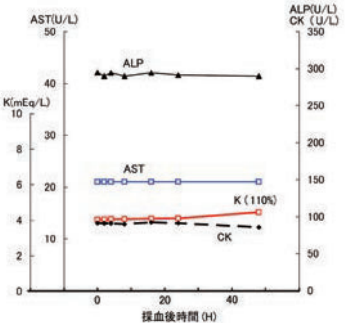
○未遠心分離検体の経時変化

未遠心分離の検体は、保存条件（冷蔵又は常温）により著しくデータに影響が出る場合があります。

未遠心〔冷蔵〕



未遠心〔常温〕



索　引（50 音）

ア

	頁	保険点数	保険区分
亜鉛（Zn）	15	132	D007 36
悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45ゲーティング	123	1882	D005 15
亜硝酸塩（尿）	107	(26)	D000
アスコルビン酸→ビタミンC	18	296	D007 59
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ→ AST	8	17	D007 03
アスピリン→サリチル酸	101	※	B001 02 イ
アスペノン→アプリンジン	102	※	B001 02 イ
アスペルギルス抗原	56	157	D012 32
アセタゾラミド	99	※	B001 02 イ
アセチルコリン受容体抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	67	752	D014 44
アセトアミノフェン	103	180	D007 46
アセトン体→ケトン体（アセトン体）定性（尿）	107	(26)	D000
アセリオ→アセトアミノフェン	103	180	D007 46
アデノ（ウイルス抗体）	81•83	79	D012 11
アデノシンデアミナーゼ（ADA）	10	32	D007 11
アトピー鑑別試験	72	194	D15 20
アトピー性皮膚炎（成人）【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	73	73頁参照	D15 13
アドレナリン→カテコールアミン分画	27	161	D008 29
アフィニトール→エベロリムス	104	※	B001 02 イ
アプリンジン	102	※	B001 02 イ
アポリポ蛋白	5	※	D007 10
アミオダロン	102	※	B001 02 イ
アミカシン	103	※	B001 02 イ
アミカマイシン→アミカシン	103	※	B001 02 イ
アミサリン→プロカインアミド	101	※	B001 02 イ
アミノ酸分析定量	20	1074	D010 04 □
アミラーゼ（AMY）	9	11	D007 01
アミラーゼアイソザイム（AMY アイソザイム）	12	48	D007 14
アミロイドA蛋白→血清アミロイドA蛋白	71	47	D015 06
アラニンアミノトランスフェラーゼ→ ALT	8	17	D007 03
アルカリホスファターゼ染色（ALP染色）（骨髄像特殊染色）	93	93頁参照	D005 14注
アルカリホスファターゼ染色（ALP染色）（末梢血液特殊染色）	93	93頁参照	D005 06注
アルカリホスファターゼアイソザイム→ ALPアイソザイム（IFCC）	11	48	D007 14
アルカリホスファターゼ→ ALP／IFCC	8	11	D007 01
アルギニンバゾプレシン→ AVP	25	224	D008 47
アルドステロン	31	122	D008 15
アルドステロン（CLEIA）／レニン活性比	31	-	
アルドステロン（CLEIA）／活性型レニン定量（レニン定量）比	31	-	
アルドラーゼ（ALD）	9	11	D007 01
アルブミン（血清）	1	11	D007 01
アルブミン・グロブリン比→ A/G比	1	-	
アルブミン定量（尿）→尿中アルブミン定量	108	99	D001 10
アルベカシン	103	※	B001 02 イ
アルミニウム（Al）	15	109	D007 29
アレビアチン→フェニトイン	99	※	B001 02 イ
アレルゲン→ IgEシングル・マルチアレルゲン	72	110	D15 13
アンカロン→アミオダロン	102	※	B001 02 イ
アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	10	136	D007 38
アンチトロンビン活性（AT-Ⅲ）	96	70	D006 09
アンチプラスミン（プラスミンインヒビター）	96	128	D006 17
アンモニア（NH_3）	7	50	D007 16

イ

	頁	保険点数	保険区分
イオン化カルシウム	13	26	D007 07
イーケプラ→レベチラセタム	100	※	B001 02 イ
胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	54	-	
胃がんリスク層別化検査（ABC分類）（除菌歴あり）	54	-	
胃癌HER2遺伝子〔FISH〕	149	2700	N005 01
イマチニブ	103	※	B001 02 イ
インスリン（IRI）	27	100	D008 08
インスリン抗体	69	107	D014 06
インターロイキン2受容体（IL-2R）	45	438	D009 36
インデラル→プロプラノロール	102	-	B001 02 イ
インフルエンザ（ウイルス抗体）	81•81	79	D012 11
インプロメン→ブロムペリドール	100	※	B001 02 イ

ウ

	頁	保険点数	保険区分
ウイルス同定	88	-	
ウイルス分離	88	-	
ウロビリノーゲン定性	107	(26)	D000
ウロポルフィリン定量（尿）	108	105	D001 11
運動率（精液）	111	70	D004 04

エ

	頁	保険点数	保険区分
衛生検査（検便検査）（保菌検査）	136	-	
エオジン細胞鏡検→鼻汁中、喀痰中好酸球	114	15	D005 03
エクセグラン→ゾニサミド	100	※	B001 02 イ
エコー（ウイルス抗体）	84•85	79	D012 11
エステラーゼ染色（骨髄像特殊染色）	93	93頁参照	D005 14注
エステラーゼ染色（末梢血液特殊染色）	93	93頁参照	D005 06注
エストラジオール（血清）（E_2）	32	167	D008 33
エストロゲンレセプター	149	720	N002 01
エタノール	18	105	D007 26
エチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	30	213	D008 43
エトスクシミド	99	※	B001 02 イ
エピレオプチマル→エトスクシミド	99	※	B001 02 イ
エベロリムス	104	※	B001 02 イ
エラスターゼ 1	42	120	D008 08
エリスロポエチン	36	209	D008 41
エルシニア培養	129	129頁参照	
エルタシン→ゲンタマイシン	103	※	B001 02 イ
塩基性フェトプロテイン→BFP	40	150	D008 17
塩酸ピルジカイニド	101	※	B001 02 イ
エンテロ（ウイルス抗体）	85	-	
エンドトキシン	55	229	D012 55

オ

	頁	保険点数	保険区分
黄体形成ホルモン（LH）	25	105	D008 12
オステオカルシン	36	153	D008 25
オスポロット→スルチアム	99	※	B001 02 イ
オーム病クラミジア抗体	51	79	D012 11
オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕	111	507	D004 11
オリベス→リドカイン	102	※	B001 02 イ

カ

	頁	保険点数	保険区分
喀痰中好酸球（エオジン細胞鏡検）	114	15	D005 03
下垂体後葉負荷試験	38	38頁参照	D287 02
下垂体前葉負荷試験	38	38頁参照	D287 01
ガストリン放出ペプチド前駆体→Pro GRP	43	175	D008 24
活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	94	29	D006 07
カテコールアミン分画	27	161	D008 29
カドミウム（Cd）	15	-	
ガバペン→ガバペンチン	100	※	B001 02 イ
ガバペンチン	100	※	B001 02 イ
花粉症【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	73	73頁参照	D15 13
可溶性インターロイキン2レセプター→インターロイキン2受容体	45	438	D009 36
可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	96	93	D006 11
カリウム（K）	13	11	D007 01
カリウム（K）（髄液）	112	11	D007 01

顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	115	113	D004 08
カルシウム(Ca)	13	11	D007 01
カルシウムイオン→イオン化カルシウム	13	26	D007 07
カルシトニン	26	127	D008 16
カルニチン	19	95+95	D007 23
カルバマゼピン	99	※	B001 02 イ
カロナール→アセトアミノフェン	103	180	D007 46
肝細胞増殖因子(HGF)	2	227	D007 53
カンジダ・マンナン抗原	56	134	D012 23
関節液結晶(ピロリン酸Ca、尿酸Na)	114	50	D004 02
間接クームス試験	48	47	D011 02 ロ
癌胎児性抗原→CEA	40	99	D009 03
癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管膣分泌液)	115	204	D015 22
カンピロバクター培養	129	129頁参照	
寒冷凝集反応	51	11	D014 01

キ

	頁	保険点数	保険区分
奇形精子率	111	70	D004 04
キシロカイン→リドカイン	102	※	B001 02 イ
キニジン	102	※	B001 02 イ
巨核細胞数(穿刺液)	114	-	

ク

	頁	保険点数	保険区分
グアナーゼ(GU)	10	35	D007 12
クームス試験(間接)	48	47	D011 02 ロ
クームス試験(直接)	48	34	D011 02 イ
クームス定量試験	48	-	
グラセプター→タクロリムス	104	※	B001 02 イ
クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕	58	188	D023 01
クラミジア・トラコマチス核酸増幅→クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕	58	188	D023 01
クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	52	200	D012 45
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	51	75	D012 10
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	51	70	D012 09
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgM抗体	51	152	D012 30
クリオグロブリン定性	71	42	D015 05
グリコアルブミン(GA)	3	55	D007 17
グリコヘモグロビン→ HbA1c	3	49	D005 09
クリプトコッカス抗原定性	56	164	D012 36
クリプトコッカス培養	129	129頁参照	
グリベック→イマチニブ	103	※	B001 02 イ
グルカゴン負荷試験	39	39頁参照	D288 02
グルコース→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
クレアチニン	6	11	D007 01
クレアチニンクリアランス	22	-	
クレアチン	6	11	D007 01
クレアチンキナーゼ→CK	9	11	D007 01
クレアチンキナーゼアイソザイム→CKアイソザイム	12	55	D007 17
クロール(Cl)	13	(11)	D007 01
クロール(髄液)	112	(11)	D007 01
クロストリジオイデス・ディフィシル(嫌気培養)	129	129頁参照	D008 注1
クロストリジオイデス・ディフィシル抗原(トキシン A・B)	130	95	D012 15
クロナゼパム	99	※	B001 02 イ
クロバザム	100	※	B001 02 イ
グロブリン反応→ノンネアペルト反応	112	77	D004 06
グロブリン反応→パンディ反応	112	77	D004 06
クロム(Cr)	16	-	

ケ

	頁	保険点数	保険区分
血液・穿刺液(培養検査)	128	240	D018 03
血液型(ABO)→ABO血液型	48	39	D011 01
血液型(Rh(D))→ Rh(D)血液型	48	39	D011 01
血液浸透圧→浸透圧(血清)	92	15	D005 03
血液像→白血球像	91	15	D005 03
結核菌DNA〔PCR〕(TB-PCR)	55	410	D023 14
結核菌Nested PCR《髄液》・《胸水》	158	-	
結核菌群抗原定性	135	291	D012 59
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT.TB)(QFTプラス)	57	593	D015 29
血色素量→ヘモグロビン	91	21	D005 05
結晶証明→関節液結晶	114	50	D004 02
血漿FDP →フィブリン・フィブリノゲン分解産物	96	95	D006 12
血小板関連 IgG(PA-IgG)	49	190	D011 06
血小板抗体→抗血小板抗体	48	261	D011 08
血小板数(PLT)	91	21	D005 05
血小板第4因子(PF4)	98	173	D006 27
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体→HIT抗体	49	390	D011 10
血清アミロイドA蛋白(SAA)	71	47	D015 06
血清鉄→鉄(Fe)血清	14	11	D007 01
血清補体価(CH_{50})	70	38	D015 04
結石分析	20	117	D010 02
血中微生物→フィラリア・マラリア原虫	92	40	D005 04
血沈→赤血球沈降速度	92	(9)	D005 01
血糖(グルコース)	3	11	D007 01
ケトン体(アセトン体)定性(尿)	107	(26)	D000
ケトン体分画	12	59	D007 19
嫌気培養	128	128頁参照	D008 注1
ゲンタシン→ゲンタマイシン	103	※	B001 02 イ
ゲンタマイシン	103	※	B001 02 イ
検便検査→衛生(検便検査)	136	-	

コ

	頁	保険点数	保険区分
抗AChR抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体	67	752	D014 44
抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体)	68	270	D014 34
抗CCP抗体定量(抗シトルリン化ペプチド抗体)	63	193	D014 24
抗CL-β_2GPI抗体→抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテインI複合体抗体	67	223	D014 28
抗DNA抗体定量	65	159	D014 17
抗ds-DNA-IgG抗体定量	65	159	D014 17
抗ds-DNA-IgM抗体	65	-	
抗Dsg1抗体→抗デスモグレイン1抗体	68	300	D014 38
抗Dsg3抗体→抗デスモグレイン3抗体	68	270	D014 34
抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	69	134	D008 20
抗GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体	68	257	D014 32
抗IA-2抗体	69	213	D008 43
抗Jo-1抗体定量	66	140	D014 12
抗LKM1抗体	69	215	D014 27
抗MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	67	1000	D014 46
抗p53抗体	45	163	D009 22
抗RNAポリメラーゼIII抗体	65	166	D013 19
抗RNP抗体定量	65	144	D014 13
抗Scl-70抗体定量	66	157	D014 16
抗Sm抗体定量	66	147	D014 14
抗SS-A/Ro抗体定量	66	161	D014 18
抗SS-B/La抗体定量	66	153	D004 15
抗ss-DNA-IgG抗体定量	65	159	D014 17
抗ss-DNA-IgM抗体	65	-	
抗Tg 抗体→抗サイログロブリン抗体	64	136	D014 10
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	64	138	D014 11
抗アクアポリン4抗体	67	1000	D014 46
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	67	752	D014 44
抗胃壁細胞抗体	69	-	
抗核抗体半定量(ANA)	65	99	D013 05
抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)	63	111	D014 08
抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテインI複合体抗体(抗CL-β_2GPI抗体)	67	223	D014 28
抗カルジオリピンIgG抗体	67	226	D014 29
抗カルジオリピンIgM抗体	67	226	D014 29

索　引（50 音）

高感度HBc関連抗原定量	77	246	D013 12
高感度HCVコア蛋白→HCVコア抗原	78	102	D013 05
高感度PSAタンデム	42	121	D008 09
高感度PSAタンデムF/T比	42	150	D008 17
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	67	1000	D014 46
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体→抗GAD抗体	69	134	D008 20
抗血小板抗体	48	261	D011 08
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	64	138	D014 11
抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体→ PR3-ANCA	68	250	D014 31
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体→MPO-ANCA	68	250	D014 31
口腔・気道・呼吸器からの検体（培養検査）	128	180	D018 01
抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	64	136	D014 10
好酸球数	92	17	D005 04
抗酸菌同定〔質量分析法〕	135	376	D021
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色（集菌塗抹）	134	65+35	D017 01+注1
抗酸菌分離培養検査1	134	315	D020 01
抗酸菌分離培養検査2	134	224	D020 02
抗酸菌薬剤感受性検査	135	415	D022
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	68	257	D014 32
抗シトルリン化ペプチド抗体→抗CCP抗体定量	63	193	D014 24
甲状腺刺激抗体→TSAb	64	330	D014 39
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	25	98	D007 06
甲状腺負荷試験	38	38頁参照	D287 01 ハ
抗ストレプトリジンO定量（ASO）	50	15	D012 01
抗セントロメア抗体	65	173	D013 20
抗デスモグレイン1抗体（抗Dsg1抗体）	68	300	D014 38
抗デスモグレイン3抗体（抗Dsg3抗体）	68	270	D014 34
抗平滑筋抗体	69	-	
酵母様真菌培養	129	129頁参照	
抗ミトコンドリアM2抗体（AMA-M2）	69	189	D014 22
抗ミトコンドリア抗体（AMA）	69	181	D014 21
抗ミュラー管ホルモン（AMH）	33	597	D008 53
抗ランゲルハンス島細胞抗体（ICA）	158	-	
抗利尿ホルモン（ADH）→ AVP	25	224	D008 47
コカール→アセトアミノフェン	103	180	D007 46
コクサッキーA群・B群（ウイルス抗体）	81•84	79	D012 11
骨型アルカリホスファターゼ→BAP	11	157	D008 27
骨髄像	92	788	D005 14
コプロポルフィリン定性（尿）	107	-	
コプロポルフィリン定量（血液）	7	210	D007 51
コプロポルフィリン定量（尿）	108	131	D001 15
コリンエステラーゼ（ChE）	8	11	D007 01
コルチゾール	30	121	D008 14
コレステロール→総コレステロール（T-Cho）	3	17	D007 03
コレステロール分画	3	57	D007 18

サ

	頁	保険点数	保険区分
細菌顕微鏡検査	128	67	D017 03
細菌培養検査→培養検査	128	128頁参照	
細菌薬剤感受性検査→薬剤感受性検査	131	131頁参照	
サイクリックAMP（cAMP）	35	161	D008 29
サイトケラチン19フラグメント→シフラ	42	154	D008 19
サイトメガロ（ウイルス抗体）（CMV）	81	79	D012 11
サイトメガロウイルス（CMV）IgG抗体	87	200	D012 46
サイトメガロウイルス（CMV）IgM抗体	87	200	D012 46
細胞種類（髄液）	112	77	D004 06
細胞種類（穿刺液）	113	-	
細胞診検査（婦人科材料）	153	150	N004 01
細胞診検査（その他一般材料）	153	190	N004 02
細胞数（髄液）	112	77	D004 06
細胞数（穿刺液）	113	-	
サイロキシン（T_4）	26	105	D008 11
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	26	130	D008 19
サイログロブリン（Tg）	26	128	D008 17
サーティカン→エベロリムス	104	※	B001 02 イ
サリチル酸	101	※	B001 02 イ
サルソニン→サリチル酸	101	※	B001 02 イ
サルモネラ（検便検査）	136	-	
ザロンチン→エトスクシミド	99	※	B001 02 イ
三塩化（トリクロル）酢酸（TCA）	17	-	
サンディミュン→シクロスポリン	104	※	B001 02 イ
サンリズム→塩酸ピルジカイニド	101	※	B001 02 イ

シ

	頁	保険点数	保険区分
シアリルLe^{X}抗原→CSLEX	41	152	D008 18
シアリルLe^X-i抗原→SLX	41	140	D008 13
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	22	108	D007 28
ジアゼパム	100	※	B001 02 イ
ジアパックス→ジアゼパム	100	※	B001 02 イ
ジェノタイプHCV-RNA-PCR	78	-	
子宮頸管粘液→顆粒球エラスターゼ	115	113	D004 08
シクロスポリン	104	※	B001 02 イ
ジゴキシン	101	※	B001 02 イ
ジゴシン→ジゴキシン	101	※	B001 02 イ
糸状菌培養	129	129頁参照	
シスタチンC	6	109	D007 29
ジソピラン→ジソピラミド	102	※	B001 02 イ
ジソピラミド	102	※	B001 02 イ
ジフテリア菌培養	129	129頁参照	
シフラ（CYFRA21-1）（サイトケラチン19フラグメント）	42	154	D008 19
シベノール→シベンゾリン	101	※	B001 02 イ
シベンゾリン	101	※	B001 02 イ
脂肪酸4分画	19	389	D010 07
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ→TRACP-5b定量	44	156	D008 26
消化管からの検体（培養検査）	128	200	D018 02
小児アレルギー【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	73	73頁参照	D15 13
常用負荷試験	39	39頁参照	D288 01
食物アレルギー【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	73	73頁参照	D15 13
心筋トロポニンT（TnT）	2	109	D007 29
神経特異エノラーゼ→NSE	43	142	D008 14
心室筋ミオシン軽鎖 I	2	184	D007 47
浸透圧（血清）	92	15	D005 03
浸透圧（尿）	108	16	D001 03

ス

	頁	保険点数	保険区分
膵アミラーゼ（P-AMY）	9	48	D007 14
髄液一般検査	112	112頁参照	
水銀（Hg）	16	-	
膵グルカゴン	27	150	D008 24
推算GFR→eGFR	22	-	
水痘・帯状ヘルペス（ウイルス抗体）	81	79	D012 11
水痘・帯状ヘルペス（VZV）抗原	89	227	D012 54
水痘・帯状ヘルペス（VZV）IgG 抗体	87	200	D012 46
水痘・帯状ヘルペス（VZV）IgM 抗体	87	200	D012 46
膵ホスホリパーゼA_2（PLA_2）	11	204	D007 50
髄膜炎菌培養	129	129頁参照	
スルチアム	99	※	B001 02 イ
スロービット→テオフィリン	104	※	B001 02 イ

セ

	頁	保険点数	保険区分
精液一般検査	111	70	D004 04
精子数→精子濃度	111	70	D004 04
精子濃度	111	70	D004 04
精子不動化抗体	68	-	

精子量	111	70	D004 04
性腺負荷試験	36	36頁参照	D287 06
成長ホルモン(GH)	24	104	D008 10
赤痢(衛生検査)	136	-	
赤痢アメーバ	130	130頁参照	D017 03
赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007 51
赤血球数(RBC)	91	21	D005 05
赤血球像	91	-	
赤血球沈降速度(ESR)	92	(9)	D005 01
セルシン→ジアゼパム	100	※	B001 02 イ
セルセプト→ミコフェノール酸	104	※	B001 02 イ
セルロプラスミン(CP)	1	90	D015 09
セレナミン→ジアゼパム	100	※	B001 02 イ
セレニカR →バルプロ酸	99	※	B001 02 イ
セレネース→ハロペリドール	100	※	B001 02 イ
セロトニン	35	-	
線維素分解産物(血漿 FDP)→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	96	95	D006 12
線維素分解産物(尿中FDP)	108	77	D001 08
潜血反応(尿)	107	(26)	D000
全血比重(GB)	92	-	
全脂質脂肪酸分画	20	389	D010 07
前立腺特異抗原→PSA、高感度PSAタンデム	42	121	D008 09

ソ

	頁	保険点数	保険区分
総コレステロール(T-Cho)	3	17	D007 03
総三塩化物(TTC)	17	-	
総脂質(TL)	4	-	
総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
総蛋白(TP)	1	11	D007 01
総鉄結合能(TIBC)(直接比色法／ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
総ビリルビン(T-Bil)	7	11	D007 01
総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比→BTR	20	283	D007 05
総ホモシステイン	20	279	D010 04 イ
ゾニサミド	100	※	B001 02 イ
その他の部位からの検体(培養検査)	128	180	D018 05
ソマトメジンC(IGF-1)	24	212	D008 42

タ

	頁	保険点数	保険区分
大腸菌血清型別	130	175	D012 40
大腸菌ベロトキシン	130	184	D023-2 03
耐糖能精密検査	39	39頁参照	D288 02
ダイアモックス→アセタゾラミド	99	※	B001 02 イ
第Ⅱ因子	94	223	D006 32
第Ⅴ因子	94	223	D006 32
第Ⅶ因子	94	223	D006 32
第Ⅷ因子	94	223	D006 32
第Ⅷ因子インヒビター(第Ⅷ因子-INH)	96	144	D006 20
第Ⅸ因子	95	223	D006 32
第Ⅸ因子インヒビター(第Ⅸ因子-INH)	96	144	D006 20
第Ⅹ因子	95	223	D006 32
第Ⅺ因子	95	223	D006 32
第Ⅻ因子	95	223	D006 32
第XIII因子	95	223	D006 32
タクロリムス	104	※	B001 02 イ
タゴシッド→テイコプラニン	104	※	B001 02 イ
炭酸リチウム	100	※	B001 02 イ
胆汁酸→総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
単純ヘルペス(ウイルス抗体)(HSV)	81•83	79	D012 11
単純ヘルペス(HSV)IgG抗体	87	200	D012 46
単純ヘルペス(HSV)IgM抗体	87	200	D012 46
単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	89	180	D012 42
蛋白→総蛋白(TP)	1	11	D007 01
蛋白定性(尿)	107	(26)	D000
蛋白定量クレアチニン換算値(尿蛋白／クレアチニン比)	107	-	
蛋白定量(尿)	107	7	D001 01
蛋白定量(髄液)	112	11	D007 01
蛋白定量(穿刺液)	114	11	D007 01
蛋白分画	1	18	D007 04
タンボコール→フレカイニド	102	※	B001 02 イ

チ

	頁	保険点数	保険区分
チアミン→ビタミンB_1	18	239	D007 55
膣トリコモナス／マイコプラズマジェニタリウム 同時測定DNA(PCR)(尿)(擦過物)	59	350	D023 12
チルミメール→メキシレチン	102	※	B001 02 イ
チルミン→テオフィリン	104	※	B001 02 イ
中性脂肪(TG)	4	11	D007 01
虫体検出	110	23	D003 03
虫卵→虫卵(集卵)(浮遊・沈殿)	109	15	D003 01
虫卵→虫卵(塗抹)	109	20	D003 02
虫卵(集卵)(沈殿法)	109	15	D003 01
虫卵(集卵)(浮遊法)	109	15	D003 01
虫卵(塗抹)	109	20	D003 02
直接クームス試験	48	34	D011 02 イ
直接ビリルビン(D-Bil)	7	11	D007 01
沈渣(穿刺液)	113	-	
沈渣(尿)→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	109	(27)	D002
沈渣(尿)染色した場合→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	109	(27+9)	D002

ツ

	頁	保険点数	保険区分
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgG抗体	53	203	D012 47
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgM抗体	53	203	D012 47

テ

	頁	保険点数	保険区分
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	36	150	D008 24
テイコプラニン	104	※	B001 02 イ
デオキシピリジノリン(DPD)	44	191	D008 39
テオドール→テオフィリン	104	※	B001 02 イ
テオフィリン	104	※	B001 02 イ
テオロング→テオフィリン	104	※	B001 02 イ
テグレトール→カルバマゼピン	99	※	B001 02 イ
テストステロン	33	119	D008 13
鉄(Fe)	14	11	D007 01
鉄染色(骨髄像特殊染色)	93	93頁参照	D005 14注
鉄染色(末梢血液特殊染色)	93	93頁参照	D005 06注
デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	31	164	D008 31
デパケン→バルプロ酸	99	※	B001 02 イ
デヒドロエピアンドロステロン→17- ケトステロイド分画	30	213	D008 43
デルタアミノレブリン酸→δ-アミノレブリン酸	108	106	D001 12
デルタアミノレブリン酸(産業医学関連)→δ-アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
デルタアミノレブリン酸定量→δ-アミノレブリン酸	108	106	D001 12
テルバンス→テオフィリン	104	※	B001 02 イ

ト

	頁	保険点数	保険区分
糖→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
透析液エンドトキシン	55	-	
糖定性(尿)	107	(26)	D000
糖定量(髄液)	112	11	D007 01
糖定量(穿刺液)	114	11	D007 01
糖定量(尿)	108	9	D001 02
銅(Cu)	15	23	D007 05

索　引（50 音）

糖負荷試験	39	39頁参照	D288
ドーパミン→カテコールアミン分画	27	161	D008 29
ドーパミン総	28	-	
塗抹鏡検→細菌顕微鏡検査	128	67	D017 03
トキソプラズマIgG抗体	52	93	D012 14
トキソプラズマIgM抗体	52	95	D012 15
トコフェロール→ビタミンE	19	-	
トピナ→トピラマート	100	※	B001 02 イ
トピラマート	100	※	B001 02 イ
トブラシン→トブラマイシン	103	※	B001 02 イ
トブラマイシン	103	※	B001 02 イ
トランスサイレチン→プレアルブミン	1	101	D015 12
トランスフェリン（血清）	71	60	D015 07
トリグリセライド→中性脂肪	4	11	D007 01
トリクロル酢酸→三塩化（トリクロル）酢酸	17	-	
トリコスポロン・アサヒ抗体	51	798	D012 68
トリコモナス培養	130	130頁参照	D018 04
トリプシン	10	189	D007 48
トリプトファン反応（髄液）	112	77	D004 06
トリメタジオン	99	※	B001 02 イ
トリヨードサイロニン（T_3）	26	99	D007 07
トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	97	166	D006 25
トロンボモジュリン	97	204	D006 29

ナ

	頁	保険点数	保険区分
ナイアシン→ニコチン酸	19	-	
内分泌負荷試験	38	38 頁参照	D287
ナトリウム（Na）	13	(11)	D007 01
ナトリウム（髄液）	112	(11)	D007 01
鉛（Pb）	15	-	

ニ

	頁	保険点数	保険区分
ニコチン酸（ナイアシン）	19	-	
ニッケル（Ni）	16	-	
ニトラゼパム	100	※	B001 02 イ
日本脳炎（ウイルス抗体）	81•82	79	D012 11
乳癌HER2遺伝子〔FISH〕	149	2700	N005 01
乳酸	12	47	D007 13
乳酸脱水素酵素→LD／IFCC	8	11	D007 01
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LDアイソザイム	11	48	D007 14
尿酸（UA）	6	11	D007 01
尿酸クリアランス	22	-	
尿素呼気試験（UBT）（ユービット）	62	70	D023-2 02
尿素窒素（UN）	6	11	D007 01
尿中アルブミン定量	108	99	D001 10
尿中コルチゾール	30	121	D008 14
尿中トランスフェリン	109	98	D001 09
尿中肺炎球菌莢膜抗原定性→肺炎球菌莢膜抗原定性	57	220	D012 51
尿中免疫電気泳動（免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白（BJP）同定）	71	201	D015 21
尿中レジオネラ抗原定性	57	205	D012 48
尿中FDP→線維素分解産物（尿中FDP）	108	77	D001 08
尿中Ⅳ型コラーゲン	109	179	D001 16
尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）	109	(27)	D002
尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）（染色した場合）	109	(27+9)	D002
尿糖→糖定量（尿）	108	9	D001 02

ネ

	頁	保険点数	保険区分
ネオーラル→シクロスポリン	104	※	B001 02 イ
ネオペリドール→ハロペリドール	100	※	B001 02 イ
ネルボン→ニトラゼパム	100	※	B001 02 イ

ノ

	頁	保険点数	保険区分
脳梗塞リスク評価（A6C）	157	-	
ノルアドレナリン→カテコールアミン分画	27	161	D008 29
ノロウイルス抗原定性	89	150	D012 28
ノンネアペルト反応（髄液）	112	77	D004 06

ハ

	頁	保険点数	保険区分
肺炎球菌莢膜抗原定性《尿》•《髄液》	57	220	D012 51
肺サーファクタントプロテインA → SP-A	22	130	D007 34
肺サーファクタントプロテインD → SP-D	22	136	D007 38
梅毒定性 RPR法	50	15	D012 01
梅毒定性 TP抗体	50	32	D012 04
梅毒半定量 RPR法	50	34	D012 05
梅毒半定量 TP抗体	50	53	D012 06
培養検査	128	128 頁参照	
白血球数（WBC）（血液）	91	21	D005 05
白血球像	91	15	D005 03
白血球定性（尿）	107	(26)	D000
白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング	123	1882	D005 15
パス染色→ PAS染色	93	93 頁参照	D005 06注
馬尿酸（HA）	17	-	
バニールマンデル酸（VMA）	29	90	D008 04
バニールマンデル酸（VMA）定性（尿）→ VMA定性（尿）	107	9	D001 02
ハプトグロビン（型判定含む）	7	129	D015 14
ハプトグロビン（型判定なし）	7	129	D015 14
ハフトロン→サリチル酸	101	※	B001 02 イ
ハベカシン→アルベカシン	103	※	B001 02 イ
パラインフルエンザ（ウイルス抗体）	82	79	D012 11
バルプロ酸	99	※	B001 02 イ
バレリン→バルプロ酸	99	※	B001 02 イ
ハロステン→ハロペリドール	100	※	B001 02 イ
ハロペリドール	100	※	B001 02 イ
ハロマンス→ハロペリドール	100	※	B001 02 イ
バンコマイシン	104	※	B001 02 イ
パンディ反応（髄液）	112	77	D004 06
反応（pH）（髄液）→ pH（髄液）	112	77	D004 06
反応（pH）（精液）→ pH（精液）	111	70	D004 04
反応（pH）（穿刺液）→ pH（穿刺液）	113	-	
反応（pH）（尿）→ pH（尿）	107	(26)	D000

ヒ

	頁	保険点数	保険区分
ヒアルロン酸	12	179	D007 45
鼻炎・喘息・結膜炎【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	73	73 頁参照	D15 13
比重（髄液）	112	77	D004 06
比重（穿刺液）	113	-	
比重（全血）→全血比重	92	-	
比重（尿）	107	(26)	D000
鼻汁中好酸球（エオジン細胞鏡検）	114	15	D005 03
ビタミンA（レチノール）	18	-	
ビタミンB_1（チアミン）	18	239	D007 55
ビタミンB_{12}	18	136	D007 38
ビタミンB_2（リボフラビン）	18	231	D007 54
ビタミンB_6	18	-	
ビタミンC（アスコルビン酸）	18	296	D007 59
ビタミンD→ 1α-25-$(OH)_2$ビタミンD	19	388	D007 62
ビタミンE（トコフェロール）	19	-	
ビタミンK分画	19	-	
ヒダントール→フェニトイン	99	※	B001 02 イ
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量（HCG）	34	130	D008 19
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白→H-FABP定量	2	131	D007 35

ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド→HANP	37	221	D008 46
ヒト精巣上体蛋白4（HE4）	41	200	D008 29
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド→BNP	37	130	D008 19
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント→NT-proBNP	37	136	D008 21
ヒトパピローマウイルスDNA（HPV-DNA）	90	90 頁参照	
ヒトパルボB19IgG抗体	86	-	
ヒトパルボB19IgM抗体	86	200	D012 46
泌尿器・生殖器からの検体（培養検査）	128	190	D018 04
ピブカⅡ→PIVKAⅡ定量（腫瘍マーカー）	43	131	D008 10
ビブリオ（検便検査）	136	-	
ピメノール→ピルメノール	102	※	B001 02 イ
百日咳菌抗体	52	250	D012 57
百日咳菌培養	128	128 頁参照	
病理組織顕微鏡検査	148	148 頁参照	N000 01
ビリルビン（血清）→総ビリルビン、直接ビリルビン	7	11	D007 01
ビリルビン定性（尿）	107	(26)	D000
ピルシカイニド塩酸塩→塩酸ピルジカイニド	101	※	B001 02 イ
ピルビン酸	12	47	D007 13
ピルメノール	102	※	B001 02 イ
ピレチノール→アセトアミノフェン	103	180	D007 46

フ

	頁	保険点数	保険区分
フィブリノゲン定量（Fib）	94	23	D006 04
フィブリン・フィブリノゲン分解産物（血漿FDP）	96	95	D006 12
フィラデルフィア染色体→BCR-ABL1t(9;22)転座	119	2477	D006-5 01
フィラリア原虫	92	40	D005 04
風疹（ウイルス抗体）	82	79	D012 11
風疹IgG抗体〔CLEIA〕	87	200	D012 46
風疹IgG抗体	87	200	D012 46
風疹IgM抗体	87	200	D012 46
フェニトイン	99	※	B001 02 イ
フェノバール→フェノバルビタール	99	※	B001 02 イ
フェノバルビタール	99	※	B001 02 イ
フェリチン定量	1	102	D007 25
フォン・ウィルブランド因子活性（v.W因子活性）（リストセチンコファクター）	95	126	D006 15
フォン・ウィルブランド因子抗原定量（v.W因子抗原定量）	95	147	D006 21
不規則抗体	48	174	D011 04
副甲状腺負荷試験	38	38 頁参照	D287 04
副甲状腺ホルモン	26	161	D008 29
副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）	26	185	D008 38
副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	25	184	D008 37
副腎皮質負荷試験	38	38 頁参照	D287 05
ブドウ糖（血糖）→血糖（グルコース）	3	11	D007 01
不飽和鉄結合能（UIBC）（ニトロソPSAP法）	14	11	D007 01
プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1（PAI-1）	97	240	D016 34
プラスミノゲン活性	96	100	D006 13
プラスミノゲン抗原	96	100	D006 13
プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	96	128	D006 17
プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PIC）	96	150	D006 22
プリミドン	99	※	B001 02 イ
プレアルブミン（トランスサイレチン）	1	101	D015 12
フレカイニド	102	※	B001 02 イ
プレグナンジオール（P_2）	33	213	D008 43
プレグナントリオール（P_3）	33	232	D008 48
プロカインアミド	101	※	B001 02 イ
プロカルシトニン定量（PCT）	55	276	D007 58
プログラフ→タクロリムス	104	※	B001 02 イ
プロゲステロン	32	139	D008 23
プロゲステロンレセプター	149	690	N002 02
プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	1	136	D007 38
プロステートヘルスインデックス（phi）	42	281	D009 32
プロテインC（抗原量）	97	220	D006 31
プロテインC活性	97	227	D006 33
プロテインS（抗原量）	97	152	D006 23
プロテインS（遊離型抗原量）	97	152	D006 23
プロテインS活性	97	163	D006 24
プロトポルフィリン（血中）	8	272	D007 57
プロトロンビン時間（PT）	94	18	D006 02
プロノン→プロパフェノン	101	※	B001 02 イ
プロパフェノン	101	※	B001 02 イ
プロプラノロール	102	-	
ブロムペリドール	100	※	B001 02 イ
プロラクチン（PRL）	25	98	D007 06
糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	62	138	D012 24

ヘ

	頁	保険点数	保険区分
ペーハー→pH（精液）	111	77	D004 06
ペーハー→pH（髄液）	112	70	D004 04
ペーハー→pH（穿刺液）	113	-	
ペーハー→pH（尿）	107	(26)	D000
ヘパルス→サリチル酸	101	※	B001 02 イ
ペプシノゲンⅠ・Ⅱ（PGⅠ・Ⅱ）	11	-	
ベプリコール→ベプリジル	102	※	B001 02 イ
ベプリジル	102	※	B001 02 イ
ヘマトクリット（Ht）	91	21	D005 05
ヘモグロビン（Hb）	91	21	D005 05
ヘモグロビン（潜血LA）定性（糞便）	110	37	D005 05
ヘモグロビン（潜血LA）定量（糞便）	110	41	D005 07
ヘモグロビン（潜血金コロイド）定性（糞便）	110	37	D005 05
ヘモグロビン（潜血金コロイド）定量（糞便）	110	41	D005 07
ヘモグロビン・トランスフェリン（Hb・Tf）定性（糞便）	110	56	D005 08
ヘモグロビン・トランスフェリン（Hb・Tf）定量（糞便）	110	56	D005 08
ヘモグロビンA1c→HbA1c	3	49	D005 09
ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	131	131 頁参照	D019 01
ヘリコバクター・ピロリ抗原（糞便中）→糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	62	138	D012 24
ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体／国内株	54	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株	54	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ培養	129	129 頁参照	D018 02
ペルオキシダーゼ染色（骨髄像特殊染色）	93	93 頁参照	D005 14注
ペルオキシダーゼ染色（末梢血液特殊染色）	93	93 頁参照	D005 6注
ベンザリン→ニトラゼパム	100	※	B001 02 イ
ベンスジョーンズ蛋白定性（尿）	107	-	
ベンスジョーンズ蛋白同定→尿中免疫電気泳動	71	201	D015 21
便潜血	110	110 頁参照	
扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	42	101	D009 04

ホ

	頁	保険点数	保険区分
補体蛋白C_3→C_3	70	70	D015 08
補体蛋白C_4→C_4	70	70	D015 08
ホモシステイン→総ホモシステイン	20	279	D010 04 イ
ホモバニリン酸（HVA）	28	69	D008 03
ホリゾン→ジアゼパム	100	※	B001 02 イ
ポルフォビリノーゲン定量（尿）	108	186	D001 17

マ

	頁	保険点数	保険区分
マイクロサテライト不安定性検査（HNPCC・リンチ症候群）	127	2100	D004-2 02
マイクロサテライト不安定性（MSI）検査（CDX）	127	2500	D004-2 01 イ-1-I
マイクロトランスフェリン→尿中トランスフェリン	109	98	D001 09
マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出→MAC DNA（PCR）	57	421	D023 16
マイコプラズマ培養	129	129 頁参照	
マイコプラズマ抗体半定量	50	32	D012 04
マイスタン→クロバザム	100	※	B001 02 イ
マグネシウム（Mg）	14	11	D007 01
麻疹（ウイルス抗体）	83	79	D012 11

索　引（50 音）

麻疹IgG抗体	87	200	D012 46
麻疹IgM抗体	87	200	D012 46
末梢血液一般検査	91	21	D005 05
マトリックスメタロプロテイナーゼ -3→MMP-3	63	116	D014 09
マラリア原虫	92	40	D005 04
マンガン（Mn）	16	27	D007 08
マンデル酸及びフェニルグリオキシン酸総量（MA及びPGA総量）	17	-	

ミ

	頁	保険点数	保険区分
ミエリン塩基性蛋白（MBP）	111	570	D004 12
ミオグロビン定量	2	131	D007 35
ミオシン→心室筋ミオシン軽鎖 I	2	184	D007 47
ミクロフィラリア→フィラリア原虫	92	40	D005 04
ミコフェノール酸	104	※	B001 02 イ
ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体	69	181	D014 21
ミノアレ→トリメタジオン	99	※	B001 02 イ

ム

	頁	保険点数	保険区分
無機リン（IP）	14	17	D007 03
ムチン塊形成試験	113	-	
ムンプス（ウイルス抗体）	81•83	79	D012 11
ムンプスIgG抗体	87	200	D012 46
ムンプスIgM抗体	87	200	D012 46

メ

	頁	保険点数	保険区分
メキシチール→メキシレチン	102	※	B001 02 イ
メキシレチン	102	※	B001 02 イ
メソトレキセート→メトトレキサート	103	※	B001 02 イ
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	29	220	D008 45
メチル馬尿酸（MHA）	17	-	
メトトレキサート	103	※	B001 02 イ
免疫グロブリン→IgA	70	38	D015 04
免疫グロブリン→IgE	72	100	D014 11
免疫グロブリン→IgG	70	38	D015 04
免疫グロブリン→IgM	70	38	D015 04
免疫組織化学染色	148	148 頁参照	N000 01•N002 09
免疫電気泳動（免疫固定法によるM蛋白同定）	71	218	D015 23

モ

	頁	保険点数	保険区分
網赤血球数	92	12	D005 02
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	121	-	

ヤ

	頁	保険点数	保険区分
薬剤感受性検査	131	131 頁参照	
薬剤血中濃度	99〜106	99〜106 頁参照	
薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	124	124 頁参照	D016 07

ユ

	頁	保険点数	保険区分
有核細胞数（穿刺液）	114	-	
有機モノカルボン酸定量→ピルビン酸	12	47	D007 13
有機モノカルボン酸定量→乳酸	12	47	D007 13
遊離コレステロール（F-Cho）	4	11	D007 01
遊離サイロキシン（F-T_4）	26	121	D008 14
遊離脂肪酸（FFA・NEFA）	4	59	D007 19
遊離テストステロン	33	156	D008 26
遊離トリヨードサイロニン（F-T_3）	26	121	D008 14
遊離L鎖 κ / λ 比（FLC）	71	388	D015 28
遊離β HCG（HCGβサブユニット）	34	129	D008 18
ユービット→尿素呼気試験	62	70	D023-2 02
ユニコン→テオフィリン	104	※	B001 02 イ
ユニフィル→テオフィリン	104	※	B001 02 イ

ヨ

	頁	保険点数	保険区分
葉酸	18	146	D007 40

ラ

	頁	保険点数	保険区分
ラミクタール→ラモトリギン	100	※	B001 02 イ
ラモトリギン	100	※	B001 02 イ
卵巣悪性腫瘍推定値→ROMA	41	-	
卵胞刺激ホルモン（FSH）	25	105	D008 12
ランドセン→クロナゼパム	99	※	B001 02 イ

リ

	頁	保険点数	保険区分
リウマトイド因子（RF）定性	63	-	
リウマトイド因子（RF）定量	63	30	D014 02
リストセチンコファクター→フォン・ウィルブランド因子活性	95	126	D006 15
リスモダン→ジソピラミド	102	※	B001 02 イ
リゾチーム	10	-	
リチウム→炭酸リチウム	100	※	B001 02 イ
リドカイン	102	※	B001 02 イ
リパーゼ	9	24	D007 06
リバルタ反応（穿刺液）	113	-	
リポ蛋白分画	4	49	D007 15
リポ蛋白リパーゼ（LPL）	9	219	D007 52
リポ蛋白（a）（LP（a））	5	107	D007 27
リポトリール→クロナゼパム	99	※	B001 02 イ
リボフラビン→ビタミンB_2	18	231	D007 54
リポプロテイン（a）→リポ蛋白（a）	5	107	D007 27
リーマス→炭酸リチウム	100	※	B001 02 イ
硫酸キニジン→キニジン	102	※	B001 02 イ
緑膿菌（保菌検査）	136	-	
燐→無機リン	14	17	D007 03
淋菌核酸増幅→淋菌DNA〔PCR〕	58	198	D023 02
淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA〔PCR〕	58	262	D023 05
淋菌DNA〔PCR〕	58	198	D023 02
淋菌培養	129	129 頁参照	
リン脂質（PL）	4	15	D007 02
リンパ球混合培養試験→MLC	123	-	
リンパ球幼若化検査（Con-Aによるリンパ球幼若化検査）	124	345	D016 07
リンパ球幼若化検査（PHAによるリンパ球幼若化検査）	124	345	D016 07

ル

	頁	保険点数	保険区分
ループスアンチコアグラント（LA）	67	265	D014 33
ルンベルグ反応（穿刺液）	113	-	

レ

	頁	保険点数	保険区分
レジオネラ抗原定性→尿中レジオネラ抗原定性	57	205	D012 48
レジオネラ培養	129	129 頁参照	
レチクロ→網赤血球数	92	12	D005 02
レチノール→ビタミンA	18	-	

	頁	保険点数	保険区分
レチノール結合蛋白（RBP）	18	129	D015 14
レニン活性（PRA）	35	100	D008 08
レニン定量（ARC）	35	102	D008 09
レベチラセタム	100	※	B001 02 イ
レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	4	174	D007 43

ロ

	頁	保険点数	保険区分
ロイシンアミノペプチダーゼ→LAP	9	11	D007 01
ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	68	268	D007 56

索　引（アルファベット）

A

	頁	保険点数	保険区分
ABO血液型	48	39	D011 01
ACE→アンギオテンシンⅠ転換酵素	10	136	D007 38
ACTH→副腎皮質刺激ホルモン	25	184	D008 37
ADA→アデノシンデアミナーゼ	10	32	D007 11
ADAMTS13インヒビター定量	95	1000	D006 37
ADAMTS13活性	95	400	D006 35
ADH→ AVP	25	224	D008 47
AFP→α-フェトプロテイン	40	98	D009 02
AFP-L3%→ α-フェトプロテインレクチン分画	40	185	D008 26
A/G比	1	-	
Al→アルミニウム	15	109	D007 29
ALD→アルドラーゼ	9	11	D007 01
ALP（アルカリホスファターゼ）	8	11	D007 01
ALPアイソザイム（IFCC）	11	48	D007 14
ALP染色→アルカリホスファターゼ染色	93	93頁参照	
ALT（アラニンアミノトランスフェラーゼ）（GPT）	8	17	D007 03
AMA→抗ミトコンドリア抗体	69	181	D014 21
AMA-M2→抗ミトコンドリアM2抗体	69	189	D014 22
AMH→抗ミュラー管ホルモン	33	597	D008 53
AML1-ETO t(8;21)転座→RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	119	2477	D006-5 01
AMY→アミラーゼ	9	11	D007 01
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	12	48	D007 14
ANA→抗核抗体半定量	65	99	D013 05
Angelman症候群(15番染色体D15S10)→15 染色体(アンジェルマン症候群)	117	2477	D006-5 01
APTT→活性化部分トロンボプラスチン時間	94	29	D006 07
ARC→レニン定量	35	102	D008 09
ASO→抗ストレプトリジンO定量	50	15	D012 01
AST（アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）（GOT）	8	17	D007 03
AT-Ⅲ→アンチトロンビン活性	96	70	D006 09
ATLA→HTLV-Ⅰ抗体（第3世代）	79	159	D012 33
ATLA→HTLV-Ⅰ抗体〔ラインブロット法・LIA法〕	79	425	D012 64
AVP（アルギニンバゾプレシン）	25	224	D008 47
A6C→脳梗塞リスク評価	157	-	

B

	頁	保険点数	保険区分
B群連鎖球菌（GBS）培養	129	129頁参照	
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG、IgA、IgM、IgD、K、L	120	155	D016 01
BAP（骨型アルカリホスファターゼ）	11	157	D008 27
BCA225	41	158	D008 20
BCR-ABL1 t(9;22)転座（フィラデルフィア染色体）	119	2477	D006-5 01
BFP（塩基性フェトプロテイン）	40	150	D008 17
B-J蛋白定性→ベンスジョーンズ蛋白定性（尿）	107	-	
B-J蛋白同定→尿中免疫電気泳動	71	201	D015 21
BNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド）	37	130	D008 19
BTR（総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比）	20	283	D007 05

C

	頁	保険点数	保険区分
C反応性蛋白（CRP）定性	71	16	D015 01
C反応性蛋白（CRP）定量	71	16	D015 01
C-ペプチド	27	105	D008 12
Ca→カルシウム	13	11	D007 01
c-AMP→サイクリックAMP	35	161	D008 29
CA15-3	40	112	D008 06
CA19-9	40	121	D008 09
CA72-4	41	146	D008 16
CA125	40	136	D008 12
CA・RF→抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	63	111	D014 08
C-ANCA → PR3-ANCA	68	250	D014 31
CCR4タンパク〔FCM〕	123	10000	D006-10
Cd→カドミウム	15	-	
CD45ゲーティング	123	1882	D005 15
CEA（癌胎児性抗原）	40	99	D009 03
CH_{50}→血清補体価	70	38	D015 04
ChE→コリンエステラーゼ	8	11	D007 01
CK（クレアチンキナーゼ）	9	11	D007 01
CKアイソザイム	12	55	D007 17
CK-MB	9	90	D007 22
CKS1B 1q21 増幅	119	2477	D006-5 01
Cl→クロール	13	(11)	D007 01
Cl→クロール（髄液）	112	(11)	D007 01
CMV→サイトメガロ（ウイルス抗体）	81	79	D012 11
CMV→サイトメガロウイルスIgG抗体	87	200	D012 46
CMV→サイトメガロウイルスIgM抗体	87	200	D012 46
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	124	345	D016 07
CP→セルロプラスミン	1	90	D015 09
CPR→C-ペプチド	27	105	D008 12
Cr→クロム	16	-	
CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科）（保菌検査）	136	-	
CRP定性→C反応性蛋白定性	71	16	D015 01
CRP定量→C反応性蛋白定量	71	16	D015 01
CSLEX（シアリルLe^{X}抗原）	41	152	D008 18
Cu→銅	15	23	D007 05
CYFRA21-1→シフラ	42	154	D008 19
C1インアクチベーター活性(C1エステラーゼインヒビター活性)	97	253	D015 24
C1q	70	-	
C_3（β_1C/β_1Aグロブリン）	70	70	D015 08
C_4（β_1Eグロブリン）	70	70	D015 08

D

	頁	保険点数	保険区分
Dダイマー	96	127	D006 16
D-Bil→直接ビリルビン	7	11	D007 01
DHEA-S→デハイドロエピアンドロステロンサルフェート	31	164	D008 31
DLST→薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	124	124頁参照	D016 07
DPD→デオキシピリジノリン	44	191	D008 39
DUPAN-2	40	115	D008 07
D13S319 del(13)長腕欠失	119	2477	D006-5 01

E

	頁	保険点数	保険区分
EBウイルス 抗EA IgG抗体[EIA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗EA-DR IgA抗体[FA法]	86	79	D012 11
EBウイルス 抗EA-DR IgG抗体[FA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗EA-DR IgM抗体[FA法]	86	-	
EBウイルス 抗EBNA IgG抗体[EIA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗EBNA抗体[FA法]	86	79	D012 11
EBウイルス 抗VCA IgA抗体[FA法]	86	79	D012 11
EBウイルス 抗VCA IgG抗体[EIA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗VCA IgG抗体[FA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗VCA IgM抗体[EIA法]	86	200	D012 46
EBウイルス 抗VCA IgM抗体[FA法]	86	200	D012 46
EGFR遺伝子変異解析〔リアルタイム PCR法〕	126	2500	D004-2 01 1-1-7
EGFR遺伝子変異解析《血漿》	125	2100	D006-12
EGFRタンパク	150	690	N002 04
eGFRcreat	22	-	
eGFRcys	22	-	
EHEC O157（検便検査）	136	-	
ESBL（基質特異性拡張型β - ラクタマーゼ）産性菌（保菌検査）	136	-	
ESR→赤血球沈降速度	92	(9)	D005 01
E_2→エストラジオール（血清）	32	167	D008 33

F

	頁	保険点数	保険区分
F-Cho→遊離コレステロール	4	11	D007 01
FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物（血漿FDP）	96	95	D006 12
FDP→線維素分解産物（尿中FDP）	108	77	D001 08
Fe→鉄	14	11	D007 01
FFA→遊離脂肪酸	4	59	D007 19
Fib→フィブリノゲン定量	94	23	D006 04
FLC→遊離L鎖κ / λ比	71	388	D015 28
FSH→卵胞刺激ホルモン	25	105	D008 12
F-T_3→遊離トリヨードサイロニン	26	121	D008 14
F-T_4→遊離サイロキシン	26	121	D008 14

G

	頁	保険点数	保険区分
GA→グリコアルブミン	3	55	D007 17
GB→全血比重	92	-	
G-band法（血液疾患）	118	2444+386	D006-5 03+注1
G-band法（先天性疾患）	117	2477+397	D006-5 03+注2
GBM→抗糸球体基底膜抗体	68	257	D014 32
GBS→B群連鎖球菌（GBS）培養	129	129 頁参照	
GH→成長ホルモン	24	104	D008 10
GOT→AST	8	17	D007 03
GPT→ALT	8	17	D007 03
GU→グアナーゼ	10	35	D007 12

H

	頁	保険点数	保険区分
HA→馬尿酸	17	-	
HA-IgG抗体	77	146	D013 08
HA-IgM抗体	77	146	D013 08
HANP（ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド）	37	221	D008 46
Hb→ヘモグロビン	91	21	D005 05
HbA1c	3	49	D005 09
HBc抗体	76	130	D013 06
HBc-IgM抗体	76	146	D013 08
HBe抗原	76	98	D013 04
HBe抗体	76	98	D013 04
HBs抗原	76	88	D013 03
HBs抗原定性	76	29	D013 01
HBs抗体	76	88	D013 03
HBs抗体定性	76	32	D013 02
HBs抗体半定量	76	32	D013 02
HBVゲノタイプ（判定）	77	340	D013 14
HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査（HBV-DNA PC・CP）	77	450	D023 17
HBV-DNA定量（リアルタイムPCR法）	77	256	D023 04
HCG→ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量	34	130	D008 19
HCGβサブユニット→遊離βHCG	34	129	D008 18
HCV群別	78	215	D013 11
HCV検診セット（C型肝炎ウイルス検診）	156	-	
HCVコア抗原	78	102	D013 05
HCV抗体	78	102	D013 05
HCV-RNA定量（リアルタイムPCR法）	78	412	D023 15
HDL-コレステロール（HDL-C）	3	17	D007 03
HDL-C→HDL-コレステロール	3	17	D007 03
HER2/neuタンパク（病理組織）	150	690	N002 03
HE4 → ヒト精巣上体蛋白4	41	200	D008 29
H-FABP定量（ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白）	2	131	D007 35
Hg→水銀	16	-	
HGF→肝細胞増殖因子	2	227	D007 53
HIT抗体（血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体）	49	390	D011 10
HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR法）	80	520	D023 18
HIV-1/2抗体確認検査	80	660	D012 67
HIV抗原・抗体	80	127	D012 21
HP抗体→ヘリコバクター・ピロリ抗体	54	80	D012 12
HPV-DNA 簡易ジェノタイプ（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	90	347	D023 10
HPV-DNAジェノタイプ（ハイリスク13種）	90	2000	D023 27
HPV-DNA型別	90	-	
HSV→単純ヘルペス（ウイルス抗体）	81・83	79	D012 11
HSV→単純ヘルペスIgG抗体	87	200	D012 46
HSV→単純ヘルペスIgM抗体	87	200	D012 46
HSV→単純ヘルペスウイルス（HSV）抗原	89	180	D012 42
Ht→ヘマトクリット	91	21	D005 05
HTLV-Ⅰ抗体（第3世代）（ATLA）	79	159	D012 33
HTLV-Ⅰ抗体（ATLV）〔ラインブロット法・LIA法〕	79	425	D012 64
HVA→ホモバニリン酸	28	69	D008 03

I

	頁	保険点数	保険区分
ICA→抗ランゲルハンス島細胞抗体	158	-	
IEP→免疫電気泳動（免疫固定法によるM蛋白固定）	71	218	D015 23
IgA	70	38	D015 04
IgE（非特異的 IgE）	72	100	D014 11
IgEシングルアレルゲン	72	110	D15 13
IgE特異的アレルゲン（疾患別セット）・10アレルゲンセット	73	1100	D15 13
IgE特異的アレルゲン（疾患別セット）・13アレルゲンセット	73	1430	D15 13
IgEマルチアレルゲン	72	110	D15 13
IGF-1→ソマトメジンC	24	212	D008 42
IgG	70	38	D015 04
IgG型リウマトイド因子（IgG-RF）	63	198	D014 25
IgG-RF→IgG型リウマトイド因子	63	198	D014 25
IgG2	70	239	D014 30
IgG4	70	373	D014 40
IgM	70	38	D015 04
IGH-CCND1 t（11；14）転座	119	2477	D006-5 01
IGH-FGFR3 t（4；14）転座	119	2477	D006-5 01
IGH-MAF t（14；16）転座	119	2477	D006-5 01
IGH-MYC t（8；14）転座	119	2477	D006-5 01
IL-2R→インターロイキン2受容体	45	438	D009 36
IP→無機リン	14	17	D007 03
IRG→膵グルカゴン	27	150	D008 24
IRI→インスリン	27	100	D008 08

K

	頁	保険点数	保険区分
K→カリウム	13	11	D007 01
K→カリウム（髄液）	112	11	D007 01
KL-6	22	108	D007 28

L

	頁	保険点数	保険区分
L型脂肪酸結合蛋白→L-FABP	109	210	D001 20
L-ドーパ	28	-	
LA→ループスアンチコアグラント	67	265	D014 33
LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	9	11	D007 01
LD/IFCC（乳酸脱水素酵素）	8	11	D007 01
LD アイソザイム	11	48	D007 14
LDL-C→LDL-コレステロール	3	18	D007 04
LDL-コレステロール（LDL-C）	3	18	D007 04
L-FABP	109	210	D001 20
LH→黄体形成ホルモン	25	105	D008 12
LP（a）→リポ蛋白（a）	5	107	D007 27
LPL→リポ蛋白リパーゼ	9	219	D007 52
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	124	124 頁参照	D016 07
LRG→ロイシンリッチα_2グリコプロテイン	68	268	D007 56

索　引（アルファベット・ギリシャ文字・数字）

M

	頁	保険点数	保険区分
M2BPGi（MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体）	20	194	D007 49
MA→マンデル酸及びフェニルグリオキシ酸総量	17	-	
MAC DNA（PCR）（マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出）	57	421	D023 16
MAC抗体	51	151	D012 29
MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体→ M2BPGi	20	194	D007 49
MBL（メタロβ - ラクタマーゼ）産生菌（保菌検査）	136	-	
MBP→ミエリン塩基性蛋白	111	570	D004 12
MCH（平均赤血球血色素量）	91	21	D005 05
MCHC（平均赤血球血色素濃度）	91	21	D005 05
MCV（平均赤血球容積）	91	21	D005 05
MDRA（多剤耐性アシネトバクター）（保菌検査）	136	-	
MDRP（多剤耐性緑膿菌）（保菌検査）	136	-	
Mg→マグネシウム	14	11	D007 01
MHA→メチル馬尿酸	17	-	
MLC（リンパ球混合培養試験）	123	-	
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	63	116	D014 09
Mn→マンガン	16	27	D007 08
MPO-ANCA（P-ANCA）（抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体）	68	250	D014 31
MRSA（保菌検査）	136	-	
MRSA培養	128	128 頁参照	

N

	頁	保険点数	保険区分
N-メチルホルムアミド	17	-	
Na→ナトリウム	13	(11)	D007 01
Na→ナトリウム（髄液）	112	(11)	D007 01
NAG	108	41	D001 05
NCC-ST-439	40	112	D008 06
NEFA →遊離脂肪酸	4	59	D007 19
NH_3→アンモニア	7	50	D007 16
Ni→ニッケル	16	-	
NK細胞活性	124	-	
non-HDL-コレステロール（non-HDL-C）	3	-	
NSE（神経特異エノラーゼ）	43	142	D008 14
NT-proBNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント）	37	136	D008 21
NT_X（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）	44	153	D008 25

P

	頁	保険点数	保険区分
P型アミラーゼ→膵アミラーゼ（P-AMY）	9	48	D007 14
P_2→プレグナンジオール	33	213	D008 43
P_3→プレグナントリオール	33	232	D008 48
P-Ⅲ-P→プロコラーゲン-Ⅲ- ペプチド	1	136	D007 38
PAC/PRA 比→アルドステロン/レニン活性比	31	-	
PAC/PRC 比→アルドステロン/レニン定量比	31	-	
PAI-1→プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター 1	97	240	D016 34
PA-IgG→血小板関連IgG	49	190	D011 06
P-AMY→膵アミラーゼ	9	48	D007 14
P-ANCA→MPO-ANCA（P-ANCA）（抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体）	68	250	D014 31
PAS染色（骨髄像特殊染色）	93	93 頁参照	D005 14注
PAS染色（末梢血液特殊染色）	93	93 頁参照	D005 06注
Pb→鉛	15	-	
PCT→プロカルシトニン定量	55	276	D007 58
PF→蛋白分画	1	18	D007 04
PF4→血小板第4因子	98	173	D006 27
PGⅠ・Ⅱ→ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	11	-	
pH（髄液）	112	77	D004 06
pH（精液）	111	70	D004 04
pH（穿刺液）	113	-	
pH（尿）	107	(26)	D000
PHAによるリンパ球幼若化検査	124	345	D016 07
phiセット→プロステートヘルスインデックス	42	281	D009 32
phi F/T比同時依頼セット	42	281	D009 32
PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	96	150	D006 22
PIVKA Ⅱ定量（腫瘍マーカー）	43	131	D008 10
PL→リン脂質	4	15	D007 02
PLA_2→膵ホスホリパーゼA_2	11	204	D007 50
PLT→血小板数	91	21	D005 05
PML-RARA t(15;17)転座	119	2477	D006-5 01
PR3-ANCA（C-ANCA）（抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体）	68	250	D014 31
PRA→レニン活性	35	100	D008 08
Prader-Willi症候群（15番染色体SNRPN）→15 染色体（プラダーウイリ症候群）	117	2477	D006-5 01
PRL→プロラクチン	25	98	D007 06
Pro GRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	43	175	D008 24
PSA（前立腺特異抗原）	42	121	D008 09
PT→プロトロンビン時間	94	18	D006 02
PTH-Intact→副甲状腺ホルモン	26	161	D008 29
PTHrP→副甲状腺ホルモン関連蛋白	26	185	D008 38
p53 17p13 欠失→ TP53 del(17)短腕欠失	119	2477	D006-5 01

Q

	頁	保険点数	保険区分
QFTプラス→結核菌特異的インターフェロン - γ 産生能	57	593	D015 29

R

	頁	保険点数	保険区分
RAS/BRAF変異解析	126	4000	D004-2 注1イ
RBC→赤血球数	91	21	D005 05
RBP→レチノール結合蛋白	18	129	D015 14
RF定性（リウマトイド因子）→リウマトイド因子定性	63	-	
RF定量（リウマトイド因子）→リウマトイド因子定量	63	30	D014 02
Rh（D）血液型	48	39	D011 01
Rh-Hr式血液型	48	163	D011 03
RLP-C→レムナント様リポ蛋白コレステロール	4	174	D007 43
ROMA（卵巣悪性腫瘍推定値）	41	-	
RPR（梅毒）定性	50	15	D012 01
RPR（梅毒）半定量	50	34	D012 05
RS（ウイルス抗体）	81•83	79	D012 11
RUNX1-RUNX1T1（AML1-MTG8）t(8;21)転座	119	2477	D006-5 01

S

	頁	保険点数	保険区分
SAA→血清アミロイドA蛋白	71	47	D015 06
SCC抗原→扁平上皮癌関連抗原	42	101	D009 04
SFMC→可溶性フィブリンモノマー複合体	96	93	D006 11
Single-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査→モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	121	-	
SLX（シアリルLe^x -i抗原）	41	140	D008 13
Span-1	41	144	D008 15
SP-A（肺サーファクタントプロテインA）	22	130	D007 34
SP-D（肺サーファクタントプロテインD）	22	136	D007 38

T

	頁	保険点数	保険区分
T_3→トリヨードサイロニン	26	99	D007 07
T_4→サイロキシン	26	105	D008 11
TARC（Th2ケモカイン）	72	179	D015 17
TAT→トロンビン・アンチトロンビン複合体	97	166	D006 25
TBA→総胆汁酸	5	47	D007 13
TBG→サイロキシン結合グロブリン	26	130	D008 19
T-Bil→総ビリルビン	7	11	D007 01
TB-PCR→結核菌DNA〔PCR〕	57	410	D023 14
TCA→三塩化（トリクロル）酢酸	17	-	
T-Cho→総コレステロール	3	17	D007 03

Tf →トランスフェリン	71	60	D015 07
TG→中性脂肪	4	11	D007 01
Tg→サイログロブリン	26	128	D008 17
Th2 ケモカイン→TARC	72	179	D015 17
TIBC→総鉄結合能(直接比色法/ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
TL→総脂質	4	-	
TM→トロンボモジュリン	97	204	D006 29
TnT→心筋トロポニン T	2	109	D007 29
total P1NP(1型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	11	160	D008 28
TP→総蛋白	1	11	D007 01
TPHA(梅毒)定性	50	32	D012 04
TPHA(梅毒)半定量	50	53	D012 06
TP53 del(17)短腕欠失	119	2477	D006-5 01
TRACP-5b定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	44	156	D008 26
TSAb(甲状腺刺激抗体)	64	330	D014 39
TSH→甲状腺刺激ホルモン	25	98	D007 06
TSHレセプター抗体(第3世代)	64	208	D014 26
T-SPOT.TB→結核菌特異的インターフェロン - γ産生能	57	593	D015 29
TTC→総三塩化物	17	-	
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	122	122 頁参照	D016 02
T細胞サブセット(CD4,CD8)	120	185	
T細胞・B細胞百分率(CD3,CD19)	120	193	D016 03

U

	頁	保険点数	保険区分
UA→尿酸	6	11	D007 01
UBT→尿素呼気試験	62	70	D023-2 02
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン	36	150	D008 24
UGT1A1 遺伝子多型解析	127	2004	D006-7
UIBC→不飽和鉄結合能(ニトロソPSAP法)	14	11	D007 01
UN→尿素窒素	6	11	D007 01

V

	頁	保険点数	保険区分
Viewアレルギー39	72	1430	D015 13
VMA→バニールマンデル酸	29	90	D008 04
VMA 定性(尿)	107	9	D001 02
v.W因子活性	95	126	D006 15
v.W因子抗原定量	95	147	D006 21
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)(保菌検査)	136	-	
VZV→水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	81	79	D012 11
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原	89	227	D012 54
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgG抗体	87	200	D012 46
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgM抗体	87	200	D012 46

W

	頁	保険点数	保険区分
WBC→白血球数	91	21	D005 05
Whole-PTH	26	161	D008 29

Z

	頁	保険点数	保険区分
Zn→亜鉛	15	132	D007 36

α

	頁	保険点数	保険区分
α-フェトプロテイン(AFP)	40	98	D009 02
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP - L3%)	40	185	D008 26
α_1-アシドグリコプロテイン→α_1 - 酸性糖蛋白	43	-	
α_1-アンチトリプシン	71	80	D006 10
α_1-酸性糖蛋白(α_1 - AGP)	43	-	
α_1-マイクログロブリン(α_1-MG)	2	129	D015 14
α_1-AGP→α_1 - 酸性糖蛋白	43	-	
α_2-プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	96	128	D006 17
α_2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	96	150	D006 22
α_2-PIC →プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	96	150	D006 22

β

	頁	保険点数	保険区分
β-トロンボグロブリン(β-TG)	98	171	D006 26
β-D-グルカン→(1→3)-β-D-グルカン	55	190	D012 44
β-TG→β-トロンボグロブリン	98	171	D006 26
β_1C/β_1 Aグロブリン→C_3	70	70	D015 08
β_1 Eグロブリン→C_4	70	70	D015 08
β_2-マイクログロブリン(β_2-MG)	2	98	D015 10

γ

	頁	保険点数	保険区分
γ - GT(γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	8	11	D007 01
γ-セミノプロテイン→γ-Sm	43	187	D008 27
γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	43	187	D008 27

δ

	頁	保険点数	保険区分
δ - アミノレブリン酸(δ-ALA)(産業医学関連)	17	-	
δ - アミノレブリン酸(δ-ALA)	108	106	D001 12
δ-ALA →δ - アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
δ-ALA →δ - アミノレブリン酸	108	106	D001 12

数字

	頁	保険点数	保険区分
(1→3)-β-D-グルカン	55	190	D012 44
ⅠCTP(Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド)	44	-	B001 03 □
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド→NT_X	44	153	D008 25
Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド→ⅠCTP	44	-	B001 03 □
1型プロコラーゲン-N-プロペプチド→totalP1NP	11	160	D008 28
1α-25-(OH)$_2$ビタミンD(1,25-ジヒドロキシビタミンD3)	19	388	D007 62
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	3	80	D007 21
1,5-AG→1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	3	80	D007 21
2,5- ヘキサンジオン(2,5-HD)	17	-	
Ⅳ型コラーゲン	1	131	D007 35
Ⅳ型コラーゲン7S	1	148	D007 41
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	28	95	D008 05
5-HIAA→5-ハイドロキシインドール酢酸	28	95	D008 05
11-ケトアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	30	213	D008 43
11-ケトエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	30	213	D008 43
11- ハイドロキシコルチコステロイド	30	60	D008 02
11-ヒドロキシアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	30	213	D008 43
11-ヒドロキシエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	30	213	D008 43
11-OHCS→11-ハイドロキシコルチコステロイド	30	60	D008 02
15染色体(プラダーウイリ症候群)、(アンジェルマン症候群)	117	2477	D006-5 01
17- ケトステロイド分画(17-KS分画)	30	213	D008 43
22染色体(22q11欠失)	117	2477	D006-5 01
25OHビタミンD〔CLEIA〕	19	117	D007 30

生化学的検査

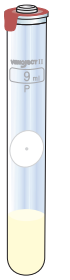
蛋白関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1 3A010	総蛋白 (TP) (1001)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	Biuret 法	6.7 ～ 8.3 g/dL	1 ～ 2	11 生化 I	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。 ヒトアルブミンへの特異性が高いBCPを用いた方法です。
58 3A015	アルブミン (1077)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	BCP 改良法	3.8 ～ 5.3 g/dL	1 ～ 2	11 生化 I	
3 3A020	蛋白分画 (1003)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	セルロースアセテート膜電気泳動法	A/G 1.36～2.26 Alb 57.5～69.2 α_1 2.0～3.3 α_2 5.9～9.7 β 8.0～12.2 γ 11.1～22.0 %	1 ～ 2	18 生化 I	
2 3A016	A/G 比 (1002)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	BCP 改良 /Biuret 法	1.20 ～ 2.00	1 ～ 2		
69 5C095	フェリチン定量 (1197)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	ラテックス凝集比濁法	M 13 ～ 277 F 5 ～ 152 ng/mL	1 ～ 2	102 生化 I	
1075 5C010	プレアルブミン (トランスサイレチン) (4139)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	22.0 ～ 40.0 mg/dL	2 ～ 4	101 生化 I	
174 5C045	セルロプラスミン (CP) (1175)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ネフェロメトリー法	21 ～ 37 mg/dL	4 ～ 6	90 生化 I	＊4
126 5C130	プロコラーゲン - Ⅲ - ペプチド (P- Ⅲ -P) (4059)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	3.62 ～ 9.52 ng/mL	4 ～ 7	136 生化 I	カットオフ値（肝に繊維化のみられる疾患）：6.95ng/mL ＊4
1095 5C135	Ⅳ型コラーゲン 7S (4413)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	4.4 以下 ng/mL	3 ～ 6	148 生化 I	Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン - Ⅲ - ペプチド(P - Ⅲ - P) 又は、M2BPGiと併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。
1060 5C134	Ⅳ型コラーゲン (4582)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	150 以下 ng/mL	4 ～ 8	131 生化 I	＊4

下記の「生化学的検査」「免疫学的検査」等において、多項目を同時にご依頼の場合、各グループの必要量算出式に基づいた血清量をおよその目安としてご提出ください。

グループ　1　／必要量算出式＝〔0.4　＋(0.05×依頼項目数)〕mL：　依頼項目数≧2				
1 総蛋白	30 中性脂肪	9 AST	27 アミラーゼ	45 鉄
58 アルブミン	33 リン脂質	10 ALT	60 リパーゼ	47 UIBC(ニトロソPSAP法)
2 A / G比	31 遊離脂肪酸	11 ALP	245 ADA	44 銅
1119 グリコアルブミン	36 尿素窒素	12 LD	38 ナトリウム	22 抗ストレプトリジンO定量
1008 1,5-AG	37 クレアチニン	13 コリンエステラーゼ	40 クロール	971 RF 定性
28 総コレステロール	57 クレアチン	14 γ-GT	39 カリウム	21 RF 定量
2632 LDL コレステロール	34 尿酸	15 LAP	41 カルシウム	970 CRP 定性
54 HDL コレステロール	51 総ビリルビン	165 アルドラーゼ	43 マグネシウム	20 CRP 定量
56 遊離コレステロール	52 直接ビリルビン	16 CK	42 無機リン	

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
蛋白関連検査								
1113 4Z315	肝細胞増殖因子 (HGF) (1318)	血清 **0.3**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	0.39 以下 ng/mL	4 ～ 12	227 生化Ⅰ	肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。 ＊1
117 5C015	α₁-マイクログロブリン (α₁-MG) (1193)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	12.7～27.3 mg/L	2 ～ 4	129 免疫	
589 5C015	(1194)	尿 **1.0**	**C-3** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	11.0 以下 mg/L	2 ～ 4	129 免疫	
70 5C065	β₂-マイクログロブリン (β₂-MG) (1195)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	2.0 以下 mg/L	1 ～ 2	98 免疫	
544 5C065	(1196)	尿 **1.0**	**C-3** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	289 以下 μg/L	2 ～ 4	98 免疫	PH5.5以上を確認し、提出してください。
175 5C090	ミオグロビン定量 (1169)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	85 以下 ng/mL	1 ～ 2	131 生化Ⅰ	
7783 5C090	(1174)	尿 **8.0**	**ア** 冷蔵	CLEIA 法	2.0 未満 ng/mL	4 ～ 7	131 生化Ⅰ	H-FABPと同時算定不可 ＊E
729 5C091	H-FABP 定量 (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) (1712)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	6.2 以下 ng/mL	1 ～ 2	131 生化Ⅰ	急性心筋梗塞の診断に用いた場合に限り算定する。ミオグロビンと同時算定不可。
1092 5C092	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ (1114)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	ELISA 法	2.5 以下 ng/mL	4 ～ 8	184 生化Ⅰ	1日につき1回のみ算定する。 ＊1
1055 5C093	心筋トロポニン T (TnT) (1198)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	0.014 以下 ng/mL	2 ～ 4	109 生化Ⅰ	急性心筋梗塞診断のカットオフ値：0.100ng/mL



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



ア
採尿した尿を入れよく混和させ、
冷蔵保存
(凍結不可)

実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

糖関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
490 3D010	血糖 (グルコース) (1055)	血漿 1.0	J 冷蔵	酵素法	空腹時 70～109 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急
1119 3D055	グリコアルブミン (GA) (1502)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	11.0～16.0 %	1～2	55 生化Ⅰ	HbA1c、グリコアルブミン又は1,5AGのうちいずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定可。 また、クロザピンを投与中の患者についてはHbA1cを月1回に限り算定できる。 凍結不可
1008 3D085	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG) (1316)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	14.0 以上 μg/mL	1～2	80 生化Ⅰ	
163 3D046	HbA1c (NGSP) (2131)	全血 2.0	J 冷蔵	酵素法	4.6～6.2 %	1～2	49 血液	

脂質関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
28 3F050	総コレステロール (T-Cho) (1010)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	130～219 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	HDLコレステロール、総コレステロール及びLDLコレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つに限り算定する。
2632 3F077	LDL-コレステロール (LDL-C) (1115)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	70～139 表1参照 mg/dL	1～2	18 生化Ⅰ	
54 3F070	HDL-コレステロール (HDL-C) (1013)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 40～86 F 40～96 表1参照 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	
1695	non-HDL-コレステロール (non-HDL-C) (1695)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法・計算法	なし 表1 mg/dL	1～2		
1713 3F150	コレステロール分画 (1596)	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース電気泳動法	HDL 17.1～42.4 LDL 51.0～76.7 VLDL 1.3～18.6 %	2～4	57 生化Ⅰ	凍結不可

（表1）動脈硬化性疾患予防のためのスクリーニングにおける脂質異常症診断基準（空腹時採血＊）

（動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017 年度版より）

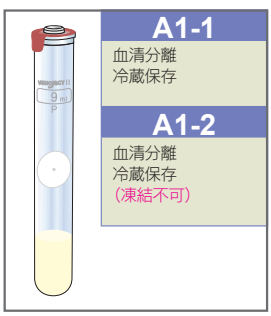
LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症＊＊
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症＊＊

・LDL-CはFriedewald式（TC－HDL-C－TG/5）または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C（TC－HDL-C）かLDL-C直接法を使用する。但しスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

＊　10時間以上の絶食を「空腹時」とする。但し、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
＊＊ スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
脂質関連検査								
128 3F078	レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C) (1097)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	酵素法	7.5 以下 mg/dL 糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴がある場合は、5.2mg/dL 以上がハイリスク域といわれています。	2〜4	174 生化Ⅰ	凍結不可 3ヵ月に1回のみ算定できる。
56 3F065	遊離コレステロール (F-Cho) (1012)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	31 〜 64 mg/dL	1〜2	11 生化Ⅰ	
30 3F015	中性脂肪 (TG) (1016)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	酵素法	35 〜 149 mg/dL 表1参照	1〜2	11 生化Ⅰ	
32 3F010	総脂質 (TL) (1017)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	計算法	380 〜 800 mg/dL	1〜2		
33 3F025	リン脂質 (PL) (1018)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (5日)	酵素法	150 〜 250 mg/dL	1〜2	15 生化Ⅰ	
31 3F035	遊離脂肪酸 (FFA・NEFA) (1019)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	空腹時 0.14〜0.85 mEq/L	1〜2	59 生化Ⅰ	
100 3F135	リポ蛋白分画 (1065)	血清 **0.2**	**A1-2** 冷蔵	アガロース電気泳動法	M α 26.9〜50.5 Pre β 7.9〜23.8 β 35.3〜55.5 Origin 0.0〜 4.7 F α 32.6〜52.5 Pre β 6.6〜20.8 β 33.6〜52.0 Origin 0.0〜 4.4 %	2〜4	49 生化Ⅰ	凍結不可

※1 新生児肝胆道疾患スクリーニングとしての採尿時期は、生後3週間前後です。なお、採尿にあたっては、できるだけ大便が混入しないようにしてください。





実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

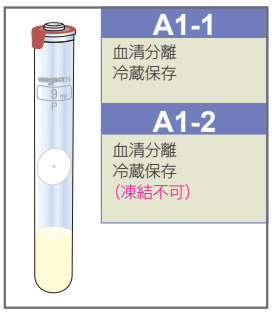
1. 5項目以上7項目以下の場合 生化Ⅰ 93点
2. 8項目又は9項目の場合 生化Ⅰ 99点
3. 10項目以上の場合 生化Ⅰ 106点

生化学的検査

脂質関連検査

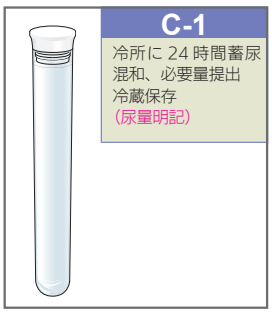
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
625 3F180	アポリポ蛋白 A- Ⅰ (1176)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 119～155 F 126～165 mg/dL	2～4	※ 生化Ⅰ	凍結不可 アポリポ蛋白は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、以下の所定点数を算定する。 イ　1項目の場合31 ロ　2項目の場合62 ハ　3項目以上の場合94
626 3F185	アポリポ蛋白 A- Ⅱ (1177)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 mg/dL	2～4		
627 3F190	アポリポ蛋白 B (1178)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 73～109 F 66～101 mg/dL	2～4		
628 3F195	アポリポ蛋白 C- Ⅱ (1179)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 mg/dL	2～4		
629 3F200	アポリポ蛋白 C- Ⅲ (1180)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 5.8～10.0 F 5.4～9.0 mg/dL	2～4		
630 3F205	アポリポ蛋白 E (1181)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 mg/dL	2～4		
1010 3F156	リポ蛋白 (a) (LP (a)) (4378)	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	TIA 法	(参考値) 30.0 以下 mg/dL	2～4	107 生化Ⅰ	凍結不可 3月に1回を限度として算定できる。
72 3F110	総胆汁酸 (TBA) (1165)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	10.0 以下 μmol/L	2～4	47 生化Ⅰ	※1

※1　肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、コレステロール分画に準じて算定する。但し、胆汁酸を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。尿中硫酸抱合型胆汁酸と同時算定不可。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

A1-2
血清分離
冷蔵保存
(凍結不可)



C-1
冷所に 24 時間蓄尿
混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

生化学的検査

蛋白・含窒素成分関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
36 3C025	尿素窒素 (UN) (1005)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	ウレアーゼ・GLDH（アンモニア消去）法	8～22 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急（対象：血清）
524 3C025	(1201)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	ウレアーゼ・GLDH（アンモニア消去）法	6.5～13.0 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。 （報告単位：mg/dL）
37 3C015	クレアチニン (1006)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急（対象：血清）
525 3C015	(1202)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	酵素法	0.5～1.5 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。 （報告単位：mg/dL）
2454 3C016	シスタチンC (1962)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 0.63～0.95 F 0.56～0.87 mg/L	2～4	109 生化Ⅰ	※1
57 3C010	クレアチン (1007)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	0.17～1.00 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
526 3C010	(1203)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	酵素法	0.15 以下 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。 （報告単位：mg/dL）
34 3C020	尿酸 (UA) (1008)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	M 3.7～7.0 F 2.5～7.0 ※2 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
523 3C020	(1204)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	0.4～1.2 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。 （報告単位：mg/dL）

※1　尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。但し、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイド」における高尿酸血症の定義に基づいております。

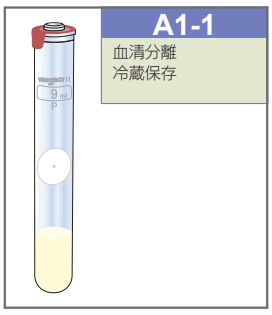
実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
蛋白・含窒素成分関連検査								
75 3C040	アンモニア (NH_3) (1092)	全血 **1.0** ↓ 除蛋白 上清 **3.0**	**M** ↓ **G-1** 凍結	酵素サイクリング法	12～66 μg/dL	1 ～ 2	50 生化Ⅰ	緊急 真空採血厳禁
色　素								
51 3J010	総ビリルビン (T-Bil) (1023)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	バナジン酸酸化法	0.2～1.1 mg/dL	1 ～ 2	11 生化Ⅰ	
52 3J015	直接ビリルビン (D-Bil) (1024)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	バナジン酸酸化法	0.4 以下 mg/dL	1 ～ 2	11 生化Ⅰ	
172 5C041	ハプトグロビン (型判定含む) (4058)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	ネフェロメトリー法	1-1 型　83～209 2-1 型　66～218 2-2 型　25～176 mg/dL	4 ～ 10	129 免疫	＊4
1118 5C040	ハプトグロビン (型判定なし) (4026)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	19～170 mg/dL	2 ～ 4	129 免疫	
5070 3J040	コプロポルフィリン定量 (5070)	全血 **1.5**	**F-5** 遮光 冷蔵	HPLC 変法	(赤血球) 1 以下 μg/dL RBC	8 ～ 14	210 生化Ⅰ	凍結不可 ＊E



A1-1
血清分離
冷蔵保存

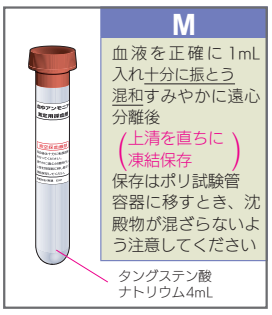


F-5
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

ヘパリン5mL用
又は10mL用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



M
血液を正確に 1mL 入れ十分に振とう
混和すみやかに遠心分離後
(上清を直ちに凍結保存)
保存はポリ試験管容器に移すとき、沈殿物が混ざらないよう注意してください

タングステン酸
ナトリウム4mL

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
色素								
2611 3J055	プロトポルフィリン定量（血中） (5894)	全血 **1.0**	**F-5** 遮光 冷蔵	HPLC 法	（赤血球）30～86 μg/dL RBC	5～12	272 生化Ⅰ	凍結不可 17頁参照 ＊4
酵素								
9 3B035	AST （アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）（GOT） (1029)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	10～40 U/L	1～2	17 生化Ⅰ	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
10 3B045	ALT （アラニンアミノトランスフェラーゼ）（GPT） (1030)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	5～45 U/L	1～2	17 生化Ⅰ	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
1765 3B070	ALP／IFCC （アルカリホスファターゼ） (1694)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	IFCC 標準化対応法	38～113 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	
1766 3B050	LD／IFCC （乳酸脱水素酵素） (1766)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	IFCC 標準化対応法	115～245 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 凍結不可 溶血血清は高値を示す場合があります。
13 3B110	コリンエステラーゼ （ChE） (1036)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (5日)	JSCC 標準化対応法 （基質：BZTC）	M 235～494 F 196～452 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	
14 3B090	γ-GT （γ-グルタミルトランスペプチダーゼ） (1038)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法	M 75以下 F 45以下 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	

実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

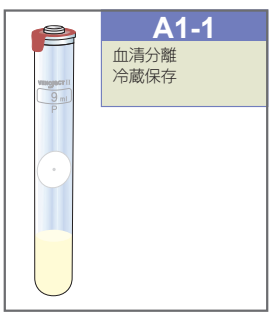
生化学的検査

酵　素

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
15 3B135	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ) (1034)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	L- ロイシル -P- ニトロアニリド基質法	30～70 U/L	1～2	11 生化 I	
165 3B100	アルドラーゼ (ALD) (1039)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (5日)	UV 法	1.2～7.6 U/L	1～2	11 生化 I	
16 3B010	CK (クレアチンキナーゼ) (1040)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	JSCC 標準化対応法	M 50～250 F 45～210 U/L	1～2	11 生化 I	
1150 3B015	CK-MB (1117)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	0.6～6.3 ng/mL	1～2	90 生化 I	
27 3B160	アミラーゼ (AMY) (1042)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	JSCC 標準化対応法 (G7-CNP 基質)	44～132 U/L	1～2	11 生化 I	緊急 (対象：血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
522 3B160	アミラーゼ (AMY) (1290)	尿 **5.0**	**C-3** 冷蔵	JSCC 標準化対応法 (G7-CNP 基質)	50～500 U/L	1～2	11 生化 I	
1005 3B175	膵アミラーゼ (P-AMY) (1320)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	Et-G7-PNP 基質免疫阻害法	16～52 U/L	2～4	48 生化 I	アミラーゼアイソザイム
60 3B180	リパーゼ (1043)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	酵素法	13～55 U/L	1～2	24 生化 I	アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
1009 3F160	リポ蛋白リパーゼ (LPL) (1319)	血漿 **0.5**	**F-3** ↓ **G-1** 凍結 注1	ELISA 法	164～284 ng/mL	4～11	219 生化 I	※1 ＊E

注1　(リポ蛋白リパーゼ採血上の注意事項)早朝空腹時にヘパリンを体重1kg当り30単位静注し、15分後に採血してください。

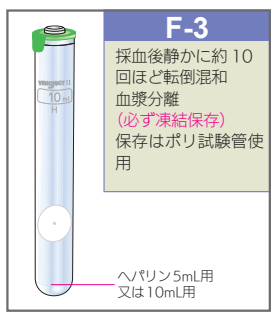
※1　高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。又、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは、薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



F-3
採血後静かに約10回ほど転倒混和
血漿分離
(必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

ヘパリン5mL用
又は10mL用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
酵　素								
245 3B130	アデノシンデアミナーゼ (ADA) (1096)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	10.0～31.0 U/L	1～2	32 生化Ⅰ	
120 3B125	グアナーゼ (GU) (1095)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	1.0 以下 U/L	4～7	35 生化Ⅰ	＊4
244 3B255	リゾチーム (4068)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	比濁法	5.0～10.2 μg/mL	4～7		
542 3B255	リゾチーム (4170)	尿 **0.4**	**C-3** 冷蔵	比濁法	0.1 未満 μg/mL	4～7		＊4
166 3B325	アンギオテンシンⅠ転換酵素 (ACE) (1170)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	笠原法	8.3～21.4 U/L	2～4	136 生化Ⅰ	
646 3B185	トリプシン (1168)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	210～570 ng/mL	2～4	189 生化Ⅰ	緊　急 (対象：血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ1を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。

実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

酵　素

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
1035 3B192	膵ホスホリパーゼ A_2 (PLA_2) (1317)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	RIA・固相法	130～400 ng/dL	4～6	204 生化Ⅰ	動物検体不可 ＊E
1083 3B339	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ (PG Ⅰ・Ⅱ) (4675)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	表1参照	2～4		
2643 3B072	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) (1711)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	M F 3.7～20.9 (閉経前) 2.9～14.5 (閉経後) 3.8～22.6 μg/L	2～4	157 生化Ⅱ	※1
364 5C120	total P1NP (1型プロコラーゲン -N-プロペプチド) (5913)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	M F 18.1～74.1 (閉経前) 16.8～70.1 (閉経後) 26.4～98.2 ng/mL	2～4	160 生化Ⅱ	※1

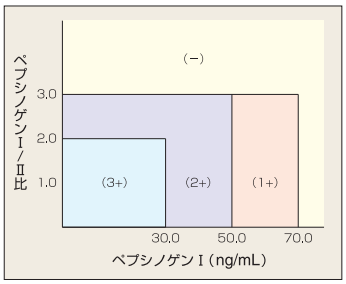
アイソザイム

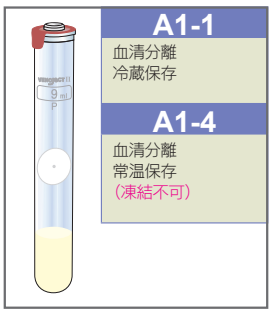
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
102 3B055	LD アイソザイム (1067)	血清 **0.2**	**A1-4** 常温	アガロース電気泳動法	LD_1 20.0～31.0 LD_2 28.8～37.0 LD_3 21.5～27.6 LD_4 6.3～12.4 LD_5 5.4～13.2 %	2～4	48 生化Ⅰ	凍結不可 溶血不可
1710 3B080	ALP アイソザイム (IFCC) (1068)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	アガロース電気泳動法	ALP_1 0.0～5.3 ALP_2 36.6～69.2 ALP_3 25.2～54.2 ALP_5 0.0～18.1 %	2～4	48 生化Ⅰ	

※1　BAP、IntactP1NP、total P1NP のうち 2 項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(表 1) ペプシノゲンⅠ・Ⅱ判定基準

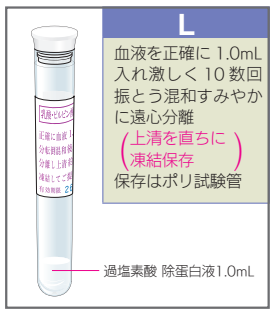
判　定	ペプシノゲンⅠ値及びⅠ／Ⅱ比
(3 +)	30.0ng/mL 以下 且つ 2.0 以下
(2 +)	50.0ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(1 +)	70.0ng/mL 以下 且つ 3.0 以下
(－)	上記条件以外











項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
アイソザイム								
1711 3B165	アミラーゼアイソザイム (1072) (AMY アイソザイム) (1276)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL :15.7～64.0 S-TOTAL :36.0～84.3 % P/S比 :0.19～1.79	2～4	48 生化Ⅰ	ALPアイソザイムと、骨型アルカリホスファターゼ(BAP)と併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
1714 3B165		尿 **0.5**	**C-3** 冷蔵	アガロース 電気泳動法	P-TOTAL :38.7～82.3 S-TOTAL :17.7～61.3 % P/S比 :0.63～4.65	2～4	48 生化Ⅰ	
1712 3B025	CK アイソザイム (1069)	血清 **0.2**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	アガロース 電気泳動法	MM 92.4～100.0 MB 0.0～6.6 BB 0.0～1.9 %	2～4	55 生化Ⅰ	溶血不可
有機酸								
125 3E045	ケトン体分画 《静脈血》 (5177)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	酵素法	アセト酢酸 14～68 3-ヒドロキシ酪酸74以下 総ケトン体 28～120 μmol/L	2～4	59 生化Ⅰ	
1450 3E045	《動脈血》 (5521)	血清 **0.4** (動脈血)	**A1** ↓ **G-1** 凍結	酵素法	アセト酢酸／3-ヒドロキシ酪酸比 0.7 以上	2～4	59 生化Ⅰ	ブドウ糖投与下又は食後(血糖120mg/dL 以上)に動脈採血してください。採血後はすみやかに冷却遠心にて分離し、凍結保存してください。
148 3E010	乳酸 (4060)	全血 **1.0** ↓ 除蛋白 上清 **0.8**	**L** ↓ **G-1** 凍結	酵素法	5.0～20.0 mg/dL	2～4	47 生化Ⅰ	
149 3E015	ピルビン酸 (4061)	全血 **1.0** ↓ 除蛋白 上清 **0.8**	**L** ↓ **G-1** 凍結	酵素法	0.3～0.9 mg/dL	2～4	47 生化Ⅰ	
1033 3D080	ヒアルロン酸 (4024)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	(健常者) 50 以下 ng/mL 肝硬変の判断基準130 ng/mL 以上(50～130 ng/mL の場合、肝の線維化が疑われます)	2～4	179 生化Ⅰ	慢性肝炎の患者に対して慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

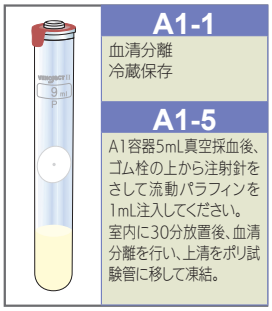
1. 5項目以上7項目以下の場合
   生化Ⅰ 93点
2. 8項目又は9項目の場合
   生化Ⅰ 99点
3. 10項目以上の場合
   生化Ⅰ 106点

生化学的検査

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
38 3H010	ナトリウム (Na) (1044)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	135～147 mEq/L	1～2	(11) 生化Ⅰ	緊急 (対象:ナトリウム血清) ナトリウム及びクロールは同時算定不可 ナトリウム、クロール共に随時尿でのご依頼も可能です。(報告単位:mEq/L)
527 3H010	(1205)	蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.6～5.8 g/day	1～2	(11) 生化Ⅰ	
40 3H020	クロール (Cl) (1046)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	98～108 mEq/L	1～2	(11) 生化Ⅰ	
529 3H020	(1207)	蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	2.5～8.9 g/day	1～2	(11) 生化Ⅰ	
39 3H015	カリウム (K) (1045)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	3.6～5.0 mEq/L	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 (対象:血清) 全血で放置した場合、変動します。
528 3H015	(1206)	蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.0～3.9 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。(報告単位:mEq/L)
41 3H030	カルシウム (Ca) (1047)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	アルセナゾⅢ法	8.6～10.1 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 (対象:カルシウム血清) イオン化カルシウムとカルシウムは同時算定不可
530 3H030	(1208)	蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	アルセナゾⅢ法	0.1～0.3 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。(報告単位:mg/dL)
7539 3H035	イオン化カルシウム (5123)	血清 0.9	A1-5 ↓ G-1 冷蔵	イオン電極法	2.25～2.50 mEq/L	4～6	26 生化Ⅰ	動物検体不可 ※1 ＊E

※1　流動パラフィンによる封入処理を行わないと、pH がアルカリ側に傾きイオン化カルシウム値が減少する。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

A1-5
A1容器5mL真空採血後、ゴム栓の上から注射針をさして流動パラフィンを1mL注入してください。
室内に30分放置後、血清分離を行い、上清をポリ試験管に移して凍結。



C-1
冷所に 24 時間蓄尿
混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
43 3H025	マグネシウム (Mg) (1048)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	キシリジルブルー比色法	1.8～2.6 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
577 3H025	(1209)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	キシリジルブルー比色法	0.02～0.13 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。(報告単位：mg/dL)
42 3H040	無機リン (IP) (1049)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (5日)	モリブデン酸直接法	2.5～4.6 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	
578 3H040	(1210)	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	モリブデン酸直接法	0.5～1.0 g/day	1～2	17 生化Ⅰ	随時尿でのご依頼も可能です。(報告単位：mg/dL)
45 3I010	鉄 (Fe) (1051)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	直接比色法	M 45～200 F 40～170 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
584 3I010	(1274)	尿 **5.0**	**C-3** 冷蔵	原子吸光法	50～160 μg/L	5～13	11 生化Ⅰ	＊E
46 3I015	総鉄結合能 (TIBC) (1088)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	直接比色法／ニトロソ PSAP 法(計算法)	M 245～385 F 265～430 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	※1
47 3I020	不飽和鉄結合能 (UIBC) (1089)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ニトロソ PSAP 法	M 110～300 F 135～350 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	

※1　総鉄結合能（TIBC）（比色法）と不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）又は総鉄結合能（TIBC）（比色法）の所定点数を算定する。

実施料について(生化Ⅰ)

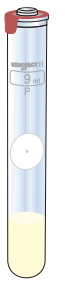
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

電解質・金属

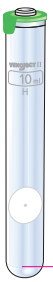
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
44 3I025	銅 (Cu) (1050)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	直接法 (3.5-DiBr-PAESA)	M 80～130 F 100～150 μg/dL	1～2	23 生化 I	
585 3I025	(1273)	尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	36 以下 μg/L	5～13	23 生化 I	*E
660 3K105	アルミニウム (Al) (1162)	全血 2.0	ソ 冷蔵	原子吸光法	1.0 以下 μg/dL	3～6	109 生化 I	
160 3I030	亜鉛 (Zn) (1163)	血清 0.5	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	原子吸光法	80～130 μg/dL	2～4	132 生化 I	ゴム栓不可
583 3I030	(1185)	尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50～1000 μg/L	2～4	132 生化 I	
231 3K110	鉛 (Pb) (5059)	全血 1.0	F-5 冷蔵	原子吸光法	μg/dL	3～6		凍結不可
1170 3K110	(5291)	尿 2.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	20 以下 μg/L	3～7		
5062 3K120	カドミウム (Cd) (5062)	全血 1.0	F-5 冷蔵	ICP-MS 法	0.5 以下 μg/dL	5～10		凍結不可 *1
2304 3K120	(5295)	尿 1.0	C-3 冷蔵	ICP-MS 法	3.8 以下 μg/L	5～13		*1



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



F-5
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

ヘパリン5mL用
又は10mL用



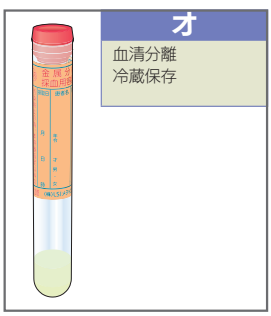
G-2
血清又は血漿分離
冷蔵保存
(ゴム栓不可)
ポリ試験管使用



ソ
2mL 採血
そのまま冷蔵保存
(ガラス器具は絶対使用しないでください)

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1440 3K115	クロム (Cr) (5109)	全血 2.0	F-5 冷蔵	原子吸光分光光度法	1.0 以下 μg/dL	7〜14		凍結不可 ＊E
1178 3K115	(5110)	尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光分光光度法	2 以下 μg/L	7〜14		＊E
613 3K150	水銀 (Hg) (5061)	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	5 以下 μg/dL	6〜13		凍結不可 ＊1
1274 3K150	(5293)	尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	25 以下 μg/L	6〜13		＊1
1029 3K125	マンガン (Mn) (5060)	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	0.4〜2.0 μg/dL	6〜13	27 生化Ⅰ	凍結不可 1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。 ＊1
5292 3K125	(5292)	尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	2.0 未満 μg/L	6〜13	27 生化Ⅰ	
5293 3K130	ニッケル (Ni) (5374)	血清 0.5	オ 冷蔵	原子吸光法	0.6 以下 μg/dL	7〜14		＊1



オ
血清分離
冷蔵保存

実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

産業医学関連

項目コード 統一コード	検査項目（グループコード）	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1172 1174 1176 3K010	総三塩化物（TTC） (5125)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC 法	mg/L	3〜6		
1171 1173 1175 3K015	三塩化（トリクロル）酢酸（TCA） (5244)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC 法	mg/L	3〜6		
559 3K040	マンデル酸及びフェニルグリオキシル酸総量（MA 及び PGA 総量） (5444)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3〜5		
571 3K025	馬尿酸（HA） (5082)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3〜5		
572 3K030	メチル馬尿酸（MHA） (5083)	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC 法	g/L	3〜5		防腐剤使用不可
573 3J075	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA） (5067)	尿 1.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	mg/L	3〜6		
1168 3K045	N-メチルホルムアミド (5443)	尿 3.0	I-1 冷蔵 注2	GC 法	mg/L	3〜8		
1169 3K050	2,5-ヘキサンジオン（2,5-HD） (5445)	尿 5.0	I-1 冷蔵 注2	GC 法	mg/L	3〜8		

注1　週末の作業終了後に採尿してください。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにしてください。
注2　連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿してください。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採尿するようにしてください。

特殊健康診断の検査分布（改正省令による）

鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）
有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）より

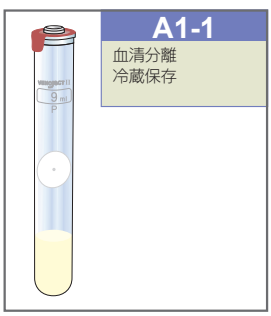
項目コード	有機溶剤の名称	検査内容	単位	分布 1	分布 2		分布 3	㊟
572	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超	Ns
1168	N・N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	
559	スチレン	マンデル酸	g/L	100以下	100超	250以下	250超	Ns
1171	テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	1.0以下	1.0超	2.5以下	2.5超	Ns
1172		総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
1173	1・1・1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
1174		総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	Ns
1175	トリクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超	Ns
1176		総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超	Ns
571	トルエン	馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超	B.Ns
1169	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超	Ns
231	（鉛業務）	鉛（血中）	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	B
573		δ-ALA	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	
2611		プロトポルフィリン定量（血中）	μg/dLRBC	100以下	100超	250以下	250超	B

㊟　B ；測定対象物質は通常職業性の曝露を受けない人の試料にも明らかに存在しています。
Ns；非特異的な測定対象物質。そのため他の化学物質の曝露後でも検出されます。したがって特異的検査よりも曝露の相関が高く、有効利用できます。



I-1
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
（遮光保存）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
産業医学関連								
1140 3Z040	エタノール (5124)	全血 **1.0**	**F-1** 凍結	GC 法	0.1 未満 mg/mL	7～10	105 生化 I	＊4
ビタミン関連検査								
608 3G015	ビタミン A (レチノール) (5105)	血清 **0.4**	**A1-1** 遮光 冷蔵	HPLC 法	97 ～ 316 IU/dL	4～9		＊4
618 5C030	レチノール結合蛋白 (RBP) (5317)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 2.7 ～ 6.0 F 1.9 ～ 4.6 mg/dL	4～6	129 免疫	＊1
609 3G025	ビタミン B_1 (チアミン) (5055)	全血 **0.5**	**S** 凍結	HPLC 蛍光法	30 ～ 70 ng/mL	3～5	239 生化 I	
610 3G030	ビタミン B_2 (リボフラビン) (5077)	全血 **0.5**	**S** 遮光 凍結	HPLC 蛍光法	70.4 ～ 123.7 ng/mL	3～6	231 生化 I	
611 3G036	ビタミン B_6 (5298)	血清 **0.5**	**A1-1** 遮光 冷蔵	HPLC 法	PAM 0.6 以下 PAL M 6.0 ～ 40.0 F 4.0 ～ 19.0 PIN 3.0 以下 ng/mL	4～8		＊4
209 3G040	ビタミン B_{12} (5056)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	CLEIA 法	180 ～ 914 pg/mL	1～2	136 生化 I	過剰な露光は、ビタミン B_{12}の値を変化させることがあります。
241 3G105	葉酸 (5057)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	CLEIA 法	3.1 ～ 19.9 ng/mL	1～2	146 生化 I	溶血の場合は高値となりますのでご注意ください。
615 3G060	ビタミン C (アスコルビン酸) (5106)	血清 **0.5** ↓ 除蛋白 上清 **0.5**	**Z** ↓ **G-1** 遮光 凍結	HPLC 法	5.5 ～ 16.8 μg/mL	5～9	296 生化 I	＊4



A1-1
血清分離
冷蔵保存

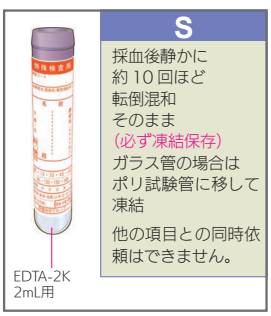


F-1
採血後静かに約 10 回ほど
転倒混和そのまま
(必ず凍結保存)
(溶血してもよい)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結

ヘパリン5mL用
又は10mL用

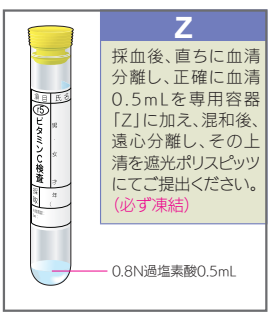


G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



S
採血後静かに
約 10 回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依頼はできません。

EDTA-2K
2mL用



Z
採血後、直ちに血清分離し、正確に血清 0.5mLを専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光ポリスピッツにてご提出ください。
(必ず凍結)

0.8N過塩素酸0.5mL

生化学的検査

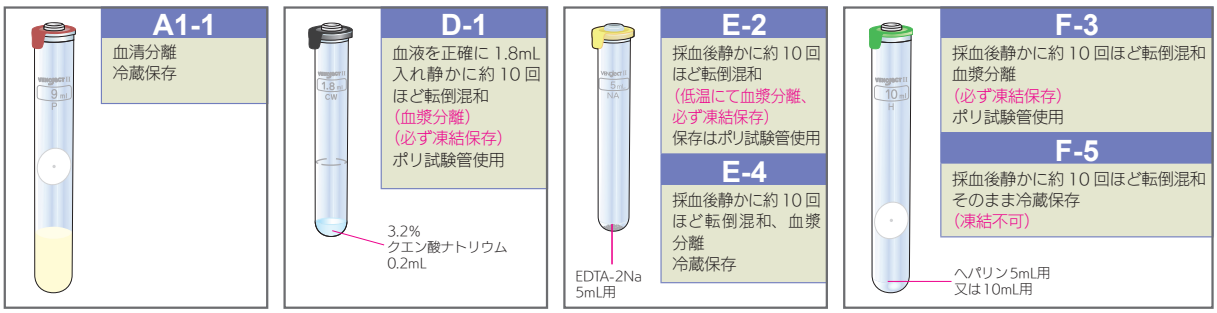
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
ビタミン関連検査								
5103 3G065	25OH ビタミン D〔CLEIA〕 (5103)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	ビタミンD充足状態 30.0以上 ビタミンD不足 20.0～29.9 ビタミンD欠乏 20.0未満 ng/mL	2～4	117 生化 I	※1
616 3G070	1α-25-(OH)$_2$ビタミン D (1,25- ジヒドロキシビタミン D3) (5316)	血清 **1.0**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	RIA・2 抗体法	20～60 pg/mL	5～9	388 生化 I	動物検体不可 ※2 ＊E
617 3G080	ビタミン E (トコフェロール) (5104)	血清 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 遮光 凍結	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	6～12		＊7
2508 3G090	ビタミン K 分画 (5754)	血漿 **2.0**	**D-1** ↓ **G-1** 遮光 凍結	HPLC 法	K_1 0.15～1.25 K_2 0.10 以下 ng/mL	4～12		＊4
2707 3G055	カルニチン (5701)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	1～2	95+95 生化 I	総カルニチン ：95 遊離カルニチン：95 ※3、※4
2502 3G110	ニコチン酸 (ナイアシン) (5107)	全血 **1.5**	**F-5** 冷蔵	Bioassay	4.7～7.9 μg/mL	8～16		＊4
特殊分析検査								
2601 3F095	脂肪酸 4 分画 (5360)	血清 **0.5** 又は 血漿 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 凍結 **F-3** ↓ **G-1** 凍結	GC 法	DHLA： 10.9～ 43.5 AA ： 85.1～207.8 EPA ： 11.6～107.2 DHA ： 48.6～152.4 μg/mL EPA/AA 比 ： 0.09～0.75	3～6	389 生化 II	

※1 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にした場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

※2 慢性腎不全、特発性及び偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型、低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。なお、活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度とする。

※3 先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に1回を限度として算定する。

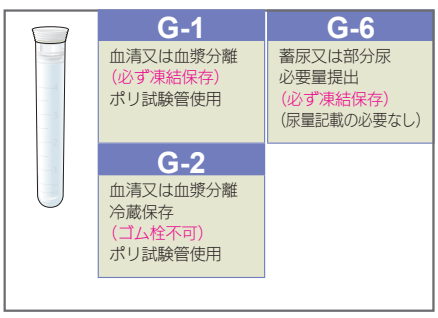
※4 静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために実施する場合は、6月に1回を限度として算定する。



生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
特殊分析検査								
1018 3Z065	結石分析 (5119)	**10**mg 以上	**X-4** 常温	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	% 7～9	7～9	117 生化Ⅱ	サンプルは乾燥させてご提出ください。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。 ＊4
142 3F095	全脂質脂肪酸分画 (5173)	血清 **0.8**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	LC-MS/MS 法	次頁表 1 参照 15～24	15～24	389 生化Ⅱ	＊1
5072 3C070	総ホモシステイン (5072)	血漿 **0.4**	**E-4** ↓ **G-2** 冷蔵	HPLC 法	M 6.3～18.9 F 5.1～11.7 nmol/mL 6～14	6～14	279 生化Ⅱ	＊E
7287 3C045 **7288** 3C045	アミノ酸分析定量 (5539) (5540)	血漿 **0.9** 尿 **3.0**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結 **G-6** 凍結	HPLC 法	次頁表 2 参照 6～13	6～13	1074 生化Ⅱ	＊E
2637 3C047	BTR (総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比) (5460)	血清 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	酵素法	BCAA 344～713 チロシン 51～98 μmol/L BCAA/Tyr 4.41～10.05 4～6	4～6	283 生化Ⅱ	＊1
7549 5C141	M2BPGi (MAC2 結合蛋白糖鎖修飾異性体) (5566)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	0.84 未満 AU/mL 2～7	2～7	194 生化Ⅰ	※1、※2

※1　慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。
※2　Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7S、プロコラーゲン－Ⅲ－ペプチド（P－Ⅲ－P）と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。





実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　106点

生化学的検査

(表 1) 全脂質脂肪酸分画基準値一覧表

分画成分名	略 号	基準値		分画成分名	略 号	基準値	
		濃度(μg/mL)	成分比(weight %)			濃度(μg/mL)	成分比(weight %)
ラウリン酸	C12：0	4.2以下	0.16以下	5-8-11 エイコサトリエン酸	C20：3ω9	1.2～5.4	0.17以下
ミリスチン酸	C14：0	8.2～40	0.33～1.17	ジホモ-γ-リノレン酸	C20：3ω6	23～72	0.92～2.24
ミリストレイン酸	C14：1ω5	3.4以下	0.10以下	アラキドン酸	C20：4ω6	142～307	4.86～9.42
パルミチン酸	C16：0	451～898	18.38～22.80	エイコサペンタエン酸	C20：5ω3	12～112	0.36～3.42
パルミトレイン酸	C16：1ω7	25～112	0.90～3.05	ベヘニン酸	C22：0	1.3～2.6	0.08以下
ステアリン酸	C18：0	164～306	6.30～9.10	エルシン酸	C22：1ω9	1.4以下	0.04以下
オレイン酸	C18：1ω9	432～1069	17.53～26.82	ドコサテトラエン酸	C22：4ω6	2.9～7.6	0.11～0.23
リノール酸	C18：2ω6	697～1280	25.30～37.02	ドコサペンタエン酸	C22：5ω3	26～60	0.98～1.79
γ-リノレン酸	C18：3ω6	3.6～22	0.14～0.71	リグノセリン酸	C24：0	1.6～2.9	0.09以下
リノレン酸	C18：3ω3	10～41	0.31～1.06	ドコサヘキサエン酸	C22：6ω3	51～185	1.69～5.55
アラキジン 酸	C20：0	1.2～2.7	0.07以下	ネルボン酸	C24：1ω9	2.1～4.0	0.13以下
エイコセン酸	C20：1ω9	3.2～8.2	0.12～0.23	T/T比(C20：3ω9/C20：4ω6)		0.02以下*	—
エイコサジエン酸	C20：2ω6	3.6～10	0.17～0.29	EPA/AA比(C20：5ω3/C20：4ω6)		0.06～0.44*	—

＊単位なし

(表 2) アミノ酸分析基準値一覧表

アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基 準 値		アミノ酸名(英語)	アミノ酸名(日本語)	基 準 値	
		血漿 (単位:nmol/mL)	尿 (単位: μmol/g･Cr)			血漿 (単位:nmol/mL)	尿 (単位: μmol/g･Cr)
Taurine	タウリン	46.4～128.2	280～2000	Isoleucine	イソロイシン	37.0～100.4	13～46
Phosphoethanolamine	ホスホエタノールアミン	TRA	7～70	Leucine	ロイシン	74.2～169.1	24～77
Aspartic acid	アスパラギン酸	TRA～7.2	TRA～12	Tyrosine	チロシン	38.4～89.4	49～230
Hydroxyproline	ヒドロキシプロリン	TRA～18.8	ND	Phenylalanine	フェニルアラニン	43.5～79.8	27～96
Threonine	トレオニン	74.2～216.1	70～390	β-Alanine	β-アラニン	TRA～11.8	2～110
Serine	セリン	91.5～186.4	120～630	β-Amino-iso-butyric acid	β-アミノイソ酪酸	5.9以下	TRA～830
Asparagine	アスパラギン	43.8～90.6	51～300	Homocystine	ホモシスチン	ND	ND
Glutamic acid	グルタミン酸	12.2～82.7	3～29	γ-Amino-n-butyric acid	γ-アミノ-n-酪酸	ND	ND
Glutamine	グルタミン	418.0～739.8	150～810	Ethanolamine	エタノールアミン	TRA～10.5	190～530
Sarcosine	サルコシン	TRA	ND	Hydroxylysine	ヒドロキシリジン	ND	8以下
α-Aminoadipic acid	α-アミノアジピン酸	ND	5～52	Ornithine	オルニチン	42.6～141.2	TRA～35
Proline	プロリン	71.3～373.0	ND	Tryptophan	トリプトファン	36.2～79.3	22～110
Glycine	グリシン	140.4～427.3	380～3600	Lysine	リジン	125.7～281.9	78～800
Alanine	アラニン	258.8～615.2	89～560	1-Methylhistidine	1-メチルヒスチジン	9.1以下	25～2400
Citrulline	シトルリン	17.9～48.0	2～41	Histidine	ヒスチジン	63.0～105.2	400～2000
α-Amino-n-butyric acid	α-アミノ-n-酪酸	8.1～31.0	3～21	3-Methylhistidine	3-メチルヒスチジン	TRA～8.2	110～340
Valine	バリン	156.2～360.4	23～66	Anserine	アンセリン	ND	ND
Cystine	シスチン	4.7～34.8	13～76	Carnosine	カルノシン	ND	4～74
Methionine	メチオニン	15.5～38.6	11～58	Arginine	アルギニン	31.8～149.5	8～71
Cystathionine	シスタチオニン	ND	6～37	Fischer's ratio	フィッシャー比	2.2～4.3	――

(備考) ND：検出感度以下　　TRA：痕跡

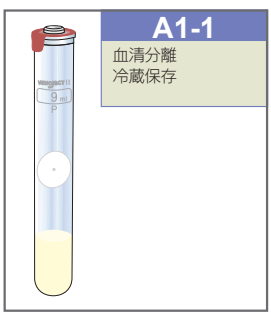
$$\text{フィッシャー比} = \frac{\text{分岐鎖アミノ酸 (BCAA)}}{\text{芳香族アミノ酸 (AAA)}} = \frac{\text{Val + Leu + Ile}}{\text{Phe + Tyr}}$$

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
特殊分析検査								
1392 5C210	KL-6 (1710)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集法	500 未満 U/mL	1〜2	108 生化 I	
2732 3F250	SP-A (肺サーファクタントプロテイン A) (1708)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	43.8 未満 ng/mL	4〜7	130 生化 I	SP-A (肺サーファクタントプロテインA) KL-6及びSP-D (肺サーファクタントプロテインD) のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。 ＊1
1393 3F253	SP-D (肺サーファクタントプロテイン -D) (1709)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	110 未満 ng/mL	2〜4	136 生化 I	
クリアランステスト								
292 8A020	クレアチニンクリアランス (1063)	血清 **0.4** 及び 尿 **5.0** (同時提出)	**A1-1** 及び **C-5** 冷蔵	酵素法	90 以上 mL/min	1〜2		23頁参照
293 8A025	クレアチニンクリアランス (24 時間内因性) (1064)	血清 **0.4** 及び 蓄尿 **5.0** (同時提出)	**A1-1** 及び **C-5** 冷蔵	酵素法	130 以上 ※1　L/day	1〜2		23頁参照
1271 8A040	尿酸クリアランス (1942)	血清 **0.4** 及び 尿 **5.0** (同時提出)	**A1-1** 及び **C-5** 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	mL/min	1〜2		23頁参照
4447 8A065	eGFRcreat (1152)			計算法	23 頁参照 mL/min/1.73m^2	1〜2		血清クレアチニンを用いた推算GFRです。 ※2
4401 8A066	eGFRcys (1155)			計算法	23 頁参照 mL/min/1.73m^2	2〜4		血清シスタチンCを用いた推算GFRです。 ※3

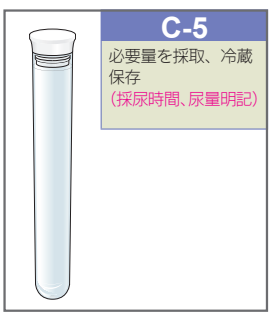
※1　単位の変換式：Y (mL / min) ＝X (L/day) ×1000÷1440

※2　血清クレアチニン (項目コード：37) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18 才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※3　血清シスタチンC (項目コード：2454) との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18 才未満の場合、シスタチンC の依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-5
必要量を採取、冷蔵保存
(採尿時間、尿量明記)

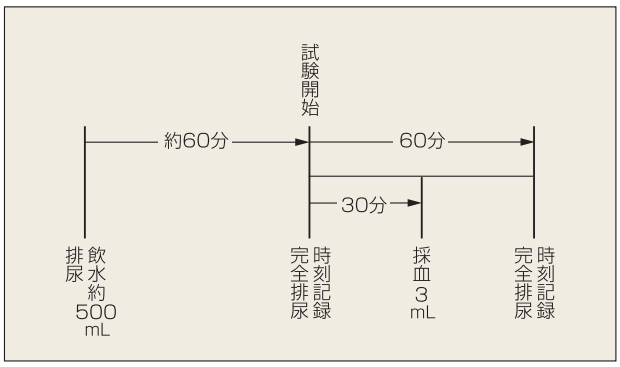
生化学的検査

クリアランステスト検体採取方法

クレアチニンクリアランス、尿酸クリアランス

（1）朝、身長・体重を測定記録し、依頼書に記載する。
（2）完全排尿させて捨てる。
（3）排尿後、温湯約 500mL を飲ませる。
（4）飲水後、約 60 分に完全に排尿させて排尿終了の時刻を 1 分以内の正確さで記録する。（試験開始）
（5）開始後 30 分後に 3mL 採血、血清分離、4 ～ 6℃に保存。
（6）開始 60 分後に完全排尿、排尿終了時刻及び尿量を正確に記録する。（約 5mL 保存）
（7）（5）の血清、（6）の尿 5mL、身長・体重を記載の上提出する。

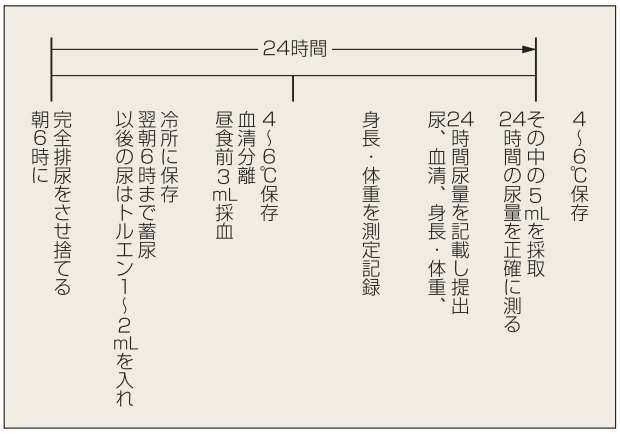
a　誤差の原因は不完全な排尿によるので、排尿時に充分な注意が必要である。
b　浮腫のある人は正常時の体重を記入してください。
c　正確を期待する場合は開始 1 時間半後　第 2 回目の採血、2 時間後　第 2 回目の採尿を行い（5）以下の重複試験を実施、平均値を取る。
d　一回試験でも正確に実施すれば大きな誤差は生じない。



クレアチニンクリアランス（24 時間内因性）

（1）朝 6 時に完全排尿させて捨てる。
（2）以後の尿は翌朝 6 時までに冷所に蓄尿する。蓄尿ビンには予め防腐剤としてトルエン 1 ～ 2mL を入れ、冷所に保存する。（時間を正確に）
（3）24 時間の尿量を正確に測る。その中の 5mL を採取、4 ～ 6℃保存。
（4）採血は昼食前に 3mL 採血。血清分離、4 ～ 6℃保存。
（5）身長・体重を測定記録する。
（6）（3）の尿、（4）の血清、身長・体重、24 時間尿量を記載して提出する。

a　腎障害が著しく患者に水分負担ができない時。
b　尿量による誤差が無視できる。
c　患者の日常生活のまま実施できる等の利点がある。



●推算 GFR 参考資料

1）血清クレアチニン、及び血清シスタチン C を用いた日本人の GFR 推算式

男性
$eGFRcreat(mL/分/1.73m^2)=194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287}$
$eGFRcys(mL/分/1.73m^2)=(104 \times Cys\text{-}C^{-1.019} \times 0.996^{年齢}) - 8$

女性
$eGFRcreat(mL/分/1.73m^2)=194 \times Cr^{-1.094} \times 年齢^{-0.287} \times 0.739$
$eGFRcys(mL/分/1.73m^2)=(104 \times Cys\text{-}C^{-1.019} \times 0.996^{年齢} \times 0.929) - 8$

2）CKD の重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量（mg/ 日） 尿アルブミン /Cr 比（mg/gCr）		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30 未満	30 ～ 299	300 以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他		尿蛋白定量（g/ 日） 尿蛋白 /Cr 比（g/gCr）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15 未満	0.15 ～ 0.49	0.50 以上
GFR 区分（mL/ 分 / 1.73 m²）	G1	正常または高値	≧ 90			
	G2	正常または軽度低下	60 ～ 89			
	G3a	軽度～中等度低下	45 ～ 59			
	G3b	中等度～高度低下	30 ～ 44			
	G4	高度低下	15 ～ 29			
	G5	末期腎不全（ESKD）	＜ 15			

重症度は原疾患・GFR 区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKD の重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑のステージを基準に、黄、オレンジ、赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。（KDIGO CKD guideline 2012 を日本人用に改変）

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
下垂体関連検査								
184 4A010	成長ホルモン (GH) (5002)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	M　2.47 以下 F　0.13 ～ 9.88 ng/mL	2～4	104 生化Ⅱ	
1030 4A015	ソマトメジン C (IGF-1) (5468)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	表 1 参照 ng/mL	2～4	212 生化Ⅱ	

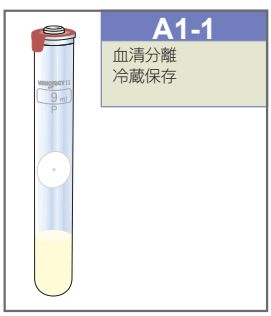
(表 1) ソマトメジン C (IGF-1) 基準値

《男　性》　(単位：ng/mL)

年　齢	−2SD～+2SD	年　齢	−2SD～+2SD	年　齢	−2SD～+2SD
0	11 ～ 149	26	119 ～ 329	52	86 ～ 242
1	14 ～ 148	27	116 ～ 322	53	85 ～ 240
2	18 ～ 154	28	114 ～ 315	54	84 ～ 239
3	24 ～ 164	29	111 ～ 309	55	84 ～ 238
4	32 ～ 176	30	109 ～ 303	56	83 ～ 237
5	44 ～ 193	31	107 ～ 297	57	82 ～ 236
6	55 ～ 215	32	105 ～ 292	58	81 ～ 235
7	63 ～ 247	33	103 ～ 287	59	80 ～ 233
8	72 ～ 292	34	102 ～ 283	60	79 ～ 232
9	84 ～ 350	35	100 ～ 279	61	77 ～ 230
10	99 ～ 423	36	99 ～ 275	62	76 ～ 228
11	113 ～ 499	37	97 ～ 272	63	75 ～ 226
12	125 ～ 557	38	96 ～ 269	64	73 ～ 224
13	133 ～ 579	39	95 ～ 266	65	72 ～ 221
14	138 ～ 570	40	94 ～ 263	66	70 ～ 219
15	141 ～ 552	41	94 ～ 261	67	68 ～ 216
16	142 ～ 543	42	93 ～ 259	68	66 ～ 213
17	142 ～ 540	43	92 ～ 257	69	65 ～ 209
18	142 ～ 526	44	92 ～ 255	70	63 ～ 206
19	143 ～ 501	45	91 ～ 253	71	61 ～ 202
20	142 ～ 470	46	90 ～ 250	72	58 ～ 198
21	139 ～ 436	47	90 ～ 250	73	56 ～ 194
22	135 ～ 405	48	89 ～ 248	74	54 ～ 190
23	131 ～ 379	49	88 ～ 246	75	52 ～ 185
24	128 ～ 356	50	87 ～ 245	76	50 ～ 181
25	125 ～ 337	51	87 ～ 243	77	48 ～ 177

《女　性》　(単位：ng/mL)

年　齢	−2SD～+2SD	年　齢	−2SD～+2SD	年　齢	−2SD～+2SD
0	15 ～ 154	26	146 ～ 336	52	78 ～ 213
1	23 ～ 186	27	141 ～ 328	53	77 ～ 212
2	32 ～ 213	28	137 ～ 320	54	76 ～ 211
3	40 ～ 227	29	133 ～ 312	55	75 ～ 210
4	48 ～ 238	30	129 ～ 304	56	74 ～ 208
5	56 ～ 252	31	126 ～ 297	57	73 ～ 207
6	69 ～ 287	32	122 ～ 290	58	72 ～ 205
7	89 ～ 357	33	119 ～ 283	59	71 ～ 203
8	111 ～ 438	34	115 ～ 277	60	70 ～ 201
9	133 ～ 517	35	112 ～ 271	61	69 ～ 198
10	155 ～ 588	36	109 ～ 265	62	68 ～ 196
11	175 ～ 638	37	106 ～ 260	63	66 ～ 194
12	188 ～ 654	38	103 ～ 254	64	65 ～ 191
13	193 ～ 643	39	100 ～ 250	65	64 ～ 188
14	193 ～ 625	40	98 ～ 245	66	62 ～ 186
15	192 ～ 614	41	95 ～ 240	67	61 ～ 183
16	192 ～ 611	42	93 ～ 236	68	60 ～ 180
17	191 ～ 599	43	90 ～ 233	69	59 ～ 177
18	188 ～ 574	44	88 ～ 229	70	57 ～ 175
19	182 ～ 539	45	87 ～ 226	71	56 ～ 172
20	175 ～ 499	46	85 ～ 224	72	55 ～ 170
21	168 ～ 459	47	83 ～ 221	73	54 ～ 167
22	161 ～ 425	48	82 ～ 219	74	53 ～ 165
23	155 ～ 397	49	81 ～ 218	75	52 ～ 163
24	151 ～ 375	50	80 ～ 216	76	50 ～ 160
25	147 ～ 358	51	79 ～ 215	77	49 ～ 158



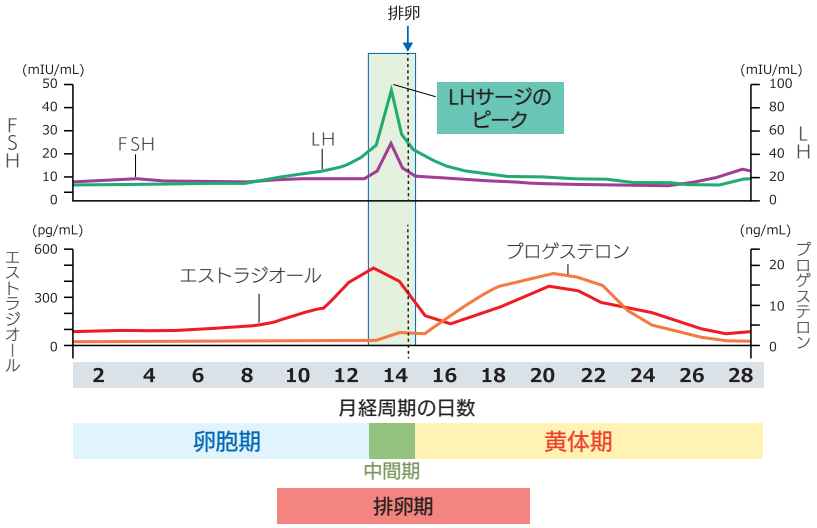
内分泌学的検査

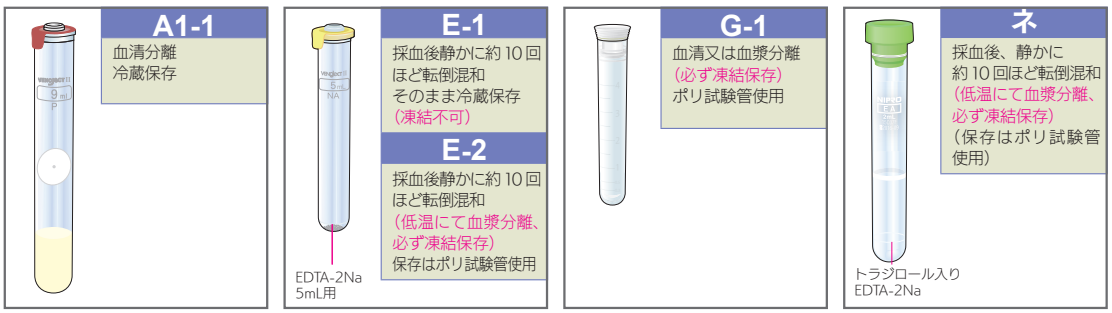
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
下垂体関連検査								
90 4A055	甲状腺刺激ホルモン (TSH) (5001)	血清 **0.6**	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.350 ～ 4.940 μIU/mL	1 ～ 2	98 生化Ⅱ	
91 4A030	黄体形成ホルモン (LH) (5003)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 1 参照 mIU/mL	1 ～ 2	105 生化Ⅱ	
92 4A035	卵胞刺激ホルモン (FSH) (5004)	血清 **0.6**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	表 1 参照 mIU/mL	1 ～ 2	105 生化Ⅱ	
185 4A025	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) (5005)	血漿 **0.4**	E-2 ↓ G-1 凍結	ECLIA 法	(早朝安静時) 7.2 ～ 63.3 pg/mL	2 ～ 4	184 生化Ⅱ	
93 4A020	プロラクチン (PRL) (5006)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	M 3.46 ～ 19.40 F 5.18 ～ 26.53 ng/mL	1 ～ 2	98 生化Ⅱ	
8590 4A070	AVP (アルギニンバゾプレシン) (5007)	血漿 **1.2**	E-2 ↓ G-1 凍結	RIA 法	水制限 ：4.0 以下 自由飲水：2.8 以下 pg/mL	6 ～ 10	224 生化Ⅱ	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 抗利尿ホルモン(ADH) ＊1

(表 1) LH・FSH 基準値 (単位：mIU/mL)

	LH	FSH
女性卵胞期	1.80 ～ 11.78	3.03 ～ 8.08
中間期ピーク	7.59 ～ 89.08	2.55 ～ 16.69
黄体期	0.56 ～ 14.00	1.38 ～ 5.47
閉経後	5.16 ～ 61.99	26.72 ～ 133.41
男性	0.57 ～ 12.07	0.95 ～ 11.95

LH,FSH 中間期ピーク





内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
甲状腺関連検査								
84 4B010	トリヨードサイロニン (T3) (5010)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.57 ～ 1.52 ng/mL	1 ～ 2	99 生化Ⅱ	
265 4B015	遊離トリヨードサイロニン (F-T3) (5097)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	1.68 ～ 3.67 pg/mL	1 ～ 2	121 生化Ⅱ	
83 4B030	サイロキシン (T4) (5011)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	4.87 ～ 11.72 μg/dL	1 ～ 2	105 生化Ⅱ	
85 4B035	遊離サイロキシン (F-T4) (5086)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA 法	0.70 ～ 1.48 ng/dL	1 ～ 2	121 生化Ⅱ	
5909 4B045	サイロキシン結合グロブリン (TBG) (5036)	血清 **0.5**	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	14 ～ 31 μg/mL	4 ～ 7	130 生化Ⅱ	＊4
150 4B040	サイログロブリン (Tg) (5161)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.68 ～ 64.15 ng/mL	2 ～ 4	128 生化Ⅱ	
副甲状腺関連検査								
191 4C035	カルシトニン (5018)	血清 **0.5**	A1 ↓ G-1 凍結	ECLIA 法	M　5.15 以下 F　3.91 以下 pg/mL	2 ～ 4	127 生化Ⅱ	
190 4C025	副甲状腺ホルモン PTH-Intact (5088)	血漿 **0.4**	E-1 冷蔵	ECLIA 法	10 ～ 65 pg/mL	2 ～ 4	161 生化Ⅱ	血清（凍結）による検査も可能です。但し、急速凝固管のご使用はお避けください。
2736 4C026	副甲状腺ホルモン Whole-PTH (5746)	血漿 **0.5**	E-2 ↓ G-1 凍結	ECLIA 法	14.9 ～ 56.9 pg/mL	3 ～ 8		
4388 4C030	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP) (5884)	血漿 **0.5**	ネ ↓ G-1 凍結	IRMA 法	1.1 以下 pmol/L	7 ～ 14	185 生化Ⅱ	高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定する。 ＊4

実施料について（内分泌）

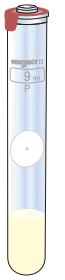
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
膵・消化管関連検査								
151 4G010	インスリン (IRI) (5043)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	(空腹時負荷前) 2.7 ～ 10.4 μU/mL	2～4	100 生化Ⅱ	溶血血清不可
221 4G020	C- ペプチド (CPR) (5046)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	(空腹時負荷前) 0.78 ～ 5.19 ng/mL	2～4	105 生化Ⅱ	急速凝固管のご使用はお避けください。 血中と尿中を同時測定した場合、血液の点数のみ算定する
4019 4G020		蓄尿 **1.0** ※1 (5305)	**G-5** 又は **ナ** 凍結	CLIA 法	23.74 ～ 206.96 μg/day	2～4	105 生化Ⅱ	
5530 4G030	膵グルカゴン (IRG) (5530)	血漿 **0.5**	**ネ** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	(空腹時) 5.4 ～ 55.0 pg/mL	5～9	150 生化Ⅱ	溶血は低値の影響があります。 ＊E
副腎髄質関連検査								
197 4E016	カテコールアミン分画 (5019)	血漿 **1.3**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	HPLC 法	安静時 アドレナリン（A） 100 以下 ノルアドレナリン（NA） 140 ～ 450 ドーパミン（DA） 20 以下 pg/mL	3～5	161 生化Ⅱ	
2201 4E016		髄液 **2.0** (5380)	**X-5** 凍結	HPLC 法	pg/mL	3～5	161 生化Ⅱ	
549 4E016		蓄尿 **2.0** (5213)	**I-3** 凍結	HPLC 法	アドレナリン（A） 3.4 ～ 26.9 ノルアドレナリン（NA） 48.6 ～ 168.4 ドーパミン（DA） 365.0 ～ 961.5 μg/day	3～6	161 生化Ⅱ	

※1　他項目との重複依頼は避けてください。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



E-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

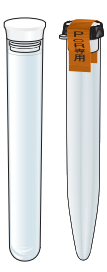


G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)



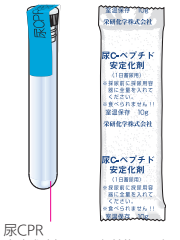
I-3
6N 塩酸 20mL（小児 5 ～ 10mL）を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出
(必ず凍結保存)
(尿量明記)
(市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する (6N 塩酸)



X-5
必要量採取
(必ず凍結保存)

副腎髄質関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
198 4E050	ドーパミン総 (5250)	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	1.8 ～ 7.7 ng/mL	6～14		*4
973 4E045	L - ドーパ (5450)	血漿 1.5	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	1.2 ～ 2.2 ng/mL	6～21		*4
1049 4E070	5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA) (5356)	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	3.6 ～ 21.5 ng/mL	3～8	95 生化 II	
8509 4E070	(5257)	髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	5.0 ～ 34.7 ng/mL	3～8	95 生化 II	
556 4E070	(5022)	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.7 ～ 7.2 mg/day	3～8	95 生化 II	
1045 4E055	ホモバニリン酸 (HVA) (5355)	血漿 1.1	E-2 ↓ G-1 凍結	HPLC 法	7.0 ～ 25.0 ng/mL	3～8	69 生化 II	
5111 4E055	(5111)	髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	18.7 ～ 41.9 ng/mL	3～8	69 生化 II	
555 4E055	(5021)	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.0 ～ 10.3 mg/day	3～8	69 生化 II	



ナ

予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量（10g/ 袋 最終濃度約 0.5%）を入れて 24 時間蓄尿を行ってください。
尿量測定、混和、凍結用容器に「尿 CPR 安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出
（凍結保存）（尿量明記）
■特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可



ネ

採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和
（低温にて血漿分離、必ず凍結保存）
（保存はポリ試験管使用）

実施料について（内分泌）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2. 6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3. 8項目以上の場合 内分泌 900点

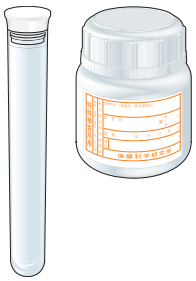
内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎髄質関連検査								
2503 4E060	バニールマンデル酸 (VMA) (5354)	血漿 **1.1**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	HPLC 法	3.3 ～ 9.9 ng/mL	3～8	90 生化Ⅱ	
5095 4E060	(5095)	髄液 **2.0**	**X-5** 凍結	HPLC 法	1 以下 ng/mL	3～8	90 生化Ⅱ	
567 4E060	(5020)	酸性蓄尿 **3.0**	**I-3** 凍結	HPLC 法	1.1 ～ 7.2 mg/day	3～8	90 生化Ⅱ	
7481 4E040	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 (5481)	酸性蓄尿 **2.0**	**C-9** 冷蔵	LC/MS/MS 法	メタネフリン（MN） 0.04 ～ 0.19 ノルメタネフリン（NMN） 0.09 ～ 0.33 mg/day	4～8	220 生化Ⅱ	※1 ＊4

※1 「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

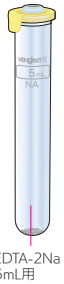


A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-1
冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

C-9
6N 塩酸 20mL（小児 5 ～ 10mL）を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出
(必ず凍結保存)
(尿量明記)
(市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する（6N 塩酸）)



E-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎皮質関連検査								
538 4D018	17- ケトステロイド分画 (17-KS 分画) (5702)	蓄尿 **12.0**	**C-1** 冷蔵	GC ／ MS 法 (酵素水解法)	表 1 参照 mg/day	7〜10	213 生化 II	酸性蓄尿は避けてください。 ＊4
95 4D035	11- ハイドロキシコルチコステロイド (11-OHCS) (5030)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	蛍光法 (De Moor 変法)	(午前 10 時採血) 7.0 ～ 23.0 μg/dL	4〜11	60 生化 II	＊4
94 4D040	コルチゾール (5028)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	CLIA 法	午前 (10 時以前) 3.7 ～ 19.4 μg/dL	1〜2	121 生化 II	
7784 4D045	尿中コルチゾール (5016)	蓄尿 **1.0** 又は 尿 **1.0**	**C-1** 冷蔵	CLIA 法	蓄尿　4.3 ～ 176.0 μg/day 随時尿　なし μg/L	5〜7	121 生化 II	＊E

(表1)

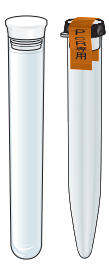
17- ケトステロイド分画基準値 (単位 : mg/day)

		男　性	女　性
11-deoxy 17-KS	アンドロステロン	1.10 ～ 4.20	0.40 ～ 3.00
	エチオコラノロン	0.55 ～ 2.60	0.30 ～ 2.50
11-oxy 17-KS	11- ケトエチオコラノロン	0.04 ～ 0.65	0.03 ～ 0.50
	11- ヒドロキシアンドロステロン	0.40 ～ 2.30	0.22 ～ 1.60
	11- ヒドロキシエチオコラノロン	0.03 ～ 0.65	0.02 ～ 0.65
	11- ケトアンドロステロン	0.12 以下	0.07 以下



I-3

6N 塩酸 20mL（小児 5 ～ 10mL）を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出
(必ず凍結保存)
(尿量明記)
(市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する (6N 塩酸))



X-5

必要量採取
(必ず凍結保存)

実施料について (内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌学的検査

副腎皮質関連検査

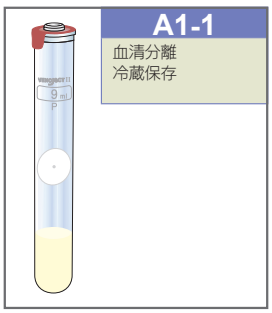
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
127 4D090	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S) (5369)	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	表 1 参照	2〜4	164 生化 II	
98 4D115	アルドステロン (5024)	血清 0.3 又は 血漿 0.3	A1-1 冷蔵 又は E-2→G-1 凍結 下記参照	CLEIA 法	4.0 ～ 82.1 pg/mL	2〜4	122 生化 II	
5533 4D115	(5533)	蓄尿 1.5	G-5 凍結	CLEIA 法	1.0 ～ 19.3 μg/day	6〜10	122 生化 II	＊4
7245	アルドステロン (CLEIA) / レニン活性比 (5245)	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 (同時提出)	E-2→G-1 凍結 又は E-2→G-1 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	アルドステロン：CLEIA 法 レニン活性　：EIA 法	100 未満	3〜5		「アルドステロン」と「レニン活性」の同時依頼が必要です。(31、35頁参照) ※1
7241	アルドステロン (CLEIA) / 活性型レニン定量 (レニン定量) 比 (5241)	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 (同時提出)	E-2→G-1 凍結 又は E-2→G-1 凍結 A1-1 冷蔵 下記参照	CLEIA 法	20 未満	3〜5		「アルドステロン」と「レニン定量」の同時依頼が必要です。(31、35頁参照) ※2

注 1　降圧剤 (利尿剤) であるスピロノラクトン及びその代謝物による交差反応が検査値に影響を与える可能性があり、当該薬剤投与時には測定の実施を避けてください。

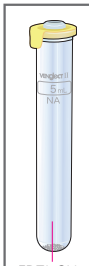
※1　アルドステロン / レニン活性比では、「アルドステロン」、「レニン活性」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。
※2　アルドステロン / レニン定量比では、「アルドステロン」、「レニン定量」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。
※3　PAC RIA相当値の計算式　RIA相当値＝アルドステロンCLEIA値×1.174＋42.3

(表1) デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S) 基準値　(単位：μg/dL)

年齢 (歳)	男性	女性
18 ～ 20	24 ～ 537	51 ～ 321
21 ～ 30	85 ～ 690	18 ～ 391
31 ～ 40	106 ～ 464	23 ～ 266
41 ～ 50	70 ～ 495	19 ～ 231
51 ～ 60	38 ～ 313	8 ～ 188
61 ～ 70	24 ～ 244	12 ～ 133
71 以上	5 ～ 253	7 ～ 177



A1-1
血清分離
冷蔵保存



E-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

EDTA-2Na 5mL



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)

性腺関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
205 4F025	エストラジオール (E_2) (5091)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	表 1 参照	1 〜 2	167 生化 II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載してください。
203 4F045	プロゲステロン (5038)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	M 0.1 ～ 0.2 F（卵胞期） 0.1 ～ 0.3 （黄体期） 1.2 ～ 15.9 （閉経後） 0.1 ～ 0.2 （妊娠前期） 2.8 ～ 147.3 （妊娠中期） 22.5 ～ 95.3 （妊娠後期） 27.9 ～ 242.5 ng/mL	1 〜 2	139 生化 II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載してください。

(表1)エストラジオール基準値

	血　清(単位：pg/mL)
	E2
男性	11 ～ 44
女性	卵胞期　21 ～ 251
	中間期　38 ～ 649
	黄体期　21 ～ 312
	閉経後　10 ～ 28

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌学的検査

性腺関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
290 4F055	プレグナンジオール (P_2) (5037)	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC／MS法 (酵素水解法)	M 0.16～0.79 F (卵胞期) 0.28～1.42 (黄体期) 0.79～6.83 (妊娠前期) 1.29～6.08 (妊娠中期) 3.05～24.22 (妊娠後期) 9.10～60.51 mg/day	7～10	213 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載してください。 ＊4
291 4F060	プレグナントリオール (P_3) (5009)	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC／MS法 (酵素水解法)	M 0.13～1.60 F (卵胞期) 0.13～1.30 (分泌期) 0.13～1.90 (閉経期) 0.02～0.83 mg/day	7～10	232 生化II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載してください。 ＊4
202 4F065	テストステロン (5039)	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (4日)	CLIA法	M (21～49歳) 240.24～870.68 (50歳以上) 220.91～715.81 F (21～49歳) 13.84～53.35 (50歳以上) 12.40～35.76 ng/dL	1～2	119 生化II	
5915 4F070	遊離テストステロン (5915)	血清 0.2	A1 ↓ G-1 凍結	EIA法	表1参照 pg/mL	3～5	156 生化II	
5048 4F100	抗ミュラー管ホルモン (AMH) (5048)	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	表2参照 ng/mL	2～4	597 生化II	不妊症の患者に対して、卵巣の機能評価及び治療方針の決定を目的として測定した場合に6月に1回に限り算定できる。

(表1)遊離テストステロン基準値

(単位：pg/mL)

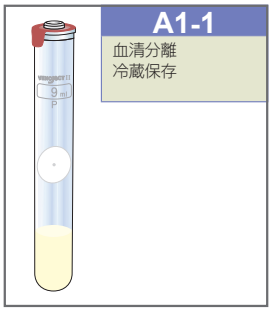
年齢	男性	女性
20～29	8.8～31.7	1.5～4.9
30～39	7.3～28.9	0.8～4.1
40～49	6.2～24.9	0.5～4.0
50～59	6.1～25.0	
60～80	5.8～18.2	

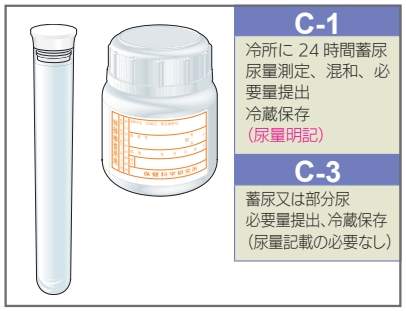
(表2)抗ミュラー管ホルモンの参考基準値
AMH測定値の年齢別分布

年齢(歳)	n	中央値(ng/mL)	95%信頼区間(参考基準値)(ng/mL)
≦27	558	4.69	0.76～14.18
28	387	4.27	0.84～12.44
29	555	4.14	0.86～11.97
30	663	4.02	0.79～12.74
31	865	3.85	0.44～13.08
32	872	3.54	0.62～13.87
33	959	3.32	0.40～12.76
34	1,064	3.14	0.38～11.16
35	1,191	2.62	0.37～10.18
36	1,122	2.50	0.33～9.93
37	1,154	2.27	0.24～8.50
38	1,230	1.90	0.11～7.81
39	1,176	1.80	0.13～7.45
40	1,057	1.47	0.08～6.13
41	888	1.30	0.06～5.52
42	715	1.00	0.05～5.81
43	509	0.72	0.03～4.49
44	309	0.66	0.03～3.98
45	144	0.41	0.03～3.43
46≦	127	0.30	0.02～1.67
全群	15,545	2.36	0.12～10.67

※JISART(日本生殖補助医療標準化機関)の各施設に通院する不妊症患者で本品を用いて測定した16,526 例のうち、多嚢胞性卵巣(PCO)(939例)および早発卵巣不全(POI)(42例)と診断された症例を除外した後の、女性15,545 例のAMH 測定値の年齢別分布(中央値)をノンパラメトリック法により求めました。(JISART多施設共同研究での国内検討データ)

【判定上の留意事項】
日本産科婦人科学会　生殖・内分泌委員会　生殖医療リスクマネージメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の 4 項目が挙げられています。
①AMHは卵子の質とは関連しない。
②AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
③測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
④測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。







内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
胎盤機能検査								
207 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG) (5040) (5258)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	表 1 参照 mIU/mL	1〜2	130 生化 II	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載してください。 ※1
281 4F080		尿 **1.0**	**C-3** 冷蔵	ECLIA 法	3.0 以下 mIU/mL	1〜2	130 生化 II	
7846 4F090	遊離βHCG (HCGβサブユニット) (5442)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	1.00 未満 ng/mL	5〜7	129 生化 II	動物検体受付不可 ※2 *E

※1　ヒト絨毛性ゴナドトロピン - βサブユニット（HCG- β）又は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量を併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。
※2　遊離 HCG は、HCG 産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。ただし、遊離 HCG と HCG 定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

(表 1)ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG)《血清》基準値
(単位：mIU/mL)

男　性		1.0 以下
女　性	閉経前非妊婦	4.9 以下
	閉経後非妊婦	8.1 以下
	妊　婦	
	3 週	5.4 ～ 72.0
	4 週	10.2 ～ 708
	5 週	217 ～ 8254
	6 週	152 ～ 32177
	7 週	4059 ～ 153767
	8 週	31366 ～ 149094
	9 週	59109 ～ 135901
	10 週	44186 ～ 170409
	12 週	27107 ～ 201615
	14 週	24302 ～ 93646
	15 週	12540 ～ 69747
	16 週	8904 ～ 55332
	17 週	8240 ～ 51793
	18 週	9649 ～ 55271

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

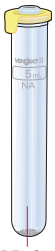
1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他								
1011 4Z255	サイクリック AMP (c-AMP) (5157)	血漿 **0.3**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	RIA 法	11 ～ 21 pmol/mL	要確認	161 生化 II	
1012 4Z255	(5297)	蓄尿 **1.0**	**G-7** 凍結	RIA 法	1.8 ～ 6.3 μmol/day	要確認	161 生化 II	＊ 4
199 4E065	セロトニン (5023)	全血 **2.0**	**S** 凍結	LC-MS/MS 法	52.8 ～ 200 ng/mL	4 ～ 12		
5120 4E065	(5320)	多血小板 血漿 **0.6**	**E-5** ↓ **G-1** 凍結	LC-MS/MS 法	623 以下 ng/mL	4 ～ 12		＊ 1
96 4Z010	レニン活性 (PRA) (5025)	血漿 **0.3**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	臥位　0.2 ～ 2.3 座位　0.2 ～ 3.9 立位　0.2 ～ 4.1 ng/mL/h	3 ～ 6	100 生化 II	同時算定不可
1050 4Z020	レニン定量 (ARC) (5367)	血漿 **0.5**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	CLEIA 法	2.21 ～ 39.49 pg/mL	2 ～ 7	102 生化 II	



A1-1
血清分離
冷蔵保存



EDTA-2Na
5mL用

E-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

E-5
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
低温にて 180G
20 分間遠心
多血小板血漿を分取し
(必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用
遠心機回転数については巻末「容器一覧」参照



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-7
トルエン 1 ～ 2mL を加え冷所に 24 時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)



EDTA-2K
2mL用

S
採血後静かに
約 10 回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結

他の項目との同時依頼はできません。

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他								
177 4Z275	エリスロポエチン (5042)	血清 **0.5**	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	4.2 ～ 23.7 mIU/mL	2～4	209 生化 II	※1
7786 4Z280	オステオカルシン (3607)	血清 **0.4**	A1 ↓ G-1 凍結	ECLIA 法	表 1 参照 ng/mL	5～8	153 生化 II	※2、※3 *1
4449 4Z282	低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC) (4704)	血清 **0.3**	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	4.50 未満 ※4 ng/mL	4～8	150 生化 II	※5 溶血血清は低値を示す場合があります。 *F

※ 1　以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア）赤血球増加症の鑑別診断
イ）重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくは HIF-PH 阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ）骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

※ 2　続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できる。

※ 3　「オステオカルシン」、「NTx」、「デオキシピリジノリン」、「TRACP-5b」を併せて実施した場合は、いずれか 1 つのみ算定する。

※ 4　骨粗鬆症患者におけるビタミン K 不足状態判定のカットオフ値です。

※ 5　低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）は、骨粗鬆症におけるビタミン K2 剤の治療選択目的で行った場合、又は治療経過観察を行った場合に算定できる。但し、治療開始前においては 1 回、その後は 6 月以内に 1 回に限り算定できる。

(表 1)オステオカルシン基準値　　(単位：ng/mL)

閉経前女性	7.8～30.8
閉経後女性	14.2～54.8
男性	8.4～33.1

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

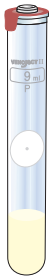
1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌学的検査

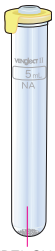
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
心臓関連検査								
1069 4Z270	HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド) (5063)	血漿 **0.4**	ネ ↓ **G-1** 凍結	CLEIA 法	43.0 以下 pg/mL	2〜4	221 生化Ⅱ	※2、※3、※4 溶血の場合は低値となりますのでご注意ください。
2515 4Z271	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) (5570)	血漿 **0.4**	**E-2** ↓ **G-1** 凍結	CLIA 法	18.4 以下 pg/mL	2〜4	130 生化Ⅱ	※2、※3、※4 溶血の場合は低値となりますのでご注意ください。
4439 4Z272	NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント) (5777)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	125 以下 ※1 pg/mL	2〜4	136 生化Ⅱ	※2、※3、※4

※1　基準値はメーカー設定による基準値（心不全除外のカットオフ値）です。
※2　BNP、NT-proBNP 及び HANP のうち 2 項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して 1 週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。
※3　心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月 1 回に限り算定する。
※4　BNP、NT-proBNP 及び HANP のうち 2 項目以上を実施する場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細の摘要欄に記載する。

A1-1
血清分離
冷蔵保存



E-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



ネ
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目以上5項目以下の場合
   内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
   内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
   内分泌　900点

内分泌負荷試験

内分泌負荷試験

負荷試験名	測定ホルモン	内　容	保険点数
下垂体前葉負荷試験	成長ホルモン(GH)	インスリン負荷、アルギニン負荷、L-DOPA負荷 クロニジン負荷、グルカゴン負荷、プロプラノロール負荷 ブロモクリプチン負荷、睡眠負荷など	1200 (一連として) ※
	黄体形成ホルモン(LH)及び 卵胞刺激ホルモン(FSH)	LH-RH負荷、クロミフェン負荷など	1600 (一連として月一回)
	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	TRH負荷など	1200 (一連として月一回)
	プロラクチン(PRL)	TRH負荷、ブロモクリプチン負荷など	1200 (一連として月一回)
	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	インスリン負荷、メトピロン負荷、デキサメサゾン負荷、CRH負荷など	1200 (一連として月一回)
下垂体後葉負荷試験	アルギニンバゾプレッシン(AVP) (抗利尿ホルモン)(ADH)	水制限、高張食塩水負荷(カーター・ロビンステスト)など	1200 (一連として月一回)
甲状腺負荷試験	T_3、T_4、FT_3、FT_4	T3抑制など	1200 (一連として月一回)
副甲状腺負荷試験	PTH	カルシウム負荷、PTH負荷(エルスワース・ハワードテスト)EDTA負荷など	1200 (一連として月一回)
副腎皮質負荷試験	鉱質コルチコイド(レニン、レニン活性、 アルドステロン)	フロセマイド負荷、アンギオテンシン負荷など	1200 (一連として月一回)
	糖質コルチコイド(コルチゾール、 DHEA-S)	ACTH負荷、デキサメサゾン負荷、メトピロン負荷など	1200 (一連として月一回)
性腺負荷試験	テストステロン	HCG負荷など	1200 (一連として月一回)
	エストラジオール(E_2)	HMG負荷など	

※患者１人につき月２回に限り算定する。

保険点数について

●１月に 3600 点を限度として算定する。

●負荷試験に伴って行った注射（手技料）、採血及び検体測定の費用（点数）は、採血回数及び測定回数に係らず、所定点数に含まれるものとする。

糖負荷試験

糖負荷試験

負荷試験名	測定項目・内容	保険点数
常用負荷試験	血糖（尿糖検査を含む）	200 ※
耐糖能精密検査 グルカゴン負荷試験	常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中 C- ペプチド（CPR）を測定した場合	900 ※

※注射（手技料）、採血及び検体測定の費用（点数）は、採血回数に係らず所定点数に含まれるものとする。

75g 経口ブドウ糖負荷試験（75gOGTT）実施上の注意

検査手順

1. 朝まで 10 時間以上絶食の後、空腹のままで来院させる。この検査を午前 9 時頃に開始することが望ましい。
2. 空腹のまま採血注 1) し血糖値を測定する。次にブドウ糖（無水ブドウ糖末 75g を水に溶かしたもの、又はでんぷん分解産物の相当量、例えばトレーラン G）を飲用させる。
3. ブドウ糖負荷後 30 分、1 時間注 2) と 2 時間に採血し血糖値を測定する。
4. 判定基準に従い、糖尿病型、正常型、境界型のいずれかに判定する。
5. 検査終了まで喫煙、運動は控える。又、上部消化管造影 X 線検査や内視鏡検査後に本試験を行わない。

注 1）75gOGTT 前後のインスリン反応を測定する場合には、負荷前及び負荷後 30 分にインスリン測定用のサンプルを採血する
注 2）75gOGTT で、30 分、60 分の血糖値は糖尿病の診断には必要ないが、境界型を正確に判定し糖尿病高リスク群を見出すために役立つ。

糖尿病の診断方法および診断基準

型の判定（1 時点での高血糖の存在確認）

①早朝空腹時血糖値 126mg/ dL 以上
② 75gOGTT で 2 時間値 200mg/ dL 以上
③随時血糖値 200mg/ dL 以上
④ HbA1c が 6.5%以上
→ ①～④のいずれかが確認された場合は「**糖尿病型**」と判定する。

⑤早朝空腹時血糖値 110mg/ dL 未満
⑥ 75gOGTT で 2 時間値 140mg/ dL 未満
→ ⑤および⑥の血糖値が確認された場合には「**正常型**」と判定する。

●上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は「**境界型**」と判定する。

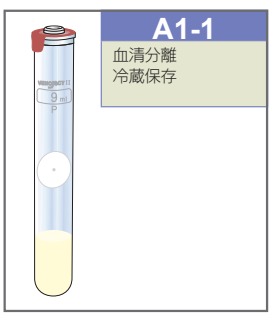
空腹時血糖値注 1) および 75gOGTT による判定区分と判定基準

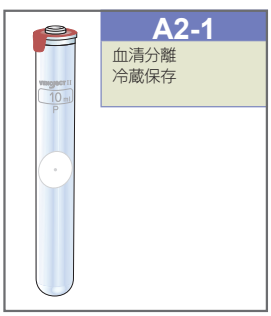
血糖値（静脈血漿値）	血糖測定時間		判定区分
	空腹時	負荷後 2 時間	
	126mg/ dL 以上	◀ または ▶ 200mg/ dL 以上	糖尿病型
	糖尿病型にも正常型にも属さないもの		境界型
	110mg/ dL 未満	◀ および ▶ 140mg/ dL 未満	正常型注 2)

注 1）血糖値は、とくに記載のない場合には静脈血漿値を示す。
注 2）正常型であっても 1 時間値が 180mg/dL 以上の場合は 180mg/dL 未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので、境界型に準じた取り扱い（経過観察など）が必要である。また、空腹時血糖値が 100 ～ 109mg/ dL は正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移行や OGTT 時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTT を行うことが勧められる。

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する調査検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）．糖尿病 55：499，2012 より一部改変

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
胎児性蛋白								
67 5D015	α-フェトプロテイン (AFP) (4009)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	10.0 以下 ng/mL	1〜2	98 生化 II	
2593 5D018	α-フェトプロテイン レクチン分画 (AFP-L3%) (4587)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	LBA (LBA-EATA) 法	L3 分画 10.0 未満 %	2〜5	185 生化 II	
230 5D010	CEA (癌胎児性抗原) (4010)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	5.0 以下 ng/mL	1〜2	99 生化 II	DUPAN-2と同時算定不可
1110 5D025	BFP (塩基性フェトプロテイン) (4330)	血清 **0.2**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	75 未満 ng/mL	2〜7	150 生化 II	採血後2時間以内に血清分離してください。 溶血不可 分離剤入りの容器での採血不可
糖鎖抗原								
229 5D200	NCC-ST-439 (4332)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	M 4.5 未満 F (49 才以下) 7.0 未満 (50 才以上) 4.5 未満 U/mL	2〜5	112 生化 II	
238 5D170	DUPAN-2 (4365)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	150 以下 U/mL	2〜5	115 生化 II	癌胎児性抗原(CEA) と同時算定不可
256 5D130	CA19-9 (4103)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	37.0 以下 U/mL	1〜2	121 生化 II	
263 5D120	CA15-3 (4049)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	31.3 以下 U/mL	1〜2	112 生化 II	CSLEXと同時算定不可
257 5D100	CA125 (4106)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	35.0 以下 U/mL	1〜2	136 生化 II	



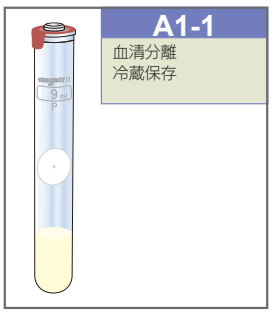


腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
糖鎖抗原								
4169 5D110	ヒト精巣上体蛋白 4 (HE4) (4331)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	閉経前：70.0 以下 閉経後：140.0 以下 pmol/L	2〜7	200 生化 II	
4956	ROMA (卵巣悪性腫瘍推定値) (4828)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	計算法	閉経前：7.4 未満 閉経後：25.3 未満 %	2〜7		※ 1、2
1097 5D125	BCA225 (4394)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	160.0 未満 U/mL	2〜4	158 生化 II	
132 5D175	SLX (シアリル Le^{x} -i 抗原) (4359)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	IRMA 法 (RIA・固相法)	38.0 以下 U/mL	5〜8	140 生化 II	溶血不可 動物検体受付不可 ＊E
2561 5D177	CSLEX (シアリル Le^{x} 抗原) (4765)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	8.0 未満 U/mL	4〜9	152 生化 II	診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。 CA15-3と同時算定不可 ＊E
1091 5D150	CA72-4 (4033)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	11.97 以下 U/mL	2〜4	146 生化 II	
1109 5D220	SPan-1 (4034)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	IRMA 法 (RIA・固相法)	30.0 以下 U/mL	4〜6	144 生化 II	動物検体受付不可 ＊E

※ 1　閉経前・後で計算式、基準値が異なるため、閉経前・後両方の結果値を報告いたします。

※ 2　ROMA は、HE4 と CA125（専用試薬）の測定結果から計算で算出します。なお、HE4、および、CA125（ROMA 用）を併せて報告いたします。



青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、46 ～ 47 頁をご参照ください。

腫瘍マーカー

腫瘍関連抗原

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1431 5D325	シフラ (CYFRA21-1) (サイトケラチン 19 フラグメント) (4388)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	2.08 以下 ng/mL	2〜4	154 生化 II	※ 1
638 5D300	扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原) (4050)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	2.0 以下 ng/mL	1〜2	101 生化 II	フケ、毛髪、皮膚（表皮）、爪等の混入により異常高値を示す場合がありますので、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
138 3B195	エラスターゼ 1 (4027)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	300 以下 ng/dL	2〜4	120 生化 II	緊急 (対象：血清) アミラーゼ、リパーゼ、アミラーゼアイソザイム、トリプシン又はエラスターゼ 1 を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
219 5D305	PSA (前立腺特異抗原) (4088)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	4.000 以下 ng/mL	1〜2	121 生化 II	※ 2、※ 4
2517 5D305	高感度 PSA タンデム (4397)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	1〜2		
2727 5D308	高感度 PSA タンデム F/T 比 (4781)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	F/T 比：25 % 総 PSA：4.00 以下 ng/mL	1〜2	150 生化 II	※ 3、※ 4
5D308 5D309	プロステートヘルス インデックスセット (phi セット) (4281)	血清 **0.8**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	表 1 参照	1〜2	281 生化 II	採血後 3 時間以内に血清分離してください。 ※ 4、※ 5、※ 6 F/T 比の報告が必要な場合は、(4122) phi F/T 比同時依頼セットをご依頼ください。 計算式：phi = [−2] proPSA / f-PSA × √t-PSA
5D308 5D309	phi F/T 比同時依頼セット (4122)				表 2 参照			

※1　悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

※2　前立腺特異抗原 (PSA) は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1 回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原 (PSA) の検査結果が 4.0ng/mL 以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3 月に 1 回に限り、3 回を上限として算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3　診療及び他の検査 (前立腺特異抗原 (PSA) 等) の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して実施した場合に限り算定する。

※4　「PSA (前立腺特異抗原)」、「高感度 PSA タンデム」、「高感度 PSA タンデム F/T 比」、「プロステートヘルスインデックス (phi)」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

※5　(1) 診療及び他の検査 (前立腺特異抗原 (PSA) 等) の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者であって、以下の (イ) から (ハ) までのいずれかに該当する者に対して、CLEIA 法により、前立腺特異抗原 (PSA)、遊離型 PSA 及び [-2] proPSA を測定し、プロステートヘルスインデックス (phi) を算出した場合に限り算定する。
(イ) 前立腺特異抗原 (PSA) 値が 4.0ng/mL 以上かつ 10.0ng/mL 以下
(ロ) 50 歳以上 65 歳未満であって、前立腺特異抗原 (PSA) 値が 3.0ng/mL 以上かつ 10.0ng/mL 以下
(ハ) 65 歳以上 70 歳未満であって、前立腺特異抗原 (PSA) 値が 3.5ng/mL 以上かつ 10.0ng/mL 以下
(2) (1) に該当する患者に対して、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に、原則として 1 回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3 月に 1 回に限り、3 回を限度として算定できる。
(3) 前立腺特異抗原 (PSA) を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
(4) 遊離型 PSA 比 (PSA F/T 比) を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
(5) 本検査を算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原 (PSA) の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を 2 回以上算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄にその必要性を記載すること。

※6　PSA F/T 比のカットオフ値 25% は、高感度 PSA タンデムのグレーゾーン (4.01 〜 10.0ng/mL) における前立腺癌と前立腺肥大症の判別に用いるカットオフ値です。
25% 以下　低値になる程、前立腺癌の確率が高くなります。
25% 超　高値になる程、良性前立腺疾患の確率が高くなります。

(表1) phiセット　基準値・単位

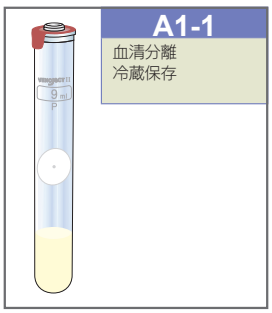
項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[−2]proPSA	なし	pg/mL

(表2) phi F/T比同時依頼セット　基準値・単位

項目名	基準値	単位
phi	27.2未満	なし
t-PSA	4.00以下	ng/mL
f-PSA	なし	ng/mL
[−2]proPSA	なし	pg/mL
F/T比	25超	%

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
腫瘍関連抗原								
235 5D310	γ -Sm (γ - セミノプロテイン) (4043)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	4～8	187 生化Ⅱ	＊1
2524 5D550	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体) (4429)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	81.0 未満 pg/mL	2～4	175 生化Ⅱ	
639 5D410	NSE (神経特異エノラーゼ) (4048)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA 法	16.3 以下 ng/mL	2～4	142 生化Ⅱ	同時算定不可 溶血不可 赤血球や血小板中にある NSE が影響を与える恐れがありますので、採血後、血清分離は1時間以内に実施してください。
239 5C025	α_1 - 酸性糖蛋白 (α 1-AGP) (4246)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ネフェロメトリー法	M　45 ～ 98 F　39 ～ 86 mg/dL	4～7		＊4
480 5D520	PIVKA Ⅱ 定量 (4357)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	40 未満 mAU/mL	2～4	131 生化Ⅱ	急速凝固管のご使用はお避けください。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-2
午前第２尿
冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

腫瘍マーカー

腫瘍関連抗原

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
2619 5C124	Ⅰ CTP (Ⅰ型コラーゲン C テロペプチド) (4110)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	RIA・2 抗体法	(骨転移マーカーのカットオフ値として) 4.5 未満 ng/mL	4～6	※ 1	動物検体受付不可 ※ 2 ＊E
728 3B222	TRACP-5b 定量 (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) (4012)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	表 1 参照 mU/dL	2～4	156 生化Ⅱ	※ 3、※ 5
2724 5C123	NTx (Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド) (4903)	尿 **3.0** (午前第 2 尿)	**C-2** 冷蔵	EIA 法	表 3 参照 nmol BCE/mmol CRE	2～5	153 生化Ⅱ	※ 2、※ 4、※ 5
2710 5C146	デオキシピリジノリン (DPD) (5907)	尿 **3.0** (午前第 2 尿)	**C-2** 冷蔵	EIA 法	M　2.1 ～ 5.4 F　2.8 ～ 7.6 骨粗鬆症薬剤治療の指標 骨折リスクカットオフ値 7.6 骨量低下カットオフ値 5.9 骨代謝回転の低下 2.8 未満 nM/mMCr	2～5	191 生化Ⅱ	※ 2、※ 4、※ 5

注 1　NTx 値は夜間に高く午後に低値を示すことが報告されています。治療効果のモニター等、同一患者での比較を行う場合には第 1 回目と同時刻に採取してください。

※ 1　悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ保険請求が認められます。

※ 2　乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

※ 3　代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に 1 回、その後 6 月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に 1 回に限り算定できる。又、治療方針を変更した際には変更後 6 月以内に 1 回に限り算定できる。本検査を NTx、オステオカルシン、又はデオキシピリジノリン（尿）を併せて実施した場合は、いずれか 1 つのみ算定する。

※ 4　原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に 1 回、その後 6 月以内の薬剤効果判定時に 1 回に限り、又、薬剤治療方針を変更したときは変更後 6 月以内に 1 回に限り算定できる。

※ 5　「TRACP－5b」、「NTx」、「オステオカルシン」「デオキシピリジノリン」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

(表1) TRACP-5b定量基準値　単位：mU/dL

男性	170～590
女性(YAM)	120～420

YAM：若年成人平均値
女性の基準値は、健常閉経前女性(30～44歳)が相当します。
なお、閉経後女性にも適用されます。

(表2) NTx《血清》基準値・判定基準　単位：nmol BCE/L

男性		9.5～17.7
女性(閉経前)		7.5～16.5
女性(閉経後)		10.7～24.0
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク　カットオフ値	16.5
	骨量低下　カットオフ値	13.6

(表3) NTx《尿》基準値・判定基準　単位：nmol BCE/mmol CRE

男性		13.0～66.2
女性(閉経前)		9.3～54.3
女性(閉経後)		14.3～89.0
骨吸収亢進の指標		55以上
副甲状腺摘出術の適応		200以上
悪性腫瘍の骨転移の指標		100以上
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク　カットオフ値	54.3
	骨量低下　カットオフ値	35.3

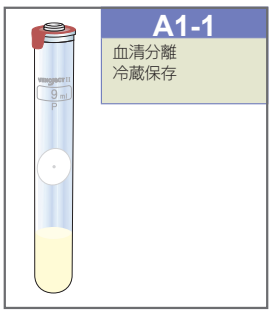
青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、46 ～ 47 頁をご参照ください。

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
腫瘍関連抗原								
4448 5D560	抗 p53 抗体 (4702)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	1.30 以下 U/mL	3〜5	163 生化Ⅱ	※1
2168 5J095	インターロイキン 2 受容体 (IL-2R) (4379)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	156.6 ～ 474.5 U/mL	2〜4	438 生化Ⅱ	※2

※ 1　食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月 1 回に限り算定できる。

※ 2　非ホジキンリンパ腫、ATL 又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又は ATL であることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「口」により算定する。



青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、46 ～ 47 頁をご参照ください。

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について（留意事項）

検体検査実施料

（１）腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に１回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。但し、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア　急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ１を行った場合

イ　肝硬変、HBs 抗原陽性の慢性肝炎又は HCV 抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α - フェトプロテイン（AFP）又は PIVKA- Ⅱ半定量又は定量を行った場合（月１回に限る。）

ウ　子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として CA125 を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各１回に限る。）

エ　家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

（２）尿中 BTA は、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。

（３）前立腺特異抗原（PSA）は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、１回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が 4.0ng/mL 以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を上限として算定できる。なお、当該検査を２回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（４）核マトリックスプロテイン 22（NMP22）定性（尿）又は定量（尿）

ア　核マトリックスプロテイン 22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）は、尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

イ　核マトリックスプロテイン 22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）については、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

（５）核マトリックスプロテイン 22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。

（６）遊離型 PSA 比（PSA F/T 比）は、診療及び他の検査（PSA 等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

（７）抗 p53 抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月１回に限り算定できる。

（８）Ⅰ型コラーゲン -C- テロペプチド（Ⅰ CTP）、Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド（NTx）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

（９）シアリル Le^X 抗原（CSLEX）

ア　シアリル Le^X 抗原（CSLEX）は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。

イ　シアリル Le^X 抗原（CSLEX）と CA15-3 を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

（10）サイトケラチン 19 フラグメント（シフラ）は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

（11）ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

（12）α - フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又は LBA 法による。

（13）癌胎児性抗原（CEA）定性又は半定量（乳頭分泌液）は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘤性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中の CEA を測定した場合に算定する。

（14）可溶性インターロイキン -2 レセプター受容体（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫、ATL の診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又は ATL であることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。

（15）「注 2」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）、半定量（乳頭分泌液）を同一日に行った場合にも、適用する。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

（１）悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月１回に限り算定する。

（２）悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、１月のうち２回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。

（３）腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に記載する。

（４）「注 3」に規定する初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。但し、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、区分番号「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。

（５）区分番号「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、１項目とみなして、本管理料を算定する。

（６）当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査（本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。）を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。

（７）特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

腫瘍マーカー

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について（実施料と管理料）

<table>
<tr><th>検査項目</th><th colspan="3">検体検査実施料</th><th colspan="3">悪性腫瘍特異物質
治療管理料</th></tr>
<tr><td>尿中 BTA　※ 1</td><td>(80点)</td><td colspan="2"></td><td colspan="3">220 点</td></tr>
<tr><td>α-フェトプロテイン(AFP)</td><td>98点</td><td rowspan="25">2 項目　230 点
3 項目　290 点
4 項目以上　385 点</td><td rowspan="25">1 項目　360 点
2 項目以上　400 点</td><td rowspan="25">150 点

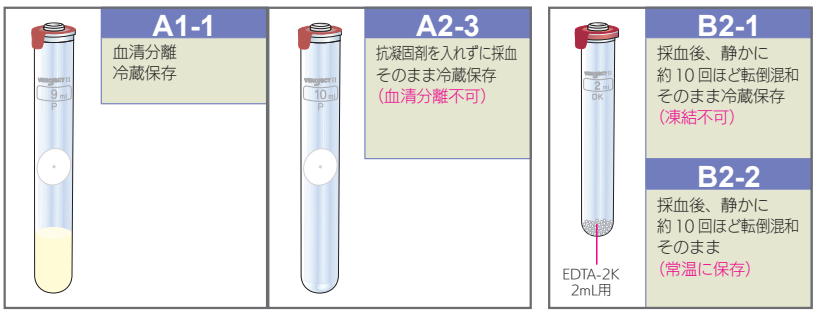
初回月加算</td></tr>
<tr><td>癌胎児性抗原(CEA)</td><td>99点</td></tr>
<tr><td>扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)</td><td>101点</td></tr>
<tr><td>NCC-ST-439
CA15-3</td><td>112点</td></tr>
<tr><td>DUPAN-2</td><td>115点</td></tr>
<tr><td>エラスターゼ 1</td><td>120点</td></tr>
<tr><td>前立腺特異抗原(PSA)
CA19-9</td><td>121点</td></tr>
<tr><td>P Ⅰ VKA-Ⅱ定量</td><td>131点</td></tr>
<tr><td>CA125</td><td>136点</td></tr>
<tr><td>シアリルLe^X-i 抗原(SLX)</td><td>140点</td></tr>
<tr><td>神経特異エノラーゼ(NSE)</td><td>142点</td></tr>
<tr><td>SPan1</td><td>144点</td></tr>
<tr><td>CA72-4</td><td rowspan="2">146点</td></tr>
<tr><td>シアリルTn抗原(STN)</td></tr>
<tr><td>塩基性フェトプロテイン(BFP)</td><td rowspan="2">150点</td></tr>
<tr><td>遊離型PSA比(PSA F/T比)</td></tr>
<tr><td>シアリルLe^{X}抗原(CSLEX)</td><td>152点</td></tr>
<tr><td>サイトケラチン19フラグメント(シフラ)</td><td>154点</td></tr>
<tr><td>BCA225</td><td>158点</td></tr>
<tr><td>抗p53抗体</td><td>163点</td></tr>
<tr><td>ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)</td><td>175点</td></tr>
<tr><td>α -フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)</td><td>185点</td></tr>
<tr><td>γ-セミノプロテイン(γ-Sm)</td><td>187点</td></tr>
<tr><td>可溶性インターロイキン-2レセプター(s Ⅰ L-2R)</td><td>438点</td></tr>
<tr><td>Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx)
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(Ⅰ CTP)
デオキシピリジノリン(DPD)(尿)
TRACP-5b定量　※ 1</td><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

※ 1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ算定　　※ 2 検体検査実施料としてのみ算定

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
免疫血液学的検査								
310 5H010	ABO 血液型 (2017)	全血 **2.0**	**B2-1** 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2〜4 ※	39 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記してください。 ※不規則抗体と同時依頼の場合は不規則抗体の結果と同時（1〜2日）にご報告致します。
311 5H020	Rh (D) 血液型 (2018)	全血 **2.0**	**B2-1** 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2〜4 ※	39 免疫	
1402 5H025	Rh-Hr 式血液型 (2047)	全血 **2.0**	**B2-1** 冷蔵	試験管法		2〜4	163 免疫	凍結不可 CcDEe因子 同一検体による検査の場合は因子の種類及び数に係らず、所定点数を算定する。
320 5H121	直接クームス試験 (2022)	全血 **2.0**	**B2-2** 常温	カラム凝集法 又は、試験管法 (直接抗グロブリン法)	(−)	1〜2	34 免疫	緊　急 凍結不可 年齢・輸血歴を明記してください。
321 5H122	間接クームス試験 (2023)	全血 **4.0**	**A2-3** 冷蔵	カラム凝集法 (間接抗グロブリン法)	(−)	1〜2	47 免疫	
2054 5H122	クームス定量試験 (2024)	全血 **4.0**	**A2-3** 冷蔵	カラム凝集法　※1 (間接抗グロブリン法)	1 倍未満	2〜4		凍結不可 年齢・輸血歴を明記してください。 抗凝固剤使用不可
319 5H180	不規則抗体 (2025)	全血 **10.0**	**A2-3** 冷蔵	カラム凝集法　※1 (間接抗グロブリン法、フィシン法)	(−)	1〜2	174 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記してください。 抗凝固剤使用不可 ※2
647 5G520	抗血小板抗体 (2027)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	MPHA 法	(−)	4〜9	261 免疫	＊4

※1　精査を必要とする場合は、試験管法も実施いたします。

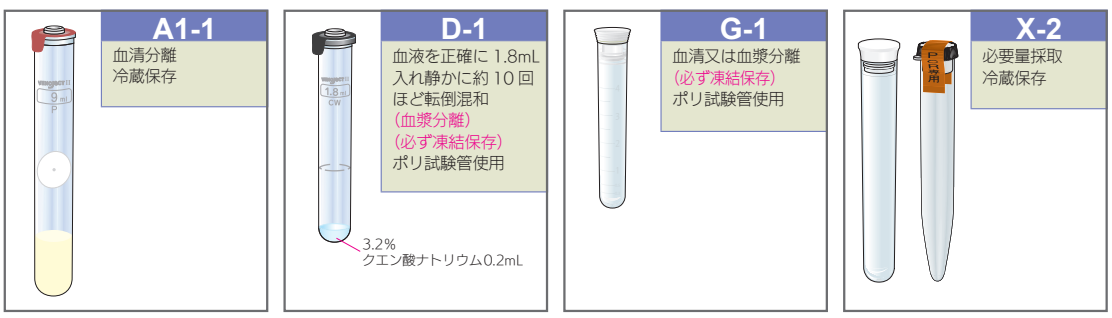
※2　手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体又は、輸血の「注 6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。輸血歴、妊娠歴があり、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術、子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術、子宮外妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴又は妊娠歴がある旨を記載する。



免疫学的検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
免疫血液学的検査								
1098 5G525	曜日指定　予約検査 **血小板関連 IgG** (PA-IgG) (2223)	全血 **7.5**	モ 冷蔵	EIA 法	46 以下 ng/10^7cells	4〜8	190 免疫	凍結不可 休日の前日は受付できません。 ※1 ※2 ＊4
8548 5G530	**HIT 抗体** (血小板第 4 因子・ヘパリン複合体抗体) (7750)	血漿 **0.5**	D-1 ⬇ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0 未満 U/mL	4〜6	390 免疫	HIT抗体(IgG、A及びM) を測定しています。グロブリンクラス別での報告ではありません。 ※3 ＊1

※1　必ず採血当日にご依頼ください。血小板数が3万/μL 以下の場合は、10mL 以上ご提出ください。
※ 2　特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
※ 3　ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。



感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
302 5E074	梅毒定性	RPR 法 (3463)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び凝集法	(−)	1〜2	15 免疫	梅毒血清反応(STS)定性
303 5E075		TP 抗体 (3004)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び PA 法		1〜2	32 免疫	梅毒トレポネーマ抗体定性
307 5E074	梅毒半定量	RPR 法 (3470)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び凝集法	1 倍未満	1〜2	34 免疫	梅毒血清反応(STS)半定量
309 5E075		TP 抗体 (3007)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び PA 法	80 倍未満	1〜2	53 免疫	梅毒トレポネーマ抗体半定量
22 5E035	抗ストレプトリジン O 定量(ASO) (1058)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	160 以下 IU/mL	1〜2	15 免疫	
312 5E106	マイコプラズマ抗体半定量 (4041)		血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	PA 法	40 倍未満	2〜4	32 免疫	
316 (6006) 5E106		(4047)	血清 **0.2** 又は 髄液 **0.2**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	CF 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	3〜5	32 免疫	＊E



モ

採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)
(注) 末梢血の血小板が 3 万／μL 以下の場合は、専用容器を 2 本使用し必ず 10mL 以上採血してください。

免疫学的検査

感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
48 5E105	寒冷凝集反応 (1060)	血清 0.2	A1-3 冷蔵 51頁参照	HA 法	64 倍未満	2〜3	11 免疫	採血後、すみやかに血清分離 血清分離まで保温
323 (6023) 5E026	オーム病クラミジア抗体 (7034)	血清 0.2 又は 髄液 0.2	A1-1 又は X-2 冷蔵	CF 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	3〜5	79 免疫	*E
7256 5E031	クラミドフィラ (クラミジア)・ニューモニエ IgG 抗体 (7361)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(−) 表1参照 EIU	3〜6	70 免疫	※1
7259 5E032	クラミドフィラ (クラミジア)・ニューモニエ IgA 抗体 (7722)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(−) 表2参照 EIU	3〜6	75 免疫	※1
7262 5E033	クラミドフィラ (クラミジア)・ニューモニエ IgM 抗体 (7878)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	(−) 0.5 未満 表3参照 S/CO	3〜6	152 免疫	※1
991 5E154	トリコスポロン・アサヒ抗体 (4674)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	Antigen-captured ELISA 法	0.15 未満 表4参照 CAI	8〜17	798 免疫	※2 *S
1445 5E069	MAC 抗体 (7607)	血清 0.2	A1-1 冷蔵	ELISA 法	判定 (−) 抗体濃度 0.7 未満 U/mL	5〜12	151 免疫	*1

※1 クラミドフィラ・ニューモニエ IgM 抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエ IgG 抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエ IgA 抗体と併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。

※2 夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

(表1) ククラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgG抗体　判定基準値

判定【IgG】	EIU値
陰性(−)	30未満
判定保留(±)	30〜45
陽性(+)	46以上

※EIU(Enzyme Immunounits)単位

(表2) クラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgA抗体　判定基準値

判定【IgA】	EIU値
陰性(−)	8未満
判定保留(±)	8〜12
陽性(+)	13以上

(表3) クラミドフィラ(クラミジア)
ニューモニエIgM抗体　判定基準

判定【IgM】	S/CO値
陰性(−)	0.5未満
判定保留(±)	0.5〜1.1
陽性(+)	1.2以上

(表4) トリコスポロン・アサヒ抗体判定基準

判定	CAI(Corrected Absorbance Index)
陰性	0.15未満
判定保留	0.15〜0.30未満
陽性	0.30以上



項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
感染症血清反応								
385 5E156 **7813**	トキソプラズマ IgG 抗体 (4328)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	1.6 未満 表 1 参照 IU/mL	2〜4	93 免疫	
387 5E157 **7814**	トキソプラズマ IgM 抗体 (4444)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	0.8 未満 表 2 参照 S/CO	2〜4	95 免疫	
2224 5E054	百日咳菌抗体 (4766)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	PT-IgG　:10 未満 FHA-IgG:10 未満 図 1 参照 EU/mL	3〜5	250 免疫	
679 5E020	クラミジアトラコマチス IgG・IgA 抗体 (7151)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	IgG（−） IgA（−） 表 3、4 参照 cut off index	3〜5	200 免疫	※1

※ 1　クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し、IgG 抗体価又は IgA 抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM 抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG 抗体価、IgA 抗体価及び IgM 抗体価のうち 2 項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) トキソプラズマIgG抗体判定基準

IU/mL	判　定
1.6未満	陰性
1.6〜2.9	判定保留
3.0以上	陽性

(表2) トキソプラズマIgM抗体判定基準

S/CO	判　定
0.8未満	陰性
0.8〜0.9	判定保留
1.0以上	陽性

(表3) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定基準

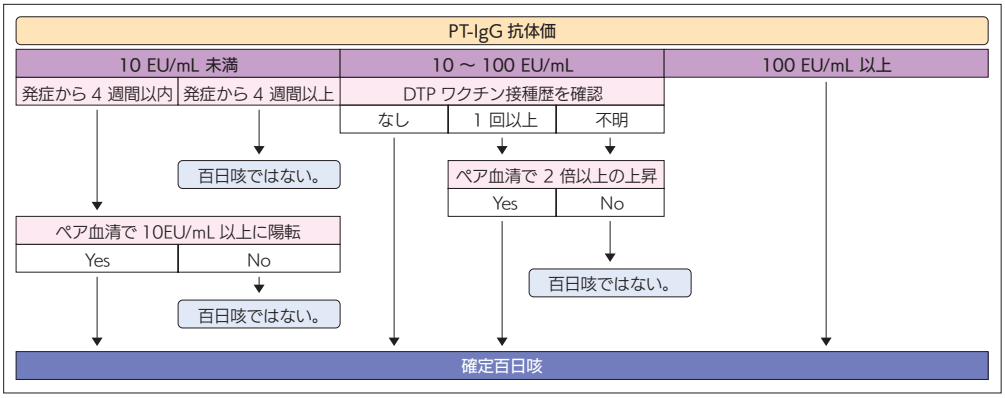
判　定	cut off index
(−)	0.90未満
(±)	0.90〜1.09＊
(+)	1.10以上

＊再度、7〜10日後に新しく採血した血清により再検査するなど注意して判定してください。

(表4) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定の解釈

IgG	IgA	判定の解釈
(+)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(−)	(+)	クラミジア感染の疑いがある
(+)	(−)	クラミジア感染の既応あるいは感染の疑いがある
(−)	(−)	抗体陰性

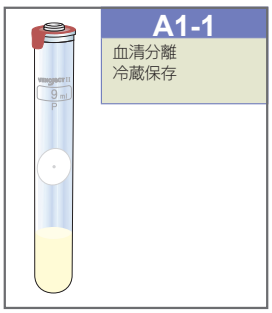
(図1) 百日咳・血清診断の目安



免疫学的検査

感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
2717 5E128	ツツガ虫 Gilliam	IgG 抗体 (4716)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9	203 免疫	
2718 5E129		IgM 抗体 (4717)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9		
2715 5E125	ツツガ虫 Kato	IgG 抗体 (4718)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9	203 免疫	各株ごとに算定する。 ツツガムシ抗体半定量
2716 5E126		IgM 抗体 (4719)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9		
2713 5E122	ツツガ虫 Karp	IgG 抗体 (4720)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9	203 免疫	
2714 5E123		IgM 抗体 (4721)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	4～9		＊E



項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応								
4926 5E064	ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株 (4921)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10.0 未満（－） U/mL	2～4	80 免疫	※1
(1425) 5E065	ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体／国内株 (4176)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	10.0 未満（－） U/mL	3～5	80 免疫	※1
7102 3B347	胃がんリスク層別化検査（ABC 分類） (1494)	血清 **0.7**	**A1-1** 冷蔵	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ（PG Ⅰ・Ⅱ）ラテックス凝集比濁法 ヘリコバクター・ピロリ IgG 抗体／国内株：EIA 法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン：PG Ⅰ値が 70.0ng/mL 以下且つ PG Ⅰ／Ⅱ比が 3.0 以下 ・H. ピロリ抗体：3.0U/mL 以上 表 1 参照	3～5		
7103 3B347	胃がんリスク層別化検査（ABC 分類）（除菌歴あり） (1495)							
3B347	胃がんリスク層別化検査（ＡＢＣ分類）〔ＬＡ法〕 (1496)	血清 **0.7**	**A1-1** 冷蔵	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ（PG Ⅰ・Ⅱ）ラテックス凝集比濁法 ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株：ラテックス凝集比濁法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン：PG Ⅰ値が 70.0ng/mL 以下且つ PG Ⅰ／Ⅱ比が 3.0 以下 ・H. ピロリ抗体：10.0U/mL 以上 表 2 参照	3～5		〔ピロリ菌の除菌治療前〕 ペプシノゲン・H.ピロリ抗体の検査結果とＡＢＣ分類（A～D群）をご報告いたします。
3B347	胃がんリスク層別化検査（ＡＢＣ分類）（除菌歴あり）〔ＬＡ法〕 (1482)							〔ピロリ菌の除菌治療後〕 除菌治療を受けた方は、除菌判定結果に関わらず、E群（除菌群）としてご報告いたします。

※1　当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」（平成 12 年 10 月 31 日保険発第 180 号）に即して行うこと。

◇胃がんリスク層別化（ＡＢＣ分類）〔ＬＡ法〕について
既存の胃がんリスク層別化検査（ＡＢＣ分類）で検査しているヘリコバクター・ピロリ抗体（ヘリコバクター・ピロリＩｇＧ抗体／国内株）につきましては、現感染や既感染が混在する陰性高値が問題とされておりました。本検査は、その従来からの問題点を無視できるとして認定ＮＰＯ法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構で推奨されている試薬を使用する、より精度の高い検査です。
（使用試薬：H.ピロリ-ラテックス「生研」）

(表1) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の基準

		H. ピロリ抗体検査（※1）		
		(－)	(＋)	
		3.0U/mL 未満	3.0U/mL 以上 10.0U/mL 未満（※2）	10.0U/mL 以上
ペプシノゲン検査	(－)	A 群	B 群	
	(＋)	D 群	C 群	

胃がんリスク層別化検査（ABC 分類）は、A から D 群まで分類して報告します。但し、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましては E 群（除菌群）として報告します。
※1　「未感染」と「現感染」を診断する臨床診断と異なり、ABC 分類ではリスクの低い「未感染」とリスクがある「過去感染と現感染」を診断するため、基準値が異なります。
※2　除菌する場合は、必ず尿素呼気試験、便中 H. ピロリ抗原測定などの検査を実施し、存在診断を行ってください。

(表2) 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)〔LA法〕の基準

		H . ピロリ抗体検査 4926〔4921〕	
		10.0U/mL 未満	10.0U/mL 以上
		(－)	(＋)
ペプシノゲン検査 1083〔4675〕	(－)	A 群	B 群
	(＋)	D 群	C 群

胃がんリスク層別化検査（ABC 分類）は、A から D 群まで分類して報告します。但し、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましては E 群（除菌群）として報告します。
※ E 群は除菌により胃ガンになるリスクは低くなりますが、除菌後も内視鏡検査等による経過観察が必要です。

【ABC分類結果の解釈】

A 群：概ね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。
B 群：少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意し、内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。尚、H. ピロリ抗体の検査結果が 3.0 ～ 10.0U/ml の場合、除菌治療の前に他の検査で存在診断を実施することが必要です。
C 群：萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられますので、定期的に内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。
D 群：萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがありますので、ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談ください。
E 群（除菌群）：ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E 群として定期的に内視鏡検査を受けましょう。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありません。除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

B、C、D 群の順にリスクが高くなります。

【胃がんリスク層別化検査(ABC分類)の注意事項】

《この検査に適さない方》
- ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- 明らかな上部消化器症状のある方
- 上部消化管疾患治療中の方
- プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方

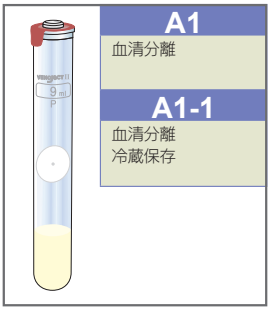
免疫学的検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
感染症血清反応								
4193 5C215	プロカルシトニン定量 (PCT) (5778)	血清 **0.4**	A1 ↓ G-1 凍結	CLIA 法	0.05 未満 ng/mL	2 〜 4	276 生化Ⅰ	敗血症(細菌性) 鑑別診断の カットオフ値：0.50ng/mL 未満 重症度判定の カットオフ値：2.00ng/mL 以上 ※1
1103 5E046	エンドトキシン (5490)	全血 **2.0**	Y2 冷蔵	比濁時間分析法	1.0 以下 pg/mL	4 〜 7	229 免疫	凍結不可 検体は無菌的に採取し採取容器をご提出ください。 必ず指定容器をご使用ください。 ＊E
8561 5E151	(1→3) -β-D- グルカン (5247)	全血 **3.0**	Y 冷蔵	発色合成基質法	20.0 以下 pg/mL	3 〜 5	190 免疫	凍結不可 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は、治療効果の判定に使用した場合に算定する。 ※2
下欄 参照 5E048	透析液エンドトキシン	透析液 **4.0**	ヤ2 冷蔵	発色合成基質法	EU/mL	3 〜 5		材料ごとの項目コードでご依頼ください。

※1　プロカルシトニン（PCT）定量は、敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。但し、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　(1→3) - β - D - グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

材料種類	項目コード (グループコード)	項目名称
A 液	5547 (5547)	透析液エンドトキシン　A 液
B 液	5548 (5548)	透析液エンドトキシン　B 液
RO 水	5549 (5549)	透析液エンドトキシン　RO 水
調整液	5550 (5550)	透析液エンドトキシン　調整液
その他	5551 (5551)	透析液エンドトキシン　その他

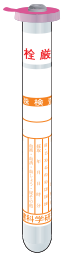


A1
血清分離

A1-1
血清分離
冷蔵保存



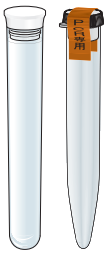
G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



Y
採血部位をよく消毒して専用真空採血管に直接採血。採血後直ちにゆっくり5〜6回転倒混和してください。
汚染を避けて冷蔵保存。
(必ず採血当日に御依頼ください。)



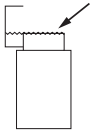
Y2
無菌的に採取して下さい。



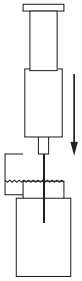
X-2
必要量採取
冷蔵保存

ヤ 2

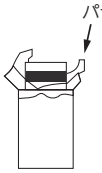




容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、（カラーキャップが完全に外に落ちないように）開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。



透析液を注射針付きのシリンジで無菌的に採取します。
その後、容器のゴム栓部分に注射針を刺します。シリンジの中の透析液は陰圧により自動的に４ｍＬが注入されます。



注入が終了したらカラーキャップを元通りに被せ、直ちに４回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜてください。
カラーキャップの周りはパラフィルムを巻いてください。
提出まで、容器は速やかに冷蔵（２〜８℃）で保存願います。

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗原検査								
2521 5E142	**カンジダ・マンナン抗原** (4885)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	0.05 未満	4～8	134 免疫	カンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。 ※1 ※2　＊E
2520 5E140	**クリプトコッカス抗原定性** (4538)	血清 **0.8** 又は 髄液 **0.8**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	ラテックス凝集反応	(－)	4～7	164 免疫	※1 ＊E
2416 5E148	**アスペルギルス抗原** (4788)	血清 **0.7**	**A1-1** 冷蔵	EIA (ELISA) 法	Cut off index　判定 0.5 未満　(－) 0.5 以上　(＋)	4～7	157 免疫	下記、注意事項をご参照ください。 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合に算定する。 ※1　＊E

※1　(1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。また、カンジダ血症またはカンジダ肺炎の診断目的で実施した場合に算定する。

※2　高値傾向を示す恐れがありますので、フィブリン析出時の除去に竹串を使用しないでください。

【アスペルギルス抗原の結果判定に関する注意事項】

1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本品の判定結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行ってください。
2) 陽性を判定された場合には、再度採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
3) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、本品で検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。感染が疑われる場合には、再測定を実施することをお勧めします。
4) 慢性肉芽腫症（CGD）や Job 症候群の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
5) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなることがあります。
6) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原（ガラクトマンナン）が陽性を示すことがあります。
②幼児で、臨床症状を示さない陽性が報告されています。実際に血中にアスペルギルス抗原が存在した場合もありますが、ほとんどは、偽陽性と考えられています。
③ガラクトマンナンは豆、種子、牛乳等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。
また、わが国では多くの食品（味噌、醤油など）でコウジカビ（アスペルギルス属）を利用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断してください。
④海外で、ピペラシリン / タゾバクタムの合剤及びアモキシシリンの投与により、本品の測定結果が陽性を示したという報告があります。したがって、上記薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
⑤ペニシリウム属等の菌種では抗ガラクトマンナン（ラット）モノクローナル抗体との交差反応性が認められます。
7) 本製品はグレーゾーンを設定していないので、カットオフインデックス値（0.5）近辺の結果の場合は、侵入性アスペルギルス症の他の臨床症状、他の臨床検査結果及び画像診断結果も参照の上、注意深く総合的に判断してください。
8) 自己免疫疾患患者の血清では、非特異的反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状等を加味して総合的に判断してください。

免疫学的検査

抗原検査

項目コード 統一コード	検査項目（グループコード）	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1747 5E041	肺炎球菌莢膜抗原定性 《尿》（5976）	尿 1.0	G-6 凍結	イムノクロマト法	(－)	2～4	220 免疫	
1709 5E041	肺炎球菌莢膜抗原定性 《髄液》（5988）	髄液 1.0	X-5 凍結	イムノクロマト法	(－)	2～4	220 免疫	
2409 5E056	尿中レジオネラ抗原定性（4964）	尿 1.0	G-6 凍結	イムノクロマト法	(－)	2～4	205 免疫	症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して実施した場合に限り1回を限度として算定する。
2591 6B620	結核菌 DNA〔PCR〕（TB-PCR）（7374）	喀痰 1.0～2.0	ワ 冷蔵	リアルタイムPCR法	(－)	3～5	410 微生	緊急 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
2698 6B621	MAC DNA〔PCR〕（マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出）（7375）	喀痰 1.0～2.0	ワ 冷蔵	リアルタイムPCR法	アビウム (－) イントラセルラー (－)	3～5	421 微生	他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。なお、抗酸菌同定検査と同時算定不可。
7527 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT. TB）（7527）	全血 6.0 注1	F-6 常温 (18～25℃) (32時間以内)	ELISPOT法	(－)	3～5	593 免疫	※1 ※2 ※3
7619 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（QFT プラス）（7026）	全血 6.0 注1	FL 冷蔵	ELISA法	(－)	3～5	593 免疫	

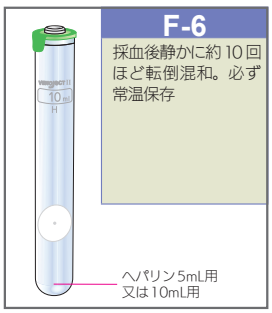
注1　他項目との重複しないよう単独検体で提出してください。
※1　診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。
※2　予約検査。休日の前日は受付できません。凍結不可・開封厳禁。
※3　依頼に際しては、「採血時間」をご記入ください。T-SPOT.TB、QFT プラスの判定基準は下表をご参照ください。

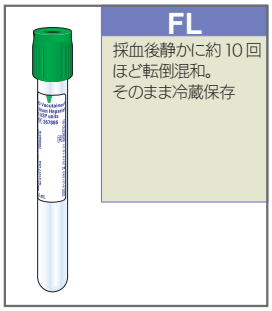
（表1）● T-SPOT.TB の判定基準

判定基準
パネルA（ESAT-6）とパネルB（CFP-10）のスポット数 （＋）　：両方又は一方が8以上 判定保留：両方又は一方の最大値が5～7 （－）　：両方が4以下 判定不可：陰性コントロールのスポット数が10を超える場合 　　陽性コントロールのスポット数が20未満の場合

○報告対象は判定、パネルA、パネルBとなります。
判　定：（＋）、（－）、判定保留、判定不可
パネルA：スポット数（整数）
パネルB：スポット数（整数）

※判定保留、判定不可の場合には、再度、採血して再提出することを推奨いたします。





（表2）● QFT プラスの判定基準

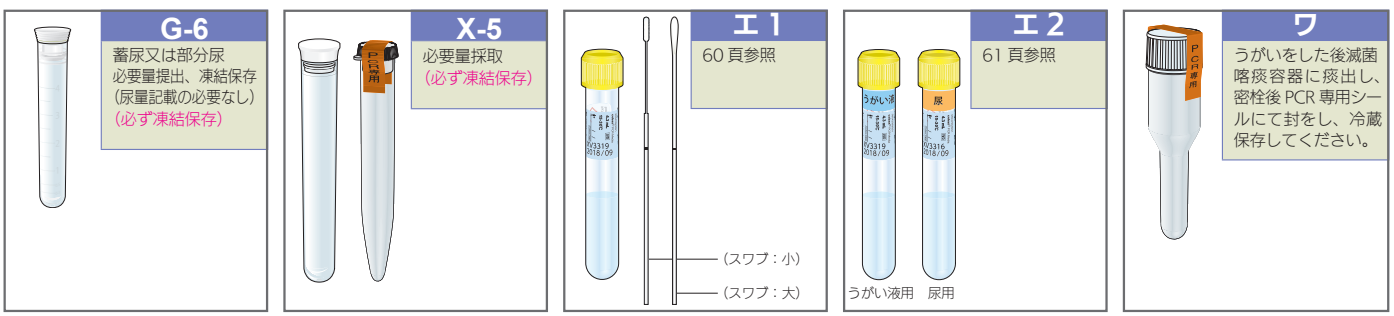
Nil値（IU/mL）	TB1値（IU/mL）	TB2値（IU/mL）	Mitogen値（IU/mL）	判定	解釈
8.0以下	0.35以上かつNil値の25%以上	不問	不問	（＋）	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつNil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつNil値の25%未満		0.5以上	（－）	結核感染していない
			0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない
8.0を超える	不問				

○報告対象は、判定、Nil値、TB1値、TB2値、Mitogen値となります。
判定：（＋）、（－）、判定不可
Nil値：測定値
TB1値：測定値
TB2値：測定値
Mitogen値：測定値

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
3762 5E021	クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕 (7388)	尿(初尿) **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(−)	2〜4	188 微生	※1
3765 5E021	 (7728)	うがい液 **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵					
3759 5E021	 (7380)	子宮頸部擦過細胞	**エ1** 冷蔵					
3763 6B610	淋菌 DNA〔PCR〕 (7389)	尿(初尿) **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(−)	2〜4	198 微生	細菌培養同定と同時算定不可 ※1
3766 6B610	 (7729)	うがい液 **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵					
3760 6B610	 (7387)	子宮頸部擦過細胞	**エ1** 冷蔵					
3764 6B615	淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA〔PCR〕 (7507)	尿(初尿) **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(−)	2〜4	262 微生	※1 ※2
3767 6B615	 (7732)	うがい液 **4.5~6.3**	**エ2** 冷蔵					
3761 6B615	 (7504)	子宮頸部擦過細胞	**エ1** 冷蔵					

※1　泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）によるものである。

※2　クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、クラミジア・トラコマチス核酸検出又は淋菌核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



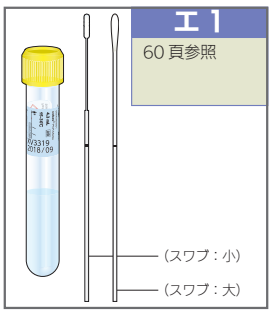
免疫学的検査

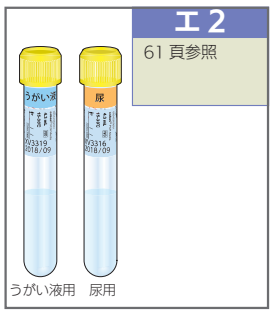
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗原検査								
7735 6B643	膣トリコモナス／ マイコプラズマジェニタリウム 同時測定 DNA〔PCR〕 (7372)	尿 (初尿) **4.5～6.3** 注 1	**エ2** 冷蔵	リアルタイム PCR 法	(－)	2 ～ 4	350 微生	※1
7738 6B643	(7381)	膣擦過物 及び 子宮頸部 擦過細胞 注 1	**エ1** 冷蔵					

注 1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

※　尿検体の場合、最後の排尿から少なくとも 1 時間以上経過していることを確認してください。

※ 1　当該検査は以下のいずれかに該当する場合に算定する。
ア．膣トリコモナス感染を疑う患者であって、鏡検が陰性または実施できないもしくはマイコプラズマジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ．膣トリコモナス感染症またはマイコプラズマジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。

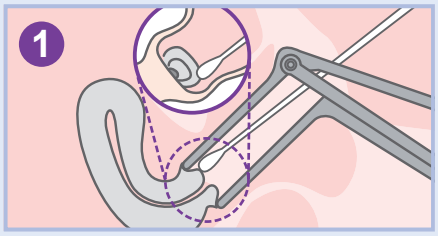




淋菌／クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

子宮頸管擦過細胞

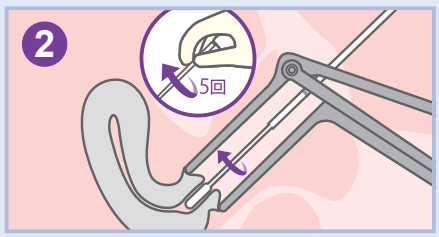
使用容器：エ1



子宮頸部の粘液除去

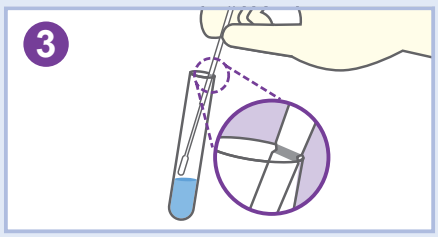
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。

注意 粘液を拭ったスワブは廃棄します。



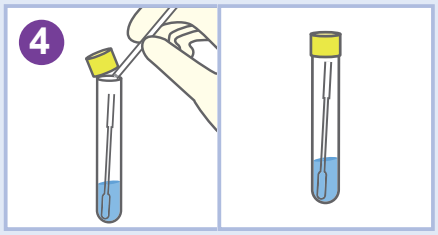
子宮頸部検体の採取

付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（回し過ぎないでください。）スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。



子宮頸部検体の保存

専用容器のキャップを開けます。採取したフロックスワブを専用容器に入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。



専用容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。専用容器のキャップをしっかりと閉めます。

注意 手元に残った折られた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

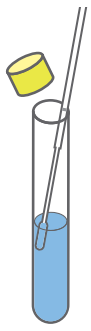
検体採取上の注意

- スワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取してください。
- 専用容器には検体を採取したスワブのみ入れてください。スワブを保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。

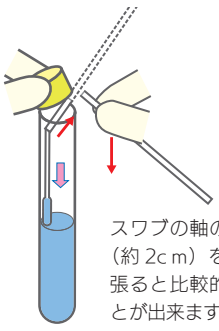
一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブを専用容器に浸さないでください。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは速やかに専用容器に入れてください。
- 専用容器は絶対に凍結させないでください。

フロックスワブを上手に折る方法

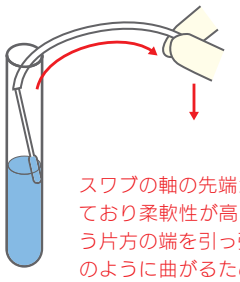


黄色いキャップとチューブの縁でスワブの黒い線を挟むようにしてセットします。



スワブの軸のチューブの近く（約 2c m）をつまみ下に引っ張ると比較的きれいに折ることが出来ます。

注　意



スワブの軸の先端が細くなっており柔軟性が高いため、もう片方の端を引っ張るとバネのように曲がるため折れにくいことがあります。

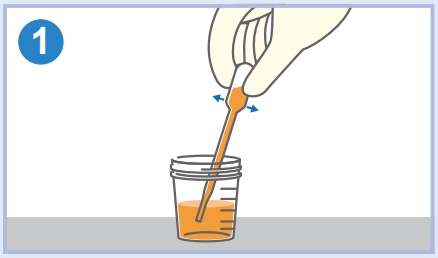
＊折り目線の辺りが汚染されてキャップで押さえることが困難な場合には折り目線を出来るだけ固定し鋭角に曲げると折りやすくなります。

免疫学的検査

淋菌／クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

尿

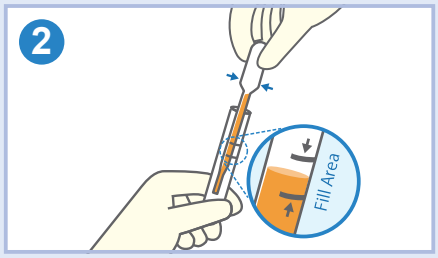
使用容器：**エ2**



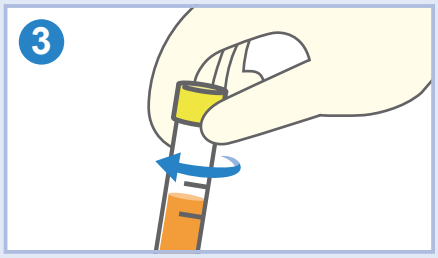
尿検体の採取

滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を専用容器に移します。

注意 初尿は採取後2～30℃で24時間以内に専用容器に移してください。

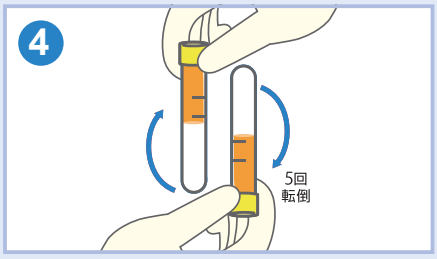


専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



尿検体の保存

専用容器の蓋をしっかりと閉めてください。



専用容器を5回転倒混和させてください。

検体採取上の注意

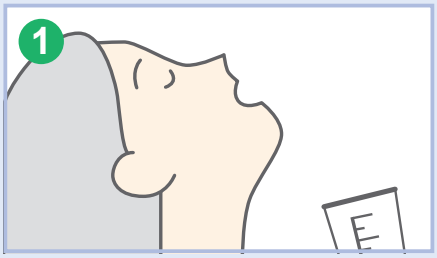
- 初尿は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に専用容器に移してください。
- 尿検体を保存した専用容器は2～30℃で 12ケ月安定です。

一般的な注意

- 女性の尿を採取する前は消毒しないでください。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないでください。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意ください。
- 専用容器は絶対に凍結させないでください。

うがい液

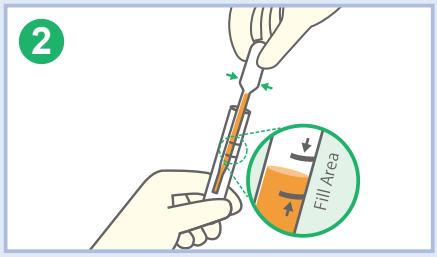
使用容器：**エ2**



うがいの仕方

生理食塩水(日局方など)をコップに15～20m L入れて下さい。生理食塩水15～20m Lを口に含み、顔を上に向けて10～20秒 間、勢いよく"ガラガラ"とうがいを行います。

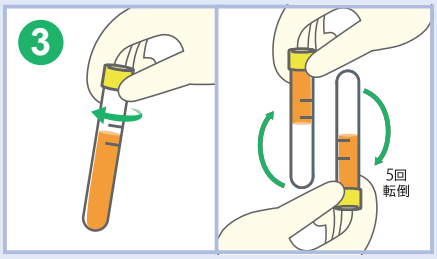
注意 口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合わせて"うがい液"とします。



検体輸送液への懸濁

"うがい液" 全量をうがい用容器に回収し、スポイトで専用容器(尿・うがい用)に必要量添加します。

注意 "うがい液"は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



検体容器の保管

専用容器の蓋をしっかりと閉めてください。
専用容器を5回転倒混和させてください。

検体採取上の注意

- うがい液は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
  うがい液検体を保存した専用容器は2～30℃で 12ヶ月安定です。
  うがい液を専用容器に入れない場合は2～8℃で輸送してください。採取から10日以内に専用容器に入れてください。

一般的な注意

- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意ください。
- 専用容器は絶対に凍結させないでください。

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
2738 5E068	糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性 (4909)	糞便	メ 冷蔵	EIA 法	(−)	3〜5	138 免疫	※1
尿素呼気試験								
1070 6Z100	尿素呼気試験 (UBT) (ユービット) (5723)	呼気 前・後 (各 1 個)	UB 常温	IR 法 (赤外分光分析)	2.5 未満 ⊿‰	3〜5	70 微生	服用前および服用20分後の呼気をそれぞれ採取し、ペアで提出してください。 ※1 ＊C

UB

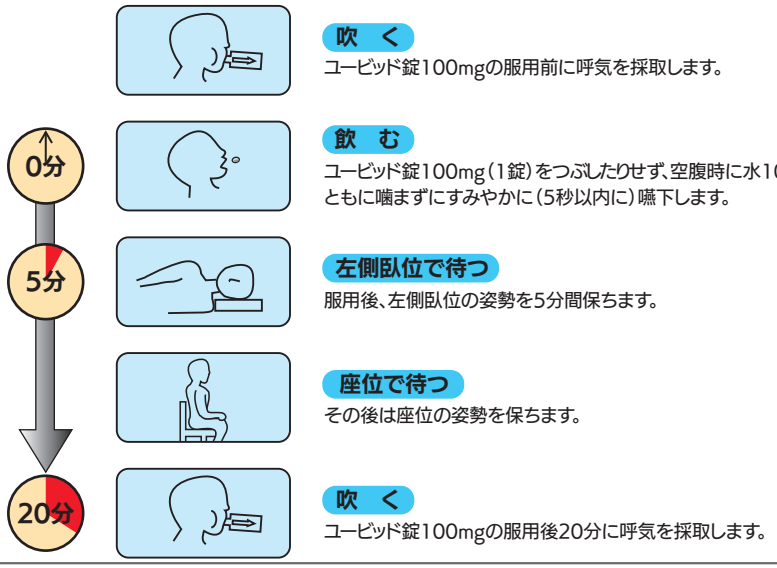


検査当日の注意事項

空腹時に実施する検査ですので、午前中の検査の場合は朝食をとらずにお越しください。午後に検査の場合は、昼食をとらずにお越しください。

※呼気採取方法のポイント
1)呼気採取バックを口にあて、(鼻から)息を吸って、5〜10秒程度息を止めてください。
2)その後呼気採取バックにゆっくりと息を入れてください。(バックには肺の中の息を入れてください)
3)息止めが苦しい場合は2〜3回に分けて入れても大丈夫です。

※呼気を採取する前に、呼気バックに“施設名”、“患者名”などの所定の内容を記入し、“服用前”又は“服用後”のいずれかにチェックを入れてください。
※呼気の採取後に記入するとバックを傷つける恐れがあります。又、記入にはペン先の鋭利でないものをご利用ください。
※呼気を採取したバックには必ずしっかりとキャップをしてください。



吹 く
ユービッド錠100mgの服用前に呼気を採取します。

飲 む
ユービッド錠100mg(1錠)をつぶしたりせず、空腹時に水100mLとともに噛まずにすみやかに(5秒以内に)嚥下します。

左側臥位で待つ
服用後、左側臥位の姿勢を5分間保ちます。

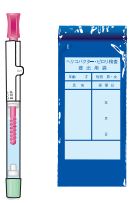
座位で待つ
その後は座位の姿勢を保ちます。

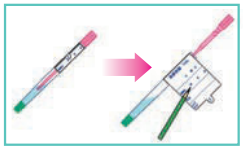
吹 く
ユービッド錠100mgの服用後20分に呼気を採取します。

※1　当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

メ

提出日の当日又は前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出してください。




容器の白ラベルを途中まではがし、図のように広げて、氏名・日付等を記入し、元のとおり巻き付けてください。



便器(水ため部以外の場所)にトイレットペーパーを敷くなどし、その上に排便してください。



採便棒先端の満すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。



採便棒を容器にもどして、根元までねじ込んでください。

免疫学的検査

リウマトイド因子・RA関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
971 5G160	リウマトイド因子 (RF)	定性 (1057)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	(−)	1〜2		
21 5G160		定量 (1145)	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA 法	15 以下 IU/mL	1〜2	30 免疫	※1、※2
1186 5G167	抗 CCP 抗体定量 (抗シトルリン化ペプチド抗体) (4750)		血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.5 未満 U/mL	2〜4	193 免疫	※3、※4
1325 5G161	IgG 型リウマトイド因子 (IgG-RF) (4581)		血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA 法	2.0 未満	2〜7	198 免疫	※1、※4
2701 5G166	抗ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CA・RF) (4579)		血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	6.0 未満 AU/mL	4〜8	111 免疫	※1、※2、※4 ＊F
2730 3B503	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ -3) (4116)		血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 35.2 〜 123.8 F 16.1 〜 56.8 ng/mL	2〜4	116 免疫	※1、※4

※ 1　リウマトイド因子定量、MMP -3、抗ガラクトース欠損 IgG 抗体、IgG 型リウマトイド因子のうち 3 項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの 2 つに限り算定する。

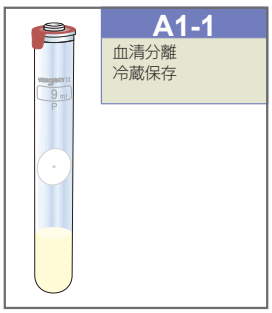
※ 2　抗ガラクトース欠損 IgG 抗体とリウマトイド因子（RF）定量を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

※ 3　以下のいずれかの場合に算定できる。

（イ）関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として 1 回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3 月に 1 回に限り算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

（ロ）（イ）とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者 1 人につき原則として 1 回に限り算定する。ただし、当該検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、6 月に 1 回に限り算定できる。なお、当該検査を 2 回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※ 4　抗シトルリン化ペプチド抗体、IgG 型リウマトイド因子、抗ガラクトース欠損 IgG 抗体及びマトリックスメタロプロテイナーゼ -3（MMP-3）のうち 2 項目以上を併せて実施した場合、主たるもの 1 つに限り算定する。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

甲状腺関連自己抗体検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1071 5G290	抗サイログロブリン抗体 (抗 Tg 抗体) (5538)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	4.11 未満 IU/mL	2〜4	136 免疫	
1448 5G285	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗 TPO 抗体) (5541)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	5.61 未満 IU/mL	2〜4	138 免疫	
110 5G310	TSH レセプター抗体 (第 3 世代) (5783)	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLIA 法	3.10 未満 IU/L	2〜4	208 免疫	同時算定不可
7389 5G300	TSAb (甲状腺刺激抗体) (5294)	血清 **0.3**	A1-1 冷蔵	バイオアッセイ法	110 未満 %	5〜7	330 免疫	・溶血は低値の影響があります。 ・血清以外の材料は培養系に影響を与えるため検査不可となります。 ・防腐剤などの添加物使用の場合も検査不可となります。 *E

免疫学的検査

自己抗体検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
176 5G010	抗核抗体半定量 (ANA) (4969)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	蛍光抗体法 (FA 法)	40 倍 未満 (−)	2〜4	99 免疫	※1
2532 5G087	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体 (4807)	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	index 判定 28 未満 (−) 28 以上 50 未満 (+−) 50 以上 (+)	4〜7	166 免疫	※2 ＊4
2581 5G090	抗セントロメア抗体 (4627)	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満 U/mL	4〜8	173 免疫	抗セントロメア抗体定量 ※3 ＊4
178 5G020	抗 DNA 抗体定量 (4075)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA・硫安法	6.0 以下 IU/mL	4〜6	159 免疫	動物検体不可 ＊E
1125 5G026	抗 ss-DNA-IgG 抗体定量 (4366)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	25 以下 AU/mL	4〜7	159 免疫	＊4
1123 5G036	抗 ds-DNA-IgG 抗体定量 (4368)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	12 以下 IU/mL	4〜7		＊4
1126 5G028	抗 ss-DNA-IgM 抗体 (4367)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	17 未満 U/mL	4〜18		＊4
1124 5G038	抗 ds-DNA-IgM 抗体 (4369)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA 法	6 未満 U/mL	4〜18		＊4
377 5G066	抗 RNP 抗体定量 (4689)	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 判定 10.0 未満 (−) 10.0 以上 (+)	3〜5	144 免疫	

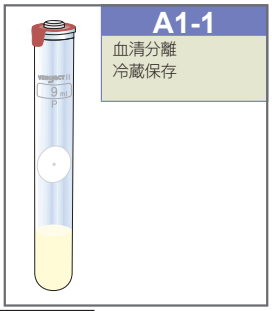
※1　抗核抗体半定量の報告対象

抗核抗体	HOMOGENEOUS	SPECKLED	NUCLEOLAR	PERIPHERAL
CENTROMERE	GRANULAR	細胞周期関連型	核膜型	CYTOPLASM

※CYTOPLASMにつきましては、(−)または(+)でのご報告となります。

※2　びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。またその際、陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、又、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

※3　原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。





項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
137 5G065	抗 Sm 抗体定量 (4667)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 判定(−) 10.0 以上 判定(+)	3〜5	147 免疫	
3334 5G076	抗 SS-A/Ro 抗体定量 (4661)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 判定(−) 10.0 以上 判定(+)	3〜5	161 免疫	
3335 5G077	抗 SS-B/La 抗体定量 (4664)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 判定(−) 10.0 以上 判定(+)	3〜5	153 免疫	
136 5G085	抗 Scl-70 抗体定量 (4692)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	U/mL 10.0 未満 判定(−) 10.0 以上 判定(+)	3〜5	157 免疫	
3260 5G120	抗 Jo-1 抗体定量 (4883)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満 U/mL	3〜5	140 免疫	

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

1. 2項目 自己抗体 320点
2. 3項目以上 自己抗体 490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
144 5G385	抗アセチルコリンレセプター抗体 (抗 AChR 抗体) (4240)	血清 **0.3**	A1-1 冷蔵	RIA 法	0.2 以下 (−) 0.3 ～ 0.5 (＋−) 0.6 以上 (＋) nmol/L	5 ～ 9	752 免疫	※1、※2 ＊4
7616 5G821	抗アクアポリン 4 抗体 (7616)	血清 **0.4**	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	3.0 未満 (−) U/mL	4 ～ 11	1000 免疫	※3 ＊4
1142 5G386	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗 MuSK 抗体) (4266)	血清 **0.3**	A1 ↓ G-1 凍結	RIA 法	0.02 未満 nmol/L	4 ～ 12	1000 免疫	※1、※2 ＊E
129 5G504	抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテイン I 複合体抗体 (抗 CL-β_2GP I 抗体) (4711)	血清 **0.3**	A1-1 冷蔵	ELISA 法	3.5 未満 U/mL	4 ～ 8	223 免疫	＊E
7438 5G508	抗カルジオリピン IgG 抗体 (EIA) (4038)	血清 **0.2**	A1-1 冷蔵	EIA 法	12.3 以下 U/mL	5 ～ 8	226 免疫	同時算定不可 ＊E
7439 5G510	抗カルジオリピン IgM 抗体 (EIA) (4039)	血清 **0.3**	A1-1 冷蔵	EIA 法	20.8 以下 U/mL	5 ～ 8	226 免疫	※4 ＊E
2721 5G501	ループスアンチコアグラント (LA) (2091)	乏血小板血漿 **0.7**	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	希釈ラッセル蛇毒試験 (DRVVT) 法	下表参照	2 ～ 4	265 免疫	抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限って算定する。
3360 5G502	(2436)	乏血小板血漿 **1.0**	D-3 ↓ G-1 凍結 下記参照	リン脂質中和法	1.16 以下	4 ～ 7		＊4

※ 1　重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
※ 2　抗アセチルコリンレセプター抗体（抗 AChR 抗体）と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
※ 3　視神経脊髄炎の診断（治療効果判定を除く。）を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。但し、この場合、前回の検査実施日及びその結果並びに検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
※ 4　抗カルジオリピン抗体 IgM は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に一連の治療につき 2 回に限り算定できる。

ループスアンチコアグラント（DRVVT法）結果の判定

T 1 ／ T2	判　定
1.3以上	(＋)
1.1以上 1.3未満	(＋−)
1.2未満	(−)

本試薬は凝固カスケードをバイパスして、第X因子を直接活性化するラッセル蛇毒を用い凝固時間を測定する試薬1と試薬1に過剰なリン脂質を加えた試薬2の凝固時間を測定し、凝固時間の比を求めてLAを検出します。

$$\frac{\text{試薬1（蛇毒）の凝固時間（T1）}}{\text{試薬2（蛇毒＋リン脂質）の凝固時間（T2）}}$$

A1-1
血清分離
冷蔵保存



D-3
血液を正確に 1.8mL 入れ転倒混和後、すみやかに室温にて 1,500G 以上 15 分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を 1.0mL 採取し、凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は測定結果に影響しますので注意してください。
※遠心機回転数の計算式
$G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$
r ＝ローター半径（cm）
n ＝回転数（rpm）
※遠心機回転数については巻末「容器一覧参照」



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
2519 5G551	PR3-ANCA (C-ANCA、抗好中球細胞質プロティナーゼ３抗体) (4558)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	3.5 未満 U/mL	3～5	250 免疫	
2518 5G552	MPO-ANCA (P-ANCA、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体) (4384)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	3.5 未満 U/mL	3～5	250 免疫	急性進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合において算定する。
4346 5G396	抗デスモグレイン１抗体 (抗 Dsg1 抗体) (4907)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	20.0 未満 U/mL	3～5	300 免疫	※1
4349 5G397	抗デスモグレイン３抗体 (抗 Dsg3 抗体) (4908)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	20.0 未満 U/mL	3～5	270 免疫	※2
4341 5G398	抗 BP180 抗体 (抗 BP180NC16a 抗体) (4945)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	9.0 未満 U/mL	3～5	270 免疫	※3
992 5G420	抗糸球体基底膜抗体 (抗 GBM 抗体) (4381)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	3.0 未満 U/mL	3～5	257 免疫	抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する
7571 5G440	精子不動化抗体 (4544)	血清 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	不動化法	判定　：(－) 不動化値：1.40 以下 (SIV 値) SI_{50}　：1.0 未満	4～8		＊E
5717 5C245	ロイシンリッチα2グリコプロテイン (LRG) (5717)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	16.0 未満 μg/mL	4～7	268 生化Ⅰ	※4 ＊E

※１　ア 天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ 落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン３抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※２　ア 天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省 難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ 尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン１抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※３　水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

※４　診療報酬算定について
ア LRG を潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定する場合は、３月に１回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を１月に１回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
イ 潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン（糞便）または大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

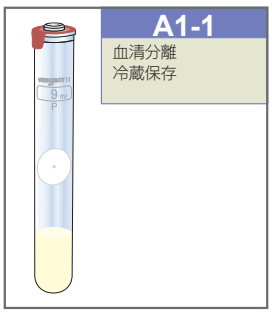
1.	2項目 自己抗体　320点
2.	3項目以上 自己抗体　490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
肝・胃関連自己抗体検査								
2735 5G555	抗 LKM1 抗体 (4115)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ELISA 法	index　判定 17 未満　(−) 17 ～ 49　(＋−) 50 以上　(＋)	5 ～ 11	215 免疫	※1 ＊4
264 5G175	抗ミトコンドリア抗体 (AMA) (4125)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	20 倍 未満	2 ～ 4	181 免疫	＊E
213 5G176	抗ミトコンドリア M2 抗体 (AMA-M2) (4399)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	7.0 未満 Index値	3 ～ 5	189 免疫	
375 5G180	抗平滑筋抗体 (4126)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	20 倍 未満	2 ～ 4		＊E
1082 5G185	抗胃壁細胞抗体 (4297)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	10 倍 未満	2 ～ 4		＊E
糖尿病関連自己抗体検査								
7387 5G360	インスリン抗体 (5431)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	RIA 法	0.4 未満 U/mL	5 ～ 10	107 免疫	動物検体受付不可 ＊E
2523 5G340	抗 GAD 抗体 (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体) (5376)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	ELISA 法	5.0 未満 U/mL	2 ～ 4	134 生化 II	すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。
5957 5G342	抗 IA-2 抗体 (5945)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	ELISA 法	0.6 未満 U/mL	5 ～ 12	213 生化 II	※2 ＊4

※ 1　ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、且つ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性である旨を記載すること。

※ 2　すでに糖尿病の診断が確定し、抗 GAD 抗体（抗グルタミン酸カルボキシラーゼ抗体）の結果、陰性が確認された患者に対し、1 型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。算定に当たっては、抗 GAD 抗体の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



A1-1
血清分離
冷蔵保存



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
免疫グロブリン								
105 5A010	IgG (4015)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	870 ～ 1700 mg/dL	2～4	38 免疫	
1483 5A056	IgG2 (4999)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	免疫比濁法	239 ～ 838 mg/dL	4～8	239 免疫	原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。 ＊1
7967 5A058	IgG4 (4298)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	LA 法	11 ～ 121 mg/dL	2～4	373 免疫	
106 5A015	IgA (4016)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	110 ～ 410 mg/dL	2～4	38 免疫	
107 5A020	IgM (4017)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	35 ～ 220 mg/dL	2～4	38 免疫	
補体関連物質								
168 5B023	C_3 (β_1C/β_1 A グロブリン) (4021)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	65 ～ 135 mg/dL	2～4	70 免疫	
169 5B024	C_4 (β_1E グロブリン) (4022)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	13 ～ 35 mg/dL	2～4	70 免疫	
1081 5B040	C1q (4025)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	ネフェロメトリー法	8.8 ～ 15.3 mg/dL	4～11		＊4
74 5B010	血清補体価 (CH_{50}) (4031)	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	Mayer 変法	30.0 ～ 46.0 CH_{50}/mL	2～4	38 免疫	

実施料について（自己抗体）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

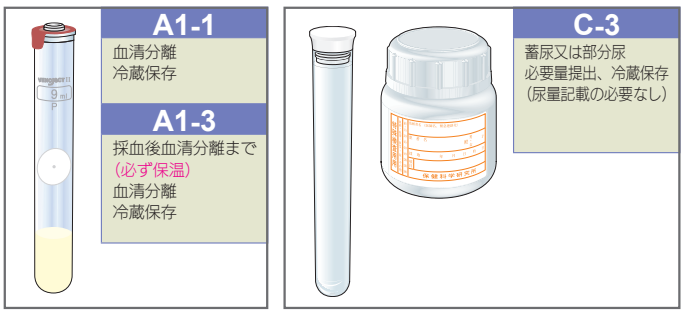
1. 2項目 自己抗体　320点
2. 3項目以上 自己抗体　490点

免疫学的検査

血漿蛋白免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
970 5C070	C 反応性蛋白 (CRP)	定性 (1056)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(−)	1〜2	16 免疫	
20 5C070		定量 (1158)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.30 以下 mg/dL	1〜2	16 免疫	併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
2525 5C080	血清アミロイド A 蛋白 (SAA) (1719)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	3.0 以下 mg/L	2〜4	47 免疫	
250 5A160	クリオグロブリン定性 (4127)		血清 **0.5**	**A1-3** 冷蔵	寒冷沈殿法	(−)	4〜6	42 免疫	血清分離まで保温
173 5C060	トランスフェリン (Tf) (4023)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA 法	M 190〜300 F 200〜340 mg/dL	2〜4	60 免疫	
8593 5A141	遊離 L 鎖 κ／λ比 (FLC) (4575)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	LA 法	κ鎖 3.3〜19.4 λ鎖 5.7〜26.3 mg/L κ／λ比 0.26〜1.65	5〜7	388 免疫	※1 ＊1
1079 5A135	免疫電気泳動 (免疫固定法による M 蛋白同定) (1691)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	免疫固定法	検出せず	5〜9	218 免疫	※1、※2、※3 ＊4
1080 5A145	尿中免疫電気泳動 (免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白 (BJP) 同定) (1692)		尿 **0.4**	**C-3** 冷蔵	免疫固定法	検出せず	5〜9	201 免疫	※3 ＊4
170 5C020	α1-アンチトリプシン (2225)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ネフェロメトリー法	94〜150 mg/dL	4〜8	80 血液	＊1

※1　免疫グロブリン L 鎖 κ／λ比と免疫電気泳動法（免疫固定法による M 蛋白同定）を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。
※2　免疫電気泳動法（免疫固定法による M 蛋白同定）については、同一検体につき一回に限り算定する。
※3　泳動後の判読のため、年齢・性別・臨床診断名あるいは臨床症状・その他参考データ等を明記してください。ベンス・ジョーンズ蛋白同定には早朝尿が望ましいです。検査結果は「検出せず」もしくは「M 蛋白を検出」の場合、その M 蛋白の種類も併せて報告いたします。



アレルギー関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
109 5A090	IgE (4019)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	1 歳未満　20 以下 1 ～ 3 歳　30 以下 4 ～ 6 歳　110 以下 7 歳以上　170 以下 IU/mL	2～4	100 免疫	
(　) 5A100	IgE シングルアレルゲン (　)	血清 **0.4** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	0.35 未満 U_A/mL	2～4	各110 免疫	※2 判定基準は表1、2 参照 アレルゲン種類 74頁参照
(　) 5A100	IgE マルチアレルゲン (　)	血清 **0.4** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	0.35 未満 U_A/mL	2～4	各110 免疫	※2 判定基準は表1参照 アレルゲン種類 75頁参照
6621 5A100	View アレルギー 39 (3921)	血清 **1.0**	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	0.27 未満 index値	2～4	1430 免疫	判定基準は表3参照 Viewアレルギー 39に 含まれるアレルゲン種類 75頁参照
1696 5A100	アトピー鑑別試験 (4483)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	(－)	2～4	194 免疫	アトピー鑑別に含まれる アレルゲン種類 75頁参照
4200 5J228	TARC (Th2 ケモカイン) (4943)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	小児(6～12 ヶ月)　：　1367 未満 小児(1～2歳)　：　998 未満 小児(2歳以上)　：　743 未満 成人　：　450 未満 pg/mL	2～5	179 免疫	※3 重症度判定の目安は表4 参照

※ 1　アレルゲン検査において、多項目を同時にご依頼の場合、下記算出式に基づいた必要量をおよその目安としてご提出ください。
アレルゲン必要量算出式＝〔0.3 ＋（0.1×依頼項目数）〕mL：
※ 2　特異的 IgE 1430 点を限度として算定する。
※ 3　TARC は、血清中の TARC 量を測定する場合に月一回に限り算定できる。

(表1) IgEシングルアレルゲン・マルチアレルゲン　判定基準

U_A/mL	0.35 未満	0.35～0.69	0.70～3.49	3.50～17.49	17.50～49.99	50.00～99.99	100 以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判　定	陰　性	陽　性					

U_A/mL：WHO の標準品 (U/mL) 検定。A はアレルゲン特異性を意味する。

(表2) Ara h 2 (ピーナッツ由来)　判定基準

U_A/mL	0.35 未満	0.35～3.99	4.00 以上
判　定	陰　性	疑陽性	陽　性

Ara h 2（ピーナッツ由来）は、他の IgE シングルアレルゲンと異なり、判定基準にクラス設定はありません。判定フローは 75 頁参照
(IgE シングルアレルゲン ピーナッツ陽性者が対象となります)

(表3) Viewアレルギー 39　判定基準

index 値	0.27 未満	0.27 以上 ～0.50 未満	0.50 以上 ～1.80 未満	1.80 以上 ～7.05 未満	7.05 以上 ～17.35 未満	17.35 以上 ～29.31 未満	29.31 以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判　定	陰　性	疑陽性	陽　性				

(表4) アトピー性皮膚炎の重症度判定の目安

	TARC 測定値	アトピー性皮膚炎の重症度の目安
成人	700 pg/mL 未満	軽症
	700 pg/mL 以上	中等症以上
小児 (2 歳以上)	760 pg/mL 未満	軽症
	760 pg/mL 以上	中等症以上

アレルギー

IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
5A100	13アレルゲンセット	鼻炎・喘息・結膜炎 (474)	血清各 **1.4** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	表1参照	2〜4	1430 免疫	アレルゲン種類 表5参照
5A100		小児アレルギー (475)							
5A100		アトピー性皮膚炎 (成人) (476)							
5A100		食物アレルギー (477)							
5A100		花粉症 (478)							
5A100		成人食物アレルギー (493)							
5A100	10アレルゲンセット	鼻炎・喘息・結膜炎 (466)	血清各 **1.0** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA 法	表1参照	2〜4	1100 免疫	アレルゲン種類 表5参照
5A100		小児アレルギー (467)							
5A100		アトピー性皮膚炎 (成人) (468)							
5A100		食物アレルギー (469)							
5A100		花粉症 (470)							

※1　検体量が記載量に満たない場合、全アレルギーの検査ができないことがあります。

(表 5) IgE 特異的アレルゲン（疾患別セット）の対象アレルゲン一覧

セット名称			鼻炎・喘息・結膜炎	小児アレルギー	アトピー性皮膚炎(成人)	食物アレルギー	花粉症	成人食物アレルギー
セット構成アレルゲン一覧	13アレルゲンセット	10アレルゲンセット	ハウスダスト 1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ（属） ガ ブタクサ カモガヤ 動物上皮 ※1 カビ ※1	ヤケヒョウヒダニ スギ 動物上皮 ※1 卵白 ミルク 小麦（食餌） ソバ ピーナッツ エビ カニ	ハウスダスト 1 ヤケヒョウヒダニ スギ ガ 小麦（食餌） ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※1 カビ ※1, ※2	卵白 オボムコイド ミルク 小麦（食餌） ソバ ピーナッツ エビ カニ イクラ 大豆	スギ ヒノキ ハンノキ（属） シラカンバ（属） コナラ（属） カモガヤ ギョウギシバ ブタクサ ヨモギ カナムグラ	小麦（食餌） ω -5 グリアジン エビ カニ サバ アニサキス ソバ キウイ Gly m 4 ハンノキ（属）
			ヨモギ ユスリカ（成虫） ゴキブリ	ゴキブリ オボムコイド イクラ	カンジダ マラセチア（属） アスペルギルス アルテルナリア	クルミ バナナ キウイ	ハルガヤ オオアワガエリ アキノキリンソウ	スギ カモガヤ ヤケヒョウヒダニ

※1 マルチアレルゲンを使用
※2 13セットでは対象外です。

疾患と年齢の組み合わせにより推奨する IgE 特異的アレルゲン疾患別セット

疾患名＼年齢	齢乳幼児 (0 歳〜就学前)	学童 (小学〜中学)	成人
鼻炎・結膜炎	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
気管支喘息	小児アレルギー 10、13 セット		
アトピー性皮膚炎			アトピー性皮膚炎(成人)10、13 セット
食物アレルギー	食物アレルギー 10、13 セット		
			成人食物アレルギー 13 セット
花粉症	花粉症 10、13 セット		

IgE アレルゲン一覧表

●シングルアレルゲン ※( ) 内数字はグループコードです

NO.	略号コード	アレルゲン名
House dust(室内塵)		
941	h1	ハウスダスト1 (4080)
942	h2	ハウスダスト2 (4081)
Mites(ダニ)		
943	d1	ヤケヒョウヒダニ (4078)
944	d2	コナヒョウヒダニ (4079)
1572	d70	アシブトコナダニ (4202)
1573	d71	ササヤアシニクダニ (4203)
1574	d72	ケナガコナダニ (4204)
Epithelia(動物上皮)		
945	e1	ネコ皮屑 (4085)
1549	e3	ウマ皮屑 (4215)
1550	e4	ウシ皮屑 (4216)
1551	e5	イヌ皮屑 (4217)
1552	e6	モルモット上皮 (4218)
1554	e70	ガチョウ羽毛 (4220)
1555	e77	セキセイインコのふん (4227)
1556	e78	セキセイインコの羽毛 (4228)
1633	e80	ヤギ上皮 (4230)
1557	e81	羊上皮 (4231)
1558	e82	家兎上皮 (4232)
1559	e83	豚上皮 (4233)
1560	e84	ハムスター上皮 (4234)
1561	e85	ニワトリ羽毛 (4235)
1562	e86	アヒル羽毛 (4244)
1637	e87	ラット (4247)
1636	e88	マウス (4248)
Insects(昆虫)		
1566	i1	ミツバチ (4206)
1567	i3	スズメバチ (4207)
1568	i4	アシナガバチ (4208)
1569	i6	ゴキブリ (4209)
1571	i7	ユスリカ(成虫) (4526)
1654	i8	ガ (4514)
1570	i71	ヤブカ(属) (4210)
Moulds and Yeasts(真菌〈カビ〉/細菌)		
1547	m1	ペニシリウム (4135)
956	m2	クラドスポリウム (4082)
957	m3	アスペルギルス (4083)
1548	m4	ムコール (4347)
961	m5	カンジダ (4089)
958	m6	アルテルナリア (4084)
1626	m8	ヘルミントスポリウム (4349)
1673	m80	エンテロトキシン A(SEA) (4222)
1674	m81	エンテロトキシン B(SEB) (4223)
1667	m205	トリコフィトン (4211)
1688	m218	Asp f 1(アスペルギルス由来) (4658)
699	m227	マラセチア(属) (4652)
Parasites(寄生虫)		
1563	p1	カイチュウ (4212)
1644	p4	アニサキス (4527)

NO.	略号コード	アレルゲン名
Occupational(職業性)		
6496	k72	オオバコ種子 (4507)
6497	k75	イソシアネート TDI (4508)
6498	k76	イソシアネート MDI (4509)
6499	k77	イソシアネート HDI (4510)
6501	k79	無水フタル酸 (4512)
6600	k80	ホルマリン (4638)
1670	k82	ラテックス (4635)
1685	k220	Hev b 6.02 (4655)
Trees(樹木花粉)		
1529	t1	カエデ(属) (4250)
1530	t2	ハンノキ(属) (4316)
955	t3	シラカンバ(属) (4096)
1532	t5	ブナ(属) (4256)
1533	t6	ビャクシン(属) (4257)
1534	t7	コナラ(属) (4269)
1535	t8	ニレ(属) (4270)
1536	t9	オリーブ (4271)
1537	t10	クルミ(属) (4272)
1539	t12	ヤナギ(属) (4274)
1546	t16	マツ(属) (4310)
963	t17	スギ (4134)
1543	t19	アカシア(属) (4285)
1641	t24	ヒノキ (4517)
1545	t70	クワ(属) (4288)
Weeds(雑草花粉)		
952	w1	ブタクサ (4136)
1513	w2	ブタクサモドキ (4289)
953	w3	オオブタクサ (4095)
1515	w5	ニガヨモギ (4294)
954	w6	ヨモギ (4094)
1516	w7	フランスギク (4295)
1517	w8	タンポポ(属) (4302)
1518	w9	ヘラオオバコ (4303)
1519	w10	シロザ (4305)
1521	w12	アキノキリンソウ (4313)
1527	w18	ヒメスイバ (4314)
1524	w20	イラクサ(属) (4317)
1648	w22	カナムグラ (4528)
Grasses(イネ科植物花粉)		
947	g1	ハルガヤ (4090)
948	g2	ギョウギシバ (4091)
949	g3	カモガヤ (4130)
1501	g4	ヒロハウシノケグサ (4318)
4502	g5	ホソムギ (4320)
950	g6	オオアワガエリ (4093)
1503	g7	アシ (4321)
951	g8	ナガハグサ (4092)
1504	g9	コヌカグサ(属) (4323)
1506	g10	セイバンモロコシ (4324)
1511	g15	小麦(属) (4341)
1512	g16	オオスズメノテッポウ (4342)
1508	g17	スズメノヒエ (4346)

NO.	略号コード	アレルゲン名
Foods(食餌性アレルゲン)		
959	f1	卵白 (4132)
960	f2	ミルク (4133)
1576	f3	タラ (4077)
964	f4	小麦 (4287)
1580	f5	ライ麦 (4087)
1581	f6	大麦 (4100)
1582	f7	オート麦 (4101)
1583	f8	トウモロコシ (4392)
1586	f9	米 (4284)
1597	f10	ゴマ (4386)
965	f11	ソバ (4292)
1584	f12	エンドウ (4102)
1577	f13	ピーナッツ (4319)
966	f14	大豆 (4249)
1616	f15	インゲン (4113)
1579	f17	ハシバミ (4120)
1585	f18	ブラジルナッツ (4121)
1578	f20	アーモンド (4123)
962	f23	カニ (4374)
967	f24	エビ (4371)
1587	f25	トマト (4377)
1591	f26	豚肉 (4301)
1600	f27	牛肉 (4395)
1588	f31	ニンジン (4389)
1589	f33	オレンジ (4401)
1592	f35	ジャガイモ (4398)
1593	f36	ココナッツ (4144)
1594	f37	ムラサキイガイ (4148)
1590	f40	マグロ (4325)
1596	f41	サケ (4307)
1595	f44	イチゴ (4167)
1601	f45	ビール酵母 (4168)
1598	f47	ニンニク (4383)
1599	f48	タマネギ (4380)
1602	f49	リンゴ (4169)
1662	f50	サバ (4516)
1655	f51	タケノコ (4518)
1656	f54	サツマイモ (4519)
1657	f55	キビ (4520)
1658	f56	アワ (4521)
1660	f58	イカ (4523)
1661	f59	タコ (4524)
1663	f60	アジ (4515)
1664	f61	イワシ (4525)
1603	f75	卵黄 (4304)
1604	f76	α - ラクトアルブミン (4171)
1605	f77	β - ラクトグロブリン (4172)
1606	f78	カゼイン (4190)
1619	f79	グルテン (4191)
1607	f80	ロブスター (4192)
1608	f81	チーズ (4193)
1621	f82	モールドチーズ (4501)
1609	f83	鶏肉 (4322)
1610	f84	キウイ (4194)
1611	f85	セロリ (4195)
1612	f86	パセリ (4196)

NO.	略号コード	アレルゲン名
1613	f87	メロン (4197)
1614	f88	羊肉 (4198)
1615	f89	マスタード (4199)
1620	f90	麦芽 (4200)
1618	f91	マンゴ (4201)
6559	f92	バナナ (4502)
6560	f93	カカオ (4503)
6561	f94	洋ナシ (4504)
6562	f95	モモ (4505)
6563	f96	アボカド (4506)
1680	f97	ヤマイモ (4646)
698	f202	カシューナッツ (4651)
1677	f207	アサリ (4641)
6565	f209	グレープフルーツ (4631)
6566	f214	ホウレンソウ (4632)
6567	f225	カボチャ (4633)
968	f233	オボムコイド (4224)
6568	f254	カレイ (4634)
1681	f256	クルミ (4644)
1678	f290	カキ(貝) (4642)
1682	f329	スイカ (4645)
1679	f338	ホタテ (4643)
1675	f349	イクラ (4639)
1676	f350	タラコ (4640)
1684	f353	Gly m 4 (4654)
697	f416	ω -5 グリアジン (4650)
1683	f423	Ara h 2 (4653)
1686	f441	Jug r 1(クルミ由来) (4656)
1687	f443	Ana o 3(カシューナッツ由来) (4657)
Drugs(薬物)		
6507	c73	ヒトインスリン (4513)
6599	c74	ゼラチン (4221)
Other(その他)		
6571	o1	綿 (4637)

IgE アレルゲン一覧表

●マルチアレルゲン ※（　　）内数字はグループコードです

NO.	略号	項　目　名	内　　容
1731	g × 5	イネ科花粉 (4020)	主なイネ科植物の花粉5種混合 ハルガヤ(g1)、ギョウギシバ(g2)、カモガヤ(g3)、オオアワガエリ(g6)、アシ(g7)
1732	w × 5	雑草花粉 (4029)	主なキク科植物の花粉5種混合 ブタクサ(w1)、ヨモギ(w6)、フランスギク(w7)、タンポポ属(w8)、アキノキリンソウ(w12)
1733	e × 2	動物上皮 (4067)	強力なアレルゲンといわれる動物のフケ5種混合 ネコ皮屑（e1)、イヌ皮屑（e5)、モルモット上皮（e6)、ラット（e87)、マウス（e88)
1734	m × 2	カビ (4070)	日常生活での区別が困難で交差性も少ないとされるカビ6 種混合 ペニシリウム(m1)、クラドスポリウム(m2)、アスペルギルス(m3)、カンジダ(m5)、アルテルナリア(m6)、ヘルミントスポリウム(m8)
1736	f × 5	食物 (4064)	幼小児の代表的食物アレルゲン5 種混合 卵白（f1)、ミルク（f2)、小麦（f4)、ピーナッツ（f13)、大豆（f14)
1735	f × 6	穀物 (4065)	三大アレルゲン（卵白、ミルク、大豆）に次いで注目されている穀物5 種混合 小麦（f4)、トウモロコシ（f8)、米（f9)、ゴマ（f10)、ソバ（f11)

●アトピー鑑別試験

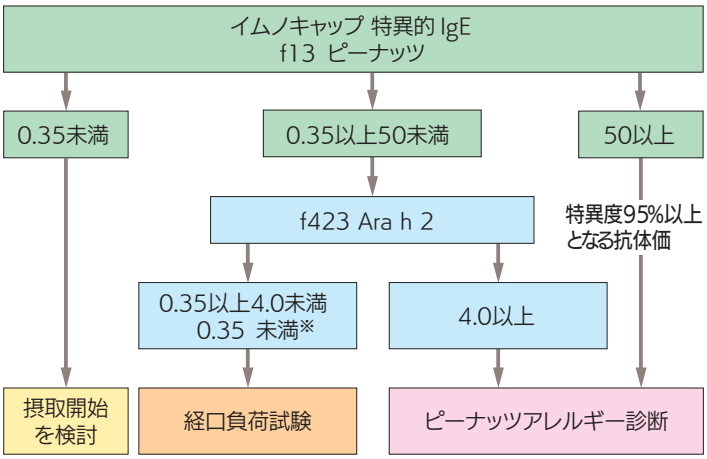
含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコの皮屑 イヌの皮屑 ギョウギシバ カモガヤ ブタクサ ヨモギ シラカンバ（属） スギ カンジダ アルテルナリア

●View アレルギー 39 に含まれるアレルゲン　一覧

室内塵	ハウスダスト 1	食餌性	エビ
ダニ	ヤケヒョウヒダニ		カニ
樹木花粉	スギ		ミルク
	ヒノキ		卵白
	ハンノキ(属)		オボムコイド
	シラカンバ(属)		ピーナッツ
イネ科花粉	カモガヤ		小麦
	オオアワガエリ		米
雑草花粉	ブタクサ		大豆
	ヨモギ		ソバ
動物上皮	ネコ皮屑		ゴマ
	イヌ皮屑		サバ
真菌<カビ>	カンジダ		マグロ
	アスペルギルス		サケ
	アルテルナリア		牛肉
	マラセチア(属)		鶏肉
昆虫	ガ		豚肉
	ゴキブリ		キウイ
職業性	ラテックス		バナナ

●ピーナッツアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



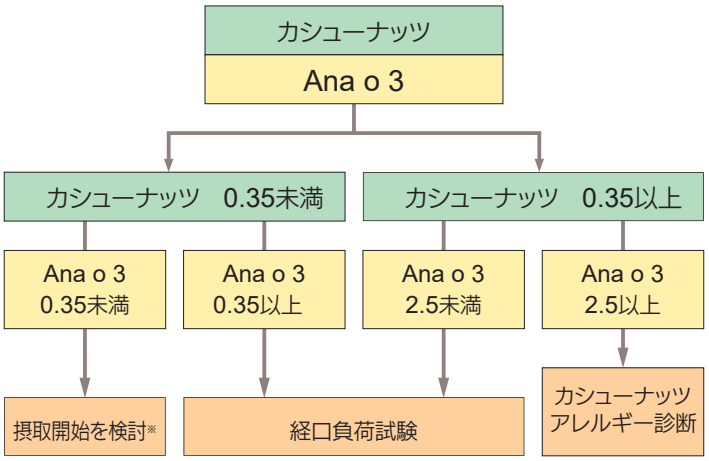
実際の診断には血液検査の結果だけではなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

※ピーナッツアレルギーでも f423 Ara h 2 陰性となる場合があります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

●カシューナッツアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



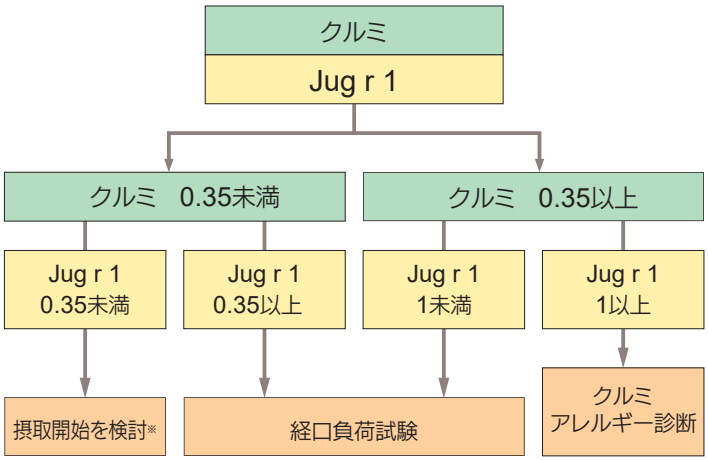
※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

●クルミアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。
※実際の診断には血液検査の結果だけでなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
B型肝炎ウイルス関連検査								
25 5F016	HBs 抗原定性 (4003)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	RPHA 法	(−)	2〜4	29 免疫	注1
63185 5F016	HBs 抗体定性 (4004)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	PHA 法	(−)	2〜4	32 免疫	
59 5F016	HBs 抗体半定量 (4035)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	PHA 法	8 倍 未満	2〜4	32 免疫	
61 5F016	HBs 抗原 (4001)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	0.05 未満 (−) IU/mL	1〜2	88 免疫	注1 ※1
62 5F016	HBs 抗体 (4002)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	10.0 未満 (−) mIU/mL	1〜2	88 免疫	10.0mIU/mLはHBVワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です(最小防御抗体価)。 ※1
63 5F019	HBe 抗原 (4006)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値　判定 1.00 未満　(−) 1.00 以上　(+)	1〜2	98 免疫	
64 5F019	HBe 抗体 (4007)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	Inhibition%　判定 50.0 未満　(−) 50.0 以上　(+)	1〜2	98 免疫	
65 5F018	HBc 抗体 (4005)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値　判定 1.00 未満　(−) 1.00 以上　(+)	1〜2	130 免疫	※1
118 5F018	HBc-IgM 抗体 (4236)	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値　判定 1.00 未満　(−) 1.00 以上　(+)	1〜2	146 免疫	同時算定不可

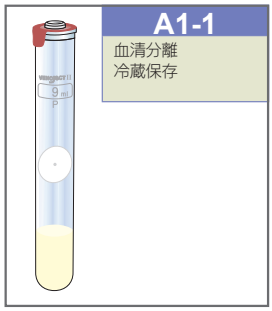
注 1　【HBV 感染の診断】B 型肝炎ウイルス（HBV）感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性又は陰性の検査結果のみにより行わず、HBc 抗体測定、HBV-DNA 定量検査等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。特に下記の場合は使用方法にご留意ください。

1. 健康診断時のスクリーニング検査
   できるだけ検出感度の高い EIA 法／化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、十分にご留意ください。
2. 緊急検査
   緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。
3. B 型肝炎と診断された患者の経過観察検査
   EIA 法／化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。

（注）HBV 感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ（空白）期間」と呼ばれており、ウインドウ期間に採取された血液では、HBs 抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性能】RPHA 法　最小検出感度 5.0IU/mL　　CLIA 法感度　0.05 IU/mL 以下

※ 1　免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B 型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に HBs 抗原、HBs 抗体及び HBc 抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者 1 人につきそれぞれ 1 回に限り算定できる。



実施料について（肝炎）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目
   肝炎　290点
2. 4項目
   肝炎　360点
3. 5項目以上の場合
   肝炎　425点

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検　査　項　目 （グループコード）	検体必要量 （mL）	容　器 保存方法 （安定性）	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
B型肝炎ウイルス関連検査								
4453 5F015	HBV-DNA 定量 （リアルタイム PCR 法） （4740）	全血 **5.0** 注 1	**カ** 凍結 下記参照	リアルタイム PCR 法	表 1 参照 Log IU/mL	3 〜 5	256 微生	※5
7641 5F018	高感度 HBc 関連 抗原定量 （4941）	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	2.1 未満 Log U/mL	4 〜 8	246 免疫	※1 ＊E
8529 5F015	HBV ゲノタイプ（判定） （4729）	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	型	4 〜 11	340 免疫	注2 ※2 ＊E
8524 5F037	HBV プレコア変異及び コアプロモーター変異遺伝子同定検査 （HBV-DNA PC・CP） （4925）	血清 **0.5** 全血 **2.0** 注 1	**カ** 凍結 下記参照	PCR ミニシーケンス法 ／特異プローブ法	（−） ※ 3 感度以下	5 〜 12	450 微生	※4 ＊E
A型肝炎ウイルス関連検査								
66 5F350	HA-IgG 抗体 （4485）	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値　判定 1.00 未満　（−） 1.00 以上　（+）	1 〜 2	146 免疫	同時算定不可
140 5F350	HA-IgM 抗体 （4097）	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	S/CO 値　判定 0.80 未満　（−） 0.80 〜 1.20　（±） 1.21 以上　（+）	1 〜 2	146 免疫	

注 1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

注 2　報告形式：A、B、C、D または「検出されず」HBs 抗原量が少なく、型判定が不可能な場合に「検出されず」とご報告いたします。国内ではまれな遺伝子型 E、F、G、H の検体における測定結果は検証されていません。

※ 1　HBV 感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、高感度 HBc 関連抗原定量を測定した場合に 1 月に 1 回に限り算定する。なお、HBV-DNA 定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※ 2　HBV ゲノタイプ（判定）は、B 型肝炎の診断が確定した患者に対して、B 型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者 1 人につき 1 回で算定できる。

※ 3　HBVDNA 検出結果、プレコア変異型及び比率、コアプロモーター変異型についてご報告します。低ウイルス量（概ね 2,000 コピー／ mL 未満）の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。

※ 4　B 型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者 1 人につき 1 回算定できる。B 型慢性肝炎患者に対しては、経過観察中に ALT 異常値などにより肝炎増悪が疑われ、且つ、抗ウイルス薬等の B 型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうち B 型肝炎に関する検査（但し、抗ウイルス薬等の B 型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く）は、算定できない。

※ 5　B 型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B 型肝炎の再活性化を考慮し行った場合は、当該治療中及び治療終了後 1 年以内に限り、月 1 回を限度として算定できる。

(表1)HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)の判定(単位：Log IU/mL)

	測定結果	判定
定量値	1.0〜9.1以上	陽　性
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陽　性*
増幅反応シグナル	(+)	
定量値	1.0未満	陰　性
増幅反応シグナル	(−)	

＊測定下限値が 1.0 未満であっても、増幅反応シグナルが（+）の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

A1-1



血清分離
冷蔵保存

カ



直接採血後 4 〜 5 回静かに転倒混和し常温にて 30 分〜 60 分放置してください。
凝固完了を確認後遠心器にて 10 〜 15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存してください。

分離剤入り
10mL管
※採血量は、8.0mL です。

免疫学的検査（ウイルス）

C型肝炎ウイルス関連検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1317 5F360	HCV 抗体 (4541)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	LPIA 法 及び CLEIA 法	cut off index　判定 ～ 0.9　(－) 1.0 ～　(＋)	1 ～ 2	102 免疫	※1
7540 5F360	HCV コア抗原 (4997)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	3.0 未満 fmol/L	2 ～ 4	102 免疫	
2404 5F360	HCV 群別 (4743)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	群判定　表 1 参照	2 ～ 7	215 免疫	C型肝炎の診断が確定した患者に対し、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。
4446 5F360	HCV-RNA 定量 （リアルタイム PCR 法） (7001)	全血 **5.0** 注 1	**カ** 凍結 下記参照	リアルタイム PCR 法	表 2 参照 Log IU/mL	3 ～ 5	412 微生	急性C 型肝炎の診断、C 型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
1340 5F360	ジェノタイプ HCV-RNA-PCR (7903)	全血 **2.0** 注 1	**カ** 凍結 下記参照	RT-PCR 法	Ⅰ型（1a）　(－) Ⅱ型（1b）　(－) Ⅲ型（2a）　(－) Ⅳ型（2b）　(－) Ⅴ型（3a）　(－)	4 ～ 7		

注 1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

※ 1　［重要な基本的注意］C 型肝炎ウイルス（HCV）感染の診断は抗体検査による検査結果のみで行わず、HCV-RNA 測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断してください。

(表1) HCV群別の判定と意義

判定	意義
グループ1	PCR法におけるⅠ型、Ⅱ型、に相当します。
グループ2	PCR法におけるⅢ型、Ⅳ型、に相当します。
判定保留	両グループの重複感染、あるいは過去の異なった時期にそれぞれのグループのウイルスに感染した可能性等が考えられます。どちらか一方のウイルスが排除されている可能性を否定しきれないので判定は保留とします。 (両グループの抗体が陽性)
判定不能	本検査試薬に用いている抗原に対する抗体が存在しないため、本法によってウイルスのグループ判定を行うことはできません。(両グループの抗体が陰性)

(表2) HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)の判定(単位：Log IU/mL)

	測定結果	判定
定量値	1.2 ～ 8.1 以上	陽性
増幅反応シグナル	(＋)	
定量値	1.2 未満	陽性*
増幅反応シグナル	(＋)	
定量値	1.2 未満	陰性
増幅反応シグナル	(－)	

＊ 測定結果が 1.2 未満であっても、増幅反応シグナルが（＋）の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

実施料について（肝炎）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目　肝炎　290点
2. 4項目　肝炎　360点
3. 5項目以上の場合　肝炎　425点

免疫学的検査（ウイルス）

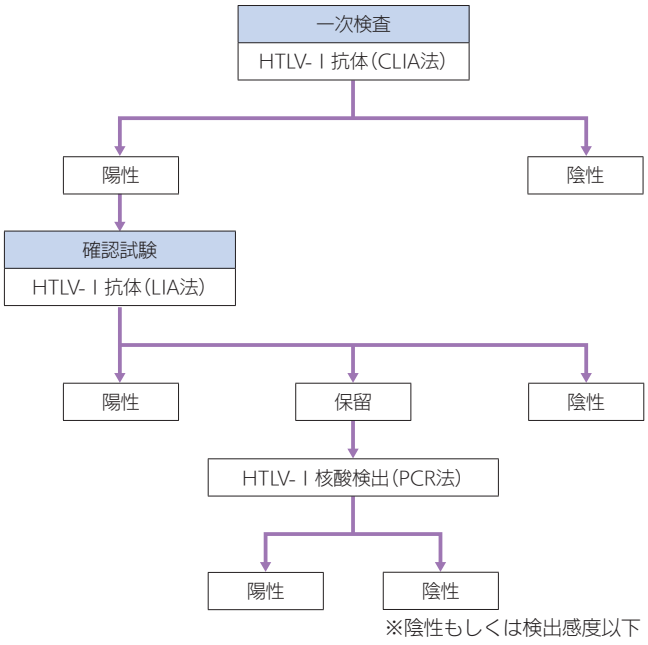
項目コード 統一コード	検　査　項　目 （グループコード）	検体必要量 （mL）	容　器 保存方法 （安定性）	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
レトロウイルス検査								
2531 5F450	HTLV-Ⅰ抗体（第３世代） （ATLA） （4265）	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	（－）	2～4	159 免疫	
3885 5F450	HTLV-Ⅰ抗体 〔ラインブロット法・LIA 法〕 （3663）	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	ラインブロット法 〔LIA 法〕	（－）表１参照	5～8	425 免疫	※1 ＊4

※１　HTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定する

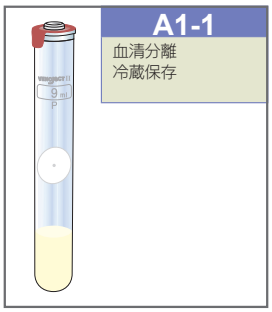
(表1)HTLV-Ⅰ抗体ラインブロット法の判定基準

ラインが認められない		陰　性
ラインが１本認められる（≧±）	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	陰　性
	env gp21が認められる	保　留
ラインが２本認められる（≧±）	env gp21が認められない	保　留
	env gp21が認められる	陽　性
ラインが３本認められる（≧±）		陽　性

(図1)HTLV-Ⅰ抗体検査フローチャート



※陰性もしくは検出感度以下





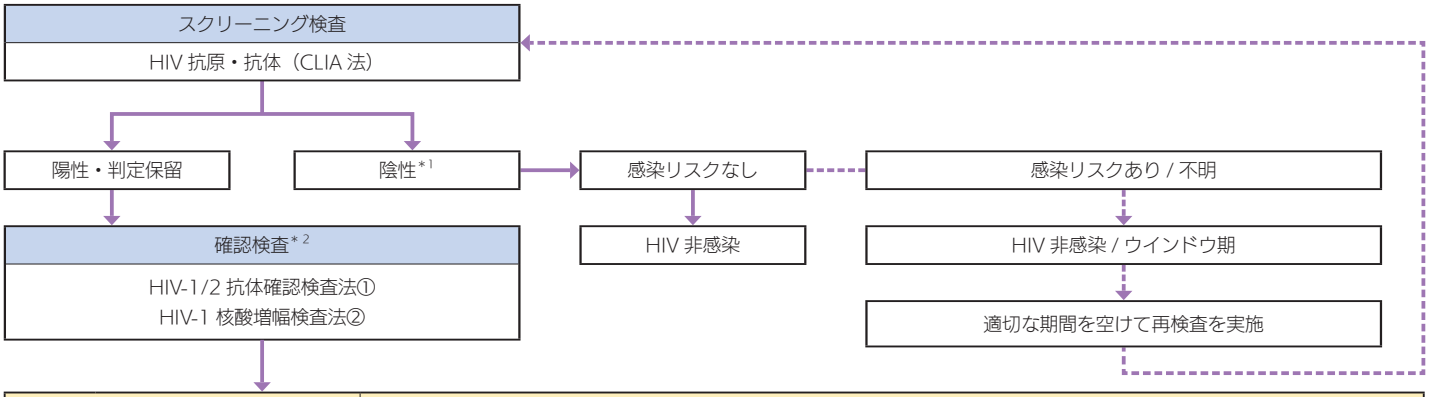
免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
レトロウイルス検査								
990 5F560	HIV 抗原・抗体 (4057)	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵 注1	CLIA 法	(−) 図 1 参照	2〜4	127 免疫	HIVスクリーニング検査 診療報酬請求の項目名称は「HIV-1、2 抗原・抗体同時測定定量」としての算定となります。
7300 5F560	HIV-1/2 抗体 確認検査 (4562)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵 注1	イムノクロマト法	(−)	3〜7	660 免疫	
4451 5F500	HIV-1RNA 定量 (リアルタイム PCR 法) (4737)	血漿 **2.1**	**ホ** 冷蔵 注1	リアルタイム PCR 法	2.0 × 10^1 未満 且つ 増幅反応シグナル (−) コピー /mL	4〜8	520 微生	※1 ＊1

注 1　HIV 関連検査は、他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。

※ 1　HIV 感染者の経過観察に用いた場合又は HIV-1 抗体価又は HIV 抗原・抗体が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。

(図 1) HIV 検査フローチャート・判定



①HIV-1/2抗体確認検査法			総合判定（可能性も含む）　②HIV-1核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	検出（定量下限値未満含む） 【陽性】	検出せず 【陰性】
陽性	陽性	HIV感染者	HIV-1およびHIV-2重複感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）、HIV-2感染者
	判定保留	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）
	陰性	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）
判定保留	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者およびHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1/2判定保留（2週間後再検査）
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1判定保留（HIV-1抗体偽反応）＜2週間後再検査＞
陰性	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者およびHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-2判定保留（HIV-1抗体偽反応）＜2週間後再検査＞
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染者	HIV非感染（リスクなし）またはHIV判定保留2週間後再検査（リスクあり）

＊1　感染が強く疑われる場合、または急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し再検査をすることをお勧めします。

＊2　HIV-1/2抗体確認試験では感染初期において（−）となることがあるため、HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR法）との同時依頼をお勧めします。

《留意事項》

① スクリーニング検査は、非特異反応によって偽陽性を呈することがあります。スクリーニング検査が陽性の場合は、必ず確認検査を実施してください。

② スクリーニング検査が陽性でWB法（HIV-1抗体）が陰性又は判定保留の場合、感染初期あるいはHIV-2感染の可能性もあります。

③ HIV-2抗体はHIV-1抗体との交差反応により、偽陽性を呈する場合があります。HIV-2抗体陽性あるいは判定保留時には、結果の解釈にご留意ください。

④ HIV-1RNA定量は、血中ウイルスが微量の場合、検出感度以下（定量下限値以下）且つ増幅反応シグナルが検出されない場合があります。

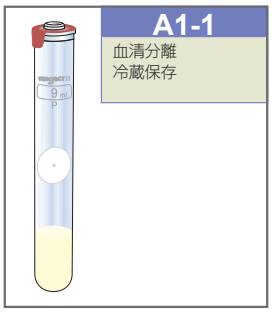
※ 測定結果が定量下限値以下であっても、増幅反応シグナルが検出の場合は、ウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

免疫学的検査（ウイルス）

ウイルス抗体検査（CF）

項目コード 統一コード	検査項目（グループコード）	検体必要量（mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
324 5F190	単純ヘルペス（HSV）（7035）	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CF法	4倍未満	5〜8	79 免疫	
6001	（7113）	髄液 **0.5**	**X1** 冷蔵		1倍未満			
325 5F193	水痘・帯状ヘルペス（VZV）（7036）	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵		4倍未満			
6002	（7117）	髄液 **0.5**	**X1** 冷蔵		1倍未満			
326 5F194	サイトメガロ（CMV）（7037）	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵		4倍未満			
6009	（7118）	髄液 **0.5**	**X1** 冷蔵		1倍未満			＊E
322 5F432	ムンプス（7040）	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵		4倍未満			
6003	（7119）	髄液 **0.5**	**X1** 冷蔵		1倍未満			＊4
328(6010) 5F150	アデノ（7041）	血清各 **0.3** 又は 髄液各 **0.5**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵		血清4倍未満 髄液1倍未満	3〜5		＊E
329(6007) 5F400	インフルエンザ A型（7058）							
330(6008) 5F410	インフルエンザ B型（7059）							
336(6011) 5F430	RS（7042）							
337(6367) 5F385	日本脳炎（7043）							
348(6018) 5F289	コクサッキーA群 9型（7045）							
341(6012) 5F301	コクサッキーB群 1型（7046）							
342(6013) 5F302	コクサッキーB群 2型（7047）							
343(6014) 5F303	コクサッキーB群 3型（7048）							
344(6015) 5F304	コクサッキーB群 4型（7049）							
345(6016) 5F305	コクサッキーB群 5型（7050）							
346(6017) 5F306	コクサッキーB群 6型（7051）							

（注） 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。
又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。





免疫学的検査（ウイルス）

ウイルス抗体検査（HI）

項目コード 統一コード	検査項目 （グループコード）		検体必要量 （mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
314 5F395	風疹 （7038）		血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵		血清 8 倍未満	3〜5	79 免疫	
357(6376) 5F400	インフルエンザ	A 型 （H_1N_1）（H_3N_2） （7224）	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵		血清 10 倍未満 髄液 10 倍未満	4〜9		
358(6372) 5F410		B 型 （山形系統）（ビクトリア系統） （7227）							
332 5F421	パラインフルエンザ	1 型 （7061）	血清各 **0.2**	**A1-1** 冷蔵		血清 10 倍未満	4〜9		
333 5F422		2 型 （7062）							
334 5F423		3 型 （7063）							
2417(6368) 5F385	日本脳炎 （JaGAr 株） （7222）		血清 **0.2** 又は 髄液 **0.4**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵		血清 10 倍未満 髄液 10 倍未満	5〜13		＊E

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2〜3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 （グループコード）	検体必要量 （mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
ウイルス中和抗体検査（NT）								
1356(6099) 5F191	単純ヘルペス（HSV） 1型 (7110)	血清各 **0.3** 又は 髄液各 **0.3**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	NT法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	8〜14	79 免疫	
1357(6100) 5F192	単純ヘルペス（HSV） 2型 (7111)	血清各 **0.3** 又は 髄液各 **0.3**						
1359(6098) 5F432	ムンプス (7147)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**				8〜16		
910(6128) 5F151	アデノ 1型 (7196)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.5**				9〜17		＊E
911(6129) 5F152	アデノ 2型 (7197)							
912(6130) 5F153	アデノ 3型 (7198)							
913(6131) 5F154	アデノ 4型 (7199)							
914(6132) 5F155	アデノ 5型 (7200)							
915(6133) 5F156	アデノ 6型 (7201)							
916(6134) 5F157	アデノ 7型 (7202)							
917(6135) 5F158	アデノ 8型 (7203)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**			血清 8 倍未満 髄液 1 倍未満	12〜19		＊1
918(6136) 5F161	アデノ 11型 (7204)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.5**			血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	9〜17		＊E
919(6137) 5F169	アデノ 19型 (7205)							
(　　) 5F171	アデノ 21型 (7441)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**				10〜18		＊4
2418 5F177	アデノ 37型 (7731)							
1358(6096) 5F430	RS (7215)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**				8〜16		＊E
1360(6097) 5F431	麻疹 (7214)							

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2〜3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。

（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

ウイルス中和抗体検査（NT）

項目コード 統一コード	検査項目 （グループコード）		検体必要量 （mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1347(6104) 5F282	コクサッキー A 群	2 型 (7402)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	NT 法	血清 4 倍未満 髄液 1 倍未満	9 ～ 17	79 免疫	＊E
1347(6104) 5F283		3 型 (7403)							
1365(6281) 5F284		4 型 (7209)							
1367(6282) 5F285		5 型 (7404)							
1368(6283) 5F286		6 型 (7210)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**				8 ～ 14		＊4
901(6106) 5F287		7 型 (7211)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**				9 ～ 17		＊E
902(6107) 5F289		9 型 (7212)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.3**						
1366(6108) 5F290		10 型 (7213)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**						
903(6109) 5F296		16 型 (7120)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.3**						
904(6110) 5F301	コクサッキー B 群	1 型 (7121)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**						
905(6111) 5F302		2 型 (7122)							
906(6112) 5F303		3 型 (7123)							
907(6113) 5F304		4 型 (7124)							
908(6114) 5F305		5 型 (7125)							
909(6115) 5F306		6 型 (7126)							
920(6116) 5F311	エコー	1 型 (7176)							
921(6117) 5F313		3 型 (7177)							
922(6118) 5F314		4 型 (7178)							
923(6140) 5F315		5 型 (7179)							

(注)（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2～3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8 項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

ウイルス中和抗体検査（NT）

項目コード 統一コード	検査項目 （グループコード）		検体必要量 （mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
924(6119) 5F316	エコー	6型 (7180)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.2**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	9 ～ 17	79 免疫	
925(6120) 5F317		7型 (7181)							
926(6121) 5F319		9型 (7182)							
927(6284) 5F321		11型 (7183)							
928(6285) 5F322		12型 (7184)							
929(6122) 5F323		13型 (7185)							
930(6286) 5F324		14型 (7186)							
931(6123) 5F326		16型 (7187)							
932(6124) 5F327		17型 (7188)							
933(6125) 5F328		18型 (7189)							
934(6287) 5F329		19型 (7190)							
935(6288) 5F331		21型 (7191)							
936(6289) 5F332		22型 (7192)							
937(6290) 5F334		24型 (7193)							
938(6126) 5F335		25型 (7194)							
939(6127) 5F340		30型 (7195)							
355(6138) 5F270	エンテロ	70型 (7136)							
356(6139) 5F271		71型 (7137)							＊E

(注) (1)ウイルス感染症の診断は原則として急性期(発病初期)と回復期(2～3週間後)の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。

(2) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

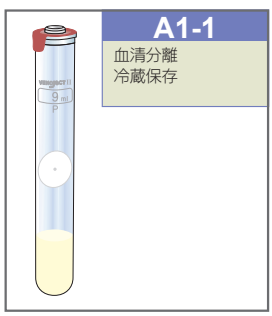
ウイルス抗体検査（FA）

項目コード 統一コード	検査項目（グループコード）	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
366 5F202	EBウイルス 抗 VCA IgG 抗体 (7065)	血清各 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	FA 法	血清 10 倍未満	4～8	200 免疫	＊1
368 5F202	抗 VCA IgM 抗体 (7067)							
369 5F203	抗 EA-DR IgG 抗体 (7068)							
379 5F204	抗 EBNA 抗体 (7070)						79 免疫	＊1
367 5F202	抗 VCA IgA 抗体 (7066)							
370(6084) 5F203	抗 EA-DR IgA 抗体 (7069)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵		血清 10 倍未満 髄液 1 倍未満	4～8		＊E
1345(6280) 5F203	抗 EA-DR IgM 抗体 (7074)							

ウイルス抗体検査（EIA）

項目コード 統一コード	検査項目（グループコード）	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
351 5F203	EBウイルス 抗 EA IgG 抗体 (7895)	血清各 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	抗体指数 判定 0.5 未満 (−) 0.5 ～ 0.9 (±) 1.0 以上 (+)	4～8	200 免疫	＊E
354 5F204	抗 EBNA IgG 抗体 (7896)							
353 5F202	抗 VCA IgG 抗体 (7897)							
352 5F202	抗 VCA IgM 抗体 (7898)							
2412 5F011	ヒトパルボB19 IgG 抗体 (7167)	血清各 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照	3～6		
2413 5F011	ヒトパルボB19 IgM 抗体 (7250)						200 免疫	紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。同一ウイルスについて、IgGウイルス抗体価及びIgMウイルス抗体価を測定した場合は、いずれか一方の点数を算定する。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。





(表1)ヒトパルボB19 IgG・IgM 抗体判定基準

判定	指数
(−)	0.80未満
(+−)	0.80~0.99
(+)	1.00以上

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目 （グループコード）		検体必要量 （mL）	容器 保存方法 （安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
ウイルス抗体検査（EIA）									
7531 5F395	風疹 IgG 抗体〔CLEIA〕 (7022)		血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	抗体価（IU/mL） 判定 10 未満 (−) 10 ～ 15 (±) 15 以上 (+)	2～5	200 免疫	
7654	風疹	IgG 抗体 (7654)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照	3～5	200 免疫	
386 5F395		IgM 抗体 (7238)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照			
7657	麻疹	IgG 抗体 (7657)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照	3～5	200 免疫	
1378 5F431		IgM 抗体 (7142)	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照			
1316(6063) 5F190	単純ヘルペス (HSV)	IgG 抗体 (7139)	血清各 **0.2** 又は 髄液各 **0.4**	**A1-1**又は **X-2** 冷蔵	EIA 法	表 1 参照	3～6	200 免疫	
1321 5F190		IgM 抗体 (7241)	血清各 **0.2**						
1375 5F193	水痘・ 帯状ヘルペス (VZV)	IgG 抗体 (7140)						200 免疫	
1376 5F193		IgM 抗体 (7244)							
7902 5F194	サイト メガロ ウイルス (CMV)	IgG 抗体 (7902)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	表 2 参照	2～4	200 免疫	
7999 5F194		IgM 抗体 (7999)							
1323 5F432	ムンプス	IgG 抗体 (7116)	血清各 **0.2**		EIA 法	表 1 参照	3～6	200 免疫	
1312 5F432		IgM 抗体 (7115)							

(注) 検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。同一ウイルスについて、IgGウイルス抗体価及びIgMウイルス抗体価を測定した場合は、いずれか一方の点数を算定する。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

(表1)ウイルス抗体検査(EIA)判定基準

		判定	EIA価
血清	IgG	(−)	2.0 未満
		(+−)	2.0～3.9
		(+)	4.0 以上
	IgM	判定	抗体指数
		(−)	0.80 未満
		(+−)	0.80～1.20
		(+)	1.21 以上

	判定	EIA価
髄液 IgG	(−)	0.20 未満
	(+−)	0.20～0.39
	(+)	0.40 以上

(表2)サイトメガロウイルス IgG・IgM 抗体判定基準

	判定	AU/mL
IgG	(−)	6.0 未満
	(+)	6.0 以上

	判定	S/CO
IgM	(−)	0.85未満
	(+−)	0.85～0.99
	(+)	1.00以上

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
ウイルス分離・同定								
1379 6B655	ウイルス分離 (7031)	下記参照	ト 下記参照	細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		5 〜 72		
1380 6B705	ウイルス同定 (7032)	下記参照	ト 下記参照	標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		14 〜 80		＊4

〈使用している細胞〉

ウイルス分離・同定検査は以下の細胞を使用しています。
PHfb（ヒト繊維芽細胞）、HEp-2（ヒト喉頭癌細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、MA104（アカゲザル腎細胞）、RD-18S（ヒト横紋筋腫細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、B95a（マーモセットB細胞）、AGMK（アフリカミドリザル腎細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞）

〈検査材料〉

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー、ポリオ	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状ヘルペス、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
嘔吐下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	結膜ぬぐい液

〈検体採取及び保存方法〉

検査材料	培養細胞試験管に採取する場合
患部ぬぐい液・水疱内容 糞便など	滅菌綿棒でぬぐい、右記の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁など	右記の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。
組　　織	組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存してください。

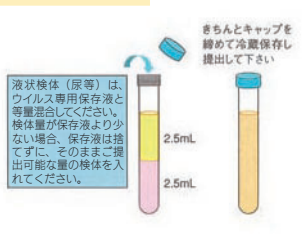
患部ぬぐい液等

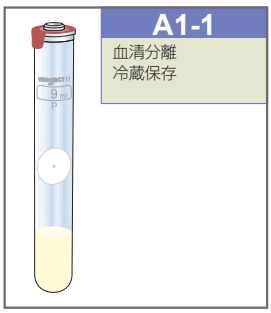


糞便

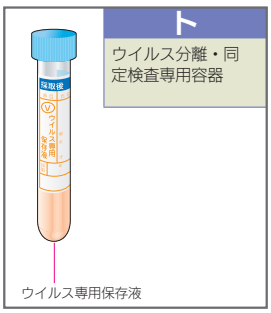


尿・液状検体等







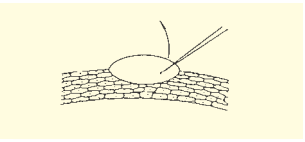


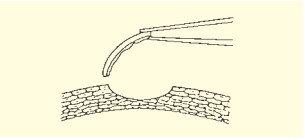
免疫学的検査（ウイルス）

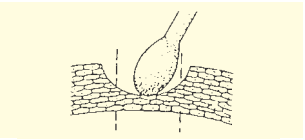
項目コード 統一コード	検　査　項　目 （グループコード）	検体必要量 （mL）	容　器 保存方法 （安定性）	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗原検査								
391 5F190	単純ヘルペスウイルス（HSV）抗原 （7033）	患部細胞	U 凍結	FA 法	（－）	2～4	180 免疫	1型2型同定 ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合算定できる。
2675 5F193	水痘帯状ヘルペス（VZV）抗原 （7019）	患部細胞	T 凍結	FA 法	（－）	2～4	227 免疫	
7790 5F630	ノロウイルス抗原定性 （7790）	糞便 **0.5g**	イ 凍結	イムノクロマト法	（－）	2～4	150 免疫	※1

※1　ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。
ア 3歳未満の患者
イ 65歳以上の患者
ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者
エ 臓器移植後の患者
オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

単純ヘルペスウイルス抗原・水痘帯状ヘルペス抗原　検体採取保存方法

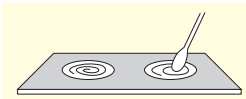




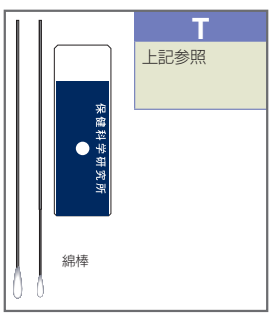


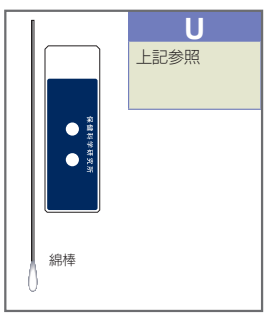
なるべく早期の水疱病巣から検体を採取してください。
水疱内溶液は検体として不適当です。

① 水泡がある場合は、滅菌針を用いて上部の皮膚をはがし、水疱内溶液を除去して病巣基底部を露出させます。
② ポリエステル綿棒を精製水で軽く湿らせます。病巣基底部全面を強くぬぐいます。
・ウイルス感染細胞は病巣基底部の細胞を採取する必要があります。
・患者が痛いという位強くぬぐうことが大切です。
・膿が出ている場合は、清潔な**綿棒**でまず膿をぬぐい去った後、別の綿棒で細胞を擦過してください。
③ 採取した検体（**擦過細胞**）を、無蛍光スライドグラス T 又は U のウェル内に円を描くように、綿棒を回転させながら塗抹します。
この時、こすったりせず軽く叩くように塗抹してください。



④ 綿棒を捨てる前に検体がウェル内に均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていればウェルが不透明に見えます。透明に見える部分があればそこに綿棒をあてて再び塗抹します。
⑤ そのままよく風乾します。
完全に乾燥させないと後の処理の途中で、検体がはがれ落ちる原因となります。
⑥ アセトンで固定します。
無蛍光スライドグラスの検体を塗抹した面を上にし水平に置き、検体の上に約 0.5mL のアセトンを滴下し、アセトンを蒸発させます。
⑦ 提出容器に納め、凍結保存してください。







免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　　考
抗原検査								
3340 5F101	HPV-DNA 簡易ジェノタイプ (16型、18型その他ハイリスクグループ) (7611)	子宮頸部擦過細胞	**W4**又は **W1** 冷蔵 注1	リアルタイム PCR 法	16 型　(−) 18 型　(−) その他 ハイリスクグループ　(−)	3〜6	347 微生	※1、※2、※3 血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。
7581 5F101	HPV-DNA ジェノタイプ (ハイリスク 13 種) (7581)	子宮頸部擦過細胞	**W4** 冷蔵 注1	PCR-rSSO 法	(−)	4〜12	2000 微生	※2、※4、※5
7541 5F100	HPV-DNA 型別 (7541)	子宮頸部擦過細胞	**W4** 冷蔵 注1	PCR-rSSO 法	(−)	4〜12		

※1　予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上 ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

※2　HPV 核酸検出の施設基準を届け出ている保健医療機関のみ算定できる。

※3　HPV 核酸検出と HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定する。

※4　予め行われた組織診断の結果、CIN1 又は CIN2 と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型 HPV のそれぞれの有無を確認した場合に算定する。

※5　予め行われた組織診断の結果及び組織診断の実施日、及び当該検査によって選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又、同一の患者について、当該検査を 2 回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日、及び前回選択した治療（その後通常の検診となった場合はその旨）を上記に併せて記載する。

注1　コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意ください。又、他項目との重複依頼は避けてください。

(表1)HPV-DNA検出対象HPV型一覧

項目コード (グループコード)	検　査　項　目	検出対象HPV型	備　　考
3340 (7611)	HPV-DNA簡易ジェノタイプ (16型、18型、その他ハイリスク)	16、18及び、その他高リスク型(31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66、68)のHPVを検出します。	16、18型については型別判定を行います。その他高リスクは型別判定ではありません。
7581 (7581)	HPV-DNAジェノタイプ (ハイリスク13種)	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型 のHPVを検出します。	型別判定を実施し、 検出された型のみをご報告します。
7541 (7541)	HPV-DNA型別	6、11、16、18、26、31、33、35、39、42、44、45、51、52、53、54、55、56、58、59、61、62、66、68、70、71、73、82、84、90およびCP6108型のHPVを検出致します。	型別判定を実施し、検出された型のみをご報告します。なお、下線のあるHPV型は陽性と判定してご報告します。

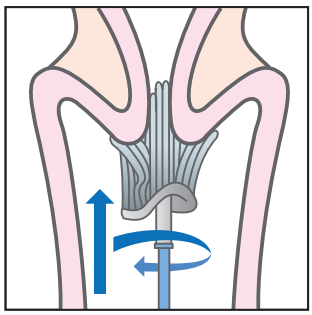
HPV検体採取方法

W4 液状検体細胞診〔LBC〕シンプレップ



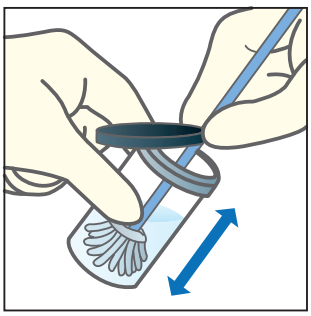
W1 液状検体細胞診〔LBC〕シュアパス





①綿棒等以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用い検体を採取します。

(注) HPV 検査と細胞診を提出される場合、採取した細胞を先にスライドガラスに塗抹します。



②ブラシを容器に入れ、容器の底で毛先が広がるように 10 回程度押し付けます。
さらに、強くかき回して、採取した細胞を洗い落とします。



③ブラシを取り出して廃棄し、しっかり蓋をして検体を冷蔵保存にて提出してください。

(注) W4：ブラシの先端は容器に残さないでください。

(注意)
妊婦より検体を採取する場合は安全性を考慮してブラシ等の採取器具の使用は避け、安全性の高い綿棒を使用してください。但し、綿棒では適切な細胞量が採取できないこともあるため取り直しが必要になることもあります。綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血液形態・機能検査								
402 2A010	**白血球数** (WBC) (2001)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	フローサイトメトリー法	M 3900～9800 F 3500～9100 /μL	1～2	21 血液	緊急 (対象：WBC、RBC、Hb、PLT) 凍結不可 末梢血液一般検査
401 2A020	**赤血球数** (RBC) (2002)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	電気抵抗法	M 427～570 F 376～500 ×10⁴/μL	1～2		
403 2A030	**ヘモグロビン** (Hb)（血色素量） (2003)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	SLS-ヘモグロビン法	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 g/dL	1～2		
404 2A040	**ヘマトクリット** (Ht) (2004)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	赤血球パルス波高値検出法	M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 %	1～2		
405 2A060	**MCV** (平均赤血球容積) (2103)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	計算法	M 83～102 F 79～100 fL	1～2		
406 2A070	**MCH** (平均赤血球血色素量) (2104)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	計算法	M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 pg	1～2		
407 2A080	**MCHC** (平均赤血球血色素濃度) (2105)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	計算法	M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 %	1～2		
408 2A050	**血小板数** (PLT) (2005)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	電気抵抗法	13.0～36.9 ×10⁴/μL	1～2		
409 2A160	**白血球像** (2174)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	自動機械法	下記参照 %	1～3	15 血液	緊急 (対象：白血球像) 精査は鏡検法により実施致します。※1、2 凍結不可 標本による受託も可能です。 ※3
410 2A160	**赤血球像** (2175)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	鏡検法	赤芽球 (−) 大小不同 (−) 多染性 (−) 奇形 (−)	1～3		

※1　次の場合、鏡検法による精査分類の上好中球を桿状核球と分葉核球に分けてご報告します。
①血液疾患加療中の患者、又はその疑いのある患者で特別に指示のある場合、②芽球、異型リンパ球の出現。③好中球左方移動、④有核赤血球の出現、⑤血球計算値に異常が認められたとき、又は百分率が基準値を大きく超えた場合。

※2　白血球像の結果における(+)の報告表現は、百分率：1.0%未満を示します。

※3　好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

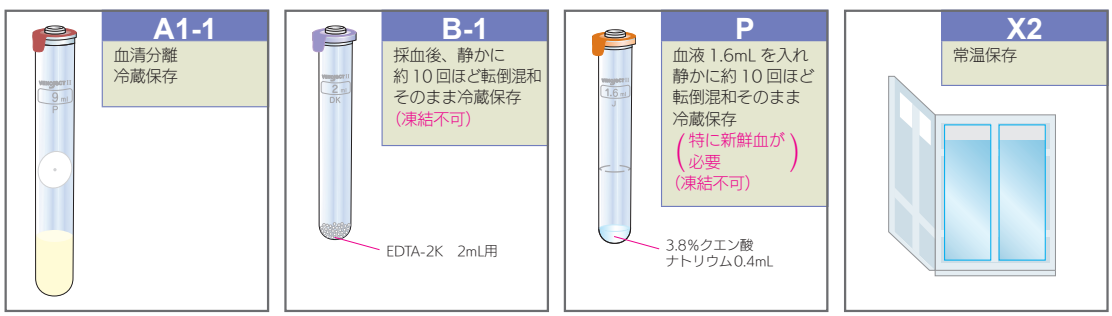
白血球像基準値(単位：%)

細胞の種類		基準値
好塩基球 (Baso)		0.0～3.0
好酸球 (Eosino)		0.0～10.0
好中球 (Neutro)		35.0～73.0
※1	桿状核球 (Stab)	0.0～18.0
※1	分葉核球 (Seg)	27.0～72.0
リンパ球 (Lympho)		20.0～51.0
単球 (Mono)		2.0～12.0

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
血液形態・機能検査								
414 2A110	網赤血球数 (2009)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	フローサイトメトリー法及び Brecher 法	2 ～ 27 ‰	1 ～ 3	12 血液	凍結不可
472 2A090	好酸球数 (2010)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	白血球数及び白血球像による計算法	70 ～ 450 /μL	1 ～ 2	17 血液	凍結不可 ※3
412 2Z030	全血比重 (GB) (2037)	全血 **2.0**	**B-1** 冷蔵	間接法 (Phillips らの方法)	M　1.055 ～ 1.063 F　1.052 ～ 1.060	1 ～ 2		凍結不可
411 2Z010	赤血球沈降速度 (ESR) (2100)	全血 **1.6**	**P** 冷蔵	Westergren 法	M　2 ～ 10 F　3 ～ 15 mm/h	1 ～ 2	(9) 血液	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
232 3H045	浸透圧 (1183)	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	氷点降下法	275 ～ 290 mOsm/kgH_2O	2 ～ 4	15 血液	緊　急
2528 2A400	マラリア原虫 (2043)	全血 **1.0**	**B-1** 冷蔵	鏡検法	(－)	2 ～ 4	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
2557 2A410	フィラリア原虫 (2044)	全血 **1.0**	**B-1** 冷蔵	鏡検法	(－)	2 ～ 4	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
1978 2A170	骨髄像 (2008)	骨髄塗抹標本 (未固定) **2** ～ **3** 枚 注 1	**X2** 常温	鏡検法 (May-Giemsa 染色)		6 ～ 10	788 血液	診断に特殊染色が必要とされる場合、追加検査推奨の連絡をさせていただきます。

注1　骨髄像検体提出注意事項　塗抹後できるだけ早く乾燥させてください。メイギムザ染色をしますので未固定の状態でお送りください。特にペルオキシダーゼ染色は、メタノールなどの固定後は染色できませんので未固定の状態でお送りください。

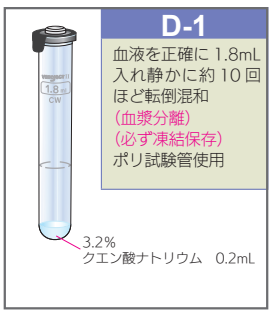
※3　好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。



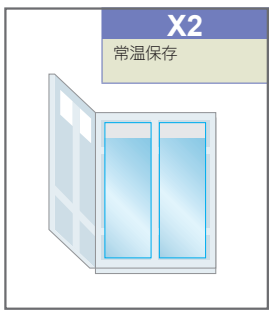
血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血液形態・機能検査								
2499 2A180	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2229)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	朝長法	陽性率 % 陽性指数	3〜6	血液	休日の前日は受付できません。 骨髄像の場合加算60点 ※1
2497 2A200	曜日指定 PAS 染色 (2332)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	Schiff 法	陽性率 %	3〜6	血液	
2498 2A230	曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 (2215)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	ICSH 標準法 (改良法)	陽性率 %	3〜6	血液	
2549 2A190	曜日指定 エステラーゼ染色 (2254)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	二重染色法 (α -NB・NAS-D 法)	α -NB % AS-D % α -NB+AS-D % NaF 阻止率 %	3〜6	血液	
2500 2A240	曜日指定 鉄染色 (2278)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	ベルリン青反応	ジデロブラスト：20〜50 %	3〜6	血液	
427 2A180	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP 染色) (2177)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	朝長法	陽性率 M 60.5〜99.5 F 67.5〜99.5 % 陽性指数 M 170〜335 F 189〜367	3〜6	血液	休日の前日は受付できません。 末梢血液像の場合加算52点
429 2A200	曜日指定 PAS 染色 (2299)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	Schiff 法	陽性率 %	3〜6	血液	
428 2A230	曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 (2180)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	ICSH 標準法 (改良法)	陽性率 %	3〜6	血液	
430 2A190	曜日指定 エステラーゼ染色 (2060)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	二重染色法 (α -NB・NAS-D 法)	α -NB % AS-D % α -NB+AS-D % NaF 阻止率 %	3〜6	血液	
2202 2A240	曜日指定 鉄染色 (2279)	骨髄塗抹標本 (未固定) **3** 枚	**X2** 常温	ベルリン青反応	ジデロサイト：0〜3 %	3〜6	血液	

※1　骨髄像と同時依頼された場合、所要日数は6〜10日となります。







項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
凝固系一般検査								
417 2B030	プロトロンビン時間 (PT) (2029)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	Quick 変法	PT INR 値 0.88～1.17 PT 活性　66.0～127.6 % PT 時間　9.4～12.2 秒 ※1	1～3	18 血液	緊急
421 2B020	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) (2030)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	エラジン酸活性化法	24.0～34.0 秒	1～3	29 血液	緊急
凝固因子関連検査								
419 2B100	フィブリノゲン定量 (Fib) (2033)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	トロンビン時間法	160～410 mg/dL	1～3	23 血液	緊急
481 2B350	第Ⅱ因子 (2404)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
482 2B370	第Ⅴ因子 (2405)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
483 2B380	第Ⅶ因子 (2406)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
484 2B390	第Ⅷ因子 (2407)	血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	60～140 %	2～7	223 血液	

※1　PT時間(秒)：健常者参考値です。PT時間は試薬の力価により若干の変動があります。

実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
   出血・凝固　530点
2. 5項目以上
   出血・凝固　722点

血液学的検査

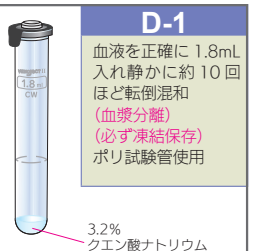
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
凝固因子関連検査								
485 2B400	第ⅠX因子 (2408)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	60 ～ 140 %	2 ～ 7	223 血液	
486 2B410	第X因子 (2409)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	70 ～ 120 %	2 ～ 7	223 血液	
487 2B420	第XⅠ因子 (2410)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	60 ～ 140 %	2 ～ 7	223 血液	
488 2B430	第XⅡ因子 (2397)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	凝固時間法	60 ～ 140 %	2 ～ 7	223 血液	
489 2B440	第XⅢ因子 (2257)	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G-1 凍結	合成基質法	70 ～ 140 %	2 ～ 5	223 血液	
1476 2B450	フォン・ウィルブランド因子抗原 定量 (v.W 因子抗原 定量) (2256)	血漿 **0.2**	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	50 ～ 155 %	4 ～ 11	147 血液	*4
476 2B480	フォン・ウィルブランド因子活性 (v.W 因子活性)（リストセチンコファクター） (2052)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	固定血小板凝集法	60 ～ 170 %	4 ～ 7	126 血液	*4
2634 2B495	ADAMTS13 活性 (2709)	血漿 **0.2**	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	0.10 以上 （10% 以上）　※ 1 IU/mL	4 ～ 8	400 血液	※2 *1
2157 2B496	ADAMTS13 インヒビター定量 (2707)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA 法	0.5 未満 B.U/mL	4 ～ 8	1000 血液	※3 *1

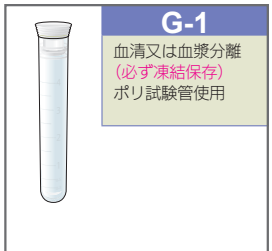
※ 1　測定値が 0.10IU/mL 未満（10%未満）の場合は、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）と判定されます。
TTP 判定基準　健常者参考値：0.78IU/mL（78%以上）

※ 2　ADAMTS13 活性は以下の通り算定する。
（ア）ADAMTS13 活性は、他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。
（イ）血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して 1 月以内の場合には、1 週間に 1 回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
（ウ）血栓性血小板減少性紫斑病に対し、血漿交換療法、免疫抑制療法及びカプラシズマブ製剤による治療を行った際に治療の継続の要否を判定することを目的として測定を行った場合、30 日間を超えた場合でも、1 週間に 1 回に限り別に算定できる。なお、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※ 3　ADAMTS13 活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して 1 月以内の場合には、1 週間に 1 回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
凝固・線溶系検査								
459 2B460	第Ⅷ因子インヒビター (第Ⅷ因子 -INH) (2222)	血漿 **1.0**	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda 法	1.0 未満 B.U/mL	4～7	144 血液	それぞれの測定1回につき算定する。 ＊4
460 2B470	第Ⅸ因子インヒビター (第Ⅸ因子 -INH) (2070)	血漿 **1.0**	D-1 ↓ G-1 凍結	Bethesda 法	1.0 未満 B.U/mL	4～7	144 血液	
447 2B260	プラスミノゲン抗原 (2394)	血漿 **0.3**	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	9.1 ～ 14.5 mg/dL	4～7	100 血液	＊E
448 2B260	プラスミノゲン活性 (2395)	血漿 **0.3**	D-1 ↓ G-1 凍結	合成基質法	80 ～ 130 %	4～7	100 血液	＊E
468 2B270	アンチプラスミン (プラスミンインヒビター) (2295)	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	80 ～ 130 %	2～4	128 血液	
471 2B200	アンチトロンビン活性 (AT- Ⅲ) (2035)	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	発色性合成基質法	75 ～ 135 %	1～3	70 血液	
424 2B120	フィブリン・フィブリノゲン分解産物 (血漿 FDP) (2034)	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	5.0 以下 μg/mL	1～3	95 血液	緊　急
469 2B110	可溶性フィブリンモノマー複合体 (SFMC) (2051)	血漿 **0.2**	D-1 ↓ G-1 凍結	凝集反応	(－)	2～4	93 血液	
1136 2B140	D ダイマー (2049)	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0 以下 μg/mL	1～3	127 血液	緊　急
1134 2B280	プラスミンインヒビター・プラスミン複合体 (PIC) (2067)	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	0.8 未満 μg/mL	2～5	150 血液	





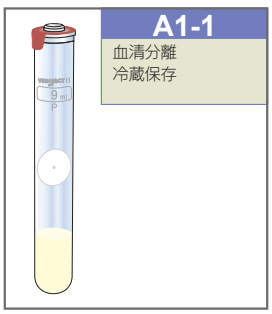
実施料について(出血・凝固)

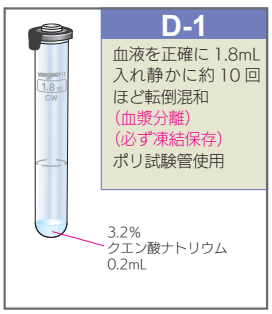
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
   出血・凝固　530点
2. 5項目以上
   出血・凝固　722点

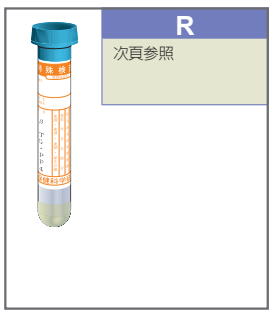
血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固・線溶系検査								
1135 2B210	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT) (2498)	血漿 **0.4**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	CLEIA 法	4.0 未満 ng/mL	1〜3	166 血液	
1016 2B700	プロテイン C 活性 (2400)	血漿 **0.5**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	発色性合成基質法	70 ～ 140 %	2〜5	227 血液	
1114 2B700	プロテイン C (抗原量) (2039)	血漿 **0.4**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	ラテックス凝集法	69 ～ 144 %	2〜5	220 血液	
8597 2B711	プロテイン S (遊離型抗原量) (2041)	血漿 **0.3**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	ラテックス凝集法	M 50 ～ 131 F 49 ～ 133 %	4〜7	152 血液	＊4
1115 2B710	プロテイン S (抗原量) (2045)	血漿 **0.3**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	65 ～ 135 %	4〜9	152 血液	＊E
1116 2B710	プロテイン S 活性 (2068)	血漿 **0.4**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	凝固時間法	M 67 ～ 164 F 56 ～ 126 %	4〜8	163 血液	＊4
2068 2B310	プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター 1 (PAI-1) (2042)	血漿 **0.4**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	ラテックス凝集法	50.0 以下 ng/mL	2〜4	240 血液	測定対象は総PAI-1 (tPA・PAI-1複合体及び活性型、潜在型PAI-1)です。
1430 2B730	トロンボモジュリン (TM) (2414)	血清 **0.3**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	CLEIA 法	12.1 ～ 24.9 U/mL	4〜8	204 血液	膠原病の診断もしくは経過観察又は、DICもしくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。 ＊1
2505 5B045	C1 インアクチベーター活性 (C1 エステラーゼインヒビター活性) (4445)	血漿 **0.3**	**D-1** ↓ **G-1** 凍結	発色性合成基質法	70 ～ 130 %	4〜7	253 免疫	＊E



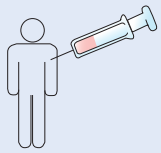
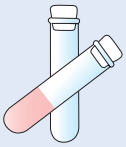
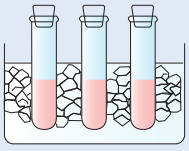
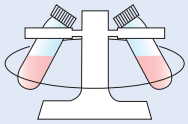
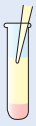






項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
血小板機能検査								
462 2B620	血小板第４因子 (PF4) (2413)	血漿 **0.3**	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA 法	20 以下 ng/mL	4 ～ 13	173 血液	*4
464 2B600	β-トロンボグロブリン (β-TG) (2412)	血漿 **0.3**	R ↓ G-1 下図参照 凍結	EIA 法	50 以下 ng/mL	4 ～ 13	171 血液	*4

〔β-TG、PF-4の採取方法及び注意事項〕

	この操作を2分以内に行う				
					
採取方法	できるだけ20ゲージ(19～23ゲージでも可)の針を用いたポリスチレン注射器で血液2.7mL採取する。 (採血に当たって、専用容器(R)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	予め専用容器(R)を冷却しておく。 次に専用容器のフタを開け血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回反転混和する。	専用容器をすみやかに砕氷と水の入ったラックに入れる。	砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2～4℃で遠心分離する。(下表は、2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示す。)	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取する。検体は必ず凍結保存する。 (一ヶ月安定)
注意事項	真空採血管、カテーテル及び他の方法は使用しない。 又、駆血帯も使用しない。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取する。	指定の専用容器以外は使用しない。 専用容器は振とうさせない。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにする。 角氷は使用しない。	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離する。 換算表 半径(cm) / 回転数(rpm) / 半径(cm) / 回転数(rpm) 10 / 4,200 / 22 / 2,800 12 / 3,800 / 24 / 2,700 14 / 3,500 / 26 / 2,600 16 / 3,300 / 28 / 2,500 18 / 3,100 / 30 / 2,400 20 / 3,000	血餅に近い部分からの採取は絶対に避ける。

実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
   出血・凝固　530点
2. 5項目以上
   出血・凝固　722点

薬物検査

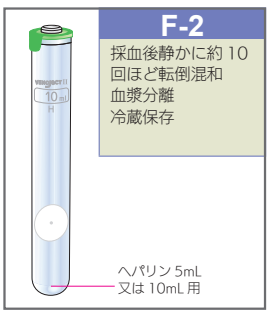
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗てんかん剤								
654 3L175	フェノバルビタール (5050)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	10.0 ～ 40.0 μg/mL	1 ～ 2	※	緊 急 フェノバール フェノバルビタール
655 3L185	フェニトイン (5051)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	10.0 ～ 20.0 μg/mL	1 ～ 2	※	緊 急 アレビアチン ヒダントール
656 3L115	カルバマゼピン (5052)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	4.0 ～ 12.0 μg/mL	1 ～ 2	※	緊 急 カルバマゼピン テグレトール
657 3L190	プリミドン (5121)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	5 ～ 12 μg/mL	1 ～ 2	※	緊 急 プリミドン
658 3L195	バルプロ酸 (5054)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	50.0 ～ 100.0 μg/mL	1 ～ 2	※	緊 急 セレニカR、デパケン、 バルプロ酸ナトリウム、 バレリン
985 3L135	エトスクシミド (5096)	血清 **0.5**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	40.0 ～ 100.0 μg/mL	4 ～ 11	※	緊 急 エピレオプチマル ザロンチン ＊E
2572 3L205	トリメタジオン (5122)	血清 **0.5**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	LC-MS/MS 法	300 ～ 500 μg/mL	5 ～ 13	※	ミノアレ ＊1
987 3L125	クロナゼパム (5120)	血清 **1.1**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	20 ～ 70 ng/mL	3 ～ 5	※	ランドセン リボトリール
1145 3L950	アセタゾラミド (5100)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	μg/mL	4 ～ 12	※	ダイアモックス ＊4
1146 3L200	スルチアム (5532)	血清 **1.2**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	HPLC 法	μg/mL	5 ～ 13	※	オスポロット ＊4

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。

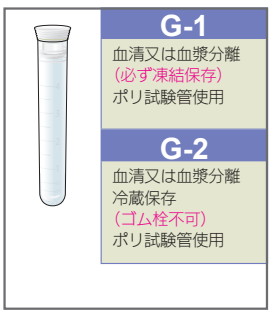


A2-1
血清分離
冷蔵保存



F-2
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
血漿分離
冷蔵保存

ヘパリン 5mL 又は 10mL 用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-2
血清又は血漿分離
冷蔵保存
(ゴム栓不可)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤								
1044 3L210	ゾニサミド (5371)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10 ～ 30 μg/mL	1～2	※	エクセグラン ゾニサミド
984 3L165	ニトラゼパム (5099)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	20 ～ 200 ng/mL	4～8	※	ニトラゼパム ネルボン ベンザリン ＊4
983 3L130	ジアゼパム (5670)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	Trough 600 ～ 1000 ※ 1 ng/mL	4～9	※	ジアゼパム ジアパックス セルシン セレナミン ホリゾン ＊4
2007 3L145	クロバザム (5909)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	※ 2 ng/mL	4～8	※	マイスタン ＊4
8386 3L220	ラモトリギン (5847)	血漿 **0.3**	**F-2** ↓ **G-2** 冷蔵	LC-MS/MS 法	2.5 ～ 15 μg/mL	4～8	※	ラミクタール ＊4
730 3L215	ガバペンチン (5982)	血漿 **0.3**	**F-2** ↓ **G-2** 冷蔵	LC-MS/MS 法	μg/mL	4～8	※	ガバペン ＊4
8588 3L225	トピラマート (5674)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	Trough 5 ～ 20 μg/mL	4～7	※	トピナ トピラマート ＊1
8394 3L230	レベチラセタム (5673)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS 法	Trough 12 ～ 46 μg/mL	4～8	※	イーケプラ ＊1
精神神経用剤								
653 3L320	炭酸リチウム (5239)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	原子吸光法	0.60 ～ 1.20 mEq/L	2～4	※	緊急 炭酸リチウム リーマス
986 3L300	ハロペリドール (5128)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	セディア法	3 ～ 17 注1 ng/mL	1～2	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンス
2527 3L302	ブロムペリドール (5527)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	セディア法	有効治療濃度参考値 4.0 ～ 14.3 注1 ng/mL	1～2	※	インプロメン ブロムペリドール

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。

注1　ハロペリドールとブロムペリドールを併用している患者検体では、免疫学的交差反応のため正確な濃度は測定できません。

※1　N-デスメチルジアゼパムの濃度も同時にご報告いたします。

※2　代謝産物のデスメチルクロバザムの濃度も同時にご報告いたします。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、105頁をご参照ください。

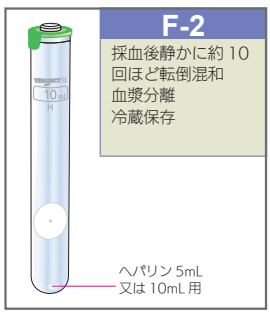
薬物検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗炎症、リウマチ剤								
976 3M205	サリチル酸 (5101)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	酵素法	(抗炎症剤として) 100 ～ 250 μg/mL	4 ～ 7	※	緊急 アスピリン サルソニン ハフトロン ヘパルス *4
強心剤								
651 3L765	ジゴキシン (5049)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	0.8 ～ 2.0 ng/mL	1 ～ 2	※	緊急 ジゴキシン ジゴシン ジゴシンエリキシル
不整脈用剤								
2529 3L897	プロパフェノン (5457)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	5 ～ 9	※	プロノン プロパフェノン塩酸塩 *4
2512 3L896	塩酸ピルジカイニド (5556)	血清 **0.5**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	Peak 0.2 ～ 0.9 μg/mL	3 ～ 6	※	サンリズム ピルシカイニド塩酸塩
2530 3L898	シベンゾリン (5175)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	Trough 70 ～ 250 ng/mL	4 ～ 8	※	シベノール シベンゾリンコハク酸塩 *4
988 3L890	プロカインアミド (5448)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	HEIA 法	4 ～ 8 μg/mL	4 ～ 7	※	緊急 アミサリン *1

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。







項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
不整脈用剤								
981 3L895	プロプラノロール (5469)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	50 ～ 100 ng/mL	5 ～ 20		インデラル プロプラノロール塩酸塩 ＊4
980 3L900	キニジン (5080)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	KIMS 法	2.0 ～ 6.0 μg/mL	4 ～ 11	※	硫酸キニジン ＊4
978 3L875	リドカイン (5370)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	1.2 ～ 5.0 μg/mL	4 ～ 7	※	緊 急 オリベス キシロカイン リドカイン ＊4
989 3L865	ジソピラミド (5449)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	2 ～ 5 μg/mL	1 ～ 2	※	ジソピラミド ジソピラン リスモダン
1111 3L855	アプリンジン (5491)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	0.25 ～ 1.25 μg/mL	4 ～ 8	※	アスペノン アプリンジン塩酸塩 ＊4
2511 3L880	メキシレチン (5464)	血清 **0.5**	**A2-1** 冷蔵	HPLC 法	0.5 ～ 2.0 μg/mL	3 ～ 8	※	チルミメール メキシチール メキシレチン塩酸塩
1420 3L905	フレカイニド (5375)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS 法	200 ～ 1000 ng/mL	4 ～ 8	※	タンボコール フレカイニド酢酸塩 ＊4
2728 3L899	ピルメノール (5767)	血漿 **1.3**	**F-2** ↓ **G-2** 冷蔵	HPLC 法	400.0 以上 ng/mL	4 ～ 12	※	ピメノール ＊4
2726 3L800	アミオダロン (5770)	血漿 **0.3**	**F-2** ↓ **G-2** 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	4 ～ 8	※	アミオダロン塩酸塩 アンカロン ＊4
6343 3L802	ベプリジル (5849)	血漿 **0.3**	**F-2** ↓ **G-2** 冷蔵	LC-MS/MS 法	250 ～ 800 ng/mL	4 ～ 8	※	ベプリコール ＊4

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、105頁をご参照ください。

薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考	
解熱鎮痛剤消炎剤									
977 3L005	アセトアミノフェン (5466)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	中毒域 200.1 以上 (4 時間) 100.1 以上 (8 時間) 50.1 以上 (12 時間) μg/mL	4 〜 11	180 生化 I	アセトアミノフェン、 アセリオ、カロナール、 コカール、ピレチノール 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。	＊4
抗悪性腫瘍剤									
975 3M725	メトトレキサート (5467)	血清 **0.7**	**A2-1** 冷蔵	CLEIA 法	危険限界濃度 24 時間値 10 以上 48 時間値 1 以上 72 時間値 0.1 以上 μmol/L	4 〜 7	※	緊急 メソトレキセート	＊4
3514 3M750	イマチニブ (5787)	血漿 **0.3**	**E-4** ↓ **G-2** 冷蔵	LC-MS/MS 法	ng/mL	6 〜 14	※	イマチニブ グリベック	＊1
抗生物質									
648 3M606	ゲンタマイシン (5102)	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	Peak 15 〜 20 Trough 1 未満 μg/mL	4 〜 8	※	エルタシン ゲンタシン ゲンタマイシン硫酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1	＊4
649 3M602	トブラマイシン (5452)	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	Peak 15 〜 20 Trough 1 未満 μg/mL	4 〜 7	※	トブラシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1	＊4
650 3M601	アミカシン (5098)	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	KIMS 法	Peak 50 〜 60 Trough 4 未満 μg/mL	4 〜 8	※	アミカシン硫酸塩 アミカマイシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ※1	＊4
1039 3M613	アルベカシン (5555)	血清 **0.3**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	ラテックス凝集比濁法	Peak 15 〜 20 Trough 1 〜 2 未満 μg/mL	4 〜 7	※	アルベカシン硫酸塩 ハベカシン	＊4

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。

※1　グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値(μg/mL)

最小発育阻止濃度(MIC)	8μg/mL(重症)		≦4μg/mL(軽・中等度)	
アミカシン	50〜60(ピーク)	4未満(トラフ)	41〜49(ピーク)	4未満(トラフ)

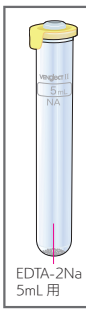
最小発育阻止濃度(MIC)	2μg/mL(重症)		≦1μg/mL(軽・中等度)	
ゲンタマイシン トブラマイシン	15〜20(ピーク)	1未満(トラフ)	8〜10(ピーク)	1未満(トラフ)

基準値は重症における目標値を基準値(治療濃度範囲)として設定いたしました。

抗菌薬TDMガイドライン2016より改変



A2-1
血清分離
冷蔵保存



E-1
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

E-4
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
血漿分離
冷蔵保存

EDTA-2Na 5mL 用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



G-2
血清又は血漿分離
冷蔵保存
(ゴム栓不可)
ポリ試験管使用



S
採血後静かに
約 10 回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依頼はできません。

EDTA-2K 2mL用

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
抗生物質								
1014 3M530	バンコマイシン (5531)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	Trough 10.0～15.0 μg/mL	1～2	※	緊急 バンコマイシン塩酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠
2702 3M532	テイコプラニン (5478)	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 μg/mL	4～7	※	緊急 タゴシッド テイコプラニン 重症感染症は10～20μg/mLを保ってください。 抗菌薬TDM2016に準拠 ＊4
免疫抑制剤								
974 3M805	シクロスポリン (5465)	全血 **1.0**	**S** 凍結	CLIA 法	ng/mL	2～4	※	サンディミュン シクロスポリン ネオーラル 必ず単独検体で提出してください。
2725 3M810	タクロリムス (5256)	全血 **1.0**	**S** 凍結	CLIA 法	ng/mL	2～4	※	グラセプター タクロリムス プログラフ 必ず単独検体で提出してください。
3536 3M815	エベロリムス (5989)	全血 **1.0**	**E-1** 冷蔵	ECLIA 法	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合の Trough 3～8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合の Trough 5～15 ng/mL	4～7	※	アフィニトール サーティカン シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可 ＊1
6991 3M816	ミコフェノール酸 (5991)	血漿 **0.5**	**E-4** ⬇ **G-2** 冷蔵	EIA 法	μg/mL	4～8	※	セルセプト ミコフェノール酸モフェチル ＊4
その他								
659 3M070	テオフィリン (気管支拡張剤) (5087)	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA 法	10.0～20.0 μg/mL	1～2	※	緊急 スロービッド、チルミン、テオドール、テオフィリン、テオロング、テルバンス、ユニコン、ユニフィル

分離剤入り試験管は使用しないでください。

採血時刻は106頁をご参照ください。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、105頁をご参照ください。

薬物検査

[特定薬剤治療管理料]

薬剤名		1~3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考
ジギタリス製剤	ジゴキシン	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	心疾患患者 急速飽和を行った場合、1回に限り算定 740 初回月加算同時算定不可
抗てんかん剤	フェノバルビタール	470	470		てんかん患者 複数薬剤測定の場合、2回に限り算定 470 てんかん重積状態の患者に抗てんかん剤の注射等を行った場合、1回に限り算定 740 初回月加算同時算定不可
	フェニトイン				
	カルバマゼピン				
	プリミドン				
	バルプロ酸				
	エトスクシミド				
	トリメタジオン				
	クロナゼパム				
	アセタゾラミド				
	スルチアム				
	ゾニサミド				
	ニトラゼパム				
	ジアゼパム				
	クロバザム				
	ラモトリギン				
	ガバペンチン				
	トピラマート				
	レベチラセタム				
テオフィリン製剤	テオフィリン	470	235		気管支喘息、喘息性(様)気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作の患者
不整脈用剤	プロパフェノン	470	235		不整脈の患者
	塩酸ピルジカイニド				
	シベンゾリン				
	プロカインアミド				
	キニジン				
	リドカイン				
	ジソピラミド				
	アプリンジン				
	メキシレチン				
	フレカイニド				
	ピルメノール				
	アミオダロン				
	ベプリジル				

薬剤名		1~3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考
ハロペリドール製剤・ブロムペリドール製剤	ハロペリドール	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	統合失調症の患者
	ブロムペリドール				
リチウム製剤	炭酸リチウム	470	235		躁うつ病の患者
バルプロ酸ナトリウム・カルバマゼピン	バルプロ酸	470	470		躁うつ病又は躁病の患者
	カルバマゼピン				
バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸	470	235		片頭痛の患者
免疫抑制剤	シクロスポリン	470	470	臓器移植を行った月から3カ月 2740	臓器移植術を受けた患者であって臓器移植における拒否反応の抑制を目的として免疫抑制剤を投与しているもの
	タクロリムス				
	エベロリムス				
	ミコフェノール酸				
	シクロスポリン			1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	※1
	タクロリムス				※2
サリチル酸系製剤	サリチル酸	470	235		若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチの患者
抗生物質	ゲンタマイシン	470	235		数日間以上投与している入院中の患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回算定
	トブラマイシン				
	アミカシン				
	アルベカシン				
	バンコマイシン				
	テイコプラニン				
抗悪性腫瘍剤	メトトレキサート	470	235		悪性腫瘍の患者
	イマチニブ				イマチニブを投与しているもの
	エベロリムス				結節性硬化症の患者

※1　ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群の患者若しくは川崎病の急性期の患者

※2　全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）の患者

[主な薬物の採血時刻]

検査項目	採血時刻
抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与後2～4時間
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)
プリミドン	投与直前(トラフ)
バルプロ酸	投与直前(トラフ)
エトスクシミド	投与直前(トラフ)
トリメタジオン	投与直前(トラフ)
クロナゼパム	投与直前(トラフ)
アセタゾラミド	－
ゾニサミド	投与直前(トラフ)
ニトラゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ジアゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ラモトリギン	次回投与直前(トラフ)
レベチラセタム	投与直前(トラフ)
精神神経用剤	
炭酸リチウム	早朝投与前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)
ブロムペリドール	投与直前(トラフ)
抗炎症、リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)
強心剤	
ジゴキシン	経口：投与後6時間～投与直前(トラフ) 静注：投与後4時間～投与直前(トラフ)
不整脈用剤	
プロパフェノン	－
塩酸ピルジカイニド	投与直前(トラフ)又は 経口：投与後1～2時間(ピーク)
シベンゾリン	朝投与直前(トラフ)
プロカインアミド	投与直前(トラフ)
プロプラノロール	投与直前(トラフ)
キニジン	投与直前(トラフ)

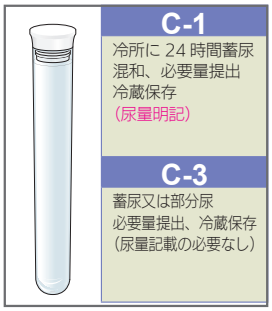
検査項目	採血時刻
不整脈用剤	
リドカイン	静注：投与後2時間 点滴静注：6～12時間
ジソピラミド	投与直前(トラフ)
アプリンジン	経口：投与直前(トラフ) 投与後2～4時間(ピーク) 静注：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)
フレカイニド	投与直前(トラフ)
ピルメノール	随時
アミオダロン	投与直前(トラフ)
解熱鎮痛剤消炎剤	
アセトアミノフェン	－
抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	メトトレキサート・ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間
エベロリムス(アフィニトール)	投与直前(トラフ)
抗生物質	
ゲンタマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アミカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アルベカシン	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	点滴静注後1～2時間(ピーク) 投与直前(トラフ)
テイコプラニン	投与前30分以内(トラフ)
免疫抑制剤	
シクロスポリン	投与直前(トラフ)
タクロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)
その他	
テオフィリン (気管支拡張剤)	投与直前(トラフ) (副作用：ピーク)

【採血時刻について】
○維持投与量の調整のために行う場合の採血時刻を示します。
○中毒症状を疑う場合は随時測定を実施する必要があります。

一般検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
尿中一般物質定性、半定量検査								
516 1A030	比重 (6001)	尿 **10.0**	**C-3** 冷蔵	屈折計法又は試験紙法	1.005～1.030	1～2	(26)	緊急　(対象：糖定性、ケトン体定性(新生児のみ))
517 1A035	pH (6002)			試験紙法	5.0～8.0	1～2		
512 1A010	蛋白定性 (6005)			試験紙法	(－)	1～2		
511 1A020	糖定性 (6007)			試験紙法	(－)	1～2		
513 1A040	ウロビリノーゲン定性 (6003)			試験紙法	(＋－)	1～2		
515 1A055	ビリルビン定性 (6009)			試験紙法	(－)	1～2		当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
518 1A060	ケトン体(アセトン体)定性 (6010)			試験紙法	(－)	1～2		
519 1A100	潜血反応 (6011)			試験紙法	(－)	1～2		
3188 1A075	白血球定性 (6083)			試験紙法	(－)	1～2		
3189 1A080	亜硝酸塩 (6078)			試験紙法	(－)	1～2		
尿中特殊物質定性定量検査								
521 1A015	蛋白定量 (6006)	蓄尿 **3.0** 又は 尿 **3.0**	**C-1** 又は **C-3** 冷蔵	ピロガロールレッド法	蓄尿　20～120 mg/day 随時尿　10以下 mg/dL	1～2	7 尿・便	
1742 1A015	蛋白定量クレアチニン換算値 (尿蛋白／クレアチニン比) (6498)	尿 **3.0**	**C-3** 冷蔵	計算法	0.11以下 g/g・CRE	1～2		蛋白定量と尿中クレアチニンも同時報告。 CKDの重症度分類(2012)による判定基準は検査案内23頁参照。　※1
566 4E060	VMA 定性 (6016)	尿 **3.0**	**C-3** 冷蔵	佐藤法	(－)	1～2	9 尿・便	
576 1A110	ベンスジョーンズ蛋白定性 (6017)	尿 **5.0**	**C-3** 冷蔵	Putnum 法	(－)	1～2		
549 3J040	コプロポルフィリン定性 (5069)	尿 **5.0**	**I-1** 遮光 冷蔵	HPLC 法	(－)	6～11		＊4

※1　蛋白定量と尿中クレアチニンも同時に測定しますので、報告書上に表記される実施料（点数）は18点になります。



C-1
冷所に24時間蓄尿
混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

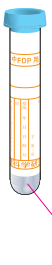


G-6
蓄尿又は部分尿
必要量提出
(必ず凍結保存)
(尿量記載の必要なし)



I-1
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(遮光保存)

I-2
冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量提出
冷蔵保存
(遮光保存)
(尿量明記)



Q
尿2mLを入れ静かに
10回ほど転倒混和
(上清分離)
凍結保存
ポリ試験管使用
(ヘパリン使用者はその旨明記)

抗プラスミン剤入り

尿中特殊物質定性定量検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
520 1A025	糖定量 (6008)	蓄尿 3.0 又は 尿 3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ブドウ糖脱水素酵素法	蓄　尿 0.040 ～ 0.085 g/day 随時尿 0.020 以下 g/dL	1～2	9 尿・便	
296 3H045	浸透圧 (1184)	尿 3.0	C-3 冷蔵	氷点降下法	50 ～ 1300 mOsm/kgH_2O	2～4	16 尿・便	
545 3B330	NAG (6018)	尿 5.0	C-3 冷蔵	MPT-NAG 法	11.5 以下 U/L	1～2	41 尿・便	
575 2B120	線維素分解産物 (尿中 FDP) (2119)	尿 2.0 ↓ 上清 0.5	Q ↓ G-6 凍結	LPIA 法	100 以下 ng/mL	4～6	77 尿・便	＊4
573 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) (5067)	蓄尿 1.0	I-2 遮光 冷蔵	HPLC 法	2.0 以下 mg/day	3～6	106 尿・便	17 頁参照
1269 3J065	ポルフォビリノーゲン定量 (5068)	蓄尿 3.0	I 遮光 凍結	比色法 (M・G 変法)	2.0 以下 mg/day	5～10	186 尿・便	＊E
1282 3J050	ウロポルフィリン定量 (5071)	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	36 以下 μg/g・クレアチニン	6～14	105 尿・便	＊1
580 3J040	コプロポルフィリン定量 (5299)	尿 2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC 法	170 以下 μg/g・クレアチニン	5～10	131 尿・便	＊4
298 3A015	尿中アルブミン定量 (5902)	蓄尿 1.0	C-1 冷蔵	TIA 法	30.0 未満 mg/day	2～4	99 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
294 3A015	尿中アルブミン定量 (5922)	尿 1.0	C-3 冷蔵	TIA 法	27.0 未満 mg/g・クレアチニン	2～4	99 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。

一般検査

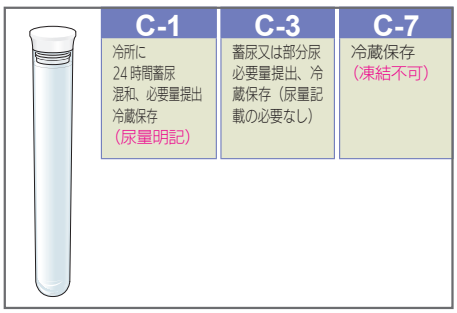
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
尿中特殊物質定性定量検査								
2723 5C134	尿中Ⅳ型コラーゲン (5357)	尿 5.0 (起床第1)	コ 冷蔵	EIA 法	30歳代　4.0 以下 40歳以上 4.9 以下 (随時尿参考値 7.3 以下) μg/g·クレアチニン	4〜12	179 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。 ＊E
1277 5C060	尿中トランスフェリン (5924)	蓄尿 1.0 又は 尿 1.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	蓄　尿 0.6 以下 mg/day 随時尿 1.0 以下 mg/g·クレアチニン	2〜4	98 尿・便	
5162 5C100	L-FABP (L 型脂肪酸結合蛋白) (5162)	尿 2.0	C-7 冷蔵	CLEIA 法	(クレアチニン換算値) 8.4 以下 μg/gCr	4〜7	210 尿・便	・凍結及び、他項目との重複依頼はできません。 ・酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けてください。 ・室温保存ではデータに影響が認められるため、すみやかに冷蔵にして提出してください。 ※1 ＊4
尿沈渣顕微鏡検査								
531 1B105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (6020)	尿 10.0	C-7 冷蔵	鏡検法	赤血球　4 以下 /HPF 白血球　4 以下 /HPF	1〜2	(27) 尿・便	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。細菌顕微鏡検査と同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
3780 1A105	尿沈渣 (尿沈渣顕微鏡検査) (染色した場合) (6085)	尿 10.0	C-7 冷蔵			1〜2	(27＋9) 尿・便	

注　尿中細菌顕微鏡検査は細菌の項に準ずる

糞便検査

591 1B010	虫卵検査	虫卵(塗抹) (6025)	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	直接塗抹法	(－)	2〜4	20 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 回虫卵、広節裂頭条虫卵、鞭虫卵など
593 1B015		虫卵(集卵) (6037)	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	浮遊法	(－)	2〜4	15 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 鉤虫卵など
607 1B015		(6026)		イ 冷蔵	沈殿法	(－)	2〜4		(検出可能な主要虫卵) 肝吸虫卵、横川吸虫卵など

※1　原則として3月に1回に限り算定する。但し、医学的な必要からそれ以上算定する場合においては、その詳細な利用を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。



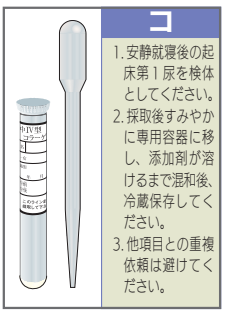
C-1
冷所に24時間蓄尿混和、必要量提出冷蔵保存
(尿量明記)

C-3
蓄尿又は部分尿必要量提出、冷蔵保存(尿量記載の必要なし)

C-7
冷蔵保存
(凍結不可)



イ
新鮮糞便を拇指頭大容器に取りしっかりフタを閉める

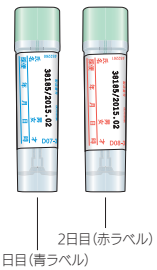


コ
1. 安静就寝後の起床第1尿を検体としてください。
2. 採取後すみやかに専用容器に移し、添加剤が溶けるまで混和後、冷蔵保存してください。
3. 他項目との重複依頼は避けてください。

糞便検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1041 1B020	虫体検出 (6032)	※1	※2	目視及び鏡検法	(−)	2〜4	23 尿・便	(虫体) 鑑別した上でご報告します。 (虫体の存在が疑われる材料) 有無を確認し虫体が認められた場合、鑑別してご報告します。
2433 1日法 **3601** 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA)定性 (6036) (6120)	糞便専用容器	ロ 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(−)	2〜4	37 尿・便	
3668 1日法 **3669** 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血LA)定量 (6090) (6117)	糞便専用容器	ロ 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	100 以下 (−) ng/mL	2〜4	41 尿・便	
4201 1日法 **4202** 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性 (6521) (6522)	糞便専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド法	(−)	2〜4	37 尿・便	
4206 1日法 **4207** 2日法 1B040	ヘモグロビン(潜血金コロイド)定量 (6526) (6527)	糞便専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド法	100 未満 (−) ng/mL	2〜4	41 尿・便	
4215 1日法 **4216** 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定性 (6532) (6533)	糞便専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド法	判定 (−) Hb (−) Tf (−)	2〜4	56 尿・便	
4227 1日法 **4228** 2日法 1B042	ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定量 (6544) (6545)	糞便専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド法	判定 (−) Hb 100 未満 (−) Tf 50 未満 (−) ng/mL	2〜4	56 尿・便	

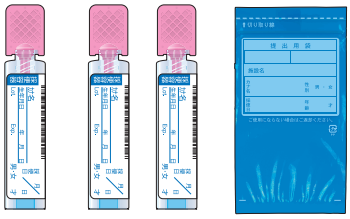
※1 虫体又は虫体の存在が疑われる材料をご提出ください。
※2 虫体の場合、10%ホルマリン又は70%アルコールにて固定して、虫体の大きさにあうサイズの容器でご提出ください。虫体の存在が疑われる材料の場合、その材料に適合した容器をご使用ください。
※3 1本の採便容器でヘモグロビンとトランスフェリンの測定が可能です。



ロ

1. 専用容器のラベルに必要事項を記入してください。
2. キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取してください。
3. キャップを容器に差し込みしっかり閉めてください。

(容器内の液を捨てないで採取してください)
冷蔵保存



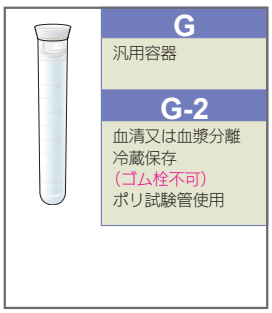
ヒ

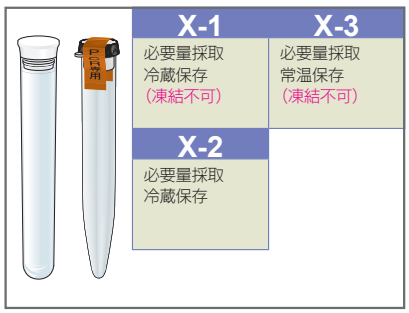
1. 専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いてください。
2. キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり、採便スティックの溝が埋まる程度採取してください。
(取りすぎ、少なすぎは不可)
3. 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉めてください。
(容器内の液を捨てないでください。)

一般検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
精液一般検査								
1224	量 (6497)	精液全量	**X-3** 常温		(参考基準) 2.0 以上 ※1　mL	1〜2	70 尿・便	116頁参照
	pH (6497)			試験紙法	(参考基準) 7.2 以上 ※1	1〜2		
	精子濃度 (6497)			鏡検法	(参考基準) 20 × 10^6 以上 ※1　/mL	1〜2		
	奇形精子率 (6497)			鏡検法	(参考基準) 15 以下 ※1　%	1〜2		
	運動率 (6497)			鏡検法	(参考基準) 50 以上 ※1　%	1〜2		
髄液一般検査								
8134 5A150	オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕 (4529)	血清 **1.0** 及び 髄液 **1.0**	**G-2** 又は **X-2** 冷蔵	等電点電気泳動法	検出せず	11〜17	507 尿・便	他項目との重複依頼は避けてください。 多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。 ＊4
7568 5G410	ミエリン塩基性蛋白 (MBP) (4585)	髄液 **0.5**	**G** 凍結	EIA 法	102.0 以下 pg/mL	5〜9	570 尿・便	多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。 ＊E

※1　射精後 2 時間以内に検査した場合の基準となります。





実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　109点

髄液一般検査

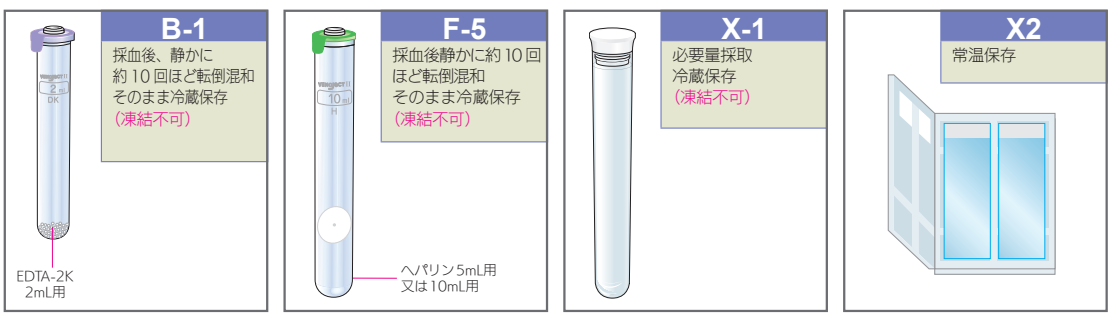
項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1207 1C020	比重 (6044)	髄液 5.0	X-1 冷蔵	屈折計法	1.005 ～ 1.007	1～2	77 尿・便	凍結不可
1208 1C025	pH (6045)			PH メーター法	7.4 ～ 7.6	1～2		
1204 1C045	ノンネアペルト反応 (6046)			ノンネアペルト法	(－)	1～2		
1205 1C040	パンディ反応 (6047)			パンディ法	(－) ～ (1＋)	1～2		
1209 1C030	細胞数 (6048)			鏡検法	5 以下 /μL	1～2		
1206 1C050	トリプトファン反応 (6055)			里見変法	(－)	1～2		
1210 1C035	細胞種類 (6073)			鏡検法	単核球 多核球 その他 %	1～2		
1201 1C010	蛋白定量 (6050)			ピロガロールレッド法	10 ～ 40 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1202 1C015	糖定量 (6051)			酵素法	50 ～ 75 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1259 3H010	ナトリウム (Na) (6052)			電極法	130 ～ 150 mEq/L	1～2	(11) 生化Ⅰ	
1203 3H020	クロール (Cl) (6054)			電極法	120 ～ 125 mEq/L	1～2		
1260 3H015	カリウム (K) (6053)			電極法	2.5 ～ 3.5 mEq/L	1～2	11 生化Ⅰ	

一般検査

その他の穿刺液・採取液検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
6317	ムチン塊形成試験 (6038)	関節液 5.0	X-1 冷蔵	酢酸加反応	正常（3＋）	1～2		
4387 1Z050	ルンベルグ反応 (6039)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	硝酸沈降反応		1～2		
1232 1Z035	リバルタ反応 (6041)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	酢酸沈殿法		1～2		
1231 1Z020	比重 (6040)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法		1～2		
6310	pH (6088)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	PH メーター法		1～2		
1234 1Z045	沈渣 (6043)	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法	/HPF	1～2		
6321 1Z030	細胞種類 (6086)	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	ライト染色鏡検	%	1～2		凍結不可
6318 1Z025	細胞数 (6087)	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	鏡検法	/μL	1～2		

関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき１回に限り算定する。なお、排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。



その他の穿刺液・採取液検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1233 1Z010	蛋白定量 (6042)	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法	g/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1256 1Z015	糖定量 (6089)	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	ブドウ糖脱水素酵素法	mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
3399 1Z505	関節液結晶 (6107)	関節液 1.0	X-1 冷蔵	鏡検法	ピロリン酸 Ca (−) 尿酸 Na (−)	1～2	50 尿・便	※1
2252 1Z025	有核細胞数 (2152)	骨髄液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	100,000～250,000 /μL	1～3		凍結不可
2253 1Z025	巨核細胞数 (2053)	骨髄液 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	50～150 /μL	1～3		
1017 2A300	鼻汁中好酸球 (6063)	鼻汁 塗抹標本	X2 常温	ライト染色	(−)	2～4	15 血液	脱脂スライドグラス使用
2543 2A090	喀痰中好酸球 (6067)	喀痰 塗抹標本	X2 常温	ライト染色	(−)	2～4	15 血液	脱脂スライドグラス使用

※1　関節液結晶は、関節水腫を有する患者であって結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき1回に限り算定する。なお、細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。

実施料について(生化Ⅰ)

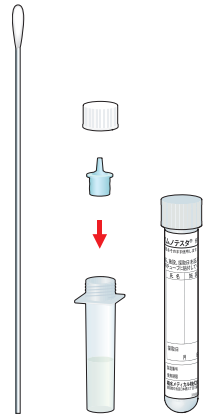
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

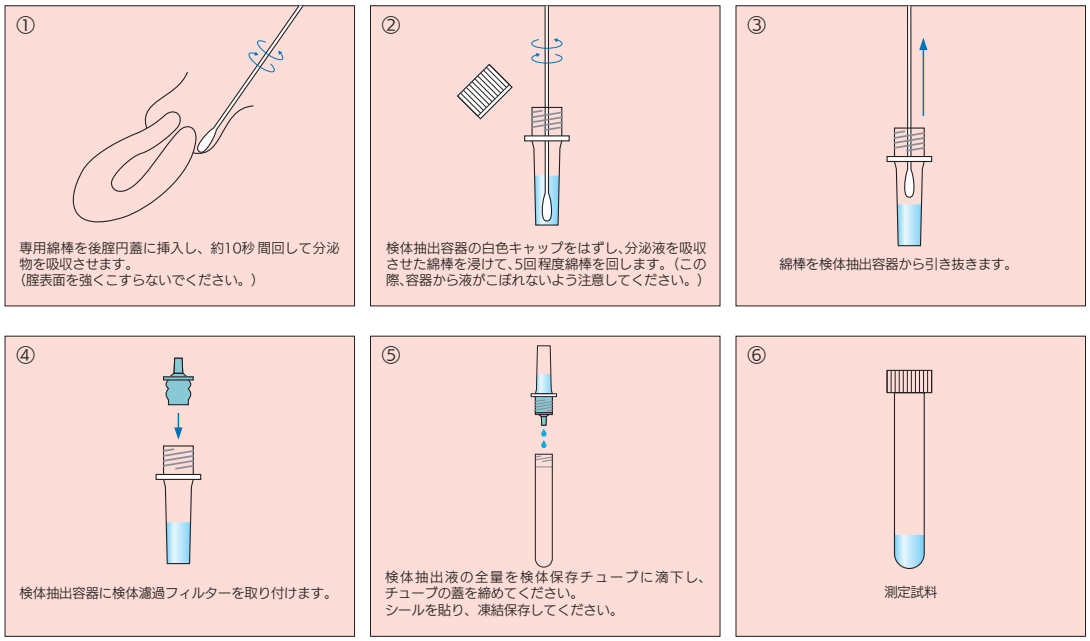
1. 5項目以上7項目以下の場合　生化Ⅰ　93点
2. 8項目又は9項目の場合　生化Ⅰ　99点
3. 10項目以上の場合　生化Ⅰ　109点

一般検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
その他の穿刺液・採取液検査								
2633 5C111	**癌胎児性フィブロネクチン定性** (頸管腟分泌液) (5174)	腟分泌液	**マ2** 凍結	EIA 法	(－)	2〜5	204 免疫	破水の診断のために妊娠満22週以上満37 週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊婦満22週以上満33 週未満の者を対象とした場合のみ算定する。 ＊1
2616 3B200	**顆粒球エラスターゼ** (子宮頸管粘液) (5372)	子宮頸管粘液	**テ** 凍結	ラテックス凝集比濁法	1.6 以下 μg/mL	4〜7	113 尿・便	絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合算定する。 ＊E

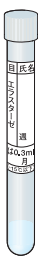
マ2



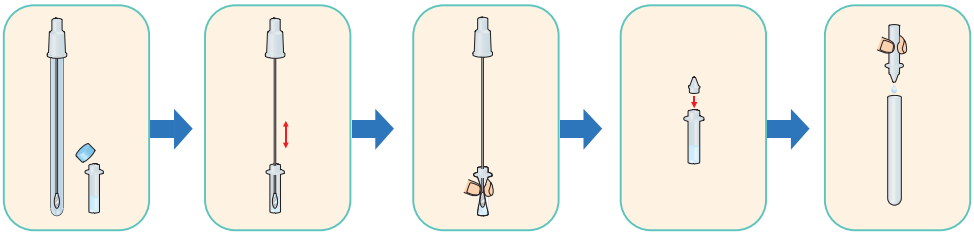


注意事項　・検体の採取は腟洗浄前に行ってください。
・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。
・検体中に 0.1% 以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

テ



(検体採取・保存上の注意事項)
1. 検体採取は腟部洗浄前に行う。
2. 検体採取前に腟部の粘液を綿球で丁寧にぬぐい取る。
3. 専用採取セットの綿棒で、子宮頸管部より粘液が綿棒全体に浸み込むように採取する。綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直す。
4. 採取した検体は 15 分以内に右記の抽出操作を行う。



一般検査検体の採取方法と注意事項

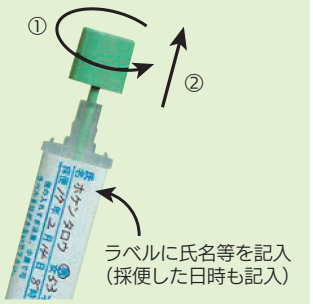
虫卵検査

●虫卵（塗抹）、（集卵）検査では、拇指頭大の自然排泄便を糞便検査汎用容器（イ）に入れてください。
採集後は冷蔵保存してください。

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血 LA）

1）専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いてください。
2）キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取してください。
3）キャップを容器に差し込みしっかり閉めてください。
（容器内の液を捨てないでください。）
4）採集後は冷蔵保存してください。

1）

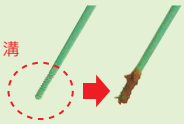


①キャップを回して、②引き抜く

2）



採便スティックで便の表面をまんべんなくこする。



（先端の溝に埋まる程度）

3）



差し込んで、キャップを強く押す

パチンと音がするまで

※1 回差し込んだら、抜かないこと

1 本が 1 日分です。

4）

1 日目　2 日目
青字ラベル　赤字ラベル



提出用袋に入れ提出

採便後は冷暗所で保存

精液一般検査

1）4 ～ 5 日の禁欲後、陰茎を洗浄し、マスターベーションによって精液を清潔な乾いた密封容器に採取して、室温で保存してください。
2）採取に当たっては、コンドームやティッシュペーパーを用いて採取しないでください。
3）射精後、2 時間以上経過した検体での検査は不適です。

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血金コロイド）　ヘモグロビン・トランスフェリン

1）専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いてください。
2）キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり、採便スティックの溝が埋まる程度採取してください。
（取りすぎ、少なすぎは不可）
3）容器に採便スティックを 1 回で差し込み、しっかり閉めてください。
（容器内の液を捨てないでください。）
4）採集後は冷蔵保存してください。

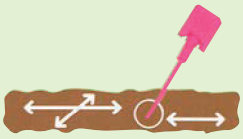
1）



キャップを廻して引き抜く

ラベルに氏名等を記入
（採便した日時も記入）

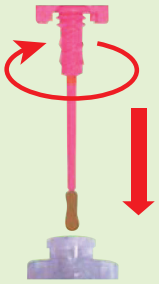
2）



採便スティックで便の表面をまんべんなくこする。



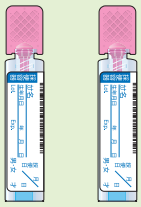
3）



1 回で差し込みます

4）

1 日目　2 日目
ピンク色　ピンク色



提出用袋に入れ提出

採便後は冷暗所で保存

髄液一般検査

1）髄液一般検査は抗凝固剤が入っていない滅菌容器に採取し、提出まで冷蔵保存してください。
（ヘパリンは、細胞数算定時にサムソン液と反応し、微粒子が生じて検査の障害になります）
2）細胞数・細胞種類検査時には変性や崩壊の影響を避けるため、緊急検査でのご依頼をお勧めします。

その他の穿刺液・採取液検査

1）その他の穿刺液・採取液は滅菌容器に採取し、冷蔵保存してください。
血液が混入している場合は、抗凝固剤（クエン酸 Na、EDTA、又はヘパリンなど）を加えてください。
2）関節液は抗凝固剤が入っていない滅菌容器を使用してください。
抗凝固剤の EDTA を加えた場合はピロリン酸 Ca 結晶が溶解することがあります。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

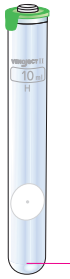
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
先天性疾患　染色体検査								
2011 8B200	倫理指針対象 曜日指定 予約検査 G-band 法 (7291)	全血 **5.0**	**F-5** 冷蔵	G-band 法		7～14	2444 ＋ 386 遺伝子	凍結不可 ＊4
7819 8B453	倫理指針対象 曜日指定 予約検査 15 染色体 (プラダーウイリ症候群) (7819)	全血 **3.0**		FISH 法		7～10	2477 遺伝子	凍結不可 患者1人につき1回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を実施した場合に患者の診断の確定までの間に3回に限り算定する。
7818 8B454	倫理指針対象 曜日指定 予約検査 15 染色体 (アンジェルマン症候群) (7818)	全血 **3.0**				7～10		
7820 8B523	倫理指針対象 曜日指定 予約検査 22 染色体 (22q11 欠失) (7820)	全血 **3.0**				7～10		＊4

休日の前日は受付できません。

●先天性疾患の検査依頼に当たりましては、検査実施前に被検者（親権者、代諾者）に対して、検査の目的、方法、精度、限界、結果の開示方法等について十分な説明がなされ、被検者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が文書により得られている確認のご署名を、依頼書へお願いいたします。

F-5

採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(必ず無菌採血)
(採血後 24 時間以内に検査)
(凍結不可)



ヘパリン5mL用
又は10mL用

H1

指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
検体は採取後、当日中にご提出ください。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考

血液疾患　染色体検査

G-Banding（Myeloid 系）

7099	曜日指定 予約検査 MDS(骨髄異形成症候群) (7099)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		7〜14	2444 + 386 血液	*4
7103	曜日指定 予約検査 MPN(骨髄増殖性腫瘍) (7103)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4
7104	曜日指定 予約検査 AML(急性骨髄性白血病) (7104)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4
7106	曜日指定 予約検査 その他 (7106)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4

G-Banding（Lymphoid 系）

7276	曜日指定 予約検査 ALL(急性リンパ性白血病) (7276)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法		7〜14	2444 + 386 血液	*4
7277	曜日指定 予約検査 CLL(慢性リンパ性白血病) (7277)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4
7278	曜日指定 予約検査 ML(悪性リンパ腫) (7278)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4
7279	曜日指定 予約検査 MM/PL(多発性骨髄腫 / 形質細胞性白血病) (7279)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4
7280	曜日指定 予約検査 その他 (7280)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-5 冷蔵	G-band 法				*4

▼ご依頼時の注意点
- 受託可能日は(血液，骨髄液共に)月〜金曜日です。なお、検体は採取後、当日中にご提出ください。
- 該当する疾患名にてご依頼ください。判定に時間を要する場合は，所要日数が20日を超えることがあります。

○血液疾患染色体検査 (G-Banding) 留意事項
1. G-bandingの判定には，性別情報が必要なため，性別を必ず依頼書にご記入ください。
2. 骨髄染色体検査には有核細胞1000万個(1×10⁷個)が必要です。この量を充分満たすように骨髄液を無菌的に採取してください。
3. ステロイド系薬剤，アルキル化薬剤，および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
4. 末梢血液でご依頼の際，血中に幼若細胞(blast)の出現がみられない場合，また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。無菌的に採取し、よく混和させ冷蔵保存してください。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

血液疾患　染色体検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
2043 8B395	曜日指定 予約検査 BCR-ABL1 t(9；22) 転座 (7300)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵	interphase-FISH 法		7〜10	2477 遺伝子	凍結不可 左記の項目以外をご希望の場合は担当営業員までご相談ください。 ＊4
1428 8B455	曜日指定 予約検査 PML-RARA t(15；17) 転座 (7299)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
1427 8B385	曜日指定 予約検査 RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21) 転座 (7821)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7575 8B475	曜日指定 予約検査 TP53 del (17) 短腕欠失 (7575)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7595 8B344	曜日指定 予約検査 IGH-FGFR3 t(4；14) 転座 (7595)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7594 8B445	曜日指定 予約検査 IGH-MAF t(14；16) 転座 (7594)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
8328 8B414	曜日指定 予約検査 IGH-CCND1 t(11；14) 転座 (7865)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7423 8B384	曜日指定 予約検査 IGH-MYC t(8；14) 転座 (7423)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7597 8B434	曜日指定 予約検査 D13S319 del (13) 長腕欠失 (7597)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					
7667 8B317	曜日指定 予約検査 CKS1B 1q21 増幅 (7667)	全血 5.0 骨髄液 1.0	F-5 冷蔵 H1 冷蔵					

(注) 患者１人につき１回に限り算定できる。ただし、びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫又は多発性骨髄腫の診断の目的で検査を実施した場合は、患者の診断の確定までの間に３回に限り算定できる。

休日の前日は受付できません。上記項目に関しましては、依頼票に臨床診断名および臨床所見等をご記入ください。

※1　その他検体材料で提出される場合は、事前に担当営業員までご相談ください。

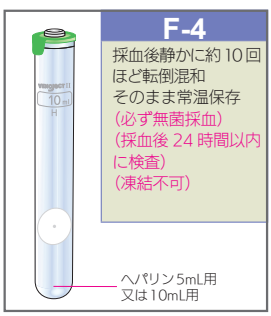
FISH法　対象となる主な疾患

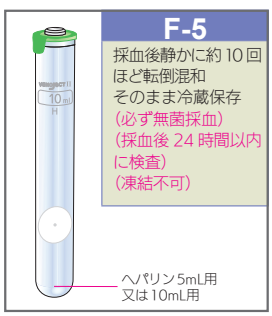
BCR-ABL1 t(9；22)転座	t(9；22)(q34；q11.2)を有するCML、ALL、AML
PML-RARA t(15；17)転座	t(15；17)(q22；q21)を有するAML
RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	t(8；21)(q22；q22)を有するAML

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
2092 5I021	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgG (7012)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	1 ～ 3 %	4～8	155 免疫	※1
2093 5I022	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgA (7013)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	1 ～ 3 %	4～8		
2094 5I023	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgM (7014)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	3 ～ 12 %	4～8		
2095 5I024	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) IgD (7094)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	1 ～ 10 %	4～8		
2096 5I025	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) K (7015)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	3 ～ 8 %	4～8		
2097 5I026	曜日指定 予約検査 B 細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig) L (7016)	全血 **1.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	1 ～ 5 %	4～8		＊4
2051 5I020	曜日指定 予約検査 T 細胞・B 細胞百分率 (CD3、CD19) (7007)	全血 **3.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	T 細胞 (CD3) 66 ～ 89 B 細胞 (CD19) 4 ～ 13 %	4～8	193 免疫	※1
7391 5I070 5I082	曜日指定 予約検査 T 細胞サブセット (CD4、CD8) (7391)	全血 **3.0**	**F-4** 常温	フローサイトメトリー法	CD4 : 25.0 ～ 54.0 CD8 : 23.0 ～ 56.0 % CD4/CD8 : 0.40 ～ 2.30	4～8	185 免疫	＊4

※1　細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存してください。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。受付可能日は月～金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出ください。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。







染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
( )	曜日指定 予約検査 モノクローナル抗体による リンパ球表面マーカーの自動解析 ( )	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	下表参照	4〜8		※1 実施項目一覧は下表をご参照ください。 ＊4

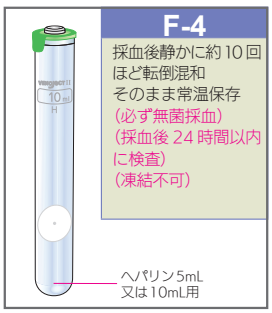
●モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析

	コードNO.(グループ)	CDnumber	基準値(%)	特異性
T細胞	2101 (7090)	CD1a	1.0以下	胸腺皮質細胞
	2102 (7083)	CD2	71.0〜91.0	汎T細胞・Eロゼット形成細胞
	2103 (7080)	CD3	58.0〜84.0	成熟T細胞
	2104 (7081)	CD4	25.0〜54.0	インデューサー /ヘルパー T細胞
	2105 (7314)	CD5	60.0〜90.0	汎T細胞・一部のB細胞
	2106 (7340)	CD7	72.0〜90.0	汎T細胞
	2107 (7082)	CD8	23.0〜56.0	サプレッサー /サイトトキシックT細胞
	2119 (7098)	CD25	8.0〜34.0	IL-2レセプター / p55Tac
B細胞	2115 (7096)	CD19	5.0〜24.0	汎B細胞
	2116 (7092)	CD20	3.0〜20.0	汎B細胞
	2117 (7088)	CD21	3.0〜18.0	C3d/EBVレセプター・成熟B細胞
骨髄細胞	2109 (7084)	CD11b	18.0〜49.0	NK細胞・サプレッサー T細胞の一部
	2111 (7315)	CD13	9.0以下	単球・顆粒球・骨髄細胞
	2112 (7316)	CD14	5.0以下	単球
	2120 (7317)	CD33	5.0以下	未熟顆粒球・APL・AML

	コードNO.(グループ)	CDnumber	基準値(%)	特異性
特殊細胞	2108 (7093)	CD10	1.0 以下	common-ALL・好中球
	2114 (7089)	CD16	6.0〜39.0	NK細胞(Fcγレセプター)
	2121 (7087)	CD38	18.0〜59.0	活性化および増殖細胞
	2124 (7091)	CD57	4.0〜45.0	NK細胞・サプレッサー T細胞の一部
	2126 (7097)	HLA-DR	11.0〜46.0	B細胞・活性化T細胞(HLA-DR抗原)

1)免疫調節のパラメーター
CD4/CD8比は免疫調節機能の指標として有用性が認められています。
CD4とCD8を同一検体で同時に依頼された場合はCD4/CD8比も報告させていただきます。

※1　細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存してください。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。受付可能日は月〜金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出ください。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

細胞表面マーカー

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
(　)	曜日指定 予約検査 Two-color 解析による リンパ球表面マーカー検査 (　)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	Two-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧参照 %	4～8		※1 実施項目一覧は「Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧」をご参照ください。 ＊4

● Two-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位		所要日数	実施料 判断料	備考
2143 5I701	曜日指定 予約検査 CD4 / CD29 (7303)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$CD4^-CD29^+$	22.0～59.0	4～8	185 免疫	※1 ＊4
					$CD4^-CD29^-$	12.0～38.0			
					$CD4^+CD29^-$	9.0～34.0			
					$CD4^+CD29^+$	11.0～26.0			
2142 5I700	曜日指定 予約検査 CD4 / CD45RA (7308)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$CD4^-CD45RA^+$	30.0～57.0	4～8		※1 ＊4
					$CD4^-CD45RA^-$	5.0～23.0			
					$CD4^+CD45RA^-$	15.0～34.0			
					$CD4^+CD45RA^+$	9.0～37.0			
2147 5I721	曜日指定 予約検査 CD57 / CD16 (7260)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$CD57^-CD16^+$	1.0～15.0	4～8		※1 ＊4
					$CD57^-CD16^-$	49.0～87.0			
					$CD57^+CD16^-$	2.0～40.0			
					$CD57^+CD16^+$	2.0～27.0			
2144 5I710	曜日指定 予約検査 CD11b / CD8 (7321)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$CD11b^-CD8^+$	11.0～40.0	4～8		※1 ＊4
					$CD11b^-CD8^-$	29.0～64.0			
					$CD11b^+CD8^-$	8.0～32.0			
					$CD11b^+CD8^+$	6.0～27.0			
					Bright	20.0以下			
					Dull	3.0～17.0以下			
2651 5I706	曜日指定 予約検査 HLA-DR / CD4 (7326)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$HLA\text{-}DR^+CD4^-$	8.0～37.0	4～8	185 免疫	※1 ＊4
					$HLA\text{-}DR^-CD4^-$	24.0～61.0			
					$HLA\text{-}DR^-CD4^+$	22.0～51.0			
					$HLA\text{-}DR^+CD4^+$	1.0～12.0			
2652 5I707	曜日指定 予約検査 HLA-DR / CD8 (7331)	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	$HLA\text{-}DR^-CD8^+$	15.0～49.0	4～8		※1 ＊4
					$HLA\text{-}DR^-CD8^-$	28.0～62.0			
					$HLA\text{-}DR^+CD8^-$	6.0～25.0			
					$HLA\text{-}DR^+CD8^+$	2.0～27.0			

※1　細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存してください。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。受付可能日は月～金曜日です。休日の前日は受付できません。
3. 検体は採取後、当日中にご提出ください。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
7742 5D596	曜日指定 予約検査 CCR4 タンパク〔FCM〕 (7742)	全血 5.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	陰性	3～5	10000 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 ※1、※2 ※3 ＊4
細胞表面マーカーセット検査								
2060	造血器悪性腫瘍細胞検査 曜日指定 予約検査 白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45 ゲーティング (7107)	骨髄液 1.0 又は 全血 5.0	H1 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4～8	1882 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やしてください。 実施項目は下記の一覧表をご参照ください。 ※4 ＊4
2061	曜日指定 予約検査 悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45 ゲーティング (7109)	リンパ節 又は 全血 5.0	H2 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4～8		
HLA・移植関連検査								
7298 5K160	曜日指定 予約検査 MLC （リンパ球混合培養） (7025)	(受給者) 全血 20.0 (提供者) 全血 10.0 (非血縁者) 全血 10.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能		10～14		休日の前日は受付できません。 予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。 ＊4

※1 「ポテリジオ（一般名：モガムリズマブ）」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意ください。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断してください。

※2 CCR4 タンパク（FCM）の注意事項
モガムリズマブ（遺伝子組換え）の適応を判定するための補助に用います。ATL（Adult T-cell leukemia-lymphoma、成人 T 細胞白血病リンパ腫）の診断や治療効果の確認を目的とした使用については有効性が確認されていないので、そのような目的で使用しないでください。（試薬添付文書より）

※3 CCR4 蛋白〔FCM〕及び CCR4 蛋白〔IHC〕を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できる。なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由及び医学的な必要性を記載すること。

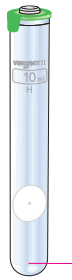
※4 白血病、悪性リンパ腫等の病型分類を行った場合に算定できる。

【CCR4 タンパク〔FCM〕、白血病・リンパ腫、悪性リンパ腫解析検査　CD45 ゲーティングのご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡ください。

●造血器悪性腫瘍細胞検査　セット内容一覧

NO.	検査項目 (グループコード)	セット内容
2060	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (7107)	CD1, CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD13, CD14, CD19, CD20, CD33, CD34, CD41, CD56, GP-A, 抗HLA-DR
2061	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (7109)	CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD11c, CD16, CD19, CD20, CD23, CD25, CD30, CD34, CD56, κ-chain, λ-chain

F-4
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま常温保存
(必ず無菌採血)
(採血後24時間以内に検査)
(凍結不可)



H1
指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
検体は採取後、当日中にご提出ください。



H2
リンパ節 5×5×5mm を容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。
検体は採集後、当日中にご提出ください。



NK
よく混和させ冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

細胞機能検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
2055 5I010	曜日指定 予約検査 PHA によるリンパ球幼若化検査 (7008)	全血 5.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA+ 20500 ～ 56800 CONTROL 127 ～ 456 cpm	8～11	345 免疫	休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出ください。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やしてください。 ※1 ＊4
2056 5I011	曜日指定 予約検査 Con-A によるリンパ球幼若化検査 (7009)	全血 5.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300 ～ 65700 CONTROL 127 ～ 456 cpm	8～11		
2071 ～ 2079 5I014	曜日指定 予約検査 薬剤によるリンパ球刺激試験 (DLST) (7027)	1薬剤 全血 12.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	陰性	10～13	イ1薬剤 345 ロ2薬剤 425 ハ3薬剤以上 700 免疫	休日の前日は受付できません。 1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。) ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は、すべての採血管にNK細胞活性用の専用容器を使用してください。 ※1 ＊4
2163 5I900	曜日指定 予約検査 NK 細胞活性 (7718)	全血 5.0	NK 冷蔵	^{51}Cr 遊離法	(参考値) 18 ～ 40 %	4～8		予約検査 休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出ください。 ＊4

※1　リンパ球刺激試験（DLST）（一連につき）は、Con-A、PHA 又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

【薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）のご依頼について】
※1.　1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
※2.　1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
※3.　目安として白血球数が3000mm³以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。
※4.　2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。
※5.　血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。
　　錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】)。
　　皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。
※6.　ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は、すべての採血管にNK細胞活性用の専用容器を使用してください。
※7.　「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条及び「覚せい剤取締法」第三章及び別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
※8.　ご依頼の際は、麻薬、覚せい剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いいたします。
　　ご署名のない場合は、受領致しかねます。

検体は採取後、当日中にご提出ください。
その他、ご不明点については、担当営業員までご連絡ください。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
癌関連遺伝子検査								
7691 8C051	EGFR 遺伝子変異解析《血漿》 (7691)	血漿 **5.0**	サ 凍結	リアルタイム PCR 法		4～9	2100 遺伝子	※1、※2、※3

【EGFR遺伝子変異解析《血漿》のご依頼上の留意事項】
①EDTA-2Kの採血管を用いて採血後、必ず8時間以内に血漿分離を実施し、別容器（滅菌スピッツ）に分取して凍結保存してください。
②別容器（滅菌スピッツ）に血漿を分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐため、デカンテーションを行わないでください。
③他項目との重複依頼は避けてください。
④本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取および遠心分離後の血漿分取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。
⑤血漿検査が先に実施され、EGFR 遺伝子変異陰性の結果が得られた場合には、可能な限り組織検査の実施を考慮してください。
⑥組織検査でEGFR T790M 変異陰性且つ血漿検査でEGFR T790M 変異陽性の集団が少なからず存在しますが、当該集団におけるオシメルチニブメシル酸塩の有効性は確認されていません。
⑦血漿検査は組織検査と完全に置き換わる検査ではございません。
⑧血漿検査の選択とその結果の解釈の際には、日本肺癌学会が発出している「肺癌患者におけるEGFR 遺伝子変異検査の手引き」等の最新の情報を参考にしてください。
※本検査で検出可能な変異のタイプにつきましては130 頁の【EGFR遺伝子変異解析《血漿》／〔リアルタイムPCR 法〕により検出が可能な変異のタイプ】をご参照ください。

▼採血時の注意点
- 専用EDTA-2K真空採血管をご使用ください。
- 採血管の規定量の血液を採取してください。
- 採血直後、ゆるやかに5 ～ 6回転倒混和を行ってください。
- 転倒混和後の試験管を激しく振ったり、衝撃を加えたりしないでください。
- 採血前に激しい運動は避けてください。

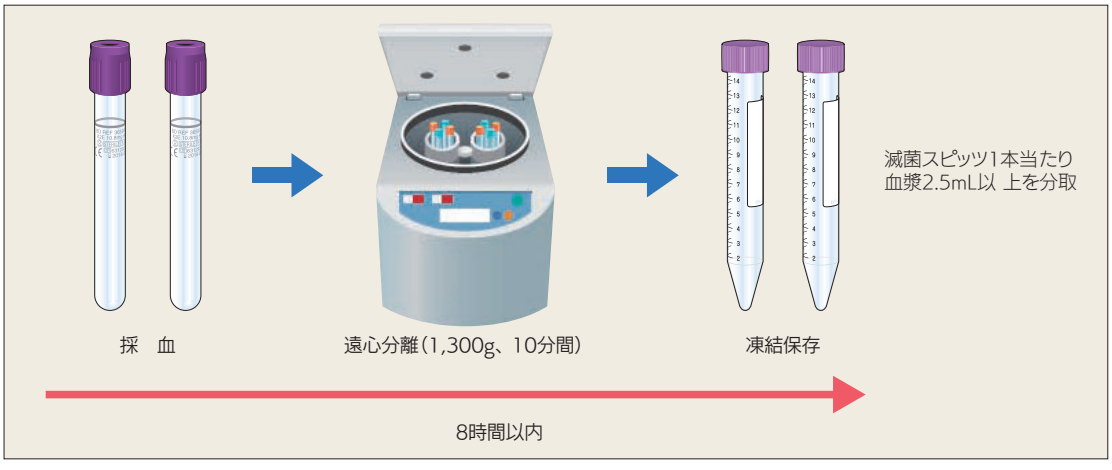
▼採血後処理の注意点
- 採血後は常温にて遠心分離（1,300g、10分間）を実施してください。
- 白血球由来のゲノムDNAの混入を避けるため、
  ①専用採血管ごとに滅菌スポイトを用いて、血漿2.5mL以上を滅菌スピッツに移し換えてください。バフィーコートの混入が無いよう十分にご注意願います。
  ②デカンテーションによる分取は絶対に行わないでください。

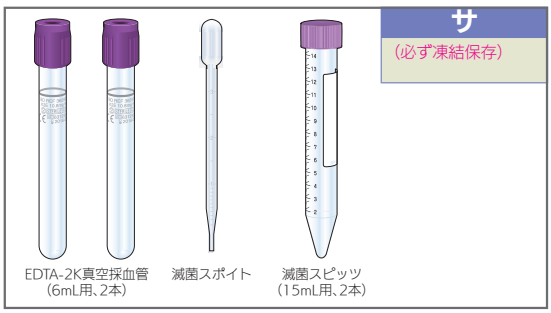
▼血漿検体保存の注意点
- 滅菌スピッツに分取した血漿は-20℃以下の冷凍庫にて凍結し、検体提出まで保存してください。
- 採血から凍結保存までの作業は8時間以内に完了してください。

※1　肺癌の詳細な診断及び治療法を選択する場合、又は肺癌の再発や増悪により、EGFR 遺伝子変異の2 次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する場合に、患者 1 人につき診断及び治療法を選択する場合には 1 回、再度治療法を選択する場合には 2 回に限り算定できる。ただし、医学的な理由により、肺癌の組織を検体として、EGFR 遺伝子検査（リアルタイム PCR 法）又は EGFR 遺伝子検査（リアルタイム PCR 法以外）を行うことが困難な場合に限る。

※2　EGFR 遺伝子検査（血漿）を実施した場合には、肺癌の組織を検体とした検査が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3　EGFR 遺伝子検査（血漿）と、肺癌の組織を検体とした区分番号「D004-2」悪性腫瘍組織検査の「1」悪性腫瘍遺伝子検査の「イ」EGFR 遺伝子検査（リアルタイム PCR 法）又は「ロ」EGFR 遺伝子検査（リアルタイム PCR 法以外）を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。





染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
癌関連遺伝子検査								
4297 8C051	EGFR 遺伝子変異解析〔リアルタイム PCR 法〕 (7570)	未染スライド 5～10 枚 下記参照	X2 常温	リアルタイム PCR 法		4～12	2500 遺伝子	他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。 ※1、※2、※3
4829 8C241	RAS/BRAF 変異解析 (3658)	未染スライド 5～10 枚 下記参照	X2 常温	PCR-rSSO 法		4～9	4000 遺伝子	他の検査と重複しないよう、単独検体で提出してください。 ※2

【EGFR遺伝子変異解析の留意事項】
- 未染スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定の種類や固定時間などの条件、保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承ください。
- 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
- スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
- スライドの厚さは、DNA抽出用として10μmを5～10枚を提出してください。

※1　肺癌において、「EGFR 遺伝子変異解析〔リアルタイム PCR 法〕」と、「EGFR 遺伝子変異解析《血漿》」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
※2　固形腫瘍または、悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として、悪性腫瘍患者本人に対して行った遺伝子検査について、患者 1 人につき 1 回に限り算定する。
※3　再発や増悪により、2 次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。

【EGFR遺伝子変異解析《血漿》／〔リアルタイムPCR 法〕により検出が可能な変異のタイプ】
EGFR遺伝子のエクソン18 ～21の42タイプの変異※の検出が可能です。

エクソン18	頻度
G719A[6239]	1.0%
G719S[6252]	0.5%
G719C[6253]	0.8%

エクソン19	頻度
Del[6223]	17.0%
Del[6225]	8.0%
Del[12370]	2.7%
Del[12382]	1.6%
Del[12369]	0.9%
Del[12384]	1.1%
Del[6255]	0.7%
Del[12383]	0.5%
Del[12678]	0.4%
Del[6218]	0.3%
Del[6254]	0.5%

エクソン19	頻度
Del[12387]	0.2%
Del[6210]	0.1%
Del[26038]	0.1%
Del[13556]	<0.1%
Del[12422]	<0.1%
Del[6220]	0.1%
Del[13551]	<0.1%
Del[12367]	<0.1%
Del[12419]	<0.1%
Del[12728]	0.1%

エクソン19	頻度
Del[13550]	<0.1%
Del[12386]	<0.1%
Del[13552]	<0.1%
Del[12385]	<0.1%
Del[12416]	0.1%
Del[18427]	<0.1%
Del[13551]	<0.1%
Del[23571]	0.1%
Del[12403]	<0.1%

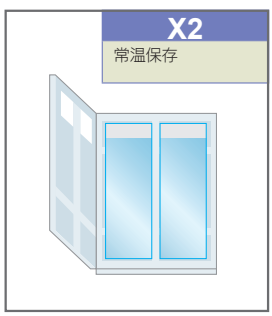
エクソン20	頻度
T790M[6240]	5.7%
S768I[6241]	0.6%
Ins[12376]	0.2%
Ins[13428]	0.3%
Ins[12378]	<0.1%
Ins[12377]	0.2%
Ins[13558]	<0.1%

エクソン21	頻度
L858R[6224]	41.3%
L858R[12429]	<0.1%
L861Q[6213]	1.5%

変異CosmicID

※ COSMIC v.73,20150730

【RAS/BRAF変異解析のご依頼時の留意事項】
1. 未染スライドの厚さは、DNA抽出用として10μm厚で5～10枚を提出してください。
2. 材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
3. スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
4. 未染スライドは組織のホルマリン固定により、DNAが断片化されているため、固定時間などの条件や保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承ください。



染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
癌関連遺伝子検査								
6399 8C986	倫理指針対象 マイクロサテライト不安定性検査 (HNPCC・リンチ症候群) (3669)	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックス PCR-フラグメント解析		7～14	2100 遺伝子	※1
6406 8C986	マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査 (CDX) (3676)	未染スライド 5～10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックス PCR-フラグメント解析		7～14	2500 遺伝子	※1

【ご依頼時の注意事項】
1．病理報告書(腫瘍細胞が認められていること)のコピーを添付してください。
2．新鮮凍結腫瘍組織で提出の場合、腫瘍部の割合が50%以上の組織をご提出ください。又、未染スライドで提出の場合、腫瘍部の割合が50%未満の場合には腫瘍部位をマーキングしたHE染色スライドを添付してご提出ください。
3．尚、測定の結果、腫瘍部位のみの解析では判定できないパターンが認められた場合には、正常部位検体(正常部FFPE切片あるいは全血EDTA-2Na採血管3mL)の追加提出をお願いすることがあります。その場合、所要日数も延長になりますことを予めご了承ください。
4．未染スライドは、固定状態(固定液の種類、固定時間、保存状態)によっては、DNAが断片化してPCR増幅不良となり解析不可能となる場合があります。
5．総合判定は、5種類のマーカー（BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27)について解析して行います。
6．「マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)」のご依頼には、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用ください。尚、ご報告は別紙報告書(親展)になります。
7．「マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)」のご依頼には、汎用の依頼書(総合依頼書4など)をご利用ください。

○マイクロサテライト不安定性検査の留意事項
本検査実施に当たっては、「家族性非ポリポーシス大腸癌＊におけるマイクロサテライト不安定性検査の実施についての見解と要望」（日本家族性腫瘍学会）より、「被験者に対して事前に遺伝性腫瘍の可能性について十分説明を行い、検査結果陽性の場合は、家族性非ポリポーシス大腸癌における遺伝カウンセリング及び原因遺伝子の遺伝子検査が受けられる機会を提供します。また自施設で実施が困難な場合においては、対応可能な施設を紹介する等の配慮が必要と考えられる」とされております。

＊家族性非ポリポーシス大腸癌：一般に遺伝性非ポリポーシス（性）大腸癌（Hereditary Nonpolyposis Colorectal Cancer：HNPCC）あるいはリンチ症候群等の病名で呼ばれる常染色体優性遺伝性疾患。

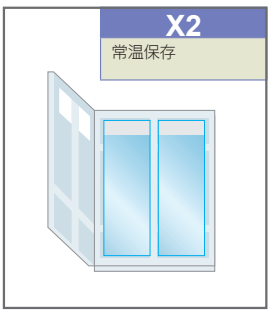
※1　固形腫瘍または、悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として、悪性腫瘍患者本人に対して行った遺伝子検査について、患者1人につき1回に限り算定する。

薬剤関連遺伝子検査								
7462 8C933	UGT1A1 遺伝子多型解析 (7462)	全血 2.0	E-6 冷蔵	Quenching Probe (QP) 法		3～7	2004 遺伝子	※2

※2　塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として検査を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。







微生物学的検査

塗抹鏡検

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)		検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
5001 6A010	細菌顕微鏡検査 (8003)	一般細菌	喀出痰、尿／他	冷蔵 ※	グラム染色		1～3	67 微生	※1、※2、※3
		クリプトコッカス	髄液		墨汁染色	陰性			※1、※2、※3
		真菌	皮膚、爪、毛、落屑		KOH 法	陰性			対象：糸状菌 (滅菌スピッツにて提出してください) ※1、2、3
		疥癬虫	皮膚						対象：疥癬虫(ヒゼンダニ) (滅菌スピッツにて提出してください) ※1、2、3

培養検査

5210 6B010	口腔・気道・呼吸器からの検体 (800201)		喀出痰、咽頭ぬぐい液／他	冷蔵 ※ ※5 ※6	培養同定		3～7	180 微生	緊急 血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 1～3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時にすみやかにご報告いたします。 ※4
5210 6B010	消化管からの検体 (800202)		糞便、胆汁、胃粘膜／他					200 微生	
5210 6B010	泌尿器・生殖器からの検体 (800203)		尿、尿道分泌物、腟分泌物／他					190 微生	
5210 6B010	血液・穿刺液 (800204)		血液、腹水／他					240 微生	
5210 6B010	その他の部位からの検体 (800205)		褥瘡、耳漏／他					180 微生	

特殊培養

5270 6B010	嫌気培養 (800208)			冷蔵 ※	嫌気培養		3～14	加算 137 微生	※4
275 6B050	MRSA 培養 (800216)			冷蔵 ※	CLSI 準拠		3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
175	百日咳菌培養 (800217)		鼻咽腔／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	6～10	微生	

※137頁参照

※1　同一検体について当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

※2　染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。

※3　当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※4　症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気培養の加算は2回算定できる。

※5　血液は血液培養ボトルで提出してください。

※6　血液培養ボトルは常温で保存してください。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
特殊培養								
276 6B405	マイコプラズマ培養 (800255)	喀出痰、咽頭ぬぐい液、／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	〜2W	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
170	ジフテリア菌培養 (800218)	咽頭ぬぐい液、鼻粘膜／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3〜7	微生	
193 6B940	レジオネラ培養 (800219)	喀出痰、胸水／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	7〜14	微生	
208	エルシニア培養 (800220)	糞便／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3〜7	微生	
537	クロストリジオイデス・ディフィシル(嫌気培養) (800221)	糞便／他	冷蔵 ※	嫌気培養、同定		3〜14	加算 137 微生	※4
207	カンピロバクター培養 (800223)	糞便／他	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	3〜7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
169 6B575	ヘリコバクター・ピロリ培養 (800222)	胃粘膜 十二指腸粘膜	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	5〜8	200 微生	ヘリコポーターにて提出してください。 ※4
189 6B080	髄膜炎菌培養 (800224)	髄液、咽頭ぬぐい液／他	※	CO2 培養、同定	陰性	3〜7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
5100	淋菌培養 (800225)	尿道分泌物、 子宮頸管粘液／他	※	CO2 培養、同定	陰性	3〜7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。 グラム染色も同時にご依頼されることをお勧め致します。
199 6B072	B 群連鎖球菌（GBS）培養 (800229)	膣分泌物、尿道分泌物	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3〜7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
真菌培養								
5110 6B105	酵母様真菌培養 (800210)		冷蔵 ※	培養同定		3〜7	加算 122 微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。 ※1
5110 6B105	糸状菌培養 (800211)	皮膚、爪、毛、落屑／他	冷蔵 ※	培養同定		13〜19		
263 6B105	クリプトコッカス培養 (800212)	髄液／他	冷蔵 ※	培養同定		3〜10		

※137頁参照

※1　同一検体について一般培養と併せて真菌培養を行った場合は、真菌培養加算として所定点数に加算する。

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
原虫・アメーバ								
5120 6B505	トリコモナス培養 (800309)	膣分泌物 尿道分泌物、尿／他	保温 ※	培養同定	陰性	4～7	190 微生	トリコモナス培地にて提出してください。
1B080	赤痢アメーバ (800302)	生鮮便・肝膿瘍	備考	鏡検	陰性	2～4	67 微生	10%ホルマリンで固定した検体とホルマリンで固定していない検体の両方を提出してください。
免疫学的細菌検査								
206 6B830	大腸菌血清型別 (800278)	糞便／他	冷蔵 ※	血清抗体法		3～7	175 微生	依頼が無くても、腸管出血性大腸菌〔ベロ毒素産生性大腸菌〕が検出された場合実施します。 ※1
5E115	大腸菌ベロトキシン〔RPLA〕 (800272)	糞便／他	冷蔵 ※	RPLA	VT1(－) VT2(－)	3～7	184 微生	培養同定の結果、「大腸菌血清型別」が陽性となった大腸菌が検出された場合、実施します。「大腸菌血清型別」と併せて依頼してください。 ※2、※3、※4
5920 5E115	大腸菌ベロトキシン〔ELISA〕 (800273)	糞便 1.0g	冷蔵 ※	ELISA 法	陰性	2～3	184 微生	糞便より直接検査します。採便容器にて提出してください。 ※2、※4、※5
5910 5E110	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原(トキシンA・B) (800271)	糞便 1.0g	冷蔵 ※	イムノクロマト法	陰性	2～4	95 免疫	糞便より直接検査します。採便容器にて提出してください。

※137頁参照

※1　細菌培養同定検査により大腸菌が確認された後、血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。

※2　大腸菌血清型別の結果より病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。

※3　大腸菌血清型別の結果、ベロトキシン産生の報告が多い血清型(O157、O26、O111)の検出時、及びベロトキシン産生を疑う所見があった場合、ベロトキシンの検査を実施いたします。(加算)

※4　腸管出血性大腸菌を認めた場合、すみやかにご報告いたします。

※5　当該検査については、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
薬剤感受性検査								
5391 6C010	1菌種 (800401)	(菌株)		ディスク拡散法 微量液体希釈法		3〜7	185 微生	CLSI準拠 対象薬剤 133頁参照
5392 6C010	2菌種 (800402)						240 微生	
5393 6C010	3菌種 (800403)						310 微生	
6C025	ヘリコバクター・ピロリ感受性検査 (800406)			E-test		8〜15	185 微生	アモキシシリン、クラリスロマイシンの2薬剤を実施します。

●報告形態

表示方法	結果の解釈(CLSI準拠)
S	Susceptible：感受性 「感受性」との判定には、当該感染部位の治療として推奨されている用法でその抗菌薬を使用した場合に、通常到達可能な濃度で菌株の発育を阻止できるという意味が含まれます。
I	Intermediate：中間 「中間」との判定には、通常到達可能な血中・組織内濃度に近いMIC で、その効果が感受性の菌株よりは低いと思われる菌株が含まれます。 「中間」に分類されれば、抗菌薬が生理的に濃縮される部位（尿中のキノロン系薬やβ-ラクタム系薬など）や通常よりも多い用量で使用することのできる抗菌薬（β-ラクタム系薬など）で、臨床的効果が得られることを意味します。この分類には「緩衝域」も含まれます。それによって、特に薬理効果と副作用の間の範囲が狭い抗菌薬には、管理しきれない技術的要因により解釈に重大な影響がおよぶことを防ぐことが可能なはずです。
R	Resistant：耐性 耐性株は、通常の投与スケジュールでその抗菌薬が通常到達し得る体内濃度において増殖を阻止されません。そして、MIC または阻止円直径がこの範囲に入っているものは、特定の耐性メカニズムを有すると考えられます（β-ラクタマーゼなど）。また、耐性と判定されたものに対する臨床効果は治療研究において明確にされていません。
N	No Data：弊社規程 被検菌に対し、化学構造的に抗菌スペクトルが及ばない、又は抗菌作用を有しないなどの根拠により、臨床的な効果を期待しえない場合に表示します。
MIC値	MIC値：最小発育阻止濃度(Minimum Inhibitory Concentration) 抗菌薬の2倍連続希釈されている培地に菌を接種し培養した場合、低濃度から高濃度に向かって観察したときに菌の発育が最初に阻止された濃度

薬剤感受性検査

●依頼方法

一般細菌感受性検査	細菌感染の現状から複数菌感染（混合感染）の場合、判断が困難な事例が多く、基本的に3菌種にご依頼して頂くのが最良と思われます。 依頼菌種数より検出菌数が超過した場合、弊社にて検査実施菌種を選択し、依頼菌種数内で実施します。
指定（院内）薬剤セット	グラム陰性桿菌（腸内細菌目細菌）、ブドウ糖非発酵菌（緑膿菌を含む）、ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌、グラム陽性菌（前述の3菌種を除く）、ヘモフィルス、カンピロバクター、嫌気性菌、グラム陰性双球菌（淋菌を含む）に分けて、ご指定の薬剤をセット登録（最大19セット）し、検査を実施いたします。 登録薬剤につきましては、営業担当にお尋ねください。
弊社薬剤セット	指定（院内）薬剤セットの登録が無い場合は、下記の保健科学研究所薬剤セットにて実施いたします。

●検査方法

ディスク拡散法	寒天培地に菌液を塗布し、感受性ディスクをその培地表面に配置し、培養します。培養後、感受性ディスクの周囲に形成される阻止円を計測し、判定する方法です。
微量液体希釈法	あらかじめ、規格された濃度に調整された抗菌薬と、液体培地（ミュラーヒントン）を分注したマイクロプレートに、被検菌液を接種し培養します。培養後、抗菌薬による菌の発育阻止状態（どの濃度で発育を阻止しているか）により、判定する方法です。
Etest®	被検菌を塗布した寒天培地上にストリップを接地し、培養後に阻止帯とストリップの交差した目盛を判読し、MIC（最小発育阻止濃度）を判定する方法です。（ヘリコバクター・ピロリ感受性検査のみ実施）

●保健科学研究所薬剤セット内容

系統名		ペニシリン系					セフェム系							カルバペネム系		マクロライド系		リンコマイシン系	キノロン系		テトラサイクリン系	アミノグリコシド系			グリコペプチド系	その他
菌種 ＼ 抗菌薬		PC	ABPC	PIPC	SBT／ABPC	TAZ／PIPC	CEZ	CAZ	CTX	CTRX	CFDN	CFPM	LMOX	IPM	MEPM	EM	CAM	CLDM	CPFX	LVFX	MINO	GM	AMK	ABK	VCM	FOM
グラム陰性桿菌（腸内細菌目細菌）	※1		◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎					◎	◎	◎	◎	◎			◎
ブドウ糖非発酵菌（緑膿菌含む）	※1			◎		◎		◎	◎	◎		◎		◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎			
ブドウ球菌	※1	◎	◎		◎		◎				◎	◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	
連鎖球菌	※1	◎	◎				◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎		◎	◎				◎	
腸球菌	※1	◎	◎											◎		◎				◎	◎				◎	
グラム陽性菌（上記の３菌種を除く）	※1	◎	◎				◎		◎		◎	◎		◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎		◎	
ヘモフィルス	※1		◎		◎				◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎		◎	◎	◎					
カンピロバクター	※2		◎													◎	◎		◎	◎	◎					◎
嫌気性菌	※2		◎	◎						◎			◎	◎	◎			◎								
グラム陰性双球菌（淋菌含む）	※2	◎	◎							◎							◎		◎	◎	◎					

※１カテゴリー（S：感受性、I：中間、R：耐性、N：No Data）に加え、MIC値（最小発育阻止濃度；Minimum Inhibitory Concentration）を併記して報告いたします。
※２カテゴリー（S：感受性、I：中間、R：耐性、N：No Data）のみ報告いたします。

微生物学的検査

薬剤感受性検査

感受性薬剤一覧

コード	略　号	抗菌薬名
ペニシリン		
801001	PC	ペニシリン
801201	ABPC	アンピシリン
801202	AMPC	アモキシシリン
801401	PIPC	ピペラシリン
801501	CVA/AMPC	クラブラン酸／アモキシシリン
801511	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン
801521	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン
セフェム		
802101	CET	セファロチン
802103	CEZ	セファゾリン
802151	CEX	セファレキシン
802152	CCL	セファクロル
802201	CXM	セフロキシム
802202	CTM	セフォチアム
802251	CMZ	セフメタゾール
802302	CPZ	セフォペラゾン
802303	CZX	セフチゾキシム
802304	CMX	セフメノキシム
802311	CAZ	セフタジジム
802312	CTX	セフォタキシム
802313	CTRX	セフトリアキソン
802331	CFTM	セフテラム
802332	CFDN	セフジニル
802336	CDTR	セフジトレン
802337	CPDX	セフポドキシム

コード	略　号	抗菌薬名
802353	CMNX	セフミノクス
802361	FMOX	フロモキセフ
802362	LMOX	ラタモキセフ
802371	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォペラゾン
802372	TAZ/CTLZ	タゾバクタム／セフトロザン
802401	CPR	セフピロム
802402	CFPM	セフェピム
802405	CFPN	セフカペン
802406	CFIX	セフィキシム
カルバペネム		
803001	IPM	イミペネム
803003	MEPM	メロペネム
803004	BIPM	ビアペネム
803005	DRPM	ドリペネム
803006	TBPM	テビペネム
モノバクタム		
804001	AZT	アズトレオナム
ペネム		
804101	FRPM	ファロペネム
マクロライド		
805001	EM	エリスロマイシン
805002	CAM	クラリスロマイシン
805003	RXM	ロキシスロマイシン
805201	AZM	アジスロマイシン
リンコマイシン		
805901	LCM	リンコマイシン
805902	CLDM	クリンダマイシン

コード	略　号	抗菌薬名
キノロン		
806001	NA	ナリジクス酸
806102	LFLX	ロメフロキサシン
806103	NFLX	ノルフロキサシン
806104	OFLX	オフロキサシン
806105	CPFX	シプロフロキサシン
806106	TFLX	トスフロキサシン
806109	LVFX	レボフロキサシン
806112	GFLX	ガチフロキサシン
806113	PZFX	パズフロキサシン
806114	PUFX	プルリフロキサシン
806115	MFLX	モキシフロキサシン
806116	GRNX	ガレノキサシン
806117	STFX	シタフロキサシン
テトラサイクリン		
807001	TC	テトラサイクリン
807003	DOXY	ドキシサイクリン
807004	MINO	ミノサイクリン
アミノグリコシド		
808001	SM	ストレプトマイシン
808101	KM	カナマイシン
808103	TOB	トブラマイシン
808104	DKB	ジベカシン
808105	AMK	アミカシン
808106	ABK	アルベカシン
808201	GM	ゲンタマイシン
808205	ISP	イセパマイシン

コード	略　号	抗菌薬名
その他		
809101	CL	コリスチン
809102	PLB	ポリミキシン-B
809201	VCM	バンコマイシン
809202	TEIC	テイコプラニン
809301	CP	クロラムフェニコール
809401	ST	SMX/TMP
809501	FOM	ホスホマイシン
809601	MUP	ムピロシン
809602	RFP	リファンピシン
809604	LZD	リネゾリド
809607	DAP	ダプトマイシン

抗酸菌検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
5320 6A206	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色（集菌塗抹法） (800514)	喀出痰／他	冷蔵 ※	蛍光染色 直接塗抹法	(−) 表1 参照	1 〜 3	65 + 35 微生	緊急 陽性時には至急連絡します。 ※1、※4
5340 6B305	抗酸菌分離培養検査 2 (800503)	喀出痰／他	冷蔵 ※	小川培地	(−) 表2 参照	〜 8 W	224 微生	緊急 4週で中間報告、8週で最終報告します。報告書のお届けは培養時間に加え、1週間程度要します。 ※2、※3、※4
6B305	抗酸菌分離培養検査 1 (800504)			液体培地 (酵素感受性蛍光センサー法)	(−) 表3 参照	〜 6 W	315 微生	緊急 陰性の場合、6週間まで培養します(中間報告は行いません) 報告書のお届けは培養期間に加え、1週間程度要します。血液でのご依頼の場合、ヘパリン採血管でご提出ください。 ※2、※3、※4

※137頁参照

※1　同一検体について当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

※2　検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、１回のみ所定点数を算定する。

※3　結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※4　結核が疑われる場合は、連続した３日間の喀痰採取をお勧めいたします。

(表1) 抗酸菌塗抹鏡検（蛍光染色）結果記載法

記載法	検出菌数 蛍光染色(200倍)	備考 (相当するガフキー号数)
(−)	0/30 視野	G0
(+−)	1 〜 2/30 視野	G1
(1+)	1 〜 19/10 視野	G2
(2+)	>20/10 視野	G5
(3+)	>100/1 視野	G9

(表2) 抗酸菌分離培養検査 2（小川培地）結果記載法

記載法	集落数に関する所見	集落数
(−)	集落を認めない	0
(1+) 実数	集落が200未満	1 〜 199
(2+)	大多数の集落は個々に分離しているが、一部融合	200 〜 499 *
(3+)	初期には分離しているが、発育に伴いほとんどが融合	500 〜 1,999 *
(4+)	融合 集落が極めて多く、培地全体を覆う	2,000以上

* 定量的な実験結果より導かれた推定値であり、実際は所見の記述を参考に大まかに区分します。

(表3) 抗酸菌分離培養検査 1（液体培地）結果記載法

記載法	集落数
(+)	陽　性
(−)	陰　性

微生物学的検査

抗酸菌検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
6B325	結核菌群抗原定性 (800511)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	免疫クロマトグラフィー法		2～4	291 微生	判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と合わせて担当医師が総合的に判断してください。
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 2～4		
5360 6B315	抗酸菌同定〔質量分析法〕 (800570)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	質量分析法 (MALDI-TOF-MS：マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法)		2～8	376 微生	緊急 結核菌群が検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※1、※3
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 2～8		
6C105	抗酸菌薬剤感受性検査 (800510)	菌株 (専用輸送容器)	常温 ※	一濃度比率法	表1参照	4～8W	415 微生	緊急 薬剤指定がない場合は、9剤について検査します。 ① SM ④ EB ⑦ CS ② INH ⑤ KM ⑧ PAS ③ RFP ⑥ TH ⑨ LVFX ※2、※3
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 4～8W		

抗酸菌検査を菌株でご依頼される場合は、必ず専用輸送容器をご使用ください(容器は担当営業員にお申し付けください)。

※137頁参照

※1　当該検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の症状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※2　当該検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

※3　菌の発育状況により、延長する場合があります。

(表1)抗酸菌薬剤感受性検査　結果記載法

記載法	判定
S	感受性
R	耐性

衛生（検便検査）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
	赤痢菌・サルモネラ (800410)	糞便	冷蔵 ※	培養同定	陰性	4～7		3類感染症原因菌が検出された場合、すみやかにご報告いたします。 ※1、※2、※3
	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ (800412)							
	赤痢菌・サルモネラ・EHEC O157 (800411)							
	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ・EHEC O157 (800413)							
6B831	EHEC O157 (800671)							
	腸管出血性大腸菌 (8673)							

衛生（保菌検査）

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
6B050	MRSA (800612)	鼻腔、咽頭ぬぐい液／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3～7		MBL産生菌、CRE、MDRP、MDRA、VREが検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※4、※5、※6
	緑膿菌 (800678)	鼻腔、咽頭ぬぐい液／他						
8614	ESBL（基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ）産生菌 (800679)	糞便 1.0g／他						
8615	MBL（メタロβ-ラクタマーゼ）産生菌 (800680)	糞便 1.0g／他						
8616	CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科） (800681)	糞便 1.0g／他						
8617	MDRP（多剤耐性緑膿菌） (800682)	糞便 1.0g／他						
8618	MDRA（多剤耐性アシネトバクター） (800683)	喀出痰、尿／他						
8619	VRE（バンコマイシン耐性腸球菌） (800684)	糞便 1.0g／他						

※137頁参照

※1　衛生（検便検査）は、衛生・環境検査依頼書E-1にて、ご依頼をしてください。

※2　食品関連従事者等に対する検便検査です。

※3　目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。チフス菌、パラチフス菌、コレラ菌、黄色ブドウ球菌、カンピロバクターの検査をご依頼される場合は、別途依頼書にマークしてください。この項目以外の検査をご希望される場合は、担当営業員にお申し付けください。

※4　衛生（保菌検査）は、衛生・環境検査依頼書E-1にて、ご依頼をしてください。

※5　医療従事者、諸施設入所時に対する保菌検査です。

※6　目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。

微生物学的検査

微生物・輸送培地・輸送容器一覧

材料 / 容器	喀出痰	咽頭拭い液	鼻腔・鼻粘膜	舌苔	気管支洗浄液	副鼻腔	上顎洞	糞便	腸洗浄液	胃液・肝膿瘍	尿	膣分泌物	尿道分泌物	精液・月経血	生殖器膿	腹水・関節液	動脈血・静脈血	髄液	閉鎖・非閉鎖性	耳漏	皮膚	その他	容器・培地（使用前）保存可能期間	輸送条件 検体採取時	その他 注意事項
喀痰用容器	●				●		●																3 年	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送してください。
滅菌スピッツ（スクリューキャップ）					●		●		●	●	●			●		●		●			●		3 年	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送してください。
採便容器								●															3 年	冷蔵	
キャリーブレア								●															1 年 常 温	冷蔵	
シードスワブｙ1号								●	●														容器に記載 常 温	冷蔵	
シードスワブｙ2号		●	●									●	●	●	●					●		●	容器に記載 常 温	冷蔵	
トランスワブ	●	●	●	●								●	●	●	●				●	●		●	容器に記載 5～25℃	冷蔵	
トランスワブネーザル			●			●							●		●							●	容器に記載 5～25℃	冷蔵	
カルチャースワブEZ																						●	容器に記載 常 温	冷蔵	
シードチューブ	●					●	●	●							●	●		●	●	●		●	1 年 常 温	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送してください。139頁参照
HK半流動培地																			●				6ヶ月 常 温	保温 常温	
FA Plusボトル（好気）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	敗血症の疑いのある患者で、抗菌薬の投与前に使用してください。通常、好気・嫌気の2本1組で使用してください。検体10mL（最大接種量）を無菌的に注入し、常温にて提出してください。なお、最大接種量を超えると結果に影響をおよぼすことがあります。 ※血液成分を含まない検査材料については、一部の菌種において発育できない可能性があるため、培養ボトルでの受付はできません。
FN Plusボトル（嫌気）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	
PF Plusボトル（小児用）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	小児など採血量4mLまでの少量検体の場合は、PFボトルを使用し、4mL（最大接種量）を無菌的に注入し、常温にて提出してください。 ※血液成分を含まない検査材料については、一部の菌種において発育できない可能性があるため、培養ボトルでの受付はできません。
ヘリコポーター																					胃生検		容器に記載 冷 蔵	冷蔵	ヘリコバクター専用の輸送培地です。生検材料を培地の表面より0.5～1.5cmの深さまで入れ提出してください。
トリコモナス培地											●	●	●										3ヶ月 冷 蔵	保温	尿道分泌物や膣分泌物はそのまま、尿は遠心後の沈渣物を培地深部に接種してください。

※上記以外の培地、容器についてはお問い合わせください。シャーレ、その他の指定外の容器での採取はご遠慮ください。

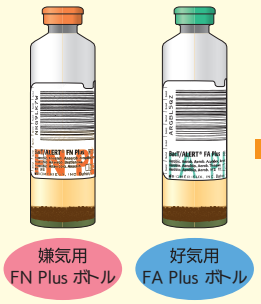
微生物学的検査

検体採取にあたっての注意事項

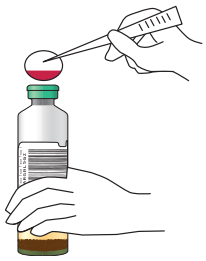
●原則として抗菌薬投与前に採取してください。投与後の採取の場合、24時間以上経過または次回投与直前に採取してください。
●細菌学検査の場合は特に雑菌の混入を避けるため、採取器具、検体容器とも必ず滅菌されたものをご使用ください。
●血液や穿刺液の採取にあたっては採取部位を十分消毒し、常在菌が混入しないようにご配慮ください。（下記をご参照ください）
●材料、検査項目等により所定の容器をご使用ください。
●喀痰の採取にあたっては、口腔内常在菌による汚染を防ぐため、2～3回うがいしてから、できるだけ唾液・鼻粘膜の混入を避けるようにして喀痰を採取してください。
●便の採取にあたっては、急性期の排出便を数ヶ所採取し、1g程度採取してください。
●容器・採取後の保存方法の詳細は、137頁の輸送培地・輸送容器一覧をご参照ください。
但し、以下の菌種においては採取容器によって保存条件が異なるのでご注意ください。
＊***Neisseria gonorrhoeae***（淋菌）
Neisseria meningitidis（髄膜炎菌）
スワブ類の場合　-　冷蔵保存
その他の容器の場合　-　保温 又は常温保存

血液培養のための採血方法

①準備

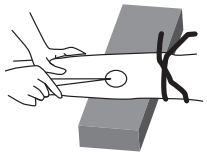


確実に原因菌を検出するために、血液培養では好気用と嫌気用のボトルを1本ずつ（2本＝1セット）を用意します。

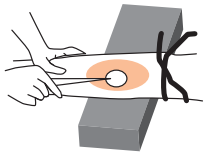


採血の10～20分前から病室のドアを閉め、空調機を止めます。ボトルのゴム栓を10%ポビドンヨード液（イソジン®）または70%エタノールで消毒します。

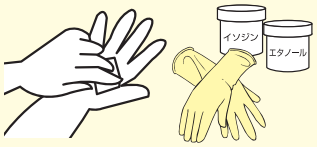
②消毒



70%エタノールで穿刺箇所を30秒ほど消毒します。

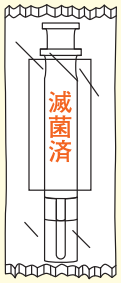


10%ポビドンヨード液（イソジン®）に浸した滅菌綿球で穿刺箇所を中心に、同心円ないし渦巻状に広範に塗布し、自然乾燥します。ポビドンヨードに過敏な場合は70%エタノールで消毒します。

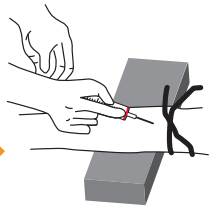


消毒した皮膚には触れないようにします。又、採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。

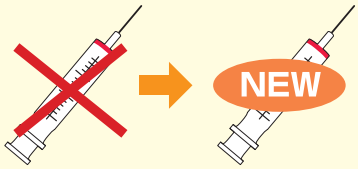
③採血・ボトルへの接種



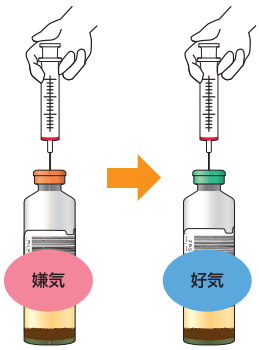
滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。



必要量採血します。



血管の穿刺に失敗した場合、注射器ごと新しいものに替えてください。
針刺し事故には充分気をつけてください。
採血後、ボトルに血液を接種する前に注射針が汚染されないように注意してください。



用意した２本のボトルに等量の血液を接種します。各ボトルに10mL接種します。
（嫌気⇒好気の順）

④接種後



ボトル内容物を静かに混和します。



ボトルに採血日時・患者名等を記入します。



採血後のボトルはすぐご提出ください。

ご注意

●ボトルへの最大接種量は好気・嫌気ボトルは10mL、小児用ボトルは4mLです。血液接種量が多い程、検出率が向上するという報告がありますので、最大接種量を接種するよう推奨しています。但し、それを超えると結果に影響を及ぼすことがありますのでご注意ください。
●ボトルをすぐに提出できない場合は、常温で保存し、なるべく早く提出してください。
●バーコードラベルには、上から記載やラベルを貼付しないでください。
●CUMITECH1B blood culture Ⅲを参考にしています。

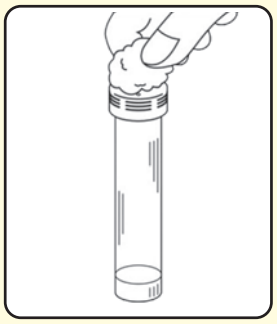
微生物学的検査

シードチューブの使用方法

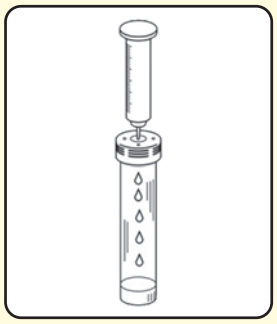
＊正確に安全に嫌気性菌を輸送・保管するために、検体の採取は下記の手順に従い十分注意して行ってください。

A ゴム栓を外さない場合

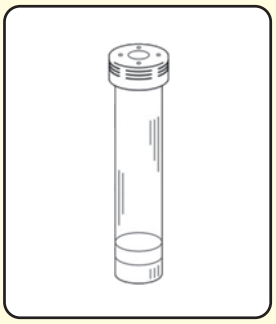
注射器による方法
（胸水、腹水、尿、穿刺液など）



消毒用アルコール綿などを用いてゴム栓の刺通部を消毒してください。



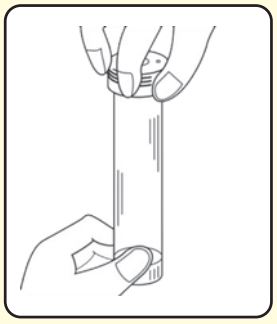
注射針を刺通部に刺し検体を注入してください。



すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管してください。

B ゴム栓を外す場合

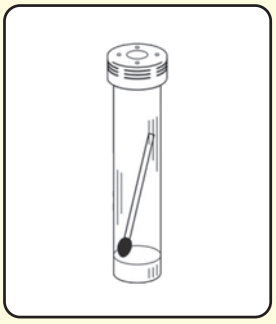
綿棒などによる方法
（便、膿、組織片など）



容器を立てたままの状態で注意深くゴム栓を外してください。



ゴム栓を外し、すみやかに検体を入れ、ゴム栓を閉めてください。この時、傾けないように注意してください。



すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管してください。

注意事項

- ●インジケーター付き寒天の表面に通常、凝固水が溜まりますが、菌の輸送・保管には支障ありません。
- ●検体採取後数分経過すると、僅かに着色する場合がありますが、使用に差し支えありません。
- ●ゴム栓を外す時は、ゴム栓に付着した検体が飛散するおそれがあるため、ゆっくり外してください。
- ●輸送する場合は、極力立てた状態で行ってください。
- ●本品は輸送・保管容器のため、培養には使用できません。

●細菌顕微鏡検査（一般細菌　グラム染色）結果記載法

報告様式

細菌の染色性	細胞所見	菌量または細胞数
グラム陰性桿菌	白血球	陰性
グラム陰性双球菌	上皮細胞	1＋
グラム陽性桿菌		2＋
グラム陽性球菌		3＋
酵母様真菌		4＋

菌量等の表現

表現	細菌数（鏡検倍率×1000）	細胞数（鏡検倍率×100）
陰性	認めず	認めず
1＋	1視野あたり ＜1	1視野あたり ＜1
2＋	1視野あたり 1～5	1視野あたり 1～9
3＋	1視野あたり 6～30	1視野あたり 10～25
4＋	1視野あたり ＞30	1視野あたり ＞25

●培養検査結果記載法

培地に発育した菌量の表現

表現	培地発育状態
陰性	コロニーの形成が認められなかった場合
1＋	コロニーの培地に占める割合が、1/3未満の場合
2＋	コロニーの培地に占める割合が、およそ1/3以上～ 2/3未満の場合
3＋	コロニーの培地に占める割合が、およそ2/3以上の場合
4＋	コロニーの形成が培地、全面に及んでいる場合

※血液培養検査、ヘリコバクター・ピロリ培養の場合、菌量の表現を行いません。

●喀出痰の品質評価

Miller & Jones の分類（肉眼的）

分類	性状
M1	唾液、完全な粘性痰
M2	粘性痰の中に少量の膿性痰を含む
P1	膿性部分が1/3以下の痰
◎P2	膿性部分が1/3 ～ 2/3の痰
◎P3	膿性痰が2/3以上の痰

◎が最も検査に適した検体と評価されます。

Geckler の分類（顕微鏡的）

分類	細胞数/1視野（100倍）	
	白血球（好中球）	扁平上皮細胞
1	＜10	＞25
2	10 ～ 25	＞25
○3	＞25	＞25
◎4	＞25	10 ～ 25
◎5	＞25	＜10
6	＜25	＜25

微生物学的検査

●口腔・気道・呼吸器からの検体

①

検査材料	喀出痰　咽頭拭い液　鼻腔　気管支洗浄液　鼻汁　気管内採痰　腫瘍			
主な検出可能菌種	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）	*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）
	Enterococcus spp.（腸球菌）	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Klebsiella pneumoniae*（肺炎桿菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）	*Pasteurella multocida*	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）
	Acinetobacter baumannii	*Moraxella catarrhalis*（カタル球菌）	*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）	
*追加必要菌	*Bordetella pertussis*（百日咳菌）	*Bordetella parapertussis*（パラ百日咳菌）	*Corynebacterium diphtheriae*（ジフテリア菌）	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）
	Mycoplasma spp.	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌
常在菌	Compromised hostにマークがない検体（一般細菌・抗酸菌検査依頼票、C.臨床症状）			
	α-Streptococcus	*Neisseria* spp.（淋菌、髄膜炎菌を除く）	*Micrococcus* spp.	*Bacillus* spp.（セレウス菌を除く）
	Corynebacterium spp.（ジフテリア菌以外）		coagulase negative *Staphylococcus*（菌量1+以下の場合）	
	Moraxella spp.（カタル球菌を除く）	*Capnocytophaga* spp.	*Lactobacillus* spp.	他 口腔内常在菌
	Compromised hostにマークがある検体（一般細菌・抗酸菌検査依頼票、C.臨床症状）			
	α-Streptococcus	*Neisseria* spp.（淋菌、髄膜炎菌を除く）	*Micrococcus* spp.	*Bacillus* spp.（非病原性）
注意事項	※Compromised hostで有るか否かが不明のときは、Compromised hostにマークがない検体として判断させていただきます。 ※原則的に常在菌として設定された菌叢が検出された場合、菌名の報告は致しません。報告形態は下記の通りです。 「常在菌叢（菌量）」 ※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養（加算）の依頼をし、シードチューブで提出してください。			

②

検査材料	副鼻腔			
主な検出可能菌種	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）	*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）
	Enterococcus spp.（腸球菌）	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Klebsiella pneumoniae*（肺炎桿菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）
	Pseudomonadaceae（シュードモナス科）	*Acinetobacter baumannii*	*Moraxella catarrhalis*（カタル球菌）	*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）
	Pasteurella multocida	嫌気性菌		
*追加必要菌	*Bordetella pertussis*（百日咳菌）	*Bordetella parapertussis*（パラ百日咳菌）	*Corynebacterium diphtheriae*（ジフテリア菌）	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）
	Mycoplasma spp.	酵母様真菌	糸状菌	
常在菌	上気道常在菌の混入を避けて採取された検体や膿瘍から検出された菌は起炎菌の可能性が疑われるものとして取扱います。			
注意事項	嫌気培養も実施いたします。（加算）			

検体採取・依頼に関する注意事項

※喀出痰は2〜3回うがいをし、口腔内を清潔にして、常在菌の混入を避けて採取してください。
※上気道からの検体採取は、老廃物や常在菌の混入を避け、病巣部より採取してください。
※鼻腔は鼻腔内を清潔にしてから、採取してください。
※検体は通常冷蔵保存（2〜8℃）とし、乾燥を避けて提出してください。（淋菌、髄膜炎菌が疑われる生検体の保存は保温または室温としてください。但し、スワブ類で採取された場合の保存は、冷蔵してください。）
＊通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼してください。

●消化管からの検体

①

検査材料	固形便			
主な検出可能菌種	*Shigella* spp.（赤痢菌）	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.
	腸管出血性大腸菌	*Vibrio parahaemolyticus*（腸炎ビブリオ）	*brio cholerae*（コレラ菌）	*Vibrio* spp.
	Aeromonas spp.	*Plesiomonas shigelloides*	*Edwardsiella tarda*	*Yersinia* spp.
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Bacillus cereus*（セレウス菌）	
*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridioides difficile*（ディフィシル菌）	*Campylobacter* spp.	*Yersinia* spp.
	酵母様真菌	糸状菌		
注意事項	食中毒菌検索、海外渡航歴の有にマークがある場合は、カンピロバクター培養を実施いたしますので、*Campylobacter* spp.は検出可能菌種となります。			

②

検査材料	下痢便　　血便			
主な検出可能菌種	*Shigella* spp.（赤痢菌）	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.
	腸管出血性大腸菌	*Vibrio parahaemolyticus*（腸炎ビブリオ）	*Vibrio cholerae*（コレラ菌）	*Vibrio* spp.
	Aeromonas spp.	*Plesiomonas shigelloides*	*Campylobacter* spp.	*Edwardsiella tarda*
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Bacillus cereus*（セレウス菌）	*Klebsiella oxytoca*
*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridioides difficile*（ディフィシル菌）	*Yersinia* spp.	酵母様真菌
	糸状菌			

③

検査材料	胃液　　膵液			
主な検出可能菌種	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）
*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridioides difficile*（ディフィシル菌）	*Campylobacter* spp.	*Yersinia* spp.
	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌	

④

検査材料	胆汁　　肝膿瘍			
主な検出可能菌種	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）
	嫌気性菌			
*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridioides difficile*（ディフィシル菌）	*Campylobacter* spp.	*Yersinia* spp.
	酵母様真菌	糸状菌		

報告

※検体が①②の場合、通常下痢原因菌とされている菌のみの報告とし、常在菌の報告はいたしません。常在菌のみが検出された場合は、報告書には「下痢原因菌は認められませんでした。」とコメントいたします。

検体採取・依頼に関する注意事項

※検便検査（食品関連従業者）の依頼は、必ず「衛生・環境検査依頼書E-1」にてご依頼をしてください。
※家族に下痢原因菌の保菌者がいる場合や下痢原因菌が前回検出された場合は、検出された旨と検出菌名をコメント欄に明記してください。
※特に臨床症状が腸管出血性大腸菌、下痢原性大腸菌を疑う場合、および前回検出された場合にはコメント欄に明記するとともに大腸菌血清型別を依頼してください。
※細菌性の感染性腸炎では、急性期の新鮮な糞便を採取してください。
※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養（加算）の依頼をし、シードチューブで提出してください。
検体①②での嫌気培養は *Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）または*Clostridioides difficile*（ディフィシル菌）のいずれかを必ず選択してください。

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼してください。

微生物学的検査

●泌尿器・生殖器からの検体

①

検査材料	尿　カテーテル尿			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）
	Streptococcus pyogenes（A群連鎖球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）
	Staphylococcus saprophyticus			
*追加必要菌	*Neisseria gonorrhoeae*（淋菌）	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌

②

検査材料	膣分泌物　子宮頸管粘液　尿道分泌物　羊水　カテーテル（膀胱・尿道）			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	Pseudomonadaceae（シュードモナス科）
	Streptococcus pyogenes（A群連鎖球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Staphylococcus saprophyticus*
	Neisseria gonorrhoeae（淋菌）	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）	*Lactobacillus* spp.	*Gardnerella vaginalis*
	Haemophilus influenzae（インフルエンザ菌）			
*追加必要菌	*Mycoplasma* spp.	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌

③

検査材料	膿瘍（生殖器）			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）
	Streptococcus pyogenes（A群連鎖球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Staphylococcus saprophyticus*
	Neisseria gonorrhoeae（淋菌）	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）	*Gardnerella vaginalis*	*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）
	嫌気性菌			
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌		
注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算）			

報告

※検体①の場合、尿定量培養を実施します。但し、スワブで提出された場合や尿沈渣物の場合は、定量培養は実施しません。

検体採取・依頼に関する注意事項

※尿道口、外陰部には、皮膚常在菌が生息しており、これらが混入しないように採取してください。

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼してください。

●血液・穿刺液

①培養ボトル

検査材料	動脈血　　静脈血

主な検出可能菌種				
	Salmonella serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Escherichia coli*（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）	*Vibrio vulnificus*	*Campylobacter* spp.
	Streptococcus pyogenes（A群連鎖球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）	*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）
	Enterococcus spp.（腸球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Listeria monocytogenes*（リステリア）	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）
	Haemophilus influenzae（インフルエンザ菌）	*Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌）	*Elizabethkingia meningoseptica*	*Candida albicans*
	Cryptocuccus neoformans	嫌気性菌		

注意事項	①既に抗菌薬が投与されている場合、血中濃度が最も低下する時期（次の投与前）にFA Plus・FN Plusに採取して提出してください。 ②細菌塗抹検査を依頼される場合、生検体も一緒に提出してください。（培養ボトルでの塗抹検査はできません。） ③嫌気培養も実施いたします（加算） ④血液成分を含まない検査材料については、一部の菌種において発育できない可能性があるため、培養ボトルでの受付はできません。

②（生検体）

検査材料	胸水　　腹水　　関節液

主な検出可能菌種				
	Escherichia coli（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）
	Vibrio vulnificus	*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）
	Streptococcus agalactiae（B群連鎖球菌）	*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）
	coagulase negative Staphylococcus	*Elizabethkingia meningoseptica*	*Listeria monocytogenes*（リステリア）	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）
	Bordetella bronchiseptica（気管支敗血症菌）	嫌気性菌		

*追加必要菌	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）	酵母様真菌	糸状菌

注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算） 増菌培養を実施いたします。

③（生検体）

検査材料	髄液　　骨髄液

主な検出可能菌種				
	Escherichia coli（大腸菌）	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌目細菌）	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）
	Haemophilus influenzae（インフルエンザ菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）	*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）
	Streptococcus pneumoniae（肺炎球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*coagulase negative Staphylococcus*
	Elizabethkingia meningoseptica	*Listeria monocytogenes*（リステリア）	*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）	*Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌）
	嫌気性菌	*Candida albicans*	*Cryptocuccus neoformans*	

*追加必要菌	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）	*Campylobacter* spp.

注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算） 増菌培養を実施いたします。

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼してください。

微生物学的検査

●その他の部位からの検体

①

検査材料	開放性膿　褥瘡　ドレーン排液　カテーテル先端(IVH・CV)　滲出液			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*(大腸菌)	*Enterobacteriaceae*(腸内細菌目細菌)	*Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)	*Pseudomonadaceae*(シュードモナス科)
	Pasteurella spp.	*Moraxella catarrhalis*(カタル球菌)	*Enterococcus* spp.(腸球菌)	*Streptococcus pyogenes*(A群連鎖球菌)
	Streptococcus agalactiae(B群連鎖球菌)	*Streptococcus pneumoniae*(肺炎球菌)	*Streptococcus* spp.(連鎖球菌)	*Staphylococcus aureus*(黄色ブドウ球菌)
	Coagulase Negative Staphylococcus			
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌	
注意事項	上記検査材料は、嫌気性菌の関与することが多いため、嫌気培養(加算)をご依頼されることをお薦めいたします。 HK半流動培地にて提出された場合、最大1週間まで増菌培養を行います。 検査材料がカテーテル先端の場合、増菌培養を実施いたします。			

②

検査材料	非開放性膿			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*(大腸菌)	*Enterobacteriaceae*(腸内細菌目細菌)	*Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)	*Pseudomonadaceae*(シュードモナス科)
	Pasteurella spp.	*Moraxella catarrhalis*(カタル球菌)	*Enterococcus* spp.(腸球菌)	*Streptococcus pyogenes*(A群連鎖球菌)
	Streptococcus agalactiae(B群連鎖球菌)	*Streptococcus pneumoniae*(肺炎球菌)	*Streptococcus* spp.(連鎖球菌)	*Staphylococcus aureus*(黄色ブドウ球菌)
	Coagulase Negative Staphylococcus	嫌気性菌		
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌		
注意事項	嫌気培養を実施いたします。(加算)			

③

検査材料	耳漏　眼脂			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*(大腸菌)	*Enterobacteriaceae*(腸内細菌目細菌)	*Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)	*Pseudomonadaceae*(シュードモナス科)
	Pasteurella spp.	*Moraxella catarrhalis*(カタル球菌)	*Enterococcus* spp.(腸球菌)	*Haemophilus influenzae*(インフルエンザ菌)
	Streptococcus pyogenes(A群連鎖球菌)	*Streptococcus agalactiae*(B群連鎖球菌)	*Streptococcus pneumoniae*(肺炎球菌)	*Streptococcus* spp.(連鎖球菌)
	Staphylococcus aureus(黄色ブドウ球菌)	*Coagulase Negative Staphylococcus*	*Vibrionaceae*(ビブリオ科)	
*追加必要菌	酵母様真菌	糸状菌	嫌気性菌	

④

検査材料	皮膚　爪　毛			
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*(大腸菌)	*Enterobacteriaceae*(腸内細菌目細菌)	*Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)	*Pseudomonadaceae*(シュードモナス科)
	Enterococcus spp.(腸球菌)	*Streptococcus pyogenes*(A群連鎖球菌)	*Staphylococcus aureus*(黄色ブドウ球菌)	*Coagulase Negative Staphylococcus*
	酵母様真菌	糸状菌		

* 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼してください。

感染症法における感染症の分類

感染症類型	疾病名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
1	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
2	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	×
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARSコロナウイルスであるものに限る。）	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERSコロナウイルスであるものに限る。）	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
3	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
4	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ウエストナイル熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	エムポックス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	キャサヌル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。）	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く。）	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	野兎病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×

微生物学的検査

感染症法における感染症の分類

感染症類型	疾病名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
5	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	×	×	急性呼吸器感染症基幹(※1)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	○	×	×	急性呼吸器感染症基幹(※1)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科基幹(※2)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性呼吸器感染症	○	×	×	急性呼吸器感染症	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2	×	×	×	×	×	×
	細菌性髄膜炎(侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	水痘(入院例に限る。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	多剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	多剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×

(届出事項) a：氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他、(保護者の住所氏名)
b1：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名
b2：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍
c1：年齢、性別
c2：年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

※1　インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)及び新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)の基幹定点の届出については、届出対象は入院したもので、届出内容は入院時の対応を加える。

※2　感染性胃腸炎の基幹定点の届出については、届出対象は病原体がロタウイルスであるもので、届出内容は原因病原体の名称及び検査方法を加える。

厚生労働省ホームページ　感染症法に基づく医師の届出のお願い　より引用(2026年6月1日時点)
(https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001681651.pdf)

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
病理組織顕微鏡検査								
7B010	病理組織検査	10～20% ホルマリン 固定組織	ホルマリン 入り容器 常温	ヘマトキシリン エオジン染色 等		6 ～ 10	一臓器 につき 860 病理	免疫組織化学染料、再固定処理、脱脂処理、脱灰処理が必要な場合は所要日数が7～10となります。
	ブロック制作	10～20% ホルマリン固定組織 1×1×1mm以上						
	未染色標本作製	10～20% ホルマリン固定組織 または パラフィンブロック	ホルマリン 入り容器 常温					
	染色標本作製	10～20% ホルマリン固定組織 または パラフィンブロック						特殊なご依頼の場合や未染色標本スライド使用の染色などは事前にお問合せください。
7B020	免疫組織化学染色	10～20% ホルマリン固定組織 10×10×5mm以上	ホルマリン 入り容器 常温	間接法		7 ～ 12	860 ＋ 400 病理 ※	『確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者』に対して、標本作製を実施した場合には、1,600点を所定点数に加算する。
		凍結組織	凍結	蛍光抗体法				

※『確定診断のために 4 種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者』とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）又は悪性黒色腫が疑われる患者を指す。これらの疾患が疑われる患者であっても 3 種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
※手術材料、脱脂、再固定、脱灰が必要な検体は所要日数が多くなることをご了承ください。

検査材料の提出方法について

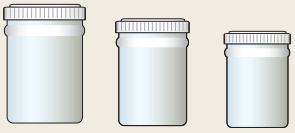
病理組織検査のご提出の際はホルマリン固定組織、パラフィンブロック、又は凍結組織でお願いいたします。
※なお、以下に記載します内容は診断を迅速かつ正確に行う為にも重要な事項となりますので、十分にご理解の上ご協力ください。

●ホルマリン固定組織でのご提出

①摘出した組織を自家融解、乾燥から防ぐ為、直ちに固定液に入れてください。
②固定液は、10～20% ホルマリン液を使用し、組織が乾燥しないように十分量を使用してください。
③固定容器は、組織の大きさよりもかなり大きめの広口ふたのものを使用してください。（生検、小組織容器は当社にて準備しております。）
（容器いっぱいに入れると、固定不良、形状保持不良となり、固定後容器から取り出せなくなります。）
④胃生検材料等の微小検体をご提出の場合は、ろ紙等に貼り付け 10～20% ホルマリン液にお入れください。
（なお、複数個ご提出の場合にはナンバーをろ紙に鉛筆で記入するか、採取部位（各ナンバー）毎に容器を分けてご提出ください。）
⑤臓器の異なる材料は容器を分けてご提出ください。（1 容器に 1 臓器）
⑥組織を固定したら、日時等（採取年月日、採取時間、固定液の濃度、種類）を必ず依頼票にご記入ください。

病理組織　＊容器にヒビ・亀裂等ないかご確認ください。又、蓋は確実に閉めてご提出ください。

●小物検体

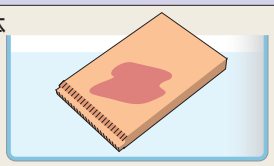


10～20%ホルマリン

＊容器ラベルに顧客名、患者名、性別、年齢を必ず記入してください。

→ 提出

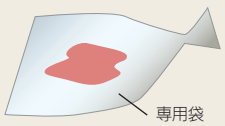
●大物検体



固定（10～20%ホルマリン）

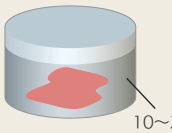
＊固定液から出して専用袋に入れ時間がたつと表面が乾燥しますので乾燥防止にホルマリン液に浸したガーゼをおかけください。

→



→ 提出

プラスチック性密閉容器（固定液中）



→ 提出

病理学的検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
腫瘍関連免疫組織検査								
4H010	エストロゲンレセプター (8801)	腫瘍組織		酵素抗体法(IHC法)	(－)	7～10	720 病理	同一月に併せて実施した場合は、180点を主たる病理組織標本作製の所定点数に加算する。
4H015	プロゲステロンレセプター (8802)	腫瘍組織		酵素抗体法(IHC法)	(－)	7～10	690 病理	
8530 8C053	乳癌 HER2 遺伝子〔FISH〕 (7991)	未染スライド **4** 枚	**X2** 常温	FISH 法		9～13	2700 病理	パラフィンブロックでも受託可。但し、所要日数は概ね2日程度加算される。 ※1
8571 8C053	胃癌 HER2 遺伝子〔FISH〕 (7539)	未染スライド **4** 枚	**X2** 常温	FISH 法		9～12	2700 病理	＊4

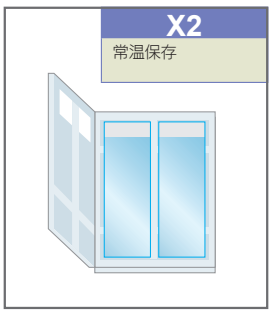
※1　抗 HER2 ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。HER2 タンパクの免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製を併せて行った場合は、3,050 点を算定できる。

【エストロゲンレセプター・プロゲステロンレセプターのご依頼時の留意事項】

1. 本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので病理組織依頼書に病理診断名・組織型をご記入の上、ご依頼ください。
2. 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理報告書(コピー)の添付をお願いいたします(但し、弊社で病理検査を実施している場合は不要です)。なお、諸事情により添付できない場合には、病理診断名、組織型の他、臨床情報等可能な範囲で記載をお願いいたします。
3. 検査材料は10%ホルマリン固定液に24～48時間程度の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。固定組織、未染色スライド等でのご依頼は、予めご相談ください。

【乳癌・胃癌ＨＥＲ２遺伝子〔FISH〕のご依頼時の留意事項】

1. ご依頼時に「病理報告書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼ください。
2. 推奨固定液は10%中性緩衝ホルマリンです。推奨固定時間は乳癌6～72時間（6時間未満の検体は避ける）、胃癌6～72時間（生検検体は大きさに準ずるが6時間以上が望ましい）です。
3. 標本はシランなどのコーティングスライドを使用して、３７℃恒温槽で乾燥させてください。なお、薄切後長時間放置（薄切から６週間以上）された未染色スライド、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
4. 過去の種々の条件で作成された標本でFISH法検査をする場合、必ずしも全ての標本でＦＩＳＨ法が可能とは限りません。



腫瘍関連免疫組織検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
673 7B020	HER2/neu タンパク (8031)	腫瘍組織	※1	酵素抗体法(IHC 法)	表 1・2 参照	6〜14	690 病理	
683 7B020	EGFR タンパク (8032)	腫瘍組織	※2	酵素抗体法(IHC 法)	表 3 参照	6〜14	690 病理	

※1 HER2/neuタンパク ご依頼方法

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用ください。
2. 先に当社において病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼ください。

◎HER2/neuタンパク(乳癌の場合)

3. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された転移性乳癌の原発巣または転移巣の腫瘍組織です。
   ①初発乳癌の原発巣ないし転移巣の切開生検・針生検。
   ②再発した転移性乳癌では過去に手術された原発巣の組織標本ないし転移巣の生検／手術標本。
4. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：6〜72時間(※6時間未満の検体は避ける)
   抗原性保持の点から上記固定方法が推奨されますが、20%で固定する場合や緩衝でなく純水で希釈した10%、20%ホルマリンを用いた場合、わずかに抗原性の低下する可能性はありますが判定に差し支えはないと考えられます。但し、アセトン系、アルコール系固定液は抗原性保持の点から検査不能となります。
5. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見の場合に実施します。

◎HER2/neuタンパク(胃癌の場合)

3. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された胃、又は胃食道接合部の腺癌です。
4. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：切除標本　6〜72時間
   　　生検検体　検体の大きさに準ずる(6時間以上が望ましい)
5. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施(別途860点)の上、悪性所見(腺癌)の場合に実施します。

※2 EGFRタンパク ご依頼方法

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用ください。
2. 先に当社において病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼ください。
3. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された進行・再発の結腸・直腸癌の手術材料です。(生検材料や、転移組織についてのデータは少なく、検査に適した腫瘍細胞数等から明らかなデータはありません。)
4. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：24〜48時間以内(手術材料)
   10%中性緩衝ホルマリンの使用が推奨されておりますが、10%又は、20%非緩衝ホルマリン液による固定においても、固定が適切にされていれば、検査対象として使用可能です。

(表1)HER2/neuタンパク(IHC法)乳癌の判定基準

スコア	染色パターン	判定
3+	強い完全な全周性の膜染色が認められる ＞10%	陽性
2+	弱／中程度の全周性の膜染色が認められる ＞10%、	equivocal
1+	かすかな／かろうじて認識できる不完全な膜染色が認められる ＞10%	陰性
0	染色像が認められない、又は不完全およびかすかな／かろうじて膜染色が認められる ≦ 10%	

(表2)HER2/neuタンパク(IHC法)乳癌の判定基準

染色強度スコア	判定	染色パターン	
	HER2過剰発現判定	(切除検体)	(生検検体)
0	陰性	細胞膜に陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片に10%未満である	陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色がある癌細胞なし
1+	陰性	弱／ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の染色がある癌細胞が一切片に10%以上認められる。癌細胞は細胞膜のみが部分的に染色されている	癌細胞の染色割合に関係なく、弱／ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスター が1つ以上あり。
2+	境界域	弱〜中程度の完全な側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片の10%以上認められる	癌細胞の染色割合に関係なく、弱〜中程度の完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスターが1つ以上あり。
3+	陽性	強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞が一切片に10%以上認められる。全周性に認められない場合もある	癌細胞の染色割合に関係なく、強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色がある癌細胞クラスターが1つ以上あり。

＊生検標本では、5個以上の癌細胞の集塊を癌細胞クラスターと定義します。

(表3)EGFRタンパクの判定基準

判定	定義
陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
陽性	染色態度が連続性或いは不連続性に係らず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。

病理学的検査

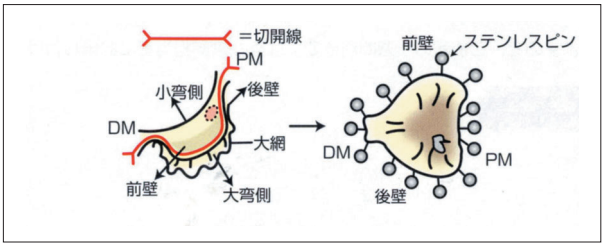
病理組織顕微鏡検査検体提出方法

●組織は次のように固定し、ご提出ください。（各臓器の癌取扱い規約に従っています。）
固定操作の不明点はお問い合わせください。

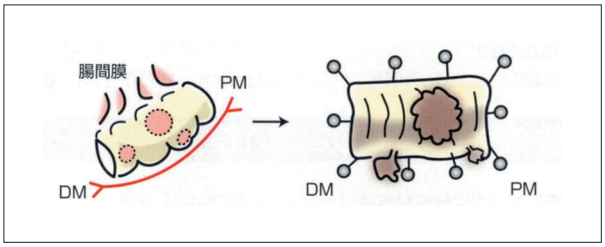
管　腔　臓　器

腫瘍を避けてハサミで切開し、内容物を生食で洗います。
粘膜面を上にして固定板上に引き伸ばし、、臓器辺縁をピン（釘）等で貼り付けます。
臓器が浸るように十分量の 10 ～ 20%ホルマリン液に浸漬させます。

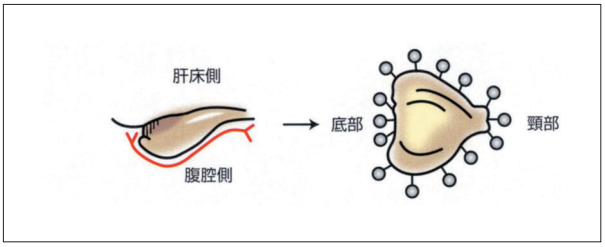
胃　：通常は大弯側の大網付着部直前（前壁側）を開いて固定してください。但し、病変が大弯線上にある時は小弯線上で開きます。



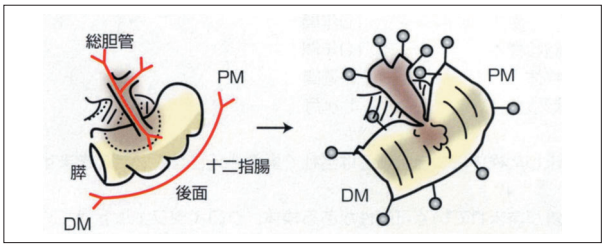
腸　：腸間膜とは反対側を開いて固定してください。



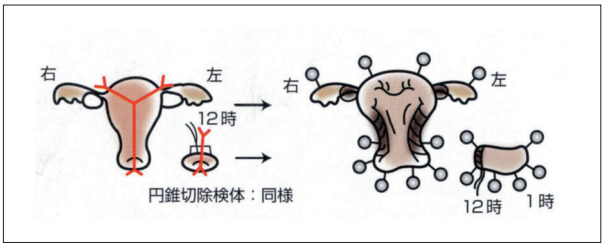
胆　嚢：通常は腹腔側を開いて固定してください。



膵頭部：十二指腸を後面で開いてから総胆管を開きます。（場合によっては膵管も開きます。）但し、繋がりが判らなくなるようなら、開かず両管からホルマリンを注入してください。



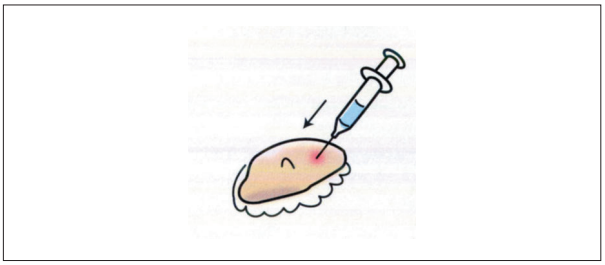
子　宮：12時の方向で前壁を体部中央上まで開き、そこから両卵管角に向けてY字に開いて固定してください。



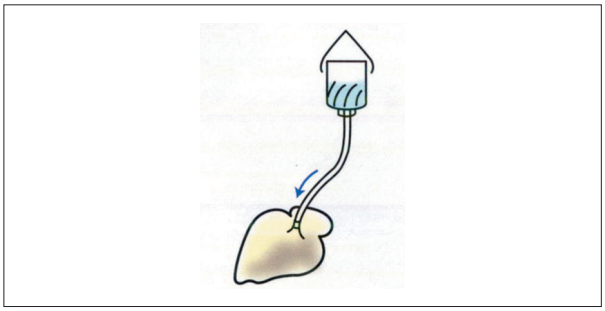
実　質　臓　器

肝・腎：腫瘍を避けて左右にメス等で割を入れ、ホルマリンに浸漬させ固定してください。

乳　房：注射器で多数箇所にホルマリンを注入し、固定してください。（厚みがありますので充分に注入してください。）乳房切除は上極に、温存療法は乳頭側にマーキングをお願いします。

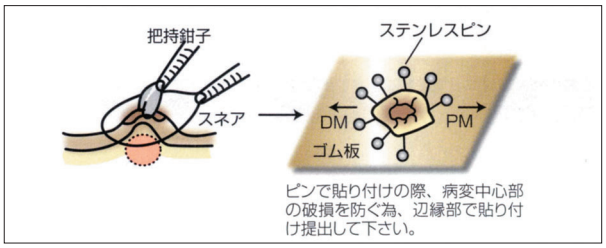


肺　：気管支からホルマリンを注入して固定してください。VATSなどは細い針の注射器にて肺組織内にホルマリンを注入して固定してください。

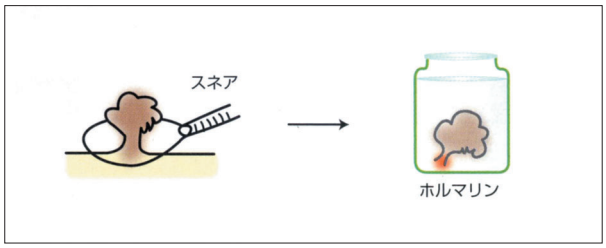


生検・EMR・ESD・ポリペクトミー

ESD　：PM、DMが、判るように記入してください。



EMR・ポリペクトミー：断端が判るようにマークをつけて固定してください。



●パラフィンブロックでのご提出

すでに作製済のパラフィンブロックを、破損のないよう柔らかい布等で包み、ビニール袋に入れてご提出ください。

●凍結組織でのご提出

凍結組織作製の材料（凍結包埋剤= O.C.T.compound、包埋皿等）は、当社にて準備しておりますので、ご依頼の一週間前までには弊社営業担当者にお申し付けください。

検査材料の保管について

病理学的検査においては検査材料は以下のように保管いたします。

【病理組織検査】

病理組織ブロック	10年間
標本	10年間
組織残検体	1年間

【細胞診検査】

スライド標本	陰性	5年間
	陽性	10年間
穿刺吸引細胞診標本		10年間
細胞診生残検体		1週間
液状化細胞診残検体		1ヶ月

期間が過ぎました検体につきましては当社で廃棄処分させていただきます。

※放射性物質が含まれていなる可能性がある検体、クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる検体、又、歯等に関しては検査実施できません。

病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞診検査								
1961 7A020	婦人科細胞診	外陰部 膣断端 子宮膣部 子宮頸部 子宮体部	**塗抹標本** **(湿固定1枚)** 常温	パパニコロウ染色		4〜6	150 病理	
		自己採取検体	**専用容器** 常温				150 病理	
1963 7A010	喀痰集細胞法	喀痰 (3日間蓄痰)	**専用容器** 常温				190 病理	
1962 7A010	一般細胞診	喀痰	**塗抹標本** **(湿固定2枚)** 冷蔵				190 病理	※1
		尿などの 細胞数の少 ない検体	**塗抹標本** **(湿固定1枚)** 冷蔵				190 病理	血清、細胞成分が多いときは乾燥固定も1枚追加
		体腔液(胸水・腹水)などの 穿刺吸引 液状検体	**塗抹標本4枚** **(湿固定2枚、乾燥固定2枚)** 冷蔵	パパニコロウ染色 ギムザ染色 PAS 染色			190 病理	胆汁などの消化液を生の状態で提出される場合は、細胞変性をできるだけ抑えるため、必ず冷蔵保存にてご提出ください。 ※1
		擦過物 各種洗浄液 髄液 捺印標本 圧挫標本その他	**塗抹標本3枚** **(湿固定2枚、乾燥固定1枚)** 冷蔵				190 病理	髄液は検体量が少ない場合乾燥固定1枚のみ。 ※1
2098 7A021	婦人科材料 LBC (子宮頸部液状化細胞診) (8146)	子宮頸部	**W1** 常温	パパニコロウ染色		4〜6	150 + 45 ※2 病理	
2099 7A021	婦人科材料 LBC (標本作製のみ) (8147)					2〜4		
1990 7A010	一般検体液状化検体細胞診 (初検)	穿刺吸引検体等	**専用容器** **(LBCPREP)** 常温			4〜6	190 病理	
1900 7A010	一般検体液状化検体細胞診 (再検査)	過去に擦過または穿刺により採取し固定保存液に回収した細胞診検体					190 + 85 ※3 病理	

※1　「一般細胞診」とは喀痰細胞診、気管支洗浄細胞診、体腔液細胞診、体腔洗浄細胞診、体腔臓器擦過細胞診及び髄液細胞診等を指す。
※2　固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、45 点を所定点数に加算する。
※3　過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、液状化検体細胞診加算として、所定点数に 85 点を加算する。液状検体細胞診加算は、採取と同時に作製された標本に基づいた診断の結果、再検が必要と判断され、固定保存液に回収した検体から再度標本を作製し、診断を行った場合に限り算定できる。採取と同時に行った場合は算定できない。

細胞診検査の注意事項

＊細胞診検査は、必ずしも確定診断ではありません。検査結果はご提出いただいた標本において下されたもので、病変全体を反映するものではないことをご承知おきください。組織検査等による総合的な検査をお勧めします。
＊所要日数はご提出された検査材料の状態や検査結果によって異なることがあります。
＊細胞診専門医の検査が必要な検体は、所要日数が多くなることをご了承ください。



婦人科細胞診(自己採取用)
説明書をご参照ください。



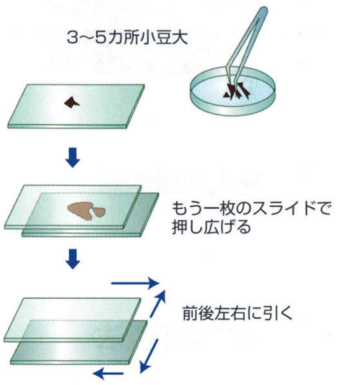
喀痰集細胞法用
155 頁参照



W1液状検体細胞診(LBC)シュアパス
155 頁参照

細胞診検査検体提出方法

細胞診検査は、原則として塗抹し、湿固定もしくは乾燥固定の未染色スライドでご提出ください。
又、材料でご提出の際には、専用の滅菌済み容器でご提出ください。
細菌検査・一般検査等とは別に検体をご提出ください。
記名はフルネームでお願いします。検体には患者名（フルネーム）とカルテ NO. 等必ず 2 つ以上の識別子をご記入ください。

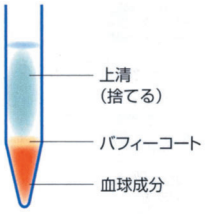


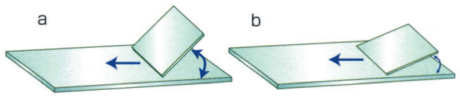
●各種材料の塗抹方法

塗抹の仕方は、検査材料の種類・性状によって異なります。下記の要領で塗抹してください。

①すり合わせ法：喀痰・蓄痰、又、気管支洗浄液・胆汁などの液状検体で粘稠度の高いもの
- 膿様・血性・不透明な部分など肉眼的に性状の異なるところを少量ずつとり、総量小豆大を 2 枚のスライドガラスの間に挟み前後左右に引いて均等に伸展させます。
- 喀痰では、扁平上皮癌は血性部・白濁部、腺癌は黒っぽい部分、小細胞癌は漿液性部分に癌細胞を含む確率が高いと言われていますので、留意してください。

②引きガラス法：体腔液（胸・腹水、心嚢液）・尿などの液状検体・洗浄液で粘稠度の低いものなど
- 尿検体はなるべく細胞成分の多い部分をご提出ください。
- 2,500rpm・5 分遠心後、専用の引きガラスやカバーガラスで塗抹します。悪性細胞などの有核細胞は引き終わりに集まるので、引き終わり部分をスライド内に確実に収めてください。
- 血液成分の多い検体の場合は、フィブリンの析出を防ぐ為に予め検体量の 1/10 程度の抗凝固剤を加え、遠心後はバフィーコート部分を塗抹してください。



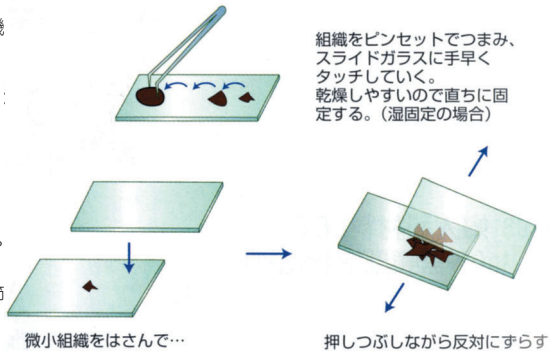


検体の粘稠度が低い時は a のように角度を上げて速く引き、粘稠度が高い時は b のように角度を下げてゆっくり引いてください。

- 検体が多量に採取出来た時はいくつかの試験管に分けて遠心後、バフィーコート部分をまとめて再度遠心します。
- 検体が髄液の場合は、細胞破壊を防ぐ為 700rpm・5 分間の遠心を行ってください。

③オートスメア法：細胞成分に乏しい液状検体・微量体腔液・尿・髄液・穿刺吸引針の洗浄液・専用の機材を使い、遠心しながら塗抹を行います。

④吹き付け塗装法（穿刺吸引細胞診）：乳腺・甲状腺・肺・唾液腺・肝・腎・膵・前立腺・リンパ節など
- 吹き付け・直接塗抹法（採取量が少ない場合）
  穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス上に勢いよく吹き出し、すみやかに 95%エタノールで固定してください。
- 吹き付け - すり合わせ塗抹法（採取量が多い場合）
  穿刺針内に吸引された材料をスライドガラス上に静かに吹き出し、もう 1 枚のスライドガラスで押し伸ばし、反対方向に引いて 2 枚の標本を作製後、すみやかに 95%エタノールで固定してください。

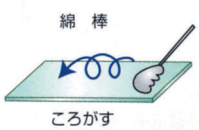


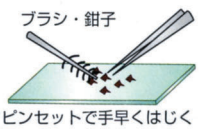
⑤捺印法：各種（固定）腫瘍組織・リンパ節など
- 新しく切った割面をスライドガラスに軽く捺印してください。なお、転移が疑われる小さなリンパ節では、被膜を含む割面全体を捺印してすみやかに 95%エタノールで固定してください。
- 標本は、可能であれば 3 枚以上作製し、1 枚は乾燥固定してください。

⑥圧挫法：脳組織・骨・軟部組織など
- 小組織塊を 2 枚のスライドガラスで挟み、軽く押しつぶしてすみやかに 95%エタノールで固定してください。

⑦擦過材料（ブラシ・ヘラ・綿棒など）の塗抹法：婦人科検体（膣部・頸部・体部）・舌・副鼻腔・気管支など
- 綿棒ではスライドガラス面を転がすように、ヘラでは軽くなでるように塗抹してください。又、ブラシはスライドガラスの上で転がす様にして塗抹してください。又、気管支ブラシなどでは、ピンセットではじく様にして擦過物を塗抹してください。
- 婦人科細胞診（子宮膣部・頸部）で不適正を出さないためには、綿棒以外の採取器具（ブラシ・サーベックスブラシ等）を推奨いたします。







●固定法

細胞は、生体を離れた時点から変性を始めますので、検体を採取後直ちに塗抹・固定をする必要があります。固定には湿固定と乾燥固定がありますが、目的の染色に沿った固定を行ってください。

①湿固定
染色法：パパニコロウ染色
固定液：95%エタノール・コーティング固定剤（スプレー式、滴下式）など

②乾燥固定
染色法：ギムザ染色・PAS 染色
固定法：塗抹後直ちにドライヤー冷風にて急速乾燥させてください。（自然乾燥では乾燥ムラが、温風では細胞変性が生じます。）

※固定後、カバーガラスをかけないでください。

※スライドガラスへの記入方法
スリガラスの部分に鉛筆で氏名（フルネーム）とカルテ NO. をご記入ください。（マジック・ラベルは不可）乾燥固定の検体はスライドに乾燥とご記入ください。

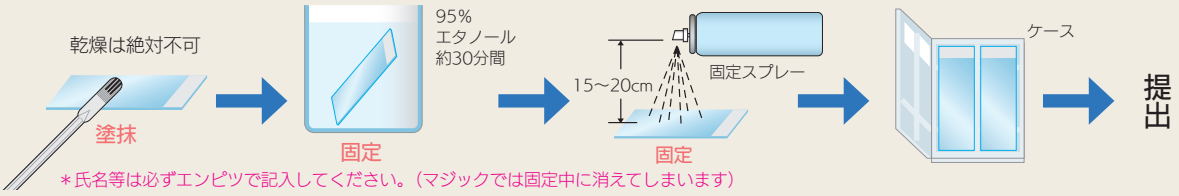
※検体採取から固定までの時間

検　体	塗抹までの放置時間	湿固定するまでの時間
擦過物：子宮・気管支ほか／分泌物：乳頭分泌物ほか	直ちに	3秒以内
穿刺材料：乳腺・甲状腺ほか／捺印材料：リンパ節などの割面	直ちに	1秒以内
体腔液：胸水・腹水ほか	室温12時間以内（冷蔵庫24時間）	3秒以内
消化管液：胆汁・膵液ほか	冷却採取1時間以内（出来るだけ早く）	3秒以内
尿・気管支洗浄液・髄液	室温1時間以内	3秒以内
喀痰・関節液	室温12時間以内	5秒以内

病理学的検査

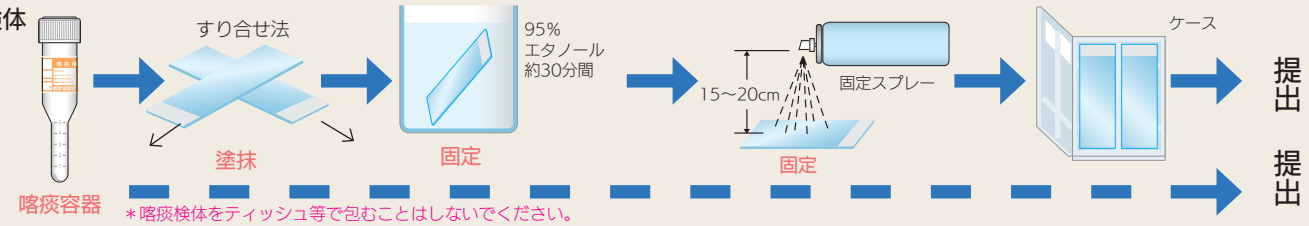
細胞診(塗抹標本)

①婦人科検体



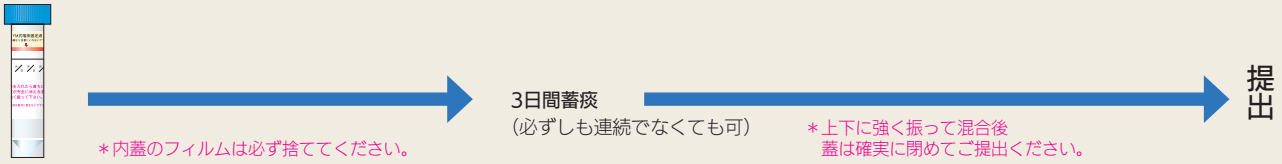
＊氏名等は必ず鉛筆で記入してください。(マジックでは固定中に消えてしまいます)

②喀痰検体



＊喀痰検体をティッシュ等で包むことはしないでください。

③蓄痰検体(YM式・ポストチューブ式)

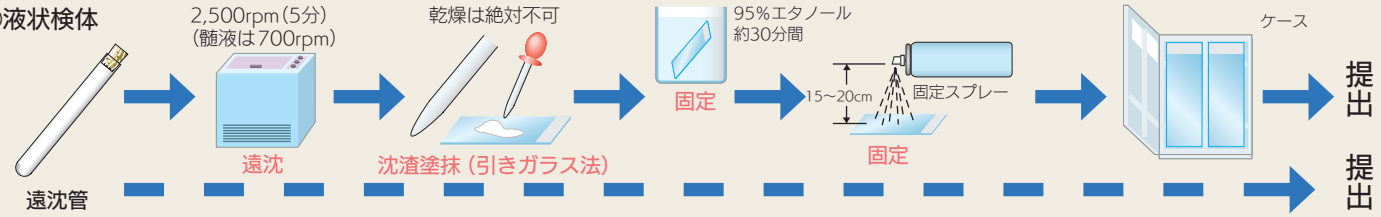


＊内蓋のフィルムは必ず捨ててください。

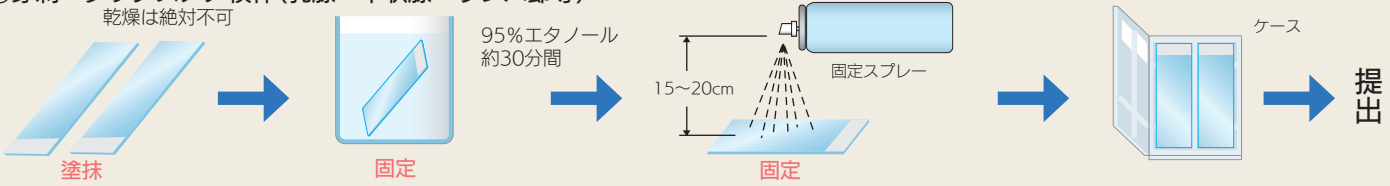
＊上下に強く振って混合後
蓋は確実に閉めてご提出ください。

容器と外袋に必ず氏名をご記入ください。

④液状検体

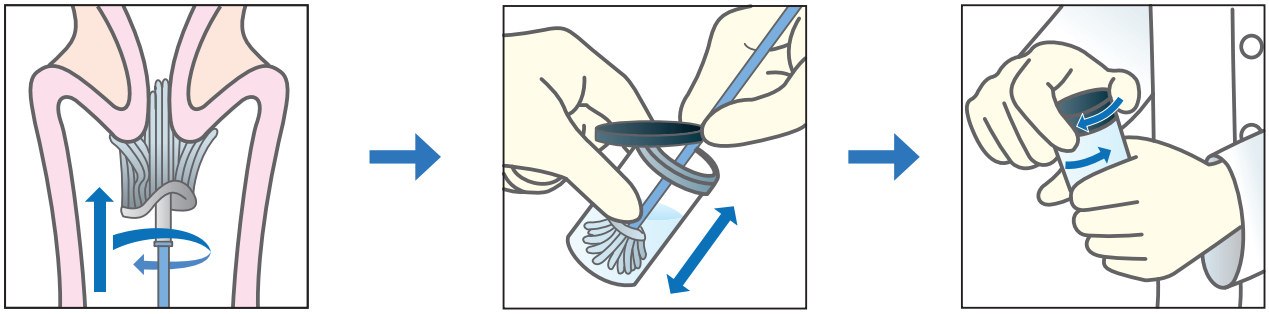


⑤穿刺・タッチスメア検体(乳腺・甲状腺・リンパ節等)



＊但し、リンパ節や悪性リンパ腫などが疑われる場合は、ドライヤー冷風で即時に乾燥させた標本(ギムザ染色用)を1枚作製してご提出ください。

液状化検体細胞診(子宮頸部)採取方法



採取用のブラシを用いて細胞を採取してください。

ブラシを容器に入れブラシの柄を回転させて細胞を保存固定液に浮遊させてください。

しっかり蓋をしてご提出ください。

注) サーベックスブラシは妊娠10週目以降の妊婦には使用できません。
※先端が外れるタイプのブラシをご使用の際は、ブラシを入れてご提出ください。

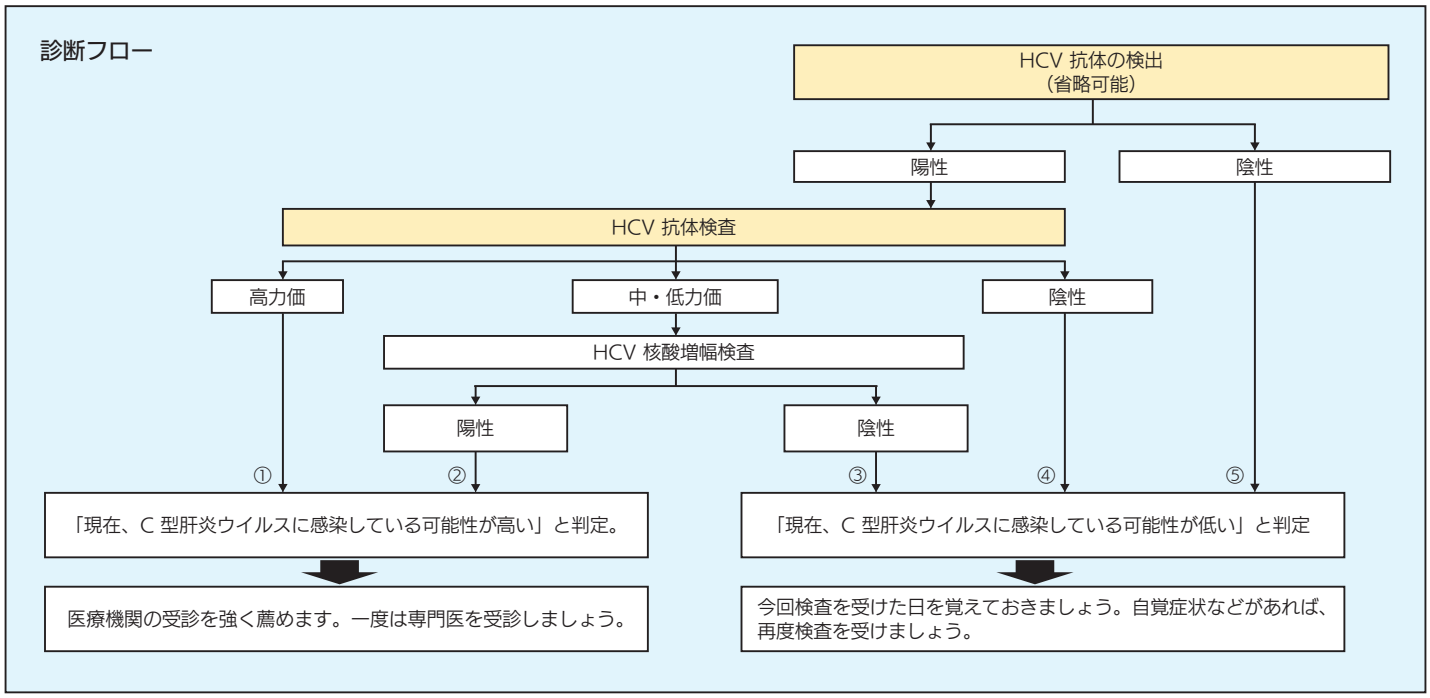
項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検 査 方 法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
肝炎検診								
7051	HCV 検診セット (C 型肝炎ウイルス検診) (4086)	血清 **0.6** 及び 全血 **8.0** 注1 (同時提出)	**A1-1** 冷蔵 及び カ 凍結 (下記参照)	HCV 抗体の検出：LPIA 法 HCV 抗体検査：CLEIA 法 HCV 核酸増幅検査 ：リアルタイム PCR 法	HCV 抗体の検出：(−) HCV 抗体検査：1.0 未満 cut off index HCV 核酸増幅検査：(−)	2〜6		※1

注1　「HCV抗体の検出」、「HCV抗体検査」は一般生化学と同じ採血管を使用できます。「HCV核酸増幅検査」については他の項目と重複しないよう、単独検体で提出してください。

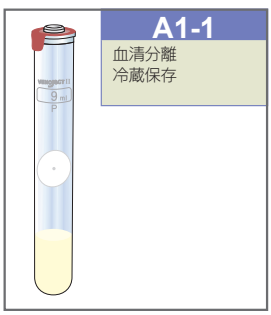
※1　「HCV抗体の検出」より検査を開始します。「HCV抗体検査」より開始する検査については、担当営業所へお問い合わせください。

■判定結果（C 型肝炎ウイルス検診）

1. 「現在、C 型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定されました。
   判定理由 ①、②
2. 「現在、C 型肝炎ウイルスに感染している可能性が低い」と判定されました。
   判定理由 ③、④、⑤



健発 0208 第 11 号「健康増進事業に基づく肝炎ウイルス検診等の実施について」の一部改正について（別添）
肝炎ウイルス検診実施要領の別紙３より





その他・研究検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
その他特殊検査								
3173	脳梗塞リスク評価 (A6C) (7994)	血漿 2.0	F-3 ↓ G-1 凍結	※1	脳梗塞リスク値 高　値：0.80 ～ 1.0 境界値：0.44 ～ 0.79 低　値：0.0 ～ 0.43	6 ～ 13		※2 ＊T

※1　アクロレイン：ELISA法、IL-6：ELISA法、CRP：ラテックス凝集比濁法の3項目の結果を組み合わせて算出いたします。

※2　必ず、専用問診票をご提出ください(性別、年齢必須)。又、検体は採血当日にご提出ください。

【倫理指針対象検査について】

○本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けたうえで、被検者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られていることが必要です。

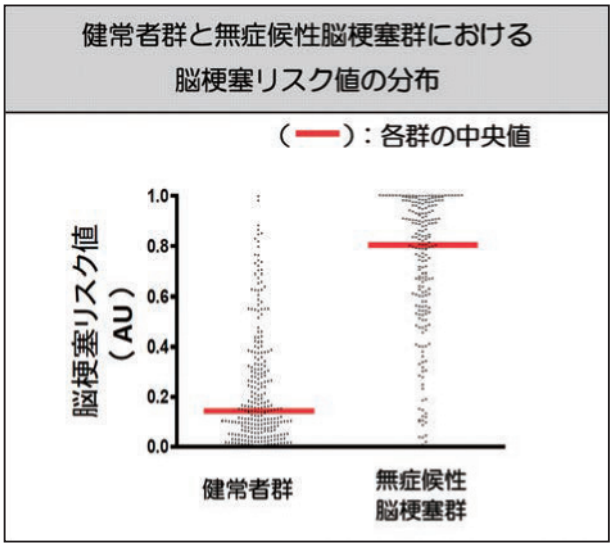
○検査のご依頼にあたっては、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用ください。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

○研究検査
通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確ではない項目もあることをご理解のうえ、ご利用いただけますようお願いいたします。

【Y 染色体微小欠失（AZF 欠失）のご依頼時と結果報告に関する注意点】

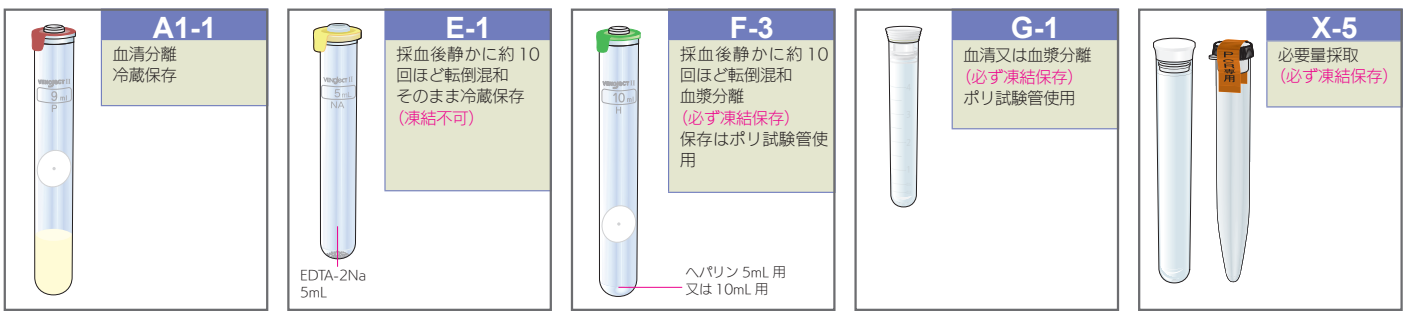
①他項目との重複依頼は避けてください。
②本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取に当たっては取扱いに十分ご注意ください。
③ご依頼時は弊社「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用ください。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。
④本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けた上で、被験者の自由意志による同意（インフォームド・コンセント）が得られていることが必要です。

●脳梗塞リスク評価（A6C）の結果評価



脳梗塞リスク		健常者群 (%)	無症候性脳梗塞群 (%)
高　値	0.80 ～ 1.0	3.0	51.9
境界値	0.44 ～ 0.79	13.5	32.2
低　値	0.0 ～ 0.43	83.5	15.9

〔注意事項〕
当検査項目は脳梗塞リスクに関する情報を提供するものであり、脳梗塞を診断するものではありません。



項目コード 統一コード	検査項目 (グループコード)	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体								
1443 5G335	抗ランゲルハンス島細胞抗体 (ICA) (4411)	血清 **2.0**	**A1** ⬇ **G-1** 凍結	FA 法	陰性（5 未満） JDFU	15 〜 23		JDFU：Juvenile Diabetes Foundation Units ※1 ＊8
感染症遺伝子検査								
2590	結核菌 Nested PCR	《髄液》 (7551)	髄液 **1.0** 注1	**X-5** 凍結	Nested PCR 法	(ー)	4 〜 12		M.Bovis BCGの一部の亜株は検出できない可能性があります。判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と併せて担当医師が総合的に判断してください。
2589		《胸水》 (7552)	胸水 **1.0** 注1	**X-5** 凍結				

注1　コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意ください。又、他項目との重複依頼は避けてください。
※1　スクリーニング検査及びタイター測定の2段階です。スクリーニング検査で「陰性」が確定しない場合は、タイター測定を実施します。タイター測定での基準値は5JDFU未満です。

○研究検査
・通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確でない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。
・本検査の結果をもって診断及び、保険請求を行うことはできません。
・試薬の供給状況の変化等により急遽、受託できない場合もあります。又、多数の検体をご依頼の場合やお急ぎの場合には事前にご相談ください。

その他・研究検査

●抗核抗体染色型と主な自己抗体　※コード内(　　)表記はグループコードです。

染色型	対応抗原	関連疾患	主な自己抗体	コード	測定法
Homogeneous 型 (均質型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	178(4075)	RIA
			抗 ss-DNA - IgG 抗体	1125(4366)	EIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	1123(4368)	EIA
			抗 ss-DNA - IgM 抗体	1126(4367)	EIA
			抗 ds-DNA-IgM 抗体	1124(4369)	EIA
	Histons	SLE、DIL	抗ヒストン抗体	—	未受託
Peripheral 型 (辺縁型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	178(4075)	RIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	1123(4368)	EIA
			抗 ds-DNA-IgM 抗体	1124(4369)	EIA
Speckled 型 (斑紋型)	U1RNP	MCTD, SLE	抗 RNP 抗体 (抗 n-RNP 抗体)	377(4689)	CLEIA
	U1,U2,U4-6RNP	SLE	抗 Sm 抗体	137(4667)	CLEIA
	RNA polymerase Ⅲ転写終結因子	SjS	抗 SS-B/La 抗体	3335(4664)	CLEIA
	DNA topoisomerase Ⅰ	SSc	抗 Scl-70 抗体	136(4692)	CLEIA
	RNA polymerase Ⅲ	SSc	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体	2532(4807)	ELISA
	70k/80kDa DNA-PK regulatory subunit	PM-SSc, SLE	抗 Ku 抗体	—	未受託
	*****	SLE	抗 Ki 抗体	—	未受託
細胞周期関連型	DNA polymerase δ補助因子	SLE	抗 PCNA 抗体	—	未受託
	*****	SLE	抗 Na 抗体	—	未受託
Nucleolar 型 (核小体型)	7-2/8-2RNP	SSc	抗 Th/To 抗体	—	未受託
	U3RNP	SSc	抗 U3RNP 抗体	—	未受託
	RNA polymerase Ⅲ	SSc	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体	2532(4807)	ELISA
	核小体蛋白複合体	PM-SSc	抗 PM-Scl 抗体	—	未受託
	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボゾーム P 抗体)	—	未受託
セントロメア型 (Discrete-Speckled 型)	CENP-B(80kD)	CREST, PBC	抗セントロメア抗体	2581(4627)	EIA
Granular 型	Cajal body 結合蛋白	PBC, SjS	抗 p80 coilin 抗体	—	未受託
	multiple nuclear dot(100kD)		抗 Sp-100 抗体	—	未受託
核膜型	Lamina associated polypeptide 2	PBC, AIH	抗核膜ラミン (LAP2) 抗体	—	未受託
	核膜孔複合体(gp210)		抗 gp210 抗体	—	未受託
	p62 complex		抗 p62 抗体	—	未受託
Cytoplasmic (細胞質抗体)	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボゾーム P 抗体)	—	未受託
	ゴルジ体(golgin-97)	SjS, AIH	抗 golgin-97 抗体※	—	未受託
	Y1-Y5 RNP	SjS, SLE	抗 SS-A/Ro 抗体※	3334(4661)	CLEIA
	48kDa tRNA 結合蛋白	SSc	抗 Wa 抗体※	—	未受託
	*****	CTD	抗 Tu 抗体※	—	未受託
	Signal recognition particle	PM	抗 SRP 抗体※	—	未受託
	Histidyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 Jo-1 抗体※	3260(4883)	CLEIA
	Threonyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 PL-7 抗体※	—	未受託
	Alanyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 PL-12 抗体※	—	未受託
	Glycyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 EJ 抗体※	—	未受託
	Isoleucyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 OJ 抗体※	—	未受託
	Asparaginyl-tRNA synthtase	PM/DM, IP	抗 KS 抗体※	—	未受託
	M1 ～ M9	PBC	抗ミトコンドリア抗体	264(4125)	FA
			抗ミトコンドリア M2 抗体	213(4399)	CLEIA
その他の自己免疫性肝炎 自己抗体	p97/valosin containing protein	PBC	抗 p97/VCP 抗体	—	未受託
	*****	AIH	抗 MM 抗体	—	未受託
	actin	AIH	抗平滑筋抗体	375(4126)	FA
	CYP Ⅱ D6	AIH	抗 LKM1 抗体	2735(4115)	EIA
				—	未受託

赤字：研究検査（保険適応外）

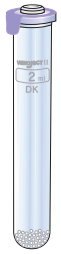
SLE：全身性エリテマトーデス、DIL：薬剤誘発性ループス、MCTD：混合性結合組織病、SjS：シェーグレン症候群、SSc：強皮症
PM：多発性筋炎、DM：皮膚筋炎、CREST：限局性強皮症、PBC：原発性胆汁性肝硬変、CTD：膠原病
IP：間質性肺炎、AIH：自己免疫性肝炎、RA：関節リウマチ

※：対応抗原は細胞質に局在しますが蛍光抗体法での染色性は弱い

〔参考文献〕
1）(株) 医学生物学研究所：自己免疫疾患の診断基準と治療指針 , 第 5 版 , 2009
2）保健科学グループ：Cefiro 自己免疫疾患 - 病態と治療 -, No.10, 2009
3）宮地清光 , 他：原発性胆汁性肝硬変と自己抗体 . 日本臨床免疫学会会誌 31: 47-55, 2008

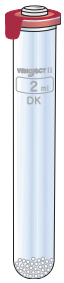
監修：慶進会 慶宮医院　宮地 清光

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

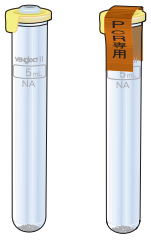
容器	記号	保存方法	検査項目
A1 普通採血管(分離剤入り)  添加剤・内容物 採血量 貯蔵方法 常温 有効期限 分離剤入り試験管　1 年 備　考 血清を分離して凍結する場合はG試験管を使用してください。 血球を用いる検査及び薬物検査の場合は分離剤入り試験管は使用しないでください。	A1-1	血清分離 冷蔵保存	生化学的検査、他
	A1-2	血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)	コレステロール分画、レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)、リポ蛋白分画、アポリポ蛋白、リポ蛋白(a)、乳酸脱水素酵素(LDH)
	A1-3	採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存	寒冷凝集反応、クリオグロブリン
	A1-4	血清分離 常温保存 (凍結不可)	LD アイソザイム
	A1-5	A1容器5mL真空採血後、ゴム栓の上から注射針をさして流動パラフィンを1mL注入してください。室内に30分放置後、血清分離を行い、上清をポリ試験管に移して凍結。	イオン化カルシウム
A2 普通採血管(分離剤無し)  添加剤・内容物 採血量 貯蔵方法 常温 有効期限 プレーン試験管　2 年 備　考 血清分離が必要な場合には、G試験管に移し替えて提出してください。	A2-1	血清分離 冷蔵保存	薬物検査、他
	A2-2	そのまま冷蔵保存 (血清分離不可) (凍結不可)	
	A2-3	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま冷蔵保存 (血清分離不可)	間接クームス試験、クームス定量試験、不規則抗体
	A2-4	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま (常温に保存) (血清分離不可)	交差適合試験
B EDTA-2K採血管  添加剤・内容物 EDTA2K 採血量 2mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2 年 備　考	B-1	採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	血液形態・機能検査、有核細胞数、巨核細胞数
	B-2	採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

容器	記号	保存方法	検査項目
B2 血液型検査専用採血管  添加剤・内容物：EDTA2K 採血量：2mL 貯蔵方法：常温 有効期限：2 年 備　考：	B2-1	採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 （凍結不可）	ABO 血液型、Rh(D)血液型
	B2-2	採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま （常温に保存）	直接クームス試験
C 尿検査用容器 添加剤・内容物： 採取量・容量：10mL 又は 50mL 貯蔵方法：常温 有効期限：3 年 備　考：蓄尿の場合は尿量を明記してください。  	C-1	冷所に 24 時間蓄尿、尿量測定 混和、必要量提出 冷蔵保存 （尿量明記）	尿生化学検査、17- ケトステロイド分画（17-KS 分画）、プレグナンジオール（P2）、プレグナントリオール（P3）
	C-2	午前第 2 尿 冷蔵保存 （尿量記載の必要なし）	デオキシピリジノリン（DPD）、NTx（I 型コラーゲン架橋 N- テロペプチド）
	C-3	蓄尿又は部分尿 必要量提出 冷蔵保存 （尿量記載の必要なし）	尿生化学検査、尿水銀（Hg）、他
	C-5	必要量を採取 冷蔵保存 （採尿時間、尿量明記）	クリアランステスト
	C-7	冷蔵保存（凍結不可） 2 時間以上保管する場合は、尿 100mL に中性ホルマリン 0.5mL を加え、冷蔵保存してください。 保存剤種類の明記と、「保存剤入り」のラベル貼付又は記入し、単体検体としてご提出ください。他検体と共有することはできません。	尿沈渣
	C-9	6N 塩酸 20mL（小児 5 ～ 10mL）を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 （尿量明記） （市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する：6N 塩酸）	メタネフリン分画、他

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

容器	記号	保存方法	検査項目
D 凝固検査用採血管  添加剤・内容物：3.2%クエン酸ナトリウム 0.2mL 採血量：1.8mL 貯蔵方法：常温 有効期限：1 年 備　考：血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用してください。	D-1	血液を正確に 1.8mL 入れ静かに約 10 回ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	出血・凝固検査、ビタミン K 分画、第Ⅷ因子様抗原
	D-3	血液を正確に 1.8mL 入れ転倒混和後、すみやかに室温にて 1,500G 以上 15 分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を 1.0mL 採取し、凍結保存にてご提出ください。血小板の混入は、測定結果に影響しますので注意してください。 ※遠心機回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r ＝ローター半径(cm) n ＝回転数(rpm)	ループスアンチコアグラント 遠心力換算一覧表 半径（cm） / 1,700G ／ 回転数（rpm） 6 / 5,000 8 / 4,400 10 / 3,900 11 / 3,700 12 / 3,600 13 / 3,400 14 / 3,300 15 / 3,200 16 / 3,100 19 / 2,800 20 / 2,800
E EDTA-2Na採血管  (E-6) 添加剤・内容物：EDTA-2Na 採血量：2mL 又は 5mL 貯蔵方法：常温 有効期限：2 年 備　考：	E-1	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	PTH-Intact、エベロリムス、Y 染色体微小欠失
	E-2	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	EDTA 血漿内分泌検査、他
	E-3	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま(必ず凍結保存) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	
	E-4	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	
	E-5	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 低温にて 180G 20 分間遠心 多血小板血漿を分取し(必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	セロトニン(多血小板血漿) 遠心力換算一覧表 半径（cm） / 180G ／ 回転数（rpm） 6 / 1,600 8 / 1,400 10 / 1,300 11 / 1,200 12 / 1,200 13 / 1,100 14 / 1,100 15 / 1,000 16 / 1,000 19 / 900 20 / 900
	E-6	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 PCR 専用ラベルでキャップに封をし、 そのまま冷蔵保存(開栓不可)	

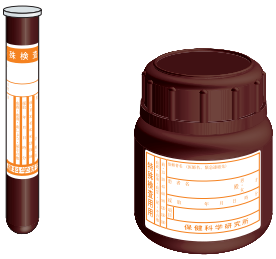
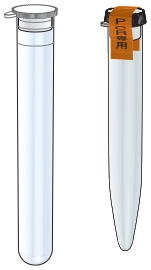
容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

容器	記号	保存方法	検査項目
F ヘパリン採血管 添加剤・内容物：ヘパリンナトリウム 採血量：5mL 又は 10mL 貯蔵方法：常温 有効期限：2 年 備　考：血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用してください。 	F-1	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま (必ず凍結保存) (溶血してもよい) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	エタノール
	F-2	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	ピルメノール、アミオダロン
	F-3	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	リポ蛋白リパーゼ(LPL)、脂肪酸 4 分画、血漿アミノ酸分画定量
	F-4	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま常温保存 (必ず無菌採血)(凍結不可) (採血後 24 時間以内に検査)	細胞性免疫検査
	F-5	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	ニコチン酸、赤血球コプロポルフィリン、赤血球遊離プロトポルフィリン、鉛(Pb)全血、カドミウム(Cd)全血、クロム(Cr)全血、水銀(Hg)全血、マンガン(Mn)全血、穿刺液細胞種類、穿刺液細胞数、染色体検査
	F-6	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、必ず常温保存	結核菌特異的インターフェロン - γ 産生能(T-SPOT.TB)
	F-7	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和し、PCR 専用ラベルでキャップに封をしてください。そのまま冷蔵保存(開栓不可)	

容器	記号	保存方法	検査項目
G 汎用容器 添加剤・内容物： 採取量・容量： 貯蔵方法：常温 有効期限： 備　考：血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用してください。 	G-1	血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	血清又は血漿凍結項目
	G-2	血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用	亜鉛(Zn)血清
	G-5	冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿アミノ酸分析定量、尿アルドステロン
	G-6	蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)	尿生化学検査、尿中レジオネラ抗原定性、他
	G-7	トルエン 1 ～ 2mL を加え 冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿サイクリック AMP(c-AMP)

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

容　　器	記号	保　存　方　法	検　査　項　目
I 尿検査用遮光容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 又は 50mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2 年 備　考 蓄尿の場合は尿量を明記してください。 	I-1	蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 (遮光保存)	総三塩化物、三塩化(トリクロル) 酢酸、マンデル酸、馬尿酸、メチル馬尿酸、N- メチルホルムアミド、2.5- ヘキサンジオン、ウロポルフィリン定量、コプロポルフィリン定量
	I-2	冷所に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、 必要量提出 冷蔵保存 (遮光保存) (尿量明記)	デルタアミノレブリン酸定量、ポルフォビリノーゲン定量
	I-3	6N 塩酸 20mL(小児 5 ～ 10mL)を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量明記) (市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する：6N 塩酸)	尿カテコールアミン分画、尿 5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)、尿ホモバニリン酸 (HVA)、尿バニールマンデル酸 (VMA)
X 汎用滅菌容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 貯蔵方法 常温 有効期限 3 年 備　考 PCR 法などは PCR 専用ラベルでキャップに封をしてください。 	X-1	必要量採取 冷蔵保存(凍結不可)	穿刺液・採取液検査
	X-2	必要量採取 冷蔵保存	オリゴクローナルバンド、ウイルス抗体検査(髄液)など
	X-3	必要量採取 冷蔵保存(凍結不可)	精液一般検査
	X-4	必要量採取 常温保存	
	X-5	必要量採取 (必ず凍結保存)	髄液カテコールアミン分画、髄液 5- ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)、髄液ホモバニリン酸 (HVA)、髄液バニールマンデル酸 (VMA)

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

H1 細胞性免疫検査用容器(骨髄液)



添加剤・内容物
RPMI-1640、FBS、硫酸カナマイシン、ノボヘパリン Na、炭酸水素、HEPES

採取量・容量
5mL

貯蔵方法
凍結

有効期限
色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります)

検査項目
白血病・リンパ種解析検査(LLA) CD45 ゲーティング

備　考
指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

H2 細胞性免疫検査用容器(リンパ節)



添加剤・内容物
FBS、PBS、
硫酸カナマイシン

採取量・容量
10mL

貯蔵方法
凍結

有効期限
1 年

検査項目
悪性リンパ種解析検査(MLA)
CD45 ゲーティング

備　考
リンパ節 5 × 5 × 5mm を容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。検体は採集後、当日中にご提出ください。

J 血糖・HbA1c検査専用採血管



添加剤・内容物
フッ化ナトリウム

採血量
2mL

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
血糖、HbA1c

備　考
血液 2mL を入れ静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま 4 ～ 6℃保存
(凍結不可)

L 乳酸・ピルビン酸検査専用容器



添加剤・内容物
過塩素酸除蛋白液 1.0mL

採取量・容量
1.0mL

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
調整後 6 ヶ月

検査項目
乳酸・ピルビン酸

備　考
血液を正確に 1.0mL 入れ
激しく振とう混和、すみやかに遠心分離し上清を凍結用ポリ試験管(G)に移し、凍結保存

M アンモニア検査除蛋白専用採血管



添加剤・内容物
タングステン酸ナトリウム
4mL

採血量
1mL

貯蔵方法
常温(約 15 ～ 25℃)

有効期限
(ラベルに記載)

検査項目
アンモニア

備　考
真空採血厳禁
血液を正確に 1mL 入れ十分に振とう混和すみやかに遠心分離後(上清を直ちに凍結保存)
保存はポリ試験管
容器に移すとき、沈殿物が混ざらないよう注意してください。

P 血沈検査専用採血管



添加剤・内容物
3.8% クエン酸ナトリウム
0.4mL

採血量
1.6mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
血沈

備　考
転倒混和後、冷蔵保存

Q 尿中FDP検査専用採取容器



添加剤・内容物
抗プラスミン剤

採取量・容量
尿 2mL

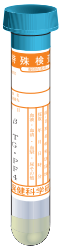
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
尿中 FDP

備　考
尿 2mL を入れ静かに 10 回ほど転倒混和
(上清分離)凍結保存
ポリ試験管使用
(ヘパリン使用者はその旨明記)

R 血小板第 4 因子・β-トロンボグロブリン 検査専用採血管



添加剤・内容物
抗血小板剤

採血量
2.7mL

貯蔵方法
遮光・冷蔵

有効期限
1 年

検査項目
血小板第 4 因子、β - トロンボグロブリン

備　考
98 頁参照

S EDTA-2K 採血管 凍結用



添加剤・内容物
EDTA-2K

採血量
2.0mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
ビタミン B1(チアミン)、ビタミン B2(リボフラビン)、セロトニン(全血)、シクロスポリン、タクロリムス

備　考
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は、ポリ試験管に移して凍結。他の検査項目との同時依頼はできません。

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

T 無蛍光スライドグラス(1ウェル)



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
水痘帯状ヘルペス抗原 FA 法

備　考
89 頁参照

U 無蛍光スライドグラス(2ウェル)



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
単純ヘルペスウイルス抗原

備　考
89 頁参照

UB ユービット用呼気採取バック



添加剤・内容物

採取量・容量
呼気 200 ～ 250mL

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
尿素呼気試験（UBT）
（ユービット）

備　考
62 頁参照

W1 液状検体細胞診[LBC]シュアパス



添加剤・内容物
エタノール 18-30%、メタノール 1-2%、
イソプロパノール 1 ～ 1.8% 含有

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に記載

検査項目
婦人科材料 LBC、HPV-DNA
簡易ジェノタイプ

備　考

W4 液状検体細胞診〔LBC〕シンプレップ



添加剤・内容物
メタノール 55%含有

採取量・容量

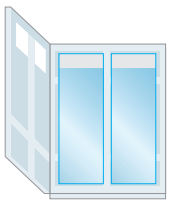
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年 6 ヶ月

検査項目
HPV-DNA ジェノタイプ（ハイリスク 13 種）、HPV-DNA 型別

備　考
ブラシの先端は容器に残さないでください。

X2 オブジェクトケース



添加剤・内容物

採取量・容量

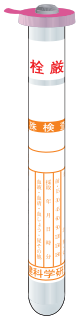
貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目

備　考

Y (1→3)-β-D-グルカン検査専用採血管



添加剤・内容物

採血量
3mL

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
(1 → 3) - β -D- グルカン

備　考
採血部位をよく消毒して採血し、栓を開けずに血液を注入
汚染を避けて冷蔵保存

Y2 エンドトキシン検査専用採血管



添加剤・内容物
ヘパリン Na

採血量
2mL

貯蔵方法
常温

有効期限
製造後 1 年

検査項目

備　考

Z ビタミンC検査専用容器



添加剤・内容物
0.8N 過塩素酸 0.5mL

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
1 年

検査項目
ビタミン C

備　考
採血後、直ちに血清分離し、正確に血清 0.5mL を専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清をポリスピッツ（遮光）にてご提出ください。

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

イ 糞便検査汎用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

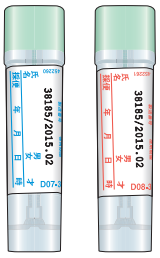
貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
糞便一般検査

備　考
新鮮糞便を拇指頭大容器に取りしっかりフタを閉める。

ロ 糞便ヘモグロビン(潜血 LA)検査専用容器



1 日目　2 日目

添加剤・内容物
保存液

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
ラベルに記載

検査項目
糞便ヘモグロビン（潜血 LPIA）

備　考
1. 専用容器のラベルに必要事項を記入してください。
2. キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取してください。
3. キャップを容器に差し込みしっかり閉めてください。（容器内の液を捨てないで採取してください）（冷蔵保存）

ホ HIV-1RNA定量検査用採血管(血漿)



分離剤入り

添加剤・内容物
EDTA-2K

採血量
8mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
HIV-1RNA 定量

備　考
指定の採血量（8mL）を採取後、4 ～ 5 回静かに転倒混和してください。
遠心機にて遠心（1,200G ± 400G、20 分）したのち冷蔵保存してください。(凍結厳禁)
他の項目との重複依頼は受付できません。

ト ウイルス分離・同定検査用培養細胞試験管



添加剤・内容物
ウイルス専用保存液

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
6 ヶ月

検査項目
ウイルス分離・同定

備　考
本文 88 頁参照

リ 病理組織検査容器





添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
病理組織・虫体検出

備　考
提出物の大きさに合う容器を選択し、指定の固定液で固定して提出してください。
容器には必ず医薬用外劇物の表示をして提出してください。

ヌ 滅菌採水容器





添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示(製造日より 3 年)

検査項目
透析液細菌培養

備　考
採水方法で影響を受けやすく、不適になる場合があります。
容器に記載されている注意事項をよく読んで、正しく採水してください。

ワ PCR検査用滅菌喀痰容器



添加剤・内容物

採取量・容量

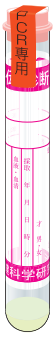
貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
TB-PCR、MAC DNA〔PCR〕

備　考
うがいをした後滅菌喀痰容器に痰出し、密栓後 PCR 専用シールにて封をし、冷蔵保存してください。

カ リアルタイムPCR法専用採血管



分離剤入り 10mL 管

添加剤・内容物

採血量
8.0mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
HCV-RNA 定量ほか

備　考
直接採血後 4 ～ 5 回静かに転倒混和し常温にて 30 ～ 60 分放置してください。
凝固完了を確認後遠心器にて 10 ～ 15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存してください。
他の項目との重複依頼は受付できません。

カ2 遺伝子検査専用採血管



添加剤・内容物

採血量
5.0mL

貯蔵方法
常温

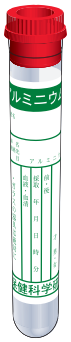
有効期限
1 年

検査項目

備　考
直接採血後 4 ～ 5 回静かに転倒混和し常温にて 30 ～ 60 分放置してください。
凝固完了を確認後遠心器にて 10 ～ 15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存してください。
他の項目との重複依頼は受付できません。

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

ソ アルミニウム検査専用試験管



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
アルミニウム

備　考
2mL 採血そのまま冷蔵保存
（ガラス器具は絶対使用しないでください。）

ネ アプロチニン入りEDTA 試験管



添加剤・内容物
EDTA-2Na・トラジロール（アプロチニン）

採血量
2mL

貯蔵方法
常温

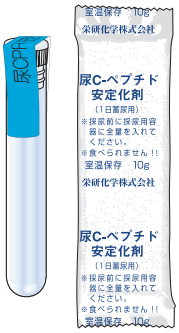
有効期限
製造後 12 ヶ月

検査項目
HANP、副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）、他

備　考
採血後静かに約 10 回ほど転倒混和
（低温にて血漿分離、必ず凍結保存）
保存はポリ試験管使用

ナ 尿 C- ペプチド検査専用容器（尿 C- ペプチド安定化剤使用）

専用安定化剤



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
C- ペプチド（尿）

備　考
予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量（10g／袋 最終濃度約 0.5%）を入れて 24 時間蓄尿を行ってください。
尿量測定、混和、凍結用容器に「尿 CPR 安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出（尿量明記）（凍結保存）
■特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

オ 金属分析用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限

検査項目
マンガン、ニッケル

備　考

ヤ2 透析液エンドトキシン採取管（HDチューブ）



添加剤・内容物
安定化剤

採取量・容量
4mL

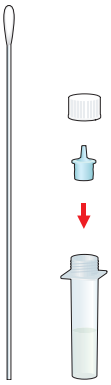
貯蔵方法
冷蔵

有効期限
ラベルに記載

検査項目

備　考

マ2 癌胎児性フィブロネクチン検査専用容器



添加剤・内容物
保存液

採取量・容量

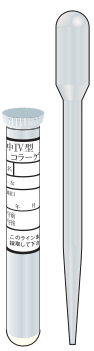
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
癌胎児性フィブロネクチン

備　考
115 頁参照

コ 尿中Ⅳ型コラーゲン検査専用容器



添加剤・内容物
1.5M　Tris-HCl 0.5mL

採取量・容量

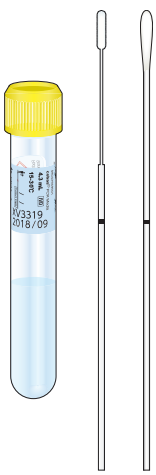
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
尿中Ⅳ型コラーゲン

備　考
109 頁参照

エ1 淋菌・クラミジア（PCR）検査擦過細胞専用容器



添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

採取量・容量

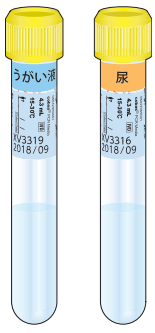
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌／クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌 DNA〔PCR〕

備　考
60 頁参照

エ2 淋菌・クラミジア（PCR）検査尿／うがい液専用容器



うがい液用　尿用

添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

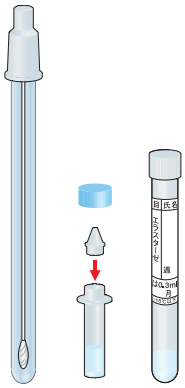
検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌／クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌 DNA〔PCR〕

備　考
61 頁参照

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けてください。

テ 顆粒球エラスターゼ検査専用容器



添加剤・内容物
抽出液（リン酸バッファー）

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
容器に記載

検査項目
子宮頸管粘液顆粒球エラスターゼ

備　考
115 頁参照

ア ミオグロビン検査尿専用容器



添加剤・内容物
安定化剤

採取量・容量

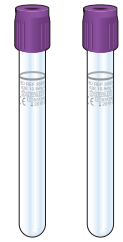
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

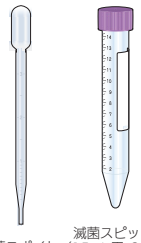
検査項目
ミオグロビン尿

備　考
採尿した尿を入れよく混和させ、4 ～ 6℃保存

サ EGFR遺伝子変異解析《血漿》検査専用容器



EDTA-2K 真空採血管（6mL 用、2 本）



滅菌スポイト（15mL 用、2 本）

添加剤・内容物

採取量・容量

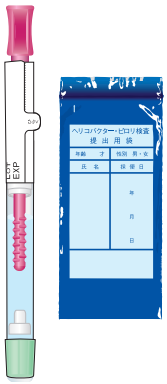
貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
EGFR 遺伝子変異解析《血漿》

備　考

メ ヘリコバクター・ピロリ抗原検査専用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

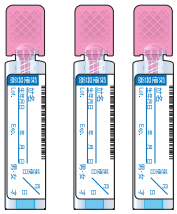
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
ヘリコバクター・ピロリ抗原

備　考
62 頁参照

ヒ 糞便ヘモグロビン・トランスフェリン（潜血金コロイド）検査専用容器



1 日法用　2 日法用



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
糞便ヘモグロビン・トランスフェリン（潜血金コロイド）

備　考
1. 専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いてください。
2. キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり、採便スティックの溝が埋まる程度採取してください。（取りすぎ、少なすぎは不可）
3. 容器に採便スティックを1回で差し込み、しっかり閉めてください。（容器内の液を捨てないでください。）

モ 血小板関連 IgG(PA-IgG)検査専用採血管





添加剤・内容物
ACD-A 保存液入り

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年
（アルミシート開封後 1 ヶ月）

検査項目
血小板関連 IgG（PA-IgG）

備　考
血液 7.5mL を入れ静かに約 10 回ほど転倒混和し、そのまま冷蔵保存してください。（凍結不可）
（注）末梢血の血小板が 3 万 / μ L 以下の場合は、専用容器を 2 本使用し必ず 10mL 以上採血してください。

FL ヘパリンリチウム採血管



添加剤・内容物
ヘパリンリチウム

採取量・容量
6mL

貯蔵方法
常温

有効期限
ラベルに記載

検査項目
結核菌特異的インターフェロン - γ 産生能（QFT プラス）

備　考
採血後、静かに約 10 回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存

NK NK細胞活性専用採血管



添加剤・内容物
保存液 0.7mL

採取量・容量
5mL

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
1 年
（アルミシート開封後 1 ヵ月）

検査項目
ＮＫ細胞活性

備　考
よく混和させ冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。

検査項目	期間
生化学的検査	
総蛋白(TP)	凍結1年間
アルブミン	凍結1年間
蛋白分画	凍結1月間
プレアルブミン(トランスサイレチン)	凍結6月間
フェリチン定量	凍結2月間
セルロプラスミン(CP)	凍結1年間
Ⅳ型コラーゲン7S	凍結2月間
α1-マイクログロブリン	凍結1月間
β2-マイクログロブリン	凍結1年間
心筋トロポニンT(TnT)	凍結3月間
血糖(グルコース)	凍結1年間
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	凍結1月間
HbA1c	冷蔵1週間
総コレステロール(T-Cho)	凍結1年間
LDL-コレステロール(LDL-C)	深凍結1月間
HDL-コレステロール(HDL-C)	凍結3月間
中性脂肪(TG)	凍結1月間
リン脂質(PL)	凍結1月間
遊離脂肪酸(FFA・NEFA)	凍結1月間
総胆汁酸(TBA)	凍結1年間
尿素窒素(UN)	凍結6月間
クレアチニン	凍結6月間
シスタチンC	凍結1週間
クレアチン	凍結6月間
尿酸(UA)	凍結6月間
アンモニア	凍結1週間
総ビリルビン(T-Bil)	凍結1月間(遮光)
ハプトグロビン	凍結4月間
赤血球コプロポルフィリン	冷蔵1週間(遮光)
AST(GOT)	凍結4月間
ALT(GPT)	凍結1月間
アルカリホスファターゼ(ALP)IFCC	凍結6月間
酸ホスファターゼ(ACP)	凍結1週間
乳酸脱水素酵素(LD)IFCC	常温5日間
コリンエステラーゼ(ChE)	凍結6月間
γ-グルタミールトランスペプチダーゼ(γ-GT)	凍結6月間
ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	凍結3月間
アルドラーゼ(ALD)	凍結2週間
クレアチンキナーゼ(CK)	凍結1月間
CK-MB	凍結4日間
アミラーゼ(AMY)	凍結1年間
リパーゼ	凍結6月間
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	凍結1月間
グアナーゼ(GU)	凍結10月間
リゾチーム	冷蔵1週間
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	凍結1月間
トリプシン	凍結6月間
BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	深凍結2月間
totalP1NP(Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	凍結6月間
LD アイソザイム	室温5日間
アミラーゼアイソザイム	凍結1年間
CKアイソザイム	凍結6月間
乳酸	凍結1月間
ピルビン酸	凍結1月間
ナトリウム(Na)	凍結1年間
クロール(Cl)	凍結1年間
カリウム(K)	凍結1年間
カルシウム(Ca)	凍結1年間
マグネシウム(Mg)	凍結1年間
無機燐(P)	凍結1月間
鉄(Fe)	凍結6月間
総鉄結合能(TIBC)	凍結6月間
不飽和鉄結合能(UIBC)	凍結6月間
銅(Cu)	凍結6月間
亜鉛(Zn)	凍結1年間
総三塩化物(TTC)	凍結1月間
三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	凍結1月間
マンデル酸(MA)	凍結1月間
馬尿酸(HA)	凍結1月間
メチル馬尿酸(MHA)	凍結1月間
δ-アミノレブリン酸定量(δ-ALA)	冷蔵1週間
N-メチルホルムアミド	凍結1月間
2,5-ヘキサンジオン	凍結1月間

検査項目	期間
ビタミンA(レチノール)	冷蔵1週間(遮光)
レチノール結合蛋白(RBP)	凍結1年間
ビタミンB_1(チアミン)	凍結10日間(遮光)
ビタミンB_2(リボフラビン)	冷蔵1週間(遮光)
ビタミンB_6	冷蔵1週間(遮光)
ビタミンB_{12}	凍結3月間
葉酸	凍結1月間
ビタミンC(アスコルビン酸)	凍結2週間
アミノ酸分析定量(尿)	凍結3月間
クレアチニンクリアランス	凍結6月間
内分泌学的検査	
成長ホルモン(GH)	凍結6月間
甲状腺刺激ホルモン(TSH)	凍結6月間
黄体形成ホルモン(LH)	凍結6月間
卵胞刺激ホルモン(FSH)	凍結6月間
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	凍結45日間
プロラクチン(PRL)	凍結3月間
トリヨードサイロニン(T_3)	凍結6月間
遊離トリヨードサイロニン(F-T3)	凍結1月間
サイロキシン(T_4)	凍結6月間
遊離サイロキシン(F-T_4)	凍結1月間
サイロキシン結合蛋白(TBG)	凍結3月間
サイログロブリン(Tg)	凍結3月間
カルシトニン	凍結3週間
副甲状腺ホルモン(高感度)(HS-PTH)	凍結3月間
副甲状腺ホルモン(PTH-Intact)	凍結6月間
インスリン(IRI)	凍結6月間
C-ペプチド(CPR)	凍結3月間
カテコールアミン分画(尿)	凍結1月間(PH<3)
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)(尿)	凍結1月間(PH<3)
ホモバニリン酸(HVA)(尿)	凍結3週間(遮光)
バニールマンデル酸(VMA)(尿)	凍結1月間(PH<3)
11-ハイドロキシコルチコステロイド(11-OHCS)	凍結1月間
コルチゾール	凍結6月間
アルドステロン(血清、血漿)	凍結1年間
エストラジオール(E_2)(血清)	凍結6月間
プロゲステロン	凍結1月間
テストステロン(血清)	凍結2月間
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(血清)	凍結1年間
セロトニン(全血)	凍結15日間
レニン活性	凍結2月間
HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結2月間
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	凍結2月間
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	凍結1月間
エリスロポエチン	凍結10日間
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	凍結3週間
腫瘍マーカー	
α-フェトプロテイン(α-FP)定量	凍結1年間
癌胎児性抗原(CEA)	凍結1年間
NCC-ST-439	凍結1月間
CA19-9	凍結長期間
CA15-3	凍結2月間
CA125	凍結1年間
BCA225	凍結1月間
SLX(シアリルLe^X-i)	凍結2月間
CA72-4	凍結3月間
シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	凍結6月間
エラスターゼ1	凍結6月間
前立腺特異抗原(PSA)	凍結長期間
NSE(神経特異エノラーゼ)	凍結2年間
α1-酸性糖蛋白(α1-AGP)	凍結1月間
NTX(Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド)(尿)	凍結1年間
TRACP-5b定量	凍結1月間
抗p53抗体	凍結7日間
免疫学的検査	
RPR法定量	凍結1年間
TPHA定量	凍結1年間
FTA-ABS定量	凍結6月間
抗ストレプトリジンO価	凍結4月間
マイコプラズマ抗体半定量(PA)	凍結6月間
百日咳菌抗体	凍結1月間
プロカルシトニン定量(PCT)	凍結3月間

検査項目	期間
エンドトキシン	深凍結1月間
(1→3)-β-D-グルカン	深凍結1月間
肺炎球菌莢膜抗原定性(尿)	凍結2週間
肺炎球菌莢膜抗原定性(髄液)	凍結1週間
RF(リウマチ因子)定量	凍結4月間
抗CCP抗体定量	凍結1月間
抗ガラクトース欠損IgG抗体	凍結1年間
MMP-3	凍結1年間
抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	凍結1年間
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	凍結1月間
TSHレセプター抗体(第3世代)	凍結1月間
IgG	凍結1月間
IgA	凍結1月間
IgM	凍結1月間
補体蛋白C_3(β_1C/β_1Aグロブリン)	凍結1月間
補体蛋白C_4(β_1Eグロブリン)	凍結1月間
C1q	凍結3週間
血清補体価(CH_{50})	凍結2月間
C反応性蛋白定量(CRP定量)	凍結4月間
トランスフェリン	凍結1月間
TARC	凍結1月間
HBs抗原	凍結1年間
HBs抗体	凍結1年間
血液学的検査	
白血球数(WBC)	冷蔵1日間
赤血球数(RBC)	冷蔵1日間
血色素量(Hb)	冷蔵1日間
ヘマトクリット値(Ht)	冷蔵1日間
血小板数(PLT)	冷蔵1日間
浸透圧	凍結1週間
血小板第4因子	凍結1月間
β-トロンボグロブリン(β-TG)	凍結1月間
薬物検査	
フェノバルビタール	凍結3月間
フェニトイン	凍結3月間
カルバマゼピン	凍結3月間
バルプロ酸	凍結1月間
クロナゼパム	凍結3月間
ゾニサミド	凍結3月間
ニトラゼパム	凍結3月間
ハロペリドール	凍結2週間
ブロムペリドール	凍結3月間
ジゴキシン	凍結6月間
塩酸ピルジカイニド	凍結6月間
メキシレチン	凍結6月間
バンコマイシン	凍結長期間
シクロスポリン(免疫抑制剤)	凍結長期間
タクロリムス(免疫抑制剤)	凍結6月間
テオフィリン	凍結3月間
尿・糞便検査	
尿浸透圧	凍結6月間
蛋白定量	凍結6月間
尿NAG	凍結1月間
デルタアミノレブリン酸定量	冷蔵1週間

検査方法の概略

CF 法：補体結合反応
Complement Fixation Test

抗原抗体複合物に結合し、しかも抗体と協同で溶血反応を引き起こすという補体の性質を応用した抗体価の測定法である。補体の存在下で検体中の抗体に抗原を作用させると、抗原抗体複合物ができ補体はそれに結合してしまう（第 1 相）。続いて抗体の一種である溶血素を結合させたヒツジ赤血球（感作赤血球）を加えても、補体はすでに消費されているため溶血は起こらない（第 2 相）。検体中に抗体がないときは、抗原と補体を作用させても抗原抗体複合物ができないため補体は消費されず、感作赤血球を加えると溶血が起こることになる。すなわち、補体結合反応では溶血が起これば陰性、起こらなければ陽性である。

CLEIA 法：化学発光酵素免疫測定法
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

抗原抗体反応を利用し、標識物質として酵素を使い、その活性測定に化学発光反応を用いている。原理的には EIA 法と同様であるが、最終段階の酵素反応が呈色反応ではなく化学発光反応である点が異なっている。CLEIA 法の代表的な測定手法としては、磁性粒子に結合した抗体と標識抗体で抗原をサンドイッチする方法である。

CLIA 法：化学発光免疫測定法
Chemiluminescent Immunoassay

免疫反応を使用したイムノアッセイで、標識体にアクリジニウムエステルを用いている。アクリジニウムエステルは、酵素標識法で利用されている酵素に比べて分子が非常に小さく、また量子収率が 0.12 との非常に高いため、この様な化学発光物質を標識体として使用することにより、薬物のような低分子からホルモンなどの高分子（タンパク質、核酸、抗体、細胞、ウイルス、ほか）まで測定対象を広げた、より高感度に測定を可能にする方法である。

ELISPOT 法
Enzyme - Linked ImmunoSpot

特定のサイトカインを産生する細胞をスポット (点) として可視化し、サイトカイン産生細胞数を測定する方法。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを検出できる、非常に高感度なイムノアッセイ。

FA 法：蛍光抗体法
Fluorecent Antibody Method

蛍光色素を標識した一次抗体、二次抗体と反応させて、蛍光顕微鏡下で特異的蛍光を観察する方法である。バックグラウンドが暗黒に近いため、検出感度が他の観察法に比べ高く、抗原量と蛍光量との相関も比較的よく定量性に優れている。

FISH 法
Fluorecent In Situ Hybridization

蛍光色素標識のクローン化 DNA 断片をプローブとし、標本上の染色体 DNA との分子雑種を形成させることにより、プローブと相補性のある染色体上の特定部位を、蛍光シグナルとして検出する方法。

GC 法：ガスクロマトグラフィー法
Gas Chromatography

適当な充填剤をつめた数メートル以上の細管に気体試料または気化した液体試料を不活性な気体とともに通過させると、充填剤に対する吸着性・溶解性の差異によって各成分ガスの通過速度に差が出る。これを利用して試料の成分ガスを分離し、定性と定量とを行う方法。

HA 法：赤血球凝集反応
Hemagglutination Test

赤血球の表面に存在する抗原と検体中の抗体とを反応させ、抗原抗体反応により起こる赤血球の凝集の有無により抗体を検出する。

HI 法：赤血球凝集抑制反応
Hemagglutination Inhibition Test

ウイルス抗体価測定法の一つ、ある種のウイルス（インフルエンザ、アデノ、ムンプス、麻疹、風疹、日本脳炎など）は赤血球凝集能を有しているが、検体中にそれぞれのウイルスに対する抗体があれば凝集反応は特異的に抑制されるということを応用したものである。一般に補体結合反応（CF）より感度は高く、早期診断に有用であるが、赤血球凝集能を有するウイルスしか検査できず、ウイルスごとに使用する赤血球が異なり煩雑な面もある。

HPLC 法：高速液体クロマトグラフィー法
High Performance Liquid Chromatography

疎水基あるいは陽イオン交換基をもった硬質ゲルや親水基をもったシリカゲルを高密度に充填したカラムと、高圧ポンプで液体の移動相を用い、高速、高精度の分離を可能とした液体クロマトグラフィーで、超微量分析に適している。

IFA 法：間接蛍光抗体法
Indirect Fluorescent Antibody Technique

抗原を固定したスライドグラス上に検体を添加し、抗原・抗体反応（一次反応）をさせる。洗浄後、FITC 標識抗体を添加して反応（二次反応）させ、抗原・抗体・FITC 標識抗体の複合物を形成させる。FITC の蛍光を蛍光顕微鏡で観察する。

LAMP 法：ループ介在等温増幅法
Loop-Mediated Isothermal Amplification

標的遺伝子の 6 つの領域に対して 4 種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させることを特徴とする。サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型 DNA 合成酵素、基質等を混合し、一定温度（65℃付近）で保温することによって反応が進み、検出までの工程を 1 ステップで行うことができる。DNA を 15 分～ 1 時間で 10^9 ～ 10^{10} 倍に増幅することができるため、簡易検出（スクリーニング）に適する。

LA 法：ラテックス凝集比濁法
Latex Agglutination Immunoassay

希薄溶液においてラテックスに抗体（又は抗原）を結合させ、抗原抗体反応を起こさせてその生成物による濁度を吸光度としてとらえ、測定する方法である。現在、白色光を用いる方法（LA 法）と近赤外光を用いる方法（LPIA 法）が実用化されている。このほか、いわゆる免疫比濁法ではないがラテックス粒子を用いた測定法として粒子凝集法（PA 法）や粒子カウンティング法（PAMIA 法）や積分球濁度方式による測定法などが開発されている。

LIA 法：ラインブロット法
Line Immunoassay

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させたあと、酵素で標識した抗体を 2 次反応させ、抗体の検出を行う方法。反応後に出現するラインの有無および強度により判定する。

LC-MS/MS 法：液体クロマトグラフィータンデム質量分析法
Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry

液体クロマトグラフ（LC）により分離した分析対象成分を専用のインターフェース（イオン源）を介してイオン化し、生成するイオンを質量分析計（MS）で分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを質量分析計で検出する分析方法。

MO 法：二重免疫拡散法
Micro Ouchterlony

ゲル平板内で抗原と検体を拡散させ、抗原抗体反応が起きると沈降線を生じる。沈降線により抗体を検出同定でき、同一抗原に対する 2 種の抗体の沈降線の形態から、抗体の特異性を知ることが可能。

NT 法：中和反応
Neutrazation Test

ウイルス粒子に抗体が付着すると、そのウイルス粒子の感染性が失われることを利用した抗体の測定法である。既知抗体を用いて分離ウイルスの同定にも利用される。最も特異性が高く、感度もよい血清学的検査法である。多くの場合、培養細胞における細胞変性（CPE）の有無を指標にして抗体の有無を判定するが、CPE の代わりにプラーク形成を指標にすることもあり、又、培養細胞の代わりに実験動物、発育鶏卵を用いることもある。

PCR 法
Polymerase Chain Reaction

DNA の特定の領域を増幅する技術。DNA を加熱して 2 重鎖から 1 重鎖に解離させ、これを冷却する過程で 2 本の DNA 鎖のそれぞれ特定の領域に相補的なプライマーを結合させる。これを DNA ポリメラーゼの伸長反応でプライマーの下流の DNA 配列を合成させる。これを繰り返すことで特定の DNA 領域を増幅することができる。

PHA 法：受身赤血球凝集反応
Passive Hemagglutination Test

動物赤血球表面に目的とする抗体に対する抗原を感作させた感作赤血球に試料を加えると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、赤血球の凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する

RIA 法：放射免疫測定法
Radioimmunoassay

抗原抗体反応を利用し、RI（放射性同位元素）を標識物質として微量物質の濃度を測定する方法である。抗体の一定量に対して、RI 標識抗原の一定量と非標識抗原とをインキュベートして競合的に結合させると、標識抗原のうち抗体とくっついた結合型 bound（B）は非標識抗原の量が多くなるほど少なくなり、抗体と結合していない遊離型 free（F）が増える。したがって、予め既知量の非標識抗原を用いて標準曲線（standard curve）を作成しておけば、未知検体を測定したときの B 又は F の RI カウントより未知の抗原濃度を知ることができる。又、B と F の分離方法として、固相法（ビーズ法、チューブ法、ディスク法など）、2 抗体法、DCC（dextran coated charcoal）法、PEG（polyethleneglycol）法、DAPS（double antibody precipitin suspension）法などがある。なお、RIA における抗体の代わりに、目的とする物質の特異的結合蛋白、たとえば、T4 測定時なら TBG（サイロキシン結合グロブリン）を用いる方法を CPBA（competitive protein binding assay）とよび、抗体の代わりにレセプター（受容体）を用いる方法をラジオレセプターアッセイ（radio receptor assay：RRA）とよぶ。

RPLA 法：逆受身ラテックス凝集反応法
Reversed Passive Latex Agglutination Test

検出目的の抗原に対応する抗体をラテックス粒子に吸着させさせたものと試料を反応させると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、ラテックスの凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する。

RT-PCR 法
Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction

RNA は DNA の様に直接 PCR によって増幅することができない。一度 RNA を逆転写反応によって cDNA（相補的 DNA：complementary DNA）に変換し、これを PCR によって増幅する技術。

SDA 法
Strand Displacement Amplification

DNA を鋳型として、DNA ポリメラーゼと制限酵素を用いて行う核酸増幅法。これらの酵素が等温条件下で反応し、鎖置換型の核酸増幅産物を生じる。目的増幅産物の検出は、2 種類の蛍光物質で修飾したステムループ状のプローブを用いて、増幅と同時に行う。

TIA 法：免疫比濁法
Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の目的物質に対する抗原もしくは抗体を加えると抗原抗体反応による混濁が生じる。この濁度を標準物質により作成された検量線により濃度を求める。

UV 法：紫外吸収スペクトル法
Ultraviolet Absorption Spectrophotometry

試料に紫外単色光を照射し、各波長での吸光度より得られた紫外部吸収スペクトルを用いて、定性や定量を行う方法、通常 200 ～ 400nm の近紫外線の波長が最もよく用いられる。

WB 法：ウェスタンブロット法
Western Blot Method

電気泳動法により蛋白質混合物を分離し、これらの蛋白質を蛋白質と高い結合能のある膜上に転写する。調べようとする蛋白質に特異抗体（一次抗体）を反応させたのち、二次抗体を作用させ、結合した二次抗体を検出する方法。二次抗体の検出には、酵素を結合させて基質を発色させる方法や ^{125} I 標識プロテイン A 等が用いられる。DNA を電気泳動後検出するサザンブロット法、mRNA を検出するノーザンブロット法との類似性から蛋白質を検出する方法をウェスタンブロット法と呼ぶ。

イオン電極法
Ion Electrode Method

目的とするイオンに選択的に反応するイオン選択電極（イオンセンサー）と比較電極とを試料中に挿入して、両電極間に生じる電位差によりイオン濃度を測定する。臨床化学分析では、体液電解質の測定が行われており、これらの測定に用いられている電極は、ナトリウムではガラス電極、カリウムではニュートラルキャリアー含有液膜電極、クロールでは個体膜型電極などである。

検査方法の概略

酵素法
Enzymatic Method

酵素反応を利用して目的とする物質を定量する方法で、終点測定法（end point assay）と初速度測定法（rate assay）とがある。終点測定法は、酵素反応が平衡状態に達した時点、すなわち単位時間当たりの基質の減少または生成物の増加などを測定する方法である。

酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay(EIA)
Enzym-linked Immunosorbent Assay(ELISA)
Fluorescence Enzymes Immunoassay(FEIA)
Enzyme Multiplied Immunoassay Technique(EMIT)

抗原抗体反応を利用し、酵素を標識物質として目的とする物質を測定する方法または発蛍性の基質を用いる EIA 法（FEIA 法）で、酵素によって分解される基質又は生成物より酵素活性を測り、間接的に測定値を求めるものであり、原理的には競合反応を用いる方法と用いない方法とがある。前者では、抗体の一定量に対して酵素標識抗原の一定量と未知検体中の非標識抗原とを競合させた後、抗原抗体結合物の酵素活性を測り、既知濃度の標準抗原を用いて、得られた標準曲線から非標準抗原濃度を求める。後者では固相化抗体に未知検体中の抗原を結合させ、さらに酵素標識抗体を結合させてその酵素活性を測ったり、酵素標識抗体に検体中の抗原を結合させ、余分の標識抗体を除去した後に酵素活性を測る方法などがある。

電気泳動法
Electrophoresis

溶液中で荷電したコロイド粒子に直流電圧を加えると、正に荷電した粒子は陰極に、負に荷電した粒子は陽極へ移動するが、この現象を利用して物質の分離精製や均一性の測定を行うのが電気泳動法である。荷電した粒子の移動速度（易動度）は、粒子の荷電の強弱・粒子の大きさや形状・溶媒中の電解質の種類・イオン強度・pH・電圧など多くの因子に左右される。又、電気泳動法は、移動界面電気泳動法（Tiselius の電気泳動法）と支持体電気泳動法（ゾーン電気泳動法：zone electrophoresis）とに大別される。前者は、U 字管内で試料中の荷電粒子が緩衝液中を移動する際の境界面を光学的に分析するものであり、後者は、汎紙・セルロースアセテート・寒天・デンプン・ポリアクリルアミドゲルなどを支持体とし、その上に試料をつけて電圧をかけることにより試料中の物質を移動させ、染色して定量するものである。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えて AT- Ⅲ - ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法
Colorimetry

溶液の色の濃さを標準液の色の濃さと比較して溶液濃度を求める方法で、最も簡単な方法は肉眼で比較する方法である。しかし、通常は、溶液の吸光度はその濃度と液層の幅に比例するというランベルト - ベーアの法則（Lambert-Beer law）に基づき、光電光度計を用いて試料溶液の吸光度を測定し、標準液の吸光度と比較することによって測定値を求める。溶液が無色の場合は、発色試薬を加えるか、目にみえない紫外線や赤外線の吸収を調べる。

比濁法
Turbidimetry

抗原抗体反応溶液に光を入射させ、透過する光の強さを測定する方法を比濁法（turbidimetry）とよび、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。

比朧法：ネフェロメトリー法
Nephelometry

沈降物によって散乱した光の強さを入射光と直角の方向から測定する方法は比朧法（ネフェロメトリー：nephelometry）とよばれる。これらの方法では、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。なお、最近では光の特性の優れた（直進性が良くエネルギーが高い）レーザー光線を光源としたレーザーネフェロメトリーが行われている。

フローサイトメトリー法
Flow Cytometry

細胞浮遊液を高速度で流し、レーザー光を照射して、前方散乱光と測方散乱光を検出する。前方散乱光の強さは細胞の大きさ、測方散乱光は細胞内構造を反映する。得られた情報をコンピュータで処理し、個々の細胞を解析する。

リアルタイム PCR
Real Time Polymerase Chain Reaction

PCR の増幅をリアルタイムに測定する方法。TaqMan 法では蛍光色素を標識したオリゴヌクレオチドを用いる。このオリゴヌクレオチドは伸長反応の過程で分解され、蛍光強度が増加する性質を持つ。PCR サイクル毎に蛍光強度を測定することで DNA の増幅を測定し、また、特定の DNA 配列を特異的に定量することができる。

原子吸光法
Atomic Absorption Method

原子の吸光現象を利用した測定法、試料に熱エネルギーを加え、分子間の結合や原子間の結合を切断し、バラバラの遊離原子にすると、ガス状になる。これに可視光線や紫外線を通過させると、基底状態の原子が、その原子固有の波長の光を吸収し励起状態になる。したがって、そのときの吸光度を測定すれば、試料中の目的とする元素の濃度を求めることができる。

参考文献

1. 河合忠、水島裕：今日の臨床検査，南江堂，1990.
2. 臨床検査医学事典編集委員会：臨床検査医学事典，朝倉書店，1987.
3. 試薬製造元資料

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
1	総蛋白(TP)	A.G.Gornall, et al.:Biol.Chem., 177:751, 1949
1	アルブミン	村本　良三 , 他:臨床化学　26:38-43, 1997
1	蛋白分画	セパラックス SP(泳動膜)パンフレット
1	A/G比	浅井　孝道:検査と技術　7:815, 1979
1	フェリチン定量	田口　隆由, 他:医療と検査機器・試薬　26(4):305, 2003
1	プレアルブミン(トランスサイレチン)	古田島伸雄, 他:JJCLA　32(1):84, 2007
1	セルロプラスミン(CP)	飯村　康夫, 他:日本臨床　42(春季増刊号):1209, 1984
1	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)	北原　志穂, 他:医学と薬学　72(9):1579 ～ 1590, 2015.
1	Ⅳ型コラーゲン 7S	大高木結媛, 他:医学と薬学　77(5),785 ～ 792,2020
1	Ⅳ型コラーゲン	試薬添付文書
2	肝細胞増殖因子(HGF)	杉原　潤一, 他:新薬と臨床　41(9):180, 1992
2	α1-マイクログロブリン(α1-MG)(血清)	徳山昌司郎:医学と薬学　39:835, 1998
2	α1-マイクログロブリン(α1-MG)(尿)	徳山昌司郎:医学と薬学　39:835, 1998
2	β2-マイクログロブリン(β2-MG)(血清)	望月　照次, 他:臨床検査機器・試薬　8(5):1244, 1985
2	β2-マイクログロブリン(β2-MG)(尿)	望月　照次, 他:臨床検査機器・試薬　8(5):1244, 1985
2	ミオグロビン定量	試薬添付文書
2	ミオグロビン定量(尿)	吉川　文雄, 他:医学と薬学　37(5):1255, 1997
2	H-FABP定量(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	藤田　　孝, 他:機器・試薬　33(5):629, 2010
2	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎　修一, 他:医学と薬学　52(3):443, 2004
2	心筋トロポニンT(TnT)	荒井　信之, 他:医療と検査機器・試薬　32(2):269, 2009
3	血糖(グルコース)	H.U.Bergmeyer, ed:Methods of Enzymatic Analysis, Academic Press, New York and London:117, 1963
3	グリコアルブミン(GA)	藤田　知代, 他:医学と薬学　47(1):141, 2002
3	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	森脇　貴美, 他:臨床検査機器・試薬　24(2):139, 2001
3	HbA1c(NGSP)	藤本　一満, 他:機器・試薬　36(4):525, 2013
3	総コレステロール(T-Cho)	Allain,C.C., et al.:Clin. Chem. 20:470, 1974
3	LDL-コレステロール(LDL-C)	井上　郁夫 , 他:医学と薬学　69(1):163, 2013
3	HDL-コレステロール(HDL-C)	田中　　忍, 他:医学検査　58(5):402, 2009
3	コレステロール分画	試薬添付文書
4	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)	滝野　　豊, 他:医学と薬学　56(2):269, 2006
4	遊離コレステロール(F-Cho)	Allain, C.C., et al.:Clin. Chem. 20:470, 1974
4	中性脂肪(TG)	松宮　和人:Medical Technology 11(12):1201, 1983
4	総脂質(TL)	Cheek, C.S., et al.:Clin. Chem. 15(2):102, 1969
4	リン脂質(PL)	仁科　甫啓:検査と技術　15(4):333, 1987
4	遊離脂肪酸(FFA・NEFA)	Shimizu.S., et al.:Anal Biochem 98:341, 1979
4	リポ蛋白分画	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:548, 2009
5	アポリポ蛋白　A-Ⅰ	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白　A-Ⅱ	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白　B	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白　C-Ⅱ	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白　C-Ⅲ	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	アポリポ蛋白　E	藤田　誠一, 他:臨床検査　29:1401, 1985
5	リポ蛋白(a)〔LP(a)〕	吉岡　成人, 他:ホルモンと臨床　41:1119, 1993
5	総胆汁酸(TBA)	吉田　雅明, 他:臨床検査機器・試薬　17(2):335, 1994
6	尿素窒素(UN)(血清)	太田　抜徳, 他:臨床病理　21(補冊):303, 1973
6	尿素窒素(UN)(蓄尿)	太田　抜徳, 他:臨床病理　21(補冊):303, 1973
6	クレアチニン(血清)	大澤　　進:Medical Technology 26(4):389, 1998
6	クレアチニン(蓄尿)	大澤　　進:Medical Technology 26(4):389, 1998
6	シスタチンC	平田　昭彦 , 他:日本臨床　60 巻　増刊号 8:519, 2002
6	クレアチン(血清)	林泰之, 玄番昭夫:正常値ガイドブック-その臨床応用-:224-225(1985)
6	クレアチン(蓄尿)	林泰之, 玄番昭夫:正常値ガイドブック-その臨床応用-:224-225(1985)
6	尿酸(UA)(血清)	岩田　一郎, 他:臨床検査　20:941, 1976
6	尿酸(UA)(蓄尿)	岩田　一郎, 他:臨床検査　20:941, 1976
7	アンモニア(NH_3)	美崎　英生:検査と技術　27(8):973, 1999
7	総ビリルビン(T-BiL)	徳田　邦明, 他:臨床化学　22:116, 1993
7	直接ビリルビン(D-BiL)	徳田　邦明, 他:臨床化学　22:116, 1993
7	ハプトグロビン(型判定含む)	櫻林郁之介, 他:臨症病理　53(特集号):71, 1983
7	ハプトグロビン(型判定なし)	加野象次郎, 他:Medical Technology 7(13):1345, 1979
7	コプロポルフィリン定量	M.Salmi:Clin.Chem. 26(3):1832, 1980
8	プロトポルフィリン定量(血中)	Salmi M et al : Clinical Chemstry 26(13):1832～1835, 1980.
8	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)(GOT)	日本臨床化学会:臨床化学　18(4):226, 1989
8	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)(GPT)	日本臨床化学会:臨床化学　18(4):250, 1989
8	アルカリホスファターゼ(ALP)-IFCC	日本臨床化学会:臨床化学　19(2):209, 1990
8	乳酸脱水素酵素(LD)-IFCC	日本臨床化学会:臨床化学　19(2):228, 1990
8	コリンエステラーゼ(ChE)	高木　　康:総合臨床　27:2392, 1978
8	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ(γ-GT)	日本臨床化学会:臨床化学　24:106, 1995
9	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP)	Recommendations of the German Society for Clinical Chemistry:Z.Klin.Chem.Klin.Biochem., 10:280, 1972
9	アルドラーゼ(ALD)	三浦　雅一 , 他:臨床検査機器・試薬　12(5):1005, 1989
9	クレアチンキナーゼ(CK)	日本臨床化学会:臨床化学　19(2):184, 1990
9	CK-MB	初山　弘幸, 他:医学と薬学　29(3):675, 1993
9	アミラーゼ(AMY)(血清)	白井　秀明:医学と薬学　59(6):1093, 2008
9	アミラーゼ(AMY)(尿)	白井　秀明:医学と薬学　59(6):1093, 2008
9	膵アミラーゼ(P-AMY)	野村　　博, 他:臨床検査機器・試薬　19(1):27, 1996
9	リパーゼ	引地　　篤, 飯塚　直美:生物試料分析　40(5):255, 2017
9	リポ蛋白リパーゼ(LPL)	Watanabe, H. et al.:Atherosclerosis 145, 45, 1999.
10	アデノシンデアミナーゼ(ADA)	江頭　静摩, 他:現代の診療　24(4):131, 1982
10	グアナーゼ(GU)	手登根　稔, 他:検査と技術13(10):901, 1985
10	リゾチーム(血清)	北村　元仕, 他:実践臨床化学　医歯薬出版:432, 1983
10	リゾチーム(尿)	北村　元仕, 他:実践臨床化学　医歯薬出版:432, 1983
10	アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	山下寿美子, 他:臨床検査機器・試薬　10(1):71, 1987
10	トリプシン	植田紳之助, 他:医学と薬学　77(12):1659～1668, 2020
11	膵ホスホリパーゼ A_2(PLA_2)	上田　　章, 他:臨床病理　37(5):561, 1989
11	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ(PGⅠ・Ⅱ)	三木　一正:医学と薬学　49(3):519, 2003
11	BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	倉澤健太郎, 他:医学と薬学　55(2):279, 2006
11	total PⅠNP(Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	日高　好博:医学と薬学　70(2):357, 2013
11	LDアイソザイム	試薬添付文書
11	ALPアイソザイム(IFCC)	松下　　誠:検査と技術　33(12):1359, 2005
12	アミラーゼアイソザイム(AMYアイソザイム)	星野　　忠 , 他:JCCLA 35(4):773, 2010
12	CKアイソザイム	Galen RS.:HUMAN PATHOLOGY 6(2):141, 1975
12	ケトン体分画≪動脈血≫	菊野　　晃, 他:臨床検査　41:963, 1997
12	ケトン体分画≪静脈血≫	菊野　　晃, 他:臨床検査　41:963, 1997
12	乳酸	浅沼　和子, 他:生物試料分析　8(3):16, 1985
12	ピルビン酸	浅沼　和子, 他:生物試料分析　8(3):16, 1985
12	ヒアルロン酸	島村　　朗, 他:医学と薬学　44(6):1441, 2000
13	ナトリウム(Na)(血清)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	ナトリウム(Na)(蓄尿)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	クロール(Cl)(血清)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	クロール(Cl)(蓄尿)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	カリウム(K)(血清)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	カリウム(K)(蓄尿)	関口　光夫:検査と技術　17(9):1167, 1989
13	カルシウム(Ca)(血清)	第54回　神奈川県医学検査学会　抄録(2005.11)
13	カルシウム(Ca)(蓄尿)	第54回　神奈川県医学検査学会　抄録(2005.11)
13	イオン化カルシウム	桑　　克彦:検査と技術　19(2):119, 1991
14	マグネシウム(Mg)(血清)	北村　元仕, 他:実践臨床化学　医歯薬出版:166, 1983

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
14	マグネシウム(Mg)(蓄尿)	北村　元仕, 他:実践臨床化学　医歯薬出版:166, 1983
14	無機リン(IP)(血清)	Daly, J. A. and Ertingshausen, G.:Clin. Chem., 18:263, 1972
14	無機リン(IP)(蓄尿)	Daly, J. A. and Ertingshausen, G.:Clin. Chem., 18:263, 1972
14	鉄(Fe)(血清)	徳井　健志, 奥田　　潤:臨床化学　16(1):48, 1987
14	鉄(Fe)(尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
14	総鉄結合能(TIBC)〔比色法〕	斉藤　　宏:基礎と臨床　8(11):408, 1974
14	不飽和鉄結合能(UIBC)〔比色法〕	山田　満廣, 他:JJCLA　13(5):659, 1988
15	銅(Cu)(血清)	金井　　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:604, 1998
15	銅(Cu)(尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	アルミニウム(Al)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	亜鉛(Zn)(血清)	松本　和子:臨床検査(増刊号)34(11):1367, 1990
15	亜鉛(Zn)(尿)	松本　和子:臨床検査(増刊号)34(11):1367, 1990
15	鉛(Pb)(全血)	原田　章, 他:鉛健康診断のすすめ方:56, 1990
15	鉛(Pb)(尿)	原田　章, 他:鉛健康診断のすすめ方:56, 1990
15	カドミウム(Cd)(全血)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	カドミウム(Cd)(尿)	Varian Techtron Pty Limited:Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
16	クロム(Cr)(全血)	松岡　　澄:産業医学　13(6):27, 1971
16	クロム(Cr)(尿)	松岡　　澄:産業医学　13(6):27, 1971
16	水銀(Hg)(全血)	神奈川県公害センター監修:公害関係の分析法と解説　神奈川県弘済会 , 1972
16	水銀(Hg)(尿)	神奈川県公害センター監修:公害関係の分析法と解説　神奈川県弘済会 , 1972
16	マンガン(Mn)(全血)	加地　　浩, 他:日本災害医学会会誌　37:195, 1989
16	マンガン(Mn)(尿)	Mikac-Devic, D. et al.:Clin. Chem. 23:948, 1977
16	ニッケル(Ni)	Mikac-Devic, D. et al.:Clin. Chem. 23:948, 1977
17	総三塩化物(TTC)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	三塩化(トリクロル)酢酸(TCA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	マンデル酸(MA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	馬尿酸(HA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	メチル馬尿酸(MHA)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	岡山　明:労働衛生管理　3(4):45, 1992
17	N-メチルホルムアミド	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	2,5- ヘキサンジオン(2,5-HD)	全国労働衛生団体連合会:有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
18	エタノール	塚本昭次郎:アルコール研究　5:8, 1970
18	ビタミン A(レチノール)	須原　　聡, 他:臨床検査　36(3):235, 1992
18	レチノール結合蛋白	古田島伸雄, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　32(1):84, 2007
18	ビタミン B_1(チアミン)	安田　和人, 他:臨床病理　XXIX:564, 1981
18	ビタミン B_2(リボフラビン)	安田　和人, 他:日本臨牀　62(12):148, 2004
18	ビタミン B_6	吉田　継親, 他:薬学雑誌　98:1319, 1978
18	ビタミン B_{12}	河口　行雄, 他:医学と薬学　41(1):145, 1999
18	葉酸	安田　和人, 他:医療と検査機器・試薬　25(5):441, 2002
18	ビタミン C(アスコルビン酸)	Lykkesfeldt J et al.:Analytical Biochemistry 229:329, 1995.
19	25OHビタミンD〔CLEIA〕	糸賀　仁美, 畑　伸顕, 他:医学と薬学　76(9):1303-1310, 2019
19	1 α -25-$(OH)_2$ ビタミン D(1,25-ジヒドロキシビタミン D3)	髙田　朋玲, 他:医学と薬学　37(5):1205, 1997
19	25-ヒドロキシビタミンD	D. L. Ersfeld et al.:Clinical Biochemistry 37:867, 2004
19	ビタミン E(トコフェロール)	阿部　皓一, 他:栄養と食糧　28:277, 1975
19	ビタミン K分画	Langenberg, J.P., et al.:J. Chromatogr. 305:61, 1984
19	カルニチン	市本　景子 , 他:新薬と臨牀　66(9):1176, 2017
19	ニコチン酸(ナイアシン)	宮沢　　滋:ビタミン　56(9・10):487, 1982
19	脂肪酸4分画	小沢　昭夫, 他:分析化学　31:87, 1981
20	結石分析	神　ちひろ, 分析化学　53(7):735, 2004.
20	全脂質脂肪酸分画	金井　　晃, 他:ぶんせき　11:774, 1978
20	総ホモシステイン	Araki A, Sako Y:J Chromatogr 422:43, 1987
20	アミノ酸分析定量(血漿)	遠藤　治郎, 他:日本臨床　50(7):69, 1992
20	アミノ酸分析定量(尿)	遠藤　治郎, 他:日本臨床　50(7):69, 1992
20	BTR(総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比)	飯塚　誠一, 他:現代医療　26(増II):99, 1994
20	M2BPGi(MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	久野　敦:医学のあゆみ。249(8):666 ～ 670, 2014
21	KL-6	髙松久美子, 他:医学と薬学　62(3):491-499, 2009
21	SP-A(肺サーファクタントプロテインA)	大木　　卓, 他:医学と薬学　71(1):161, 2014
21	SP-D(肺サーファクタントプロテインD)	土居　耕介, 他:医学と薬学:78-261, 2021
22	クレアチニンクリアランス	大澤　　進:Medical Technology 26(4):389, 1998
22	クレアチニンクリアランス(24時間内因性)	大澤　　進:Medical Technology 26(4):389, 1998
22	尿酸クリアランス(Ccr、尿酸cr/Ccrも含む)	藤森　　新, 他:臨床検査　34(9):1121, 1990
22	eGFRcreat	CKD診療ガイド 2012:日本腎臓病学会編
22	eGFRcys	CKD診療ガイド 2012:日本腎臓病学会編
24	成長ホルモン(GH)	小山　紗世, 他:医学と薬学　68(5):899-910, 2012
24	ソマトメジン C(IGF-1)	Blackburn, G.F. et al.:Clin.Chem, 37(9):1534, 1991
25	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	川崎　芳正, 他:医学と薬学　63(2):325-329, 2010
25	黄体形成ホルモン(LH)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
25	卵胞刺激ホルモン(FSH)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
25	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	阿部　正樹, 他:医学と薬学　57(2):239, 2007
25	プロラクチン(PRL)	井本祐司, 他:医療と検査機器・試薬 25:557-563, 2002
25	AVP(アルギニンバソプレシン)	大磯ユタカ, 他:日本内分泌学会誌:62:608, 1986
26	トリヨードサイロニン(T_3)	上條　桂一, 他:医学と薬学　40(2):387-394, 1998
26	遊離トリヨードサイロニン(F-T_3)	川崎　芳正, 他:医学と薬学　63(2):325-329, 2010
26	サイロキシン(T_4)	上條　桂一, 他:医学と薬学　40(2):387-394, 1998
26	遊離サイロキシン(F-T_4)	川崎　芳正, 他:医学と薬学　63(2):325-329, 2010
26	TBG定量	海瀬　信子, 他:核医学　16(5):777, 1979
26	サイログロブリン(Tg)	北川　　亘, 他:医学と薬学　71(9)1655-1666, 2014
26	カルシトニン	北川　　亘, 他:医学と薬学　72(1):97-108, 2015
26	【副甲状腺ホルモン】PTH-Intact	山岡　美穂, 他:医学と薬学　46(5):753, 2001
26	【副甲状腺ホルモン】Whole-PTH	古屋　　実, 他:医学と薬学　67(5):757-765, 2012
26	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	福本　誠二, 他:ホルモンと臨床　40(12):91, 1992
27	インスリン(IRI)	前畑　英介, 他:医学と薬学　44(6):1069, 2000
27	C-ペプチド(CPR)(血清)	J Schultess, et, al.:Clin Chem Lab Med 47:834-841, 2009、石倉はる美, 他:医学検査　59(4):402, 2010
27	C-ペプチド(CPR)(蓄尿)	J Schultess, et, al.:Clin Chem Lab Med 47:834-841, 2009、石倉はる美, 他:医学検査　59(4):402, 2010
27	膵グルカゴン	稲垣貴之, 他:医学と薬学　72, 491-497, 2015. 、菊池唯史, 他:医学と薬学　75, 417-424, 2018.
27	ガストリン	飯沼　一茂, 他:Radioisotopes31(7)350 ～ 356, 1982.
27	カテコールアミン分画(血漿)	西村　千江, 他:臨床検査機器・試薬　16:1169, 1993
27	カテコールアミン分画(髄液)	西村　千江, 他:臨床検査機器・試薬　16:1169, 1993
27	カテコールアミン分画(蓄尿)	西村　千江, 他:臨床検査機器・試薬　16:1169, 1993
28	ドーパミン総	守　　和子:産業医学　17:170, 1975
28	L-ドーパ	守　　和子:産業医学　17:170, 1975
28	5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	白川　淳二, 他:日本臨床・広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査下巻 .175, 1990
28	ホモバニリン酸(HVA)(血漿)	東海林哲郎, 他:臨床検査ガイド 2013 ～ 2014・420 ～ 422, 2013
29	バニールマンデル酸(VMA)	東海林哲郎, 他:臨床検査ガイド 2013 ～ 2014・423 ～ 425, 2013
29	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	Shoup R.E., et al.:Clin. Chem. 23:1268, 1977
30	17- ケトステロイド分画(17-KS分画)	石田　　孝, 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(アンドロステロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(エチオコラノロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(デヒドロエピアンドロステロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(11- ケト - エチオコラノロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(11- ヒドロキシアンドロステロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(11- ヒドロキシエチオコラノロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986
30	17- ケトステロイド分画(11- ケトアンドロステロン)	石田　　孝 , 他:臨床化学　15:13, 1986

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
30	11-ハイドロキシコルチコステロイド(11-OHCS)	宇田川美佐子, 他:臨床化学　5(3):321, 1977
30	コルチゾール	関口　昌江, 他:医学と薬学　69(6):985-991, 2013
30	遊離コルチゾール	西川　哲男, 他:ホルモンと臨床　28:471, 1980
31	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	増戸　梨恵, 他:医学と薬学　56(3):443, 2006
31	アルドステロン(血清、血漿)	佐藤　文俊, 他:医学と薬学　76(12):1819～1826, 2019、猿田　享男:日本臨床　63(増刊号):328～331, 2005
31	アルドステロン(蓄尿)	佐藤　文俊, 他:医学と薬学　76(12):1819～1826, 2019
32	エストラジオール(E_2)(血清)	佐藤　達郎, 他:岡山医学検査　44:6-12, 2007、松崎　利也, 他:医学と薬学　70:331-339, 2013
32	エストリオール(E_3)(血清)	吉田　孝雄:ホルモンと臨床　21:86, 1973
32	プロゲステロン	中村　悟, 他:医学と薬学　40(3):541-545, 1998
33	プレグナンジオール(P_2)	平井　利生, 他:JJCLA 9:564, 1984
33	プレグナントリオール(P_3)	平井　利生, 他:JJCLA 9:564, 1984
33	テストステロン(血清)	佐藤　達郎, 他:岡山医学検査　44:6-12, 2007、松崎　利也, 他:医学と薬学　70:331-339, 2013
33	遊離テストステロン	大塚　喜彦, 他:医学と薬学　72(1):147-151, 2015
33	抗ミュラー管ホルモン(AMH)	柳田小百合, 他:医学と薬学　72(6), 1095-1101, 2015
34	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(血清)(HCG)	花川　準司, 他:臨床検査機器・試薬　20(4):609, 1997
34	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(尿)	花川　準司, 他:臨床検査機器・試薬　20(4):609, 1997
34	遊離βHCG(HCGβサブユニット)	日本産科婦人科学会／日本病理学会　編:絨毛性疾患取扱い規約　第3版, 59-65, 2011(金原出版)
35	サイクリック AMP(c-AMP)(血漿)	孫　孝義, 他:日内分泌会誌　61:912, 1985
35	サイクリック AMP(c-AMP)(蓄尿)	孫　孝義, 他:日内分泌会誌　61:912, 1985
35	セロトニン(全血)	Picard, M., et al.:J.Chromatogr. 341:445, 1985
35	セロトニン(多血小板血漿)	Picard, M., et al.:J.Chromatogr. 341:445, 1985
35	レニン活性(PRA)	宇津　貴男, 他:医学と薬学　73(3):311～321, 2016
35	レニン定量(PRC)	佐藤　文俊, 他:医学と薬学　76(12):1819～1826, 2019、猿田　享男:日本臨床　63(増刊号):328～331, 2005
36	エリスロポエチン	増田　詩織, 他:医学と薬学　67(2)297, 2012
36	オステオカルシン(BGP)	戸来　孝, 他:日本臨床自動化学会会誌　40:52-57, 2015
36	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	西村　順, 他:医学と薬学　57(4):523, 2007
37	HANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	松岡　泰弘, 他:機器・試薬　33(4):535, 2010
37	BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	山田　恵, 他:医学と薬学　63(6):913-918, 2010
37	NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	宮本　康平, 他:医学と薬学　77(1):81-90, 2020
40	α-フェトプロテイン(AFP)	福岡　達仁, 他:医学と薬学　58(3):473-479, 2007
40	α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	佐藤　繁樹, 他:臨床病理　58:1155-1161, 12・2010
40	CEA(癌胎児性抗原)	山田　孝, 他:医学と薬学　29(5):1201, 1993
40	BFP(塩基性フェトプロテイン)	石井　勝:癌と化学療法　15(7):2107-2113, 1988
40	NCC-ST-439	大倉　久直, 他:癌と化学療法　14(6):1901, 1987
40	DUPAN-2	張　正和, 他:膵臓　1(1):69, 1986
40	CA19-9	福岡　達仁, 他:医学と薬学　58(3):473-479, 2007
40	CA15-3	福岡　達仁, 他:医学と薬学　58(3):473-479, 2007
40	CA125	福岡　達仁, 他:医学と薬学　58(3):473-479, 2007
41	BCA225	小林美耶子, 他:医学と薬学　72(7):1249, 2015
41	SLX(シアリル Le^x-i抗原)	井村　裕夫, 他:癌と化学療法　14(5):1315, 1987
41	CSLEX(シアリル Le^x抗原)	三嶋　芳樹, 他:医学と薬学　29(5):1193, 1993
41	CA72-4	高居　邦友, 他:医学と薬学　78(7):865-871, 2021
41	SPan-1	山村　倫子, 他:臨床成人病　19(1):115, 1989
41	シフラ(CYFRA21-1)(サイトケラチン19フラグメント)	佐々木 芳恵, 他:医学と薬学　70:837-842, 2013
41	扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	羽田真理子, 他:医学と薬学　52(1):101, 2004
41	エラスターゼ 1	大出　勝也,他:臨床病理　50(4):376, 2002
42	PSA(前立腺特異抗原)	河野　均也, 他:臨床検査機器・試薬　24(3):223, 2001
42	高感度PSAタンデム	野村　朋子, 他:医学と薬学　51(1):179, 2004
42	高感度PSAタンデム　F/T比	野村　朋子, 他:医学と薬学　51(1):179, 2004
43	γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	佐藤　達郎, 他:医学と薬学　43(1):97, 2000
43	Pro GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	前川　知子, 他:医学と薬学　71(9):1643, 2014
43	NSE(神経特異エノラーゼ)	花田　浩之, 他:医学と薬学　60(4):657, 2008
43	$α_1$-酸性糖蛋白($α_1$-AGP)	櫻林郁之介, 他:臨床病理　53(特集号):71, 1983
43	PIVKAⅡ定量	菅原　昌章, 他:医学と薬学　73(3):293-300, 2016
44	ⅠCTP(Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド)	清原　剛, 他:ホルモンと臨床　42:1189, 1994
44	TRACP-5b 定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	西沢　良記, 他:医学と薬学　54(5):709, 2005
44	NTx(Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド)(尿)	馬場　広太, 他:臨床検査　42:477-481, 1998
44	デオキシピリジノリン(DPD)	山本　逸雄, 他:ホルモンと臨床　44(7):747, 1996
45	抗p53抗体	橋本　礼輔, 他:医学と薬学　75(8):955, 2018
45	インターロイキン2受容体(IL-2R)	ルミパルス PrestoⅡを用いた可溶性インターロイキン2レセプター(sIL-2R)測定試薬「ルミパルス プレスト IL-2R」の基礎検討　臨床病理　第68巻第6号(2020年6月)別冊
48	ABO血液型	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:28、2008
48	Rh(D)血液型	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:28、2008
48	Rh-Hr式血液型	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:11、2008
48	直接クームス試験	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:58、2008
48	間接クームス試験	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:1、2008
48	クームス定量試験	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:132、2008
48	不規則抗体	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:35、2008
48	交差適合試験	安田　広康, 他:新輸血検査の実際(初版)、日本臨床検査技師会:55、2008
48	抗血小板抗体	柴田　洋一:輸血学(遠山　博編), 中外医学社:457, 1978
49	血小板関連 IgG(PA-IgG)	林　悟, 他:臨床病理　32:1253, 1984
49	HIT抗体(血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	阪田　敏幸:医学と薬学　68(3):547, 2012
50	梅毒定性・半定量(RPR法)	大里　和久, 他:日本性感染症学会誌　13(1):124, 2002、赤坂　希, 他:機器・試薬　23(3):191, 2000
50	梅毒定性・半定量(TPHA)	大里　和久, 他:日本性感染症学会誌　13(1):124, 2002、大里　和久 , 他:臨床検査機器・試薬　14(4):739, 1991
50	抗ストレプトリジンO定量(ASO)	Rantz, L., et al.:Proc. Exp. Biol. Med., 59:22, 1945
50	マイコプラズマ抗体半定量(PA法)	鷹箸　孝一, 他:獨協医科大学病院　臨床検査部血清室
50	マイコプラズマ抗体半定量(CF法)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル(文光堂):880, 1988
51	寒冷凝集反応	工藤　肇:日本臨床　26:330, 1968
51	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	PERSON K., et al:Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7(5):739, 2000
51	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	PERSON K., et al:Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7(5):739, 2000
51	クラミジア・ニューモニエ　IgM 抗体	岸本　寿男, 他:感染症学雑誌　70(8):821, 1996
51	トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅　修司, 他:日本呼吸器学会誌　39(1):7, 2001
51	MAC抗体	吉田　春花, 他:医学検査　62(5):587, 2013
52	トキソプラズマIgG抗体	田畑　宏道, 他:医学と薬学　71(1)145-151, 2014
52	トキソプラズマIgM抗体	田畑　宏道, 他:医学と薬学　71(1)145-151, 2014
52	百日咳菌抗体	岡田　賢司:医学と薬学　65(4):531, 2011
52	クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	松本　明, 他:感染症学雑誌　66(5):584, 1992
53	ツツガ虫　Gilliam　IgG抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
53	ツツガ虫　Gilliam　IgM抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
53	ツツガ虫　Kato　IgG抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
53	ツツガ虫　Kato　IgM抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
53	ツツガ虫　Karp　IgG抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
53	ツツガ虫　Karp　IgM抗体	山本　正悟:臨床とウイルス　12(3):270, 1984
54	ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株	乾　正幸, 他:日本ヘリコバクター学会誌　19(1):33～42, 2017
54	ヘリコバクター・ピロリ抗体IgG／国内株	菊地　正悟, 他:医学と薬学　43(3):581, 2000
54	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構: 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改訂版　運用の手引き, 2016.
54	胃がんリスク層別化検査(ABC分類)(除菌歴あり)	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構: 胃がんリスク層別化検査(ABC分類)2016年度改訂版　運用の手引き, 2016.
55	プロカルシトニン定量(PCT)	吉岡　範, 他:医学と薬学　74:1119-1127, 2017
55	エンドトキシン	大石　春樹, 他:薬学雑誌　105(3):300-303, 1985
55	(1→3)-β-D-グルカン	吉田耕一郎, 他:医学と薬学　67(6):895, 2012
55	透析液エンドトキシン	生井　梨愛, 他:腎と透析　別冊:74, 2003
56	カンジダ・マンナン抗原	相原　守夫, 他:臨床検査　34(3):367, 1990
56	クリプトコッカス抗原定性	二見　修平, 他:Jpn. J. Med. Mycol, 30(3):211, 1989

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
56	アスペルギルス抗原	Stynen, D., et al.:J. Clin. Microbiol. 33(2):497, 1995
57	肺炎球菌莢膜抗原定性	小林　隆夫, 他:感染症学雑誌 76(12); 995, 2002
57	尿中レジオネラ抗原定性	山口　育夫, 他:医学検査 64(2):221, 2015
57	結核菌 DNA〔PCR〕(TB-PCR)	田口　直子, 他:医学と薬学　62(1):121, 2009
57	MAC DNA〔PCR〕(マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出)	田口　直子, 他:医学と薬学　62(1):121, 2009
57	結核菌特異的インターフェロン - γ産生能(QFTプラス)	福島喜代康, 他:結核　93(10):517, 2018
57	結核菌特異的インターフェロン - γ産生能(T-SPOT. TB)	Meier T.et al.:European Journal of Clinical Microbiology & Infections Diseases 24:529-536, 2005
58	クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他:医学と薬学　66(6):1007, 2011
58	淋菌DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他:医学と薬学　66(6):1007, 2011
58	淋菌／クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他:医学と薬学　66(6):1007, 2011
62	糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	栄谷　直美, 他:Helicobacter Research 10(5):426, 2006
62	尿素呼気試験(UBT)(ユービット)	吉田　純一, 他:日本臨床　51(12):126, 1993
63	リウマトイド因子(RF)定性	櫻林郁之介、他　ラテックス凝集比濁法　検査と技術　16(7):607, 1988
63	リウマトイド因子(RF)定量	櫻林郁之介、他　ラテックス凝集比濁法　検査と技術　16(7):607, 1988
63	抗CCP抗体定量(抗シトルリン化ペプチド抗体)	玉井　慎美, 他:医学と薬学　64(5):779, 2010
63	IgG型リウマトイド因子(IgG-RF)	中園　　清:医学と薬学　45(3):481, 2001
63	抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)	山田　雄二, 他:基礎と臨床　31(1):81, 1997
63	MMP-3(マトリックスメタロプロティナーゼ -3)	田中　敏典, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　36(4):666, 2011
63	モノクローナルRF結合免疫複合体(mRF-IC)	柴崎　光衛, 他:医学検査　43, 897-903, 1994.
64	抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体)	森田　新二, 他:医学と薬学　55(5):775, 2006
64	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)	森田　新二, 他:医学と薬学　55(5):775, 2006
64	TSH レセプター抗体(第3世代)	吉村　　弘, 他:医学と薬学　59(6):1111, 2008
64	TSAb(バイオアッセイ法)	田上　哲也, 他:糖尿病・内分泌代謝科53, 479-486, 2021
65	抗核抗体半定量(ANA)	林　　伸英, 他:臨床病理　64(2)別冊:142-151, 2016
65	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名　正隆:リウマチ科　40(3):239, 2008
65	抗セントロメア抗体(EIA(ELISA)法)	宮脇　昌二, 他:医学と薬学　45(1):129, 2001
65	抗DNA抗体定量	鈴木　王洋, 他:臨床免疫　25(8):1096, 1993
65	抗ss-DNA-IgG抗体定量	陣内　記代, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　26(6):747, 2001
65	抗ds-DNA-IgG抗体定量	陣内　記代, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　26(6):747, 2001
65	抗ss-DNA-IgM抗体	陣内　記代, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　26(6):747, 2001
65	抗ds-DNA-IgM抗体	陣内　記代, 他:日本臨床検査自動化学会会誌　26(6):747, 2001
65	抗RNP抗体定量	西山　　進, 他:医学と薬学　68(2):345, 2012
66	抗Sm抗体定量	西山　　進, 他:医学と薬学　68(2):345, 2012
66	抗SS-A/Ro抗体定量	西山　　進, 他:医学と薬学　68(2):345, 2012
66	抗SS-B/La抗体定量	西山　　進, 他:医学と薬学　68(2):345, 2012
66	抗Scl-70抗体定量	小島　和夫, 他:医学と薬学　69(4):677, 2013
66	抗Jo-1抗体定量	松下　雅和, 他:医学と薬学　70(1):109-117, 2013
67	抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	太田　光照, 他:ホルモンと臨床　40(7):749, 1992
67	抗アクアポリン4抗体	髙橋　利幸, 他:医学と薬学　73(10):1297-1300, 2016.
67	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)	本村　政勝, 他:医学と薬学　70(2):421-428, 2013
67	抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテイン I 複合体抗体(抗CL-β_2GP I 抗体)	小池　隆夫, 他:医学と薬学　26(3):535, 1991
67	抗カルジオリピンIgG抗体	鏑木　淳一, 他:医学と薬学　31, 771-776, 1994.
67	抗カルジオリピンIgM抗体	鏑木　淳一, 大矢　和彦:医学と薬学　43(6):1183, 2000
67	ループスアンチコアグラント(LA)(DRVVT法)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:424, 2015
67	ループスアンチコアグラント(LA)(リン脂質中和法)	後藤　守孝, 他:Mod. Physician　15(12):1545, 1995
68	PR3-ANCA(C-ANCA、抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体)	松下　雅和, 他:医学と薬学　66(5):823, 2011
68	MPO-ANCA(P-ANCA、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	松下　雅和, 他:医学と薬学　66(5):823, 2011
68	抗デスモグレイン 1抗体(抗Dsg1抗体)	吉田かおり, 他:医学と薬学　70(5・6):989, 2013
68	抗デスモグレイン 3抗体(抗Dsg3抗体)	吉田かおり, 他:医学と薬学　70(5・6):989, 2013
68	抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体)	黒田　慶子, 他:医学と薬学　57(5):751, 2007
68	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	臼井　丈一, 他:医学と薬学　68(4):697, 2012
68	精子不動化抗体	磯島　晋三, 他:日本産婦人科学会雑誌　31:1906, 1979
69	抗LKM1抗体	宮川　　浩, 他:医学と薬学　44(1):121, 2000
69	抗ミトコンドリア抗体(AMA)	長島　秀夫:日本臨床　43:222, 1985
69	抗ミトコンドリアM2抗体(AMA-M2)	丹野　瑞木, 他:医学と薬学　67(3):485, 2012
69	抗平滑筋抗体	長島　秀夫:日本臨床　40:935, 1982
69	抗胃壁細胞抗体	長島　秀夫:日本臨床　40:937, 1982
69	インスリン抗体	内潟　安子, 他:医学と薬学　65, 525-530, 2011
69	抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	及川　洋一, 他:医学と薬学　72(9), 2015
69	抗 I A-2抗体	川崎　英二, 他:医学と薬学　66(2):345, 2011
70	IgG	黒澤　弘美, 他:医療と検査機器・試薬　25(2):159, 2002
70	IgG2	川　　茂幸, 他:医学と薬学　74(4):463, 2017.
70	IgG4	川　　茂幸, 他:医学と薬学　64(1):95, 2010
70	IgA	黒澤　弘美, 他:医療と検査機器・試薬　25(2):159, 2002
70	IgM	黒澤　弘美, 他:医療と検査機器・試薬　25(2):159, 2002
70	C_3(β_1 C/β_1 Aグロブリン)	黒澤　弘美, 他:医療と検査機器・試薬　25(2):159, 2002
70	C_4(β_1 Eグロブリン)	黒澤　弘美, 他:医療と検査機器・試薬　25(2):159, 2002
70	C1q	中村　敏男, 他:臨床免疫　14:92, 1982
70	血清補体価(CH_{50})	中藤　聡子, 他:臨床検査機器・試薬　19(4):609, 1996
71	C反応性蛋白(CRP)定性	田中　元彦, 他:臨床検査機器・試薬　27(3):195, 2004
71	C反応性蛋白(CRP)定量	田中　元彦, 他:臨床検査機器・試薬　27(3):195, 2004
71	血清アミロイドA蛋白(SAA)	旭　由香里, 他:医学と薬学　78(2):175-181, 2021
71	クリオグロブリン定性	金井　　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:831, 1998
71	トランスフェリン(Tf)	日高　宏哉, 他:検査と技術　30(13):1377, 2002
71	遊離L鎖κ／λ比	伊藤　早織, 他:医学と薬学　64(1):111, 2010
71	免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白同定)	広瀬　美子, 他:臨床検査機器・試薬　16:253, 1993
71	尿中免疫電気泳動(免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白(B JP)同定)	長縄　謹子:検査と技術　12:401, 1984
71	α_1- アンチトリプシン	山下　順香, 他:医学と薬学　29(5):1239, 1993
72	IgE	島津伸一郎, 他:アレルギーの領域2(7):62, 1995
72	IgEシングルアレルゲン(ハウスダスト 1)	我妻　義則, 他:医学と薬学　23:83, 1990
72	IgEマルチアレルゲン	我妻　義則, 他:医学と薬学　23:83, 1990
72	Viewアレルギー39	張田　聖恵:医学と薬学　73(6):721-726, 2016
72	アトピー鑑別試験	奥平　博一, 他:アレルギー　40:544, 1991
72	ヒトTARC(Th2ケモカイン)	石田　俊雄, 他:医学と薬学　58(6):901～ 907, 2007
73	13アレルゲンセット	我妻　義則, 他:医学と薬学　23:83, 1990
73	10アレルゲンセット	我妻　義則, 他:医学と薬学　23:83, 1990
76	HBs抗原定性	赤羽　賢浩, 他:基礎と臨床　19(5):515 - 525, 1985
76	HBs抗体定性	吉村英理子, 他:基礎と臨床　29(17):4545, 1995
76	HBs抗体半定量	吉村英理子, 他:基礎と臨床　29(17):4545, 1995
76	HBs抗原	関口　　仁, 他:臨床検査機器・試薬　22(4):283, 1999
76	HBs抗体	出口　松夫, 他:医学と薬学　74(9):1137 - 1144, 2017
76	HBe抗原	宮川　正明, 他:医学と薬学　52(4):621, 2004
76	HBe抗体	宮川　正明, 他:医学と薬学　52(4):621, 2004
76	HBc抗体	飯田　健一 , 他:Prog.Med.　22:1037, 2002
76	HBc-IgM抗体	中尾瑠美子, 他:医学と薬学　52(5):847, 2004
77	HBV-DNA定量(リアルタイムPCR法)	菅原　昌章, 他:医学と薬学　別冊　73(10):1329 - 1339, 2016
77	HBVゲノタイプ(判定)	田中　靖人, 他:臨床病理　57(1):42, 2009
77	HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査(HBV-DNA PC・CP)	松山　和弘, 他:肝胆膵　41:59, 2000
77	HA-IgG抗体	田中　英介, 他:医学と薬学　46(6):1017, 2001
77	HA-IgM抗体	田中　英介, 他:医学と薬学　46(6):1017, 2001
78	HCV抗体	小柳　博明, 他:医学と薬学　55(3):467, 2006、近平　佳美 , 他:医学と薬学　37(2):521, 1997
78	HCVコア抗原	八橋　　弘, 他:医学と薬学　68(1):157, 2012
78	HCV群別	長谷川　瞳, 他:医学と薬学　70(3):633, 2013

頁	項目	文献名
78	HCV-RNA定量(リアルタイムPCR法)	菅原　昌章, 他:医学と薬学　別冊　73(10):1329-1339, 2016
78	ジェノタイプHCV-RNA-PCR	Okamoto H. et al.:J.General Virology　74:2385, 1993
79	HTLV-Ⅰ抗体(第3世代)(ATLA)	有馬　直道, 他:医学と薬学　65(5):651, 2011
79	HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体〔ラインブロット法・LIA法〕	Zrein M, et al:Clin Diagn Lab Immunol 5(1):45, 1998
80	HIV抗原・抗体	新田　幸一, 他:医学と薬学　57(2):231, 2007
80	HIV-1RNA定量〔リアルタイムPCR法〕	目崎　和久, 他:医学と薬学　73(6):705, 2016
81	単純ヘルペス(HSV)(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	水痘・帯状ヘルペス(VZV)(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	サイトメガロ(CMV)(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	ムンプス(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	アデノ(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	インフルエンザA型(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	インフルエンザB型(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	RS(CF)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:31, 1987
81	日本脳炎(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーA群9型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群1型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群2型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群3型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群4型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群5型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
81	コクサッキーB群6型(CF)	北村　元仕, 他:臨床検査マニュアル, 文光堂:880, 1988
82	風疹(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	インフルエンザA型(H1N1)(H3N2)(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	インフルエンザB型(山形系統)(ビクトリア系統)(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	パラインフルエンザ1型(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	パラインフルエンザ2型(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	パラインフルエンザ3型(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
82	日本脳炎(JaGAr株)(HI)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:214, 1973
83	単純ヘルペス1型(HSV)(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	単純ヘルペス2型(HSV)(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	ムンプス(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ1 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ2 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ3 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ4 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ5 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ6 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ7 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ8 型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ11型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ19型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ21型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	アデノ37型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	RS(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
83	麻疹(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群2型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群7型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群9型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群10型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーA群16型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群1型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群2型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	コクサッキーB群6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー1型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー3型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー4型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー5型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー6型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー7型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
84	エコー9型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー11型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー12型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー13型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー14型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー16型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー17型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー18型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー19型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー21型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー22型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー24型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー25型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エコー30型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エンテロ 70型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
85	エンテロ 71型(NT)	国立予防衛生研究所学友会:ウイルス実験学　総論　2版, 丸善:260, 1973
86	EBウイルス　抗VCA　IgG抗体(FA)	日沼　頼夫, 他:臨床病理　臨時増刊　35:179, 1978
86	EBウイルス　抗VCA　IgM抗体(FA)	日沼　頼夫, 他:臨床病理　臨時増刊　35:179, 1978
86	EBウイルス　抗EA-DR　IgG抗体(FA)	日沼　頼夫, 他:臨床病理　臨時増刊　35:179, 1978
86	EBウイルス　抗EBNA抗体(FA)	日沼　頼夫, 他:臨床病理　臨時増刊　35:179, 1978
86	EBウイルス　抗VCA　IgA抗体(FA)	日沼　頼夫, 他:臨床病理　臨時増刊　35:179, 1978
86	EBウイルス　抗EA　IgG抗体〔EIA(ELISA)〕	矢部　茂季, 他:新薬と臨牀　43:351, 1994
86	EBウイルス　抗EBNA　IgG抗体〔EIA(ELISA)〕	矢部　茂季, 他:新薬と臨牀　43:351, 1994
86	EBウイルス　抗VCA　IgG抗体〔EIA(ELISA)〕	矢部　茂季, 他:新薬と臨牀　43:351, 1994
86	EBウイルス　抗VCA　IgM抗体〔EIA(ELISA)〕	矢部　茂季, 他:新薬と臨牀　43:351, 1994
86	ヒトパルボB19　IgG抗体(EIA)	杉下　知子, 他:医学と薬学　38(6):1191, 1997
86	ヒトパルボB19　IgM抗体(EIA)	杉下　知子, 他:医学と薬学　38(6):1191, 1997
87	風疹IgM抗体(EIA)	Champsaur,H., et al.:J.Med.Virol.　5:273, 1980
87	麻疹IgM抗体(EIA)	庵原　俊昭, 他:医学と薬学 69(6)969, 2013
87	単純ヘルペス(HSV)IgG抗体(EIA)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
87	単純ヘルペス(HSV)IgM抗体(EIA)	川名　尚, 他:医学と薬学 69(3):517, 2013
87	水痘帯状ヘルペス(VZV)IgG抗体(EIA)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
87	水痘帯状ヘルペス(VZV)IgM抗体(EIA)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
87	サイトメガロウイルス(CMV)IgG抗体(CLEIA)	熊田　洋高, 他:医学と薬学　72(6):1087, 2015
87	サイトメガロウイルス(CMV)IgM抗体(CLEIA)	金井　興美, 他:微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会:48, 1987
87	ムンプスIgG抗体(EIA)	熊田　洋高, 他:医学と薬学　72(6):1087, 2015

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
87	ムンプスIgM抗体(EIA)	内田　立志, 他:川崎医学会誌　35(2):139, 2009
88	ウイルス分離	Hsiung GD:DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University:3, 1973
88	ウイルス同定	Hsiung GD:DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University:3, 1973
89	単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	吉田　　晃, 他:臨床とウイルス　13:490, 1985
89	水痘帯状ヘルペス(VZV)抗原	新村　眞人, 他:感染症学雑誌　64:195, 1990
89	ノロウイルス抗原定性	渡部　雅勝, 他:医学と薬学　71(10):1917, 2014
90	HPV-DNA簡易ジェノタイプ(16型､18型､その他ハイリスクグループ)	三浦　俊昭, 他:医学と薬学　69(1):157, 2013
90	HPV-DNAジェノタイプ(ハイリスク13種)	尾崎　　聡, 他:臨床病理　60(7):621, 2012
90	HPV-DNA型別	二谷　悦子, 他:医学と薬学　64(1):105, 2010
91	白血球数(WBC)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	赤血球数(RBC)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	ヘモグロビン(Hb)(血色素量)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	ヘマトクリット(Ht)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	MCV(平均赤血球容積)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	MCH(平均赤血球血色素量)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	MCHC(平均赤血球血色素濃度)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	血小板数(PLT)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
91	白血球像	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:250, 2015
91	赤血球像	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:261, 2015
92	網赤血球数	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:237, 2015
92	好酸球数	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:274, 2015
92	全血比重(GB)	金井　　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:404, 1983
92	赤血球沈降速度(ESR)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:349, 2015
92	浸透圧	長浜　大輔:検査と技術　14(9):961, 1986
92	マラリア原虫	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:1177, 2015
92	フィラリア原虫	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:1179, 2015
92	骨髄像	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:283, 2015
93	骨髄像特殊染色　アルカリホスファターゼ染色(ALP染色)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:284, 2015
93	骨髄像特殊染色　PAS染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:288, 2015
93	骨髄像特殊染色　ペルオキシダーゼ染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:283, 2015
93	骨髄像特殊染色　エステラーゼ染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:286, 2015
93	骨髄像特殊染色　鉄染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:289, 2015
93	血液特殊染色　アルカリホスファターゼ染色(ALP染色)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:284, 2015
93	血液特殊染色　PAS染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:288, 2015
93	血液特殊染色　ペルオキシダーゼ染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:283, 2015
93	血液特殊染色　エステラーゼ染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:286, 2015
93	血液特殊染色　鉄染色	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:289, 2015
94	プロトロンビン時間(PT)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:395, 2015
94	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:392, 2015
94	フィブリノゲン定量(Fib)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:403, 2015
94	PIVKA-Ⅱ【凝固】	草野　正芳, 他:機器・試薬 35(1):87, 2012
94	第Ⅱ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:403, 2015
94	第Ⅴ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:403, 2015
94	第Ⅶ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:404, 2015
94	第Ⅷ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:408, 2015
95	第Ⅸ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:408, 2015
95	第Ⅹ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:404, 2015
95	第ⅩⅠ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:411, 2015
95	第ⅩⅡ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:411, 2015
95	第ⅩⅢ因子	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:413, 2015
95	フォン・ウィルブランド因子抗原　定量　(v.W因子抗原 定量)	安室　洋子, 他:臨床検査機器・試薬　8(6):1386, 1985
95	フォン・ウィルブランド因子活性(v.W因子活性)(リストセチンコファクター)	高瀬　俊夫, 他:診療と新薬　19:3097, 1982
95	ADAMTS13 活性	Kato S. et al.:Transfusion　46:1444, 2006
95	ADAMTS13 インヒビター定量	Kato S. et al.:Transfusion　46:1444, 2006
96	第Ⅷ因子インヒビター(第Ⅷ因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.:Laboratory Evalution of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
96	第Ⅸ因子インヒビター(第Ⅸ因子-INH)	Sirridge, M.S., et al.:Laboratory Evalution of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
96	プラスミノゲン抗原	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:425, 2015
96	プラスミノゲン活性	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:425, 2015
96	アンチプラスミン(プラスミンインヒビター)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:426, 2015
96	アンチトロンビン活性(AT-Ⅲ)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:415, 2015
96	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:435, 2015
96	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:429, 2015
96	Dダイマー	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:435, 2015
96	プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:435, 2015
97	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:430, 2015
97	プロテインC活性	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:417, 2015
97	プロテインC(抗原量)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:417, 2015
97	プロテインS(遊離型抗原量)	安藤　秀実, 他:機器・試薬　41(5):509～519, 2018.
97	プロテインS活性	鬼沢　　実:機器・試薬　15(2):166, 1992
97	プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1(PAI-1)	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:428, 2015
97	トロンボモジュリン(TM)	天野　景裕, 他:臨床病理　39(9):967,　1991
98	血小板第 4 因子(PF4)	高橋　芳右, 他:血液と脈管　18:326, 1987
98	β-トロンボグロブリン(β-TG)	高橋　芳右, 他:血液と脈管　18:326, 1987
99	フェノバルビタール	石橋みどり, 他:医学と薬学　42(6):1061, 1999
99	フェニトイン	石橋みどり, 他:医学と薬学　42(6):1061, 1999
99	カルバマゼピン	石橋みどり, 他:医学と薬学　42(6):1061, 1999
99	プリミドン	宮本　侃治:臨床化学　6(3):202, 1978
99	バルプロ酸	石橋みどり, 他:医学と薬学　42(6):1061, 1999
99	エトスクシミド	Oellerich, M.: J.Clin.Chem.Clin.Biochem. 18, 197, 1980.
99	トリメタジオン	Wolfgang, S. and Beelen, C.C.M.:抗けいれん薬 . ドラッグモニタリング(広川書店):100, 1982
99	クロナゼパム	大田　博子 , 他:医薬ジャーナル　24(11):92, 1988
99	アセタゾラミド	Sylvia,M.W., et al.:J.Pharm.Sci.　66:527, 1977
99	スルチアム	Berry,D.J., et al.:J.Chromatogr. 171:363, 1979
100	ゾニサミド	安田　真依, 他:臨床検査機器・試薬　38(2):205～210, 2015
100	ニトラゼパム	Beharrell, G.P., et al.:J.Chromatogr. 70:45, 1972
100	ジアゼパム	Brodie RR, et al.:Chromatogr 150:61, 1978
100	クロバザム	Pawel K Kunicki:Journal of Chromatography B 750:41, 2001
100	ラモトリギン	小峯　幸弘:沖縄医報　45(9):51, 2009
100	ガバペンチン	Forrest G et al.:Journal of Chromatography B 681:421, 1996
100	トピラマート	小峯　幸弘:沖縄医報　45(9):51, 2009
100	レベチラセタム	赤松　直樹, 他:Epilepsy　4(2):129, 2010
100	炭酸リチウム	高橋　　修:臨床検査(増刊号)　34(11):1468, 1990
100	ハロペリドール	Furukori N. Y. et al.:Ther Drug Monit. 26(3):336, 2004
100	ブロムペリドール	Furukori N. Y. et al.:Ther Drug Monit. 26(3):336, 2004
101	サリチル酸	木村　英樹, 他:JJCLA　33(5):860, 2008
101	ジゴキシン	末森　一恵:Medical Technology 37(9):1005, 2009
101	プロパフェノン	Haefeli.E.W., et al.:Clin.Pharmacol.Ther. 48(3):245, 1990
101	塩酸ピルジカイニド	上野　和行:Pharma Medica 11(4):97, 1993
101	シベンゾリン	寺川　雅人, 他:薬物動態　3:761, 1988
101	プロカインアミド	Pincus, MR.et al.:Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods, 18:349, 1991
102	プロプラノロール	Ahnoff, M., et al.:J. Chromatogr 340:73, 1985
102	キニジン	木村　英樹 , 他:JJCLA　33(5):860, 2008
102	リドカイン	宮本　侃治:臨床化学　6(3):202, 1978

頁	項目	文献名
102	ジソピラミド	西川　隆, 他:医学と薬学　9(4):1213, 1983
102	アプリンジン	高田　充隆, 他:病院薬学　14(4):256, 1988
102	メキシレチン	高中　篤, 他:病院薬学 Vol.13:132 ～ 136, 1987
102	フレカイニド	加藤　林也, 他:臨床薬理　20(3):505, 1989
102	ピルメノール	市川　林, 他:臨床医薬　11(4):903, 1995
102	アミオダロン	K.ress, et al.:J Chromatography 417:456, 1987
102	ベプリジル	山崎　泰志, 他:臨床医薬　14(1):139, 1988
103	アセトアミノフェン	木村　英樹, 他:JJCLA 33(5):860, 2008
103	メトトレキサート	宮崎　弘和, 他:Therapeutic Reserch 2:113, 1985
103	イマチニブ	Picard S. et al.:Blood 109(8):3496, 2007
103	ゲンタマイシン	Jolley, M.E., et al.:Clin.Chem.　27:1190, 1981
103	トブラマイシン	木村　英樹, 他:JJCLA　33(5):860, 2008
103	アミカシン	木村　英樹, 他:JJCLA　33(5):860, 2008
103	アルベカシン	久保　博明, 他:医学と薬学　19(6):1454, 1988
104	バンコマイシン	キット添付説明書
104	テイコプラニン	諸岡　美里, 他:JJCLA 38(1):79, 2013
104	シクロスポリン	向井田麻由, 他:医学と薬学　62(4):767, 2009
104	タクロリムス	向井田麻由, 他:医学と薬学　60(1):133, 2008
104	エベロリムス	深見　春恵, 他:医学と薬学　70(2):317-321, 2013
104	ミコフェノール酸	細坪　秀夫, 他:今日の移植　14(4):485-491, 2001
104	テオフィリン(気管支拡張剤)	石橋みどり, 他:医学と薬学　42(6):1061, 1999
107	比重	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	PH(尿)	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	蛋白定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	糖定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	ウロビリノーゲン定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	ビリルビン定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	ケトン体(アセトン体)定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	潜血反応	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	白血球定性	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	亜硝酸塩	山本　ユミ, 他:医療と検査機器・試薬　26(3):217, 2003
107	蛋白定量	安原　正善, 他:臨床検査機器・試薬　8(5):1175, 1985
107	VMA定性	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:190, 2005
107	ベンスジョーンズ蛋白定性	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:177, 2005
107	コプロポルフィリン定性	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:178, 1998
108	糖定量	松岡　健平:臨床検査 MOOK　18:1, 1984
108	浸透圧	長浜　大輔:検査と技術　14(9):961, 1986
108	NAG	渡辺　信子, 他:JJCLA　20(2):134, 1995
108	線維素分解産物(尿中FDP)	堀内　伸純, 他:臨床検査機器・試薬　14:267, 1991
108	δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	岡山　明:労働衛生管理　3(4):45, 1992
108	ポルフォビリノーゲン定量	近藤　雅雄, 他:日本臨床　53, 1364-1370, 1995.
108	ウロポルフィリン定量	近藤　雅雄:日本臨床　53(6):65, 1995
108	コプロポルフィリン定量	近藤　雅雄:日本臨床　53(6):65, 1995
108	尿中アルブミン定量	芦田　尚登, 他:「自動化機器による免疫比濁法を用いた尿中微量アルブミン測定法の検討」 臨床検査機器・試薬　第14巻　第3号(平成3年6月)別冊
109	尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡　賢一, 他:臨床検査機器・試薬　18(3):439, 1995
109	尿中トランスフェリン	今野　稔:医学と薬学　32(3):555, 1994
109	L-FABP(L型脂肪酸結合蛋白)	Kamijo A , et al.:Journal of Laboratory and Clinical Medicine 143(1):23 ～ 30 , 2004.
109	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	久野　豊, 他:医学検査　48(7):1116, 1999
109	尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:210, 2005
109	虫卵検査　虫卵(塗抹)	吉田　幸雄:図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011
109	虫卵検査　虫卵(集卵)(浮遊法)	吉田　幸雄:図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011
110	虫体検出	吉田　幸雄:図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011
110	ヘモグロビン(潜血LA)定性・定量	竹下　俊隆, 他:大腸肛門誌　38:780, 1985
110	ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性・定量	山懸　文夫, 他:医療と検査機器・試薬　29(2):121, 2006
110	ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)	山懸　文夫, 他:医療と検査機器・試薬　29(2):121, 2006
111	精液一般検査	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:656, 1998
111	pH(精液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:656, 1983
111	精子濃度(精液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:656, 1983
111	奇形精子率(精液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:656, 1983
111	運動率(精液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　29:656, 1983
111	オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕	藤井　英治, 他:生物物理化学　28(4):261, 1984
112	比重(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:254, 2005
112	pH(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:662, 2005
112	ノンネアペルト反応(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:251, 1998
112	パンディ反応(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:252, 1998
112	細胞数(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:245, 1998
112	トリプトファン反応(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:256, 1998
112	細胞種類(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:247, 1998
112	蛋白定量(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:249, 1998
112	糖定量(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:260, 2005
112	ナトリウム(Na)(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　30:228, 1993
112	クロール(Cl)(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:255, 1998
112	カリウム(K)(髄液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　30:228, 1993
113	ムチン塊形成試験(関節液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:235, 1998
113	ルンベルグ反応(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:228, 1998
113	リバルタ反応(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:227, 1998
113	比重(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:239, 2005
113	pH(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　32:662, 2005
113	沈渣(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:191, 1998
113	細胞種類(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:229, 1998
113	細胞数(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:245, 1998
114	蛋白定量(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:228, 1998
114	糖定量(穿刺液)	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:228, 1998
114	関節液結晶	金井　泉, 他:臨床検査法提要　金原出版　31:235, 1998
114	有核細胞数	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:278, 2015
114	巨核細胞数	金井　正光, 他:臨床検査法提要　金原出版　34:278, 2015
114	鼻汁中好酸球	奥田　稔:臨床検査
114	喀痰中好酸球	奥田　稔:臨床検査
115	癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)	一條　元彦, 他:産婦人科治療　67(2):212, 1993
115	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	北村　光, 他:臨床検査機器・試薬　21(4):357, 1998
117	G-band法(先天性疾患)	島田　裕充:臨床病理　特集80:76, 1989
117	15染色体(プラダーウイリ症候群)	稲澤　譲治:臨床FISHプロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
117	15染色体(アンジェルマン症候群))	稲澤　譲治:臨床FISHプロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
117	22染色体(22q11　欠失)	稲澤　譲治:臨床FISHプロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
118	G-band法(血液疾患)	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):39, 1997
119	BCR-ABL t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	PML-RARA t(15;17)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8)t(8;21)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	TP53　del(17)短腕欠失	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	IGH-FGFR3t(4;14)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	IGH-MAF t(14;16)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	IGH-CCND1　t(11;14)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	IGH-MYC t(8;14)転座	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
119	D13S319 del(13)長腕欠失	稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
119	CKS1B 1q21 増幅	増幅 稲澤　譲治:臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修(秀潤社):90, 1997
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgA	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgM	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgD	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)K(カッパー)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)L(ラムダ)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
120	T細胞・B細胞百分率(CD3, CD19)	Wauwe JV, et al:Immunology 44:865, 1981
120	T細胞サブセット(CD4, CD8)	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
121	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	CD4×CD29	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	CD4×CD45RA	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	CD57×CD16	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	CD11b×CD8	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	HLA-DR×CD4	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
122	HLA-DR×CD8	Ip SH et al:Clinical Chemistry 28(9):1905, 1982
123	CCR4　タンパク〔FCM〕	Ishida T, et al.:Clin Cancer Research 9:3625, 2003
123	造血器悪性腫瘍細胞検査　白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45　ゲーティング	Browits MJ, et al.:Am J Clin Pathol 100:534, 1993
123	造血器悪性腫瘍細胞検査　悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45　ゲーティング	Browits MJ, et al.:Am J Clin Pathol 100:534, 1993
123	MLC(リンパ球混合培養試験)	Brain. B., et al.:Blood 23:108, 1964
124	PHAによるリンパ球幼若化検査	笠原　　忠, 他:臨床検査　23(7):660, 1979
124	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	笠原　　忠, 他:臨床検査　23(7):660, 1979
124	薬剤によるリンパ球刺激試験(LST)	中島　一格:Medical Technology 21(7):722, 1993
124	NK細胞活性	康　　浩一, 他:Medical Technology 21(7)574, 1993
125	EGFR遺伝子変異解析《血漿》	Weber B, et al. BMC Cancer 14: 294, 2014
126	EGFR遺伝子変異解析〔リアルタイムPCR法〕	林　海美子, 他:検査と技術　42(5):504, 2014
126	RAS/BRAF 変異解析	T.Yoshino et al. / EBioMedicine2(2015)317 - 323
127	マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)	Buhard O, et al.:J Clin Oncol 24:241, 2006
127	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)	Buhard O, et al.:J Clin Oncol 24:241, 2006
127	UGT1A1遺伝子多型解析	Shun-ichi Suzuki, et al.:Sensors 2012, 12, 16614 - 16627
128	細菌顕微鏡検査　一般細菌	永田　邦昭:感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
128	細菌顕微鏡検査　クリプトコッカス	永田　邦昭:感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
128	細菌顕微鏡検査　真菌	永田　邦昭:感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
128	細菌顕微鏡検査　疥癬虫	永田　邦昭:感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
128	嫌気培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
128	MRSA培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
128	百日咳菌培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	マイコプラズマ培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	ジフテリア培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	レジオネラ培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	エルシニア培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	クロストリジオイデス・ディフィシル(嫌気培養)	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	カンピロバクター培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	ヘリコバクター・ピロリ培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	髄膜炎菌培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	淋菌培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	B群連鎖球菌(GBS)培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
129	酵母様真菌培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第 5 版)　2013
129	糸状菌培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第 5 版)　2013
129	クリプトコッカス培養	D.H. ラローン:医真菌同定の手引き(第 5 版)　2013
130	トリコモナス培養	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
130	赤痢アメーバ	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
130	大腸菌血清型別	坂崎　利一:Escherichia 属 , 腸内細菌<下巻>第 3 版　1992
130	大腸菌ベロトキシン〔RPLA〕	甲斐　明美 , 他:感染症誌　71:248, 1997
130	大腸菌ベロトキシン〔ELISA〕	渡辺　昌三 , 他:医学と薬学　39(2):341-349, 1998
130	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原(トキシンA・B)	加藤　はる , 他:日本臨床微生物学雑誌　12:115 - 122, 2002
131	薬剤感受性検査1菌種	CLSI M100−Ed34:Performance Standards For Antimicrobial Susceptibility Testing-34th Edition,2024.
131	薬剤感受性検査2菌種	CLSI M100−Ed34:Performance Standards For Antimicrobial Susceptibility Testing-34th Edition,2024.
131	薬剤感受性検査3菌種	CLSI M100−Ed34:Performance Standards For Antimicrobial Susceptibility Testing-34th Edition,2024.
131	ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	小栗　豊子:臨床微生物検査ハンドブック第 5 版　2017
134	抗酸菌塗抹鏡検チールネールゼン染色	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
134	抗酸菌塗抹鏡検　蛍光染色(直接塗抹法)	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
134	抗酸菌塗抹鏡検　蛍光染色(集菌塗抹法)	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
134	抗酸菌分離培養検査2	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
134	抗酸菌分離培養検査1	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
135	結核菌群抗原定性	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
135	抗酸菌核酸同定〔質量分析法〕	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
135	抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会:抗酸菌検査ガイド 2016　南江堂 2016
148	病理組織顕微鏡検査	佐野　　豊:細胞学検査法　南山堂 , 1976
149	エストロゲンレセプター	野村　雍夫:ホルモンと臨床　31:1191, 1983
149	プロゲステロンレセプター	中尾　　誠, 他:ホルモンと臨床　36:189, 1988
149	乳癌HER2遺伝子〔FISH〕	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第 1 版 , 2015
149	胃癌HER2遺伝子〔FISH〕	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第 1 版 , 2015
150	HER2/neuタンパク	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第 1 版 , 2015
150	EGFRタンパク	試薬添付文書
157	脳梗塞リスク評価(A6C)	Madoka Yoshida et al.:Aterosclerosis 203:557, 2009
158	抗ランゲルハンス島細胞抗体(ICA)	桜美　武彦:免疫と疾患　4:21, 1982
158	結核菌　Nested　PCR	T.Takahashi, et al.:Neurology 64:1789, 2005

MEMO

MEMO

登録衛生検査所一覧

保健科学研究所

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学　横浜総合ラボラトリー	(微・免・血・病・一・生・遺)	〒224-0025　横浜市都筑区早渕2-2-1	045-333-1661	神奈川県第 8052 号	E(16)-2602140111
保健科学　札幌ラボラトリー	(清・血・生)	〒065-0022　札幌市東区北 22 条東 7-1-25	011-704-3131	札保医第 4 号	
保健科学　酒田ラボラトリー	(清・血・生)	〒998-0841　酒田市松原南 6 番 5	0234-24-2961	山形県第 2 号	
保健科学　仙台ラボラトリー	(微・清・血・寄・生)	〒983-0034　仙台市宮城野区扇町 1 丁目 1 番 6 号	022-236-9345	宮城県第 26 号	E(16)-2602040046
保健科学　新潟ラボラトリー	(免・血・生・一)	〒950-0054　新潟市東区秋葉 1 丁目 6 番 31 号	025-275-0161	新市衛第 17 号	
保健科学　長岡ラボラトリー	(血・一・生)	〒940-2105　長岡市緑町 1 丁目 38-1	0258-27-5633	新潟県第 73 号	
保健科学　松戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒270-0034　松戸市新松戸 2-8　石井ビル 3F	047-374-5770	千葉県第 55 号	
保健科学　大宮ラボラトリー	(血・免・一・生)	〒331-0812　埼玉県さいたま市北区宮原町 2-109-3 リラ第5ビル1F	048-662-6116	第 22 号	
保健科学　千葉ラボラトリー	(清・血・生)	〒266-0011　千葉市緑区鎌取町 2813-13	043-263-3311	千保第 14 号	
保健科学　栃木ラボラトリー	(清・血・生)	〒320-0851　宇都宮市鶴田町 1476-1	028-647-1781	宇 7	
保健科学　東京ラボラトリー	(清・血・生・寄)	〒160-0001　新宿区片町 3 番 3 号	03-3357-3611	東京都第 58 号	
保健科学　県央ラボラトリー	(清・血・生)	〒252-0004　座間市東原 2-14-3	046-298-5544	神奈川県第 91 号	
保健科学　三島ラボラトリー	(清・血・生)	〒411-0917　駿東郡清水町徳倉 999-1	055-932-8007	東保登録第 16 号	
保健科学　静岡ラボラトリー	(清・血・生)	〒422-8021　静岡市駿河区小鹿 2-39-15	054-281-5011	第 23-2 号	
保健科学　富山ラボラトリー	(清・血・生)	〒939-8211　富山市二口町 4-3-1　日本健康倶楽部北陸支部 1F	076-491-7611	富第 1 号	
保健科学　浜松ラボラトリー	(清分)	〒430-0806　浜松市中区木戸町 6-17-1F	053-411-1861 053-464-3325	浜松市指令健総第 4-12 号	
保健科学　名古屋ラボラトリー	(清・血・生)	〒451-0051　名古屋市西区則武新町 2-20-17	052-582-3201	愛知県第 87 号	
保健科学　大阪ラボラトリー	(清・血・生)	〒561-0807　豊中市原田中 1 丁目 2-3	06-6843-5622	大阪府第 150 号	
保健科学　西日本総合ラボラトリー	(微・免・血・生・一・遺)	〒612-8486　京都市伏見区羽束師古川町 328 番地	075-933-6060	第 1044 号	E(16)-2510260209
保健科学　京都ラボラトリー	(血・免・一・生)	〒604-8852　京都市中京区壬生東大竹町 38 番地	075-353-1761	第 1028 号	
保健科学　大阪南ラボラトリー	(清・血・生)	〒541-0011　大阪市平野区長吉出戸 8-12-24	06-6790-9770	第 22 号	
保健科学　神戸ラボラトリー	(清・血・生)	〒650-0022　神戸市中央区元町通り 2 丁目 8-14　オルタンシアビル 5F	078-391-9980	第 4-4 号	
保健科学　和田山ラボラトリー	(清・血・生)	〒669-5202　朝来市和田山町東谷 385	079-672-5331	但馬(朝健)第 1539 号	
保健科学　北九州ラボラトリー	(清分)	〒800-0228　北九州市小倉南区長野 1-7-3　鶴田建設ビル 4 F	093-472-3521	北九第 19 号	
保健科学　沖縄ラボラトリー	(清・血・生)	〒901-0241　豊見城市豊見城 466-3	098-856-6451	沖縄県第 34 号	

経過措置分類［注］(微：微生物学的検査　清：血清学的検査　血：血液学的検査　病：病理学的検査　寄：寄生虫学的検査　生：生化学的検査　清分：血清分離)
改正法分類　［注］(微：微生物学的検査　免：免疫学的検査　血：血液学的検査　病：病理学的検査　一：尿・糞便等一般検査　生：生化学的検査　遺：遺伝子関連・染色体　清分：血清分離)

保健科学東日本

検査に関するお問合せは、0570−03−1661までご連絡ください。
月〜土曜日　9：00 〜 18：00（祝日を除く）

保健科学グループ

■保健科学研究所　〒 240-0005　神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地　TEL.045-333-1661（大代表）
■保健科学東日本　〒 365-8585　埼玉県鴻巣市天神 3-673　TEL.048-543-4000
■保健科学西日本　〒 612-8486　京都府京都市伏見区羽束師古川町 328　TEL.075-933-6060

サービスセンター

札幌サービスセンター 〒065-0022 北海道札幌市東区北22条東7-1-25 011-704-3131
函館サービスセンター 〒041-0841 北海道函館市日吉町1-19-6 0138-30-6800
苫小牧サービスセンター 〒053-0854 北海道苫小牧市啓北町2-11-9 0144-71-4211
帯広サービスセンター 〒080-0010 北海道帯広市大通南16-2-2 アクトビルディング2F 0155-66-6027
北見サービスセンター 〒090-0817 北海道北見市常盤町3-4-15 0157-69-3881
青森サービスセンター 〒030-0965 青森県青森市松森2-11-15 2F 017-743-3095
八戸サービスセンター 〒031-0812 青森県八戸市大字湊町字縄張32-2 0178-38-5850
盛岡サービスセンター 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-2-76 盛岡クリニックモールセンタービル 2号館2F 019-635-9971
釜石サービスセンター 〒026-0034 岩手県釜石市中妻町1-18-3 2F 0193-25-2104
一関サービスセンター 〒021-0884 岩手県一関市大手町3-19 0191-21-2675
秋田サービスセンター 〒011-0901 秋田県秋田市寺内イサノ125-1 1階 018-883-1877
湯沢サービスセンター 〒012-0804 秋田県湯沢市杉沢字森道下89-11 0183-78-0183
酒田サービスセンター 〒998-0841 山形県酒田市松原南6-5 0234-24-2961
山形サービスセンター 〒990-2433 山形県山形市鳥居ケ丘27-2 2F 023-642-8471
古川サービスセンター 〒989-6117 宮城県大崎市古川旭5-3-3 STビルB棟2F南 0229-23-0611
仙台サービスセンター 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町1-1-6 022-236-9345
郡山サービスセンター 〒963-8042 福島県郡山市字不動前1-59 HD不動前ビル2F 201号室 024-923-2351
いわきサービスセンター 〒970-1152 福島県いわき市好間町中好間字鍛冶内16 高橋テナントビル2F-東号 0246-47-0175
県北サービスセンター 〒365-8585 埼玉県鴻巣市天神3-673 048-543-2111
大宮サービスセンター 〒331-0812 埼玉県さいたま市北区宮原町2-109-3 リラ第5ビル2F 048-662-6116
所沢サービスセンター 〒359-1102 埼玉県所沢市岩岡町281-58 04-2923-7272
小山サービスセンター 〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷4-9-49 協和マンション2F 0285-22-8891
宇都宮サービスセンター 〒320-0851 栃木県宇都宮市鶴田町1476-1 028-647-1781
前橋サービスセンター 〒371-0013 群馬県前橋市西片貝町4-22-9 027-223-7467
水戸サービスセンター 〒310-0851 茨城県水戸市千波町455-1 市毛ビル2F 029-241-7123
土浦サービスセンター 〒300-0873 茨城県土浦市荒川沖367-1 029-823-8739
新潟サービスセンター 〒950-0054 新潟県新潟市東区秋葉1-6-31 025-275-0161
長岡サービスセンター 〒940-2105 新潟県長岡市緑町1-38-1 0258-27-5633
六日町サービスセンター 〒949-7115 新潟県南魚沼市泉新田199-2 025-775-2108
上越サービスセンター 〒942-0004 新潟県上越市西本町3-3-5 土田第二ビル103号室 026-239-7511
長野サービスセンター 〒381-0034 長野県長野市高田中村458-15 伊藤ビル2F 026-239-7511
松本サービスセンター 〒390-0851 長野県松本市島内3505 インペリアルプラザ松島203 0263-40-7920
諏訪サービスセンター 〒392-0015 長野県諏訪市中洲中金子3015-1 0266-52-5102
富山サービスセンター 〒939-8211 富山県富山市二口町4-3-1 2F 076-491-7611
千葉サービスセンター 〒266-0011 千葉県千葉市緑区鎌取町2813-13 043-263-3311
松戸サービスセンター 〒270-0034 千葉県松戸市新松戸2-8 石井ビル3F 047-374-5770
世田谷サービスセンター 〒154-0015 東京都世田谷区桜新町2-10-17 日平会館201 03-5451-3831
新宿サービスセンター 〒160-0001 東京都新宿区片町3-3 03-3357-3611
城北サービスセンター 〒175-0092 東京都板橋区赤塚3-18-1-101 03-5997-1221
三鷹サービスセンター 〒182-0011 東京都調布市深大寺北町7-40-4 ルミエール深大寺1F 0424-29-3071
北千住サービスセンター 〒120-0036 東京都足立区千住仲町40-12 03-3881-9201
錦糸町サービスセンター 〒135-0001 東京都江東区毛利1-21-2 フォディアビル3階 03-5638-7580
八王子サービスセンター 〒192-0075 東京都八王子市南新町25 内田ビル1F 042-626-2203
甲府サービスセンター 〒400-0053 山梨県甲府市大里町2829-4 コーナン第1ハイツ2F 055-241-7750
横浜サービスセンター 〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町47-4 045-337-2001
横浜港北サービスセンター 〒224-0025 神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 045-624-8222
横浜港南サービスセンター 〒233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-3-25 第7オーヴァルビル4階 045-337-2001
座間サービスセンター 〒252-0004 神奈川県座間市東原2-14-3 046-298-5544
湘南サービスセンター 〒251-0042 神奈川県藤沢市辻堂新町1-1-15 山上第2ビル5F 0466-33-6171
三島サービスセンター 〒411-0917 静岡県駿東郡清水町徳倉999-1 1F 055-932-8007
下田サービスセンター 〒415-0036 静岡県下田市西本郷2-6-3 0558-23-2138
富士サービスセンター 〒416-0931 静岡県富士市蓼原85-3 ソフィアビル2F 0545-66-3770
静岡サービスセンター 〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2-39-15 054-281-5011
浜松サービスセンター 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町6-17 053-411-1861
豊橋サービスセンター 〒441-8013 愛知県豊橋市花田一番町170 和興オフィスビル2F 0532-31-4571
名古屋サービスセンター 〒451-0051 愛知県名古屋市西区則武新町2-20-17 3F 052-582-3201
京都サービスセンター 〒604-8852 京都府京都市中京区壬生東大竹町38番地 075-822-4123
京都南サービスセンター 〒612-8486 京都府京都市伏見区羽束師古川町328番地 075-921-6969
舞鶴サービスセンター 〒624-0841 京都府舞鶴市引土234番地 坂根ビル2 F 0773-76-7466
奈良サービスセンター 〒634-0008 奈良県橿原市十市町846-2 0744-24-6105
大阪サービスセンター 〒561-0807 大阪府豊中市原田中1-2-3 06-4865-3381
大阪南サービスセンター 〒547-0011 大阪府大阪市平野区長吉出戸8-12-24 06-6790-9770
神戸サービスセンター 〒653-0037 兵庫県神戸市長田区大橋町4-4-17 ヒュースロアビル3F 078-691-7511
姫路サービスセンター 〒672-8048 兵庫県姫路市飾磨区三宅3-27 第二圭秀舎ビル302 079-243-2022
西脇サービスセンター 〒677-0052 兵庫県西脇市和田町円遠688-89 0795-22-1984
和田山サービスセンター 〒669-5202 兵庫県朝来市和田山町東谷385 079-672-5331
鳥取サービスセンター 〒680-0062 鳥取県鳥取市吉方町1-120 1F 0857-21-0381
徳島サービスセンター 〒770-0855 徳島県徳島市新蔵町1-10 藤井ビル2F 088-655-3801
広島サービスセンター 〒730-0805 広島県広島市中区十日市町2-2-34 アーバンライフ高田2F 082-233-9321
山口サービスセンター 〒755-0241 山口県宇部市東岐波1051-1 コーポたまもと101 0836-59-1201
松山サービスセンター 〒791-8016 愛媛県松山市久万ノ台111 忽那ビル2F 089-926-7900
北九州サービスセンター 〒800-0228 福岡県北九州市小倉南区長野1-7-3 鶴田建設ビル4F 093-472-3521
福岡サービスセンター 〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王2-14-34 092-452-0851
熊本サービスセンター 〒862-0920 熊本県熊本市東区月出1-4-69 096-386-5351
大分サービスセンター 〒870-0952 大分県大分市下郡北3-12-6 ライフ山ー101 097-554-8272
宮崎サービスセンター 〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納乙137-2 ゆとり94 101 0985-64-3172
沖縄サービスセンター 〒901-0241 沖縄県豊見城市豊見城466-3 098-856-6451

2026-2027 総合検査案内
2026 年度版 第 1 刷
第 1 刷の内容は、2026 年 6 月 1 日現在の内容です。

最新情報につきましては、当社、ホームページをご覧ください。
http://www.hk-ej.co.jp/